

項目名	和訳結果	原文
1. 一般情報		
1.01 物質情報		
CAS番号	95-50-1	95-50-1
物質名(日本語名)		
物質名(英名)	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
別名等	Benzene, o-dichloro-	Benzene, o-dichloro-
国内適用法令の番号		
国内適用法令物質名		
OECD/HPV名称	Benzene, 1,2-dichloro-	Benzene, 1,2-dichloro-
分子式	C6H4Cl2	C6H4Cl2
構造式		
備考		
1.02 安全性情報収集計画書/報告書作成者に関する情報		
機関名	OECD HPV Chemicals Programme, SIAM 13で承認されたSIDS一式文書 (2001年11月6-9日) http://www.oecd.org/dataoecd/52/4/33670010.pdf	OECD HPV Chemicals Programme, SIDS Dossier, approved at SIAM 13 (6-9 November 2001) http://www.oecd.org/dataoecd/52/4/33670010.pdf
代表者名		
所在地及び連絡先		
担当者氏名		
担当者連絡先(住所)		
担当者連絡先(電話番号)		
担当者連絡先(メールアドレス)		
報告書作成日		
備考		
1.03 カテゴリー評価		
1.1 一般的な物質情報		
物質のタイプ	有機化合物	有機化合物
物質の色・におい・形状等の情報		
物理的状態(20°C、1013hPa)	液体	液体
純度(重量/重量%)		
出典	EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)	EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)
備考		
1.2 不純物		
CAS番号		
物質名称(IUPAC)		
国内適用法令の番号		
適用法令における名称		
含有率(%)	= 15 - 35 % w/w	= 15 - 35 % w/w
出典		
備考	市販1,2-DCB 15-35% パラ-ジクロロベンゼン、及び メタ-ジクロロベンゼン、 少量のクロロベンゼン及びトリクロロベンゼンが混在	Commercial 1,2-DCB: 15-35% para and meta-dichlorobenzene, with lesser amounts of chlorobenzene & trichlorobenzene
1.3 添加物		
1.4 別名		
物質名-1	1,2-ジクロロベンゾール	1,2-DICHLOROBENZOL
物質名-2	クロロベン	CHLOROBEN
出典		
備考	1,2-DCB	1,2-DCB
1.5 製造・輸入量		
1.6 用途情報		
主な用途情報	非拡散的用途	非拡散的用途
工業的用途	クローズシステムで使用 化学工業: 合成 基礎工業、基礎化学	Use in closed system 化学工業: 合成 Basic industry: basic chemicals
用途分類		
出典		
備考		
1.7 環境および人への暴露情報		
暴露に関する情報	ベンゼンの塩素化 (触媒 FeCl3) 蒸留によりクロロベンゼンを分離 1サイトで生産	Remark: Chlorination of benzene (catalyst FeCl3) Separation of chlorobenzene by distillation. One production site.
出典	Atochem Paris la Defense	Atochem Paris la Defense
備考		
暴露に関する情報	製造	MANUFACTURING
出典	ESAR S.A. PARIS EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)	ESAR S.A. PARIS EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)
備考		

1.8 追加情報

既存分類	<p>表示: EU指令 67/548/EEC</p> <p>シンボル (Xn) 有害性 (N) 環境危険性 (C) 物質によっては、特定の異性体、又は複数の異性体の混合物として市販されている。</p> <p>特定限界 あり</p> <p>R-フレーズ (22) 飲み下すと有害である。 (36/37/38) 目、呼吸器系、皮膚に刺激性がある。 (50/53) 水生生物に強い毒性がある。水生環境中で長期悪影響を引き起こすおそれがある。</p> <p>S-フレーズ (2) 子供の手の届かない場所に保管する。 (23) 吸入してはならない。 (60) 物質、かつ/または その容器は有害廃棄物として廃棄しなければならない。 (61) 環境への排出を避ける。特別使用法／安全データセットを参照する</p>	<p>Labelling: as in Directive 67/548/EEC</p> <p>Symbols: (Xn) harmful (N) dangerous for the environment (C) Some organic substances may be marketed either in a specific isomeric form or as a mixture of several isomers</p> <p>Specific limits: yes</p> <p>R-Phrases: (22) Harmful if swallowed (36/37/38) Irritating to eyes, respiratory system and skin (50/53) Very toxic to aquatic organisms, may cause long-term adverse effects in the aquatic environment</p> <p>S-Phrases: (2) Keep out of reach of children (23) Do not breathe ... (60) This material and/or its container must be disposed of as hazardous waste (61) Avoid release to the environment. Refer to special instructions/Safety data sets</p>
職業暴露限界		
廃棄方法		
文献調査の範囲と日付		
出典	EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
備考		

2. 物理化学的性状

2.1 融点

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	非特定	not specified
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
融点: °C	-16.7°C	-16.7 degree C
分解: °C	不明	不明
昇華: °C	不明	不明
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	1	1
備考		

2.2 沸点

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	非特定	not specified
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
沸点: °C	180.3°C	180.3 degree C
圧力		
分解: °C	不明	不明
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	1	1
備考		

2.3 密度(比重)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	非特定	not specified
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	1.3007 g/cm ³	1.3007 g/cm ³
タイプ	密度	密度
温度(°C)	25 °C	at 25 degree C
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS

信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	2	2
備考		

2.4 蒸気圧

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
蒸気圧	1.96 hPa	1.96 hPa
温度: °C	25°C	at 25 degree C
分解: °C	不明	不明
結論		
注釈	出典NICHAS	Source: NICHAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	3	3
備考		

2.5 分配係数(log Kow)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	14C-オルト-ジクロロベンゼン	14C-orthodichlorobenzene
注釈		
方法	(計算): Leo, A., CLOGP-3.63 (1991) Daylight, Chemical Information Systems, Inc. Irvine, CA USA	(calculated): Leo, A., CLOGP-3.63 (1991) Daylight, Chemical Information Systems, Inc. Irvine, CA USA
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	実測	experimentally measured
結果		
Log Kow	log Pow = 3.4	log Pow = 3.4
温度: °C	25°C	at 25 degree C
結論		
注釈	出典 NICHAS, Bayer AG Leverkusen	Source: NICHAS, Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	計算 Bayer AG, WV-UWS (1992)	Calculation Bayer AG, WV-UWS (1992)
引用文献	4、5	4、5
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	実測	experimentally measured
結果		
Log Kow	log Pow = 3.43	log Pow= 3.43
温度: °C		
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	THOR database Pomona 91, Daylight, Chemical Information Systems, Inc. Irvine, CA, USA	THOR database Pomona 91, Daylight, Chemical Information Systems, Inc. Irvine, CA, USA
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	(実測): Chiou et al., M. Environ. Sci. Technol., 1982, 16:4-10.	(measured): Chiou et al., M. Environ. Sci. Technol., 1982, 16:4-10.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	蒸留水を使用	Distilled water used
結果		
Log Kow	log Pow = 3.49	log Pow = 3.49
温度: °C		
結論		
注釈	出典 NICHAS	Source: NICHAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	(実測): Chiou et al , M. Environ. Sci. Technol., 1982, 16:4-10.	(measured): Chiou et al , M. Environ. Sci. Technol., 1982, 16:4-10.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	Bayou d'Inde waterを使用	Bayou d'Inde water used
結果		
Log Kow	log Pow = 3.56	log Pow = 3.56
温度: °C		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

2.6.1 水溶解性(解離定数を含む)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	14C-オルト-ジクロロベンゼン	14C-orthodichlorobenzene
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	実測	Experimentally measured
結果		
水溶解度	155.8 mg/l	155.8 mg/l C286
温度: °C	25°C	25 degree C
pH		
pH測定時の物質濃度		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	7	7
備考		

解離定数		
試験物質		
同一性		
方法		
温度: °C		
GLP	選択してください	選択してください
試験条件		
試験を行った年		
結果		
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
水溶解度	0.13 g/l	0.13 g/l
温度: °C	20°C	20 degree C
pH		
pH測定時の物質濃度		
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data	Bayer AG data
引用文献		
備考		
解離定数		
試験物質		
同一性		
方法		
温度: °C		
GLP	選択してください	選択してください
試験条件		
試験を行った年		
結果		
結論		
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください

	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		
備考		

2.6.2 表面張力

2.7 引火点 (液体)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	DIN 51758 タイプ: その他	DIN 51758 Type: other
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
引火点: °C	66 °C	66 degree C
試験のタイプ	クローズドカップ	クローズドカップ
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen, NICNAS	Source: Bayer AG Leverkusen, NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.	Bayer AG data Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	NFT 60-103	NFT 60-103
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
引火点: °C	68 °C	68 degree C
試験のタイプ	クローズドカップ	クローズドカップ
結論		
注釈	ELF ATOCHEM S.A., France Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: ELF ATOCHEM S.A., France Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Safety Data Sheet ELF ATOCHEM, October 1987	Safety Data Sheet ELF ATOCHEM, October 1987
引用文献		
備考		

2.8 自己燃焼性 (固体/気体)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
自動発火点: °C	648 °C	648 degree C
圧力		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.	Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.
引用文献		
備考		

2.9 引火性

2.10 爆発性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		

結果		
火により爆発	不明	不明
m-ジニトロベンゼンより摩擦に敏感	不明	不明
m-ジニトロベンゼンより衝撃に敏感	不明	不明
爆発性ない	不明	不明
その他	爆発限界: 上限: 9.2% by vol 下限: 2.2% by vol	explosive limits: upper: 9.2% by vol lower: 2.2% by vol
結論	その他	Result: other
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.	Sax, NI and Lewis RJ Sr. 1996. Sax's Dangerous Properties of Industrial Materials. 9th ed. New York, NY, Van Nostrand Reinhold Company.
引用文献		
備考		

2.11 酸化性

2.12 酸化還元ポテンシャル

2.13 その他の物理化学的性状に関する情報

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	熱分解生成物: 塩酸、ホスゲンのような毒性塩化物	Thermal decomposition products: toxic chlorinated substances such as hydrogen chloride, phosgene
結論		
注釈	出典 ELF ATOCHEM S.A., France Bayer AG Leverkusen	Source: ELF ATOCHEM S.A., France Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Safety Data Sheet ELF ATOCHEM, October 1987 Safety Data Sheet Bayer AG 12.08.93	Safety Data Sheet ELF ATOCHEM, October 1987 Safety Data Sheet Bayer AG 12.08.93
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	臭気閾値: 1.8 mg/m3	Odour threshold: 1.8 mg/m3
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	8	8
備考		

3. 環境運命と経路

3.1 安定性

3.1.1. 光分解

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法	非特定 タイプ: 大気	not specified Type: air
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	不明	不明
試験を行った年		
光源と波長(nm)		
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(°C)		
直接光分解		
半減期t1/2		
分解度(%)と時間		
量子収率(%)		
間接光分解		

増感剤(タイプ)	OH	OH
増感剤濃度	1000000 分子/cm ³	Conc. of sens.: 1000000 molecule/cm ³
速度定数	0.00000000000003 cm ³ /(分子 * 秒)	0.00000000000003 cm ³ /(molecule * sec)
半減期t _{1/2}	27日	50 % after 27 day(s)
分解生成物	不明	不明
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	9	9
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法	非特定 タイプ: 大気	not specified Type: air
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	不明	不明
試験を行った年		
光源と波長(nm)		
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(°C)		
直接光分解		
半減期t _{1/2}		
分解度(%)と時間		
量子収率 (%)		
間接光分解		
増感剤(タイプ)	OH	OH
増感剤濃度	500000 分子/cm ³	500000 molecule/cm ³
速度定数	0.00000000000003 cm ³ /(分子 * 秒)	0.00000000000003 cm ³ /(molecule * sec)
半減期t _{1/2}	53日	50 % after 53 day(s)
分解生成物	不明	不明
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	9	9
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法	その他(計算): タイプ: 大気	other (calculated) Type: air
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
光源と波長(nm)		
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(°C)	292 K	292 degree K.
直接光分解		
半減期t _{1/2}		
分解度(%)と時間		
量子収率 (%)		
間接光分解		
増感剤(タイプ)	OH	OH
増感剤濃度	500000 分子/cm ³	500000 molecule/cm ³
速度定数	4.2 +/- 0.2 E-13 cm ³ /(分子 . 秒)	4.2 +/- 0.2 E-13 cm ³ /(molecule .sec)
半減期t _{1/2}	38 +/- 2 日	50 % after 38 +/- 2 day
分解生成物	不明	不明
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	10, 11	10, 11
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法	タイプ: 大気	Type: air
タイプ	直接光分解	直接光分解
GLP	不明	不明
試験を行った年		
光源と波長(nm)	254 nm	wavelength 254 nm
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル	254 nm	Light spect.: 254 nm
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(°C)	23 °C	23 degree C
直接光分解		
半減期t1/2		
分解度(%)と時間		
量子収率 (%)	0.63	Quantum yield: 0.63
間接光分解		
増感剤(タイプ)		
増感剤濃度		
速度定数		
半減期t1/2		
分解生成物	不明	不明
結論	1,2-DCBは対流圏における太陽光波長を十分吸収しないため、直接的な光分解は環境に影響をおよぼす分解経路ではない。	direct photolysis is not a degradation pathway of any consequence in the environment since 1,2-DCB does not absorb enough in the wavelength range encountered in tropospheric sunlight.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bunce N, Landers J, Langshaw J and Nakai J. (1987). Laboratory Experiments to Assess the Importance of Photochemical Transformation During the Atmospheric Transport of Chlorinated Aromatic Pollutants. 80th Annual Meeting of APCA, June 21-26, 1987, New York, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Bunce N, Landers J, Langshaw J and Nakai J. (1987). Laboratory Experiments to Assess the Importance of Photochemical Transformation During the Atmospheric Transport of Chlorinated Aromatic Pollutants. 80th Annual Meeting of APCA, June 21-26, 1987, New York, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法	(実測): 光(波長> 290 nm)を照射したH2O2存在下の光化学分解 タイプ: 水	(measured): Photochemical degradation in presence of H2O2 on indication with light of wave length > 290 nm Type: water
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	不明	不明
試験を行った年		
光源と波長(nm)	> 290 nm	wave length > 290 nm
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件	著者によると、中間物質(クロロベンゼン、クロロフェノール)を介して分解が進みCO2とHClの無機物となる。	According to the author degradation proceeds via intermediates (chlorobenzene, chlorophenol) as far as mineralization to CO2 and HCl
結果		
物質濃度		
温度(°C)		
直接光分解		
半減期t1/2		
分解度(%)と時間		
量子収率 (%)		
間接光分解		
増感剤(タイプ)	OH	OH
増感剤濃度	e-16 から e17 mol/l	e-16 to e17 mol/l
速度定数	3.0 e9 l/molxsec	3.0 e9 l/molxsec
半減期t1/2	642 - 6418時間 (日中)	50 % after 642 - 6418 hour of sunshine
分解生成物	不明	不明
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION - European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	12, 13	12, 13
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		

方法	(実測): 晴天のもと、海拔440 mのGoldbach川、深度8cmで水を採取した。 タイプ: 水	(measured): water was sampled at a depth of 8 cm beneath the surface of the river Goldbach 440 m above sea level under cloudless sky Type: water
タイプ	間接光分解	間接光分解
GLP	不明	不明
試験を行った年		
光源と波長(nm)		
太陽光強度に基づいた相対強度		
物質のスペクトル		
試験条件		
結果		
物質濃度		
温度(°C)		
直接光分解		
半減期t1/2		
分解度(%)と時間		
量子収率(%)		
間接光分解		
増感剤(タイプ)	OH	OH
増感剤濃度	0.00000000000000001 mol/l	0.00000000000000001 mol/l
速度定数	不明	no data
半減期t1/2	12.8日 (日照時間10時間/日)	50 % after 12.8 days (10 h sunshine/d)
分解生成物	不明	不明
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Russi H, Kotzias D and Korte F (1982). cited in BUA Report No. 53, VCH, September 1990.	Russi H, Kotzias D and Korte F (1982). cited in BUA Report No. 53, VCH, September 1990.
引用文献		
備考		

3.1.2. 水中安定性(加水分解性)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	加水分解 タイプ: 非生物	Hydrolysis Type: abiotic
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
所定時間後の分解度(%)、pH、温度		
半減期		
分解生成物	不明	不明
結論	o-ジクロロベンゼンは水溶液(15 mg/l)中において、4°Cで2ヶ月間4°Cで安定している。 環境中でo-ジクロロベンゼンは加水分解しそうもない。	o-dichlorobenzene is stable in aqueous solution (15 mg/l) for 2 months at 4 degree C. Hydrolysis of o-dichlorobenzene under conditions obtaining in the environment is improbable.
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: Bayer AG Leverkusen EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		14
備考		14

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
所定時間後の分解度(%)、pH、温度		
半減期	見積り値 水カラムからの揮発: 4.4時間 河川: 0.3-3 日 (流速1M/秒、風速3M/SEC) 湖: 3-30 日 地下水: 30-300 日	VOLATILE FROM WATER COLUMN-ESTIMATED HALF LIFE 4.4 HOURS FROM 1 METER RIVER FLOWING 1M/SEC WIND VELOCITY 3M/SEC. PERSISTANT HALF LIFE EST 0.3-3 DAYS-RIVERS 3-30 LAKES 30-300 GROUND WATERS
分解生成物	不明	不明
結論		

注釈	出典DALTRADE LTD LONDON EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: DALTRADE LTD LONDON EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	FATE AND EXPOSURE DATA–LEWIS PUBLISHERS ISBN 0–87371–151–3	FATE AND EXPOSURE DATA–LEWIS PUBLISHERS ISBN 0–87371–151–3
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
所定時間後の分解度(%、pH、温度)		
半減期		
分解生成物	不明	不明
結論	ヘンリー定数の近似値：200 Pa/mol (25°C) 1,2-DCBは、水からすみやかに揮発すると考えられる。	With an approximate value of Henry's constant of 200 Pa/mol at 25 C, 1,2-DCB would be considered readily volatile from water.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Thomas, R.G.; "Volatilisation from Water"; In Handbook of Chemical Property Estimation Methods", Lyman, W.J., Rheel, W. F. and Rosenblatt, D. H. (eds), McGraw- Hill Book Company, 1982, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Thomas, R.G.; "Volatilisation from Water"; In Handbook of Chemical Property Estimation Methods", Lyman, W.J., Rheel, W. F. and Rosenblatt, D. H. (eds), McGraw- Hill Book Company, 1982, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

3.1.3. 土壤中安定性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験期間		
結果		
試験のタイプ	フィールド試験	フィールド試験
放射性ラベル	いいえ	いいえ
濃度		
土壌温度 °C		
土壌中pH		
土壌中湿度 (%)		
土壌のクラス		
粘土含量 (%)		
有機炭素 (%)		
陽イオン交換能		
微生物バイオマス濃度		
消失時間(DT50、DT90)	不明	不明
分解生成物	不明	不明
時間ごとの消失率		
結論	適度に密に土壌に吸収される。 加水分解、酸化、土壌表面での直接光分解などの化学的転移プロセスは生じないだろう。	MODERATELY-TIGHTLY ABSORBED IN SOIL. CHEMICAL TRANSFORMATION PROCESSES SUCH AS HYDROLYSIS, OXIDATION OR DIRECT PHOTOLYSIS ON SOIL SURFACES ARE NOT EXPECTED TO OCCUR.
注釈	出典 DALTRADE LTD LONDON EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)	Source: DALTRADE LTD LONDON EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau Ispra (VA)
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	FATE AND EXPOSURE DATA–LEWIS PUBLISHERS ISBN 0–87371–151–3	FATE AND EXPOSURE DATA–LEWIS PUBLISHERS ISBN 0–87371–151–3
引用文献		
備考		

3.2. モニタリングデータ(環境)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド

媒体	底質	底質
結果	<p>ライン川の底質におけるo-ジクロロベンゼンの濃度は5－227 ug/kgであった。</p> <p>米国の工業排水が流れ出ている周辺から収集したo-ジクロロベンゼンの濃度: 7.1 mg/kg(有機炭素含有量として表示)、1.3 mg/kg(乾重量)</p> <p>五大湖から収集した底質: (最大 56 ug/kg)</p> <p>ナイアガラ川の浮遊性粒子調査によれば、より大きな粒子中のo-ジクロロベンゼンの濃度は、小さな粒子のものよりも高かった。 粒径 75 um: 75ug/kg乾重量 粒径> 500 um: 110 ug/kg乾重量</p> <p>浮遊性粒子の脂質含有量が原因で この差が生じている。</p> <p>一般排水が放出するあたりの底質中のo-ジクロロベンゼンの実測濃度: 750 ug/kg(乾重量)以下 底質深度 0-2 cm 800 ug/kg以下 底質深度 0-5 cm.</p> <p>排出域から遠くなるにつれ、底質中の濃度は急激に減少した。</p>	<p>O-dichlorobenzene levels from < 5 to 227 ug/kg were found in Rhine sediments.</p> <p>In USA, the concentrations of o-dichlorobenzene collected from the vicinity of industrial discharges were found to be 7.1 mg/kg (express as organic carbon content) and 1.3 mg/kg (dry weight), surficial sediments collected from great lakes yielded concentrations up to 56 ug/kg.</p> <p>Investigations of suspended particles of the Niagara river revealed that the concentrations of o-dichlorobenzene in larger particles were greater than in smaller ones (75ug/kg, dry weight) for particles of 75 um and 110 ug/kg (dry weight) for particles of > 500 um.</p> <p>The lipid content of the suspended particles could be the reason for the difference.</p> <p>Measured concentrations of o-dichlorobenzene in benthic sediments at the vicinity of a discharge of municipal waste water were up to 750 ug/kg (dry weight) at a sediment depth of 0-2 cm and up to 800 ug/kg at depth of 0-5 cm.</p> <p>The concentration in the sediments decreased sharply with increasing distance from discharge zones.</p>
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	水	水
	雨水	rainwater
結果	欧米における雨水中の濃度: 0.03 ng/l ~ 110 ng/l	In Europe and USA concentrations in rainwater were found to range from 0.03 ng/l to 110 ng/l
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	水	水
	飲料水	drinking water
結果	<p>米国113都市で実施したモニタリング調査によると、o-ジクロロベンゼンの実測濃度は0.01 ug/l であった(1977)。</p> <p>ニュージャージーでの体系的調査によると、600の作業所が提出した750の飲料水サンプル中、6サンプルからo-ジクロロベンゼン(濃度: 0.3 - 0.5 ug/l)が検出された (1985年6月)。</p> <p>12月には、750サンプル中6サンプルからo-ジクロロベンゼン(濃度: 0.3 - 25 ug/l)が検出された。</p>	<p>In the USA, in a monitoring survey in 113 cities, measured concentrations of o-dichlorobenzene was 0.01 ug/l (1977).</p> <p>Systematic studies in New Jersey revealed from 0.3 to 0.5 ug/l of o-dichlorobenzene in 6 out of 750 potable water samples submitted by 600 water works (June 1985).</p> <p>In December again 6 out of 750 samples contained from 0.3 to 25 ug/l of o-dichlorobenzene.</p>
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	水	水
	地下水	ground water
結果	米国全土調査では、466サイトからの地下水サンプル中にo-ジクロロベンゼンは見られなかった。(検出限界: 0.5 ug/l)	In the USA a nation wide study did not revealed any o-dichlorobenzene in the samples of ground water submitted by 466 water works (limit of detection 0.5 ug/l).

結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	水	水
	飲料水	drinking water
結果	濃度: < 0.001 - 0.007 µg/l	Concentration: < 0.001 - 0.007 µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	水	水
	表層水	surface water
結果	濃度: < 0.001 - 0.007 µg/l	Concentration: < 0.001 - 0.007 µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド オンタリオ湖 - ナイアガラ川付近	バックグラウンド Lake Ontario - in the vicinity of the Niagara River.
媒体	底質	底質
結果	濃度: 27	Concentration: 27
結論		
注釈	結果の単位: ng/g	Results in ng/g.
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	16	16
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド オンタリオ湖 - 中央湖盆	バックグラウンド Lake Ontario - central basin of lake.
媒体	底質	底質
結果	濃度: 19	Concentration: 19
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	16	16
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	オンタリオ湖 - 東部湖盆	Lake Ontario - eastern basin of lake.
	底質	底質
結果	濃度: 20	Concentration: 20
結論		
注釈	結果の単位: ng/g. 出典 NICNAS	Results in ng/g. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	16	16
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	ハミルトン ハーバー	Hamilton Harbour.
	底質	底質
結果	濃度: 5.7	Concentration: 5.7
結論		
注釈	結果の単位: ng/g. 出典 NICNAS	Results in ng/g. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	16	16
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	サイトでは、Calcasieu Riverと Bayou d'Indeが交差している。 生体: 下欄のセルに生物名を記載	Site is junction of Calcasieu River and Bayou d'Inde 生体: 下欄のセルに生物名を記載
	Atlantic croakers (Micropogonias undulatus) (ニベ科の一種)	biota Atlantic croakers (Micropogonias undulatus)
結果	濃度: 0.08 ug/g脂質	Concentration: 0.08 ug/g of lipid
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	サイトでは、Calcasieu Riverと Bayou d'Indeが交差している。 生体: 下欄のセルに生物名を記載	Site is junction of Calcasieu River and Bayou d'Inde 生体: 下欄のセルに生物名を記載
	blue crabs (Callinectes sapidus)	biota blue crabs (Callinectes sapidus)
結果	濃度: 0.26	Concentration: 0.26
結論		
注釈	単位: ug/g脂質 出典 NICNAS	Units in ug/g of lipid. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	サイトでは、Calcasieu Riverと Bayou d'Indeが交差している。 生体: 下欄のセルに生物名を記載	Site is junction of Calcasieu River and Bayou d'Inde 生体: 下欄のセルに生物名を記載
	spotted trout (Cynoscion nebulosis)	biota spotted trout (Cynoscion nebulosis)
結果	濃度: 0.06	Concentration: 0.06
結論		

注釈	単位: ug/g脂質	Units in ug/g of lipid.
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
	国: 米国 オレゴン州 ポートランド	Country: Portland, Oregon, USA.
媒体	水	水
	雨水	rain water
結果	濃度: 0.00013 - 0.00062 µg/l	Concentration: 0.00013 - 0.00062 µg/l
結論		
注釈	注釈: 論文中のデータの単位: ng/L	Remark: Data in paper given in ng/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	17	17
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
	国: 米国 オレゴン州 ポートランド	Country: Portland, Oregon, USA.
媒体	大気	大気
	大気 気体層	atmospheric gas phase
結果	濃度: 0.0033 - 0.01 µg/l	Concentration: 0.0033 - 0.01 µg/l
結論		
注釈	論文中のデータの単位: ng/L	Data in paper given in ng/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	17	17
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	バックグラウンド	バックグラウンド
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	下水処理場から採取した排水	receiving waters taking effluent from sewage treatment plants
結果	濃度: < 0.5 - µg/l オーストラリアのシドニー周辺にある処理プラント(×16サイト)の排水のための貯水池からDCBは検出されなかった。 検出限界: 0.5 ppb (ug/L)	Concentration: < 0.5 - µg/l No DCB was detected in receiving waters for the effluent from 16 sewage treatment plants in the Sydney region, Australia. The detection limit of the equipment was 0.5 ppb (ug/L).
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Sydney Water (1996). Risk assessment. Ecological and human health risk assessment of chemicals in sewage treatment plant discharges to ocean waters. Sydney Water Corporation Limited.	Sydney Water (1996). Risk assessment. Ecological and human health risk assessment of chemicals in sewage treatment plant discharges to ocean waters. Sydney Water Corporation Limited.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	水	水
	地下水	ground water

結果	<p>全米調査において、過去に汚染された水道管479本中2本から○ジクロロベンゼンが検出された。濃度は2.2 ug/l、および2.7 ug/l (1984)。</p> <p>ニュージャージーでは、井戸685本からの地下水、および463サンプリングサイトからの表層水の3%が○ジクロロベンゼンで汚染されていた(1981)。</p> <p>地下水サンプルの最大濃度: 6800 ug/l 表層水サンプルの最大濃度: 8.2 ug/l</p> <p>排水で汚染されている米国地下水の○ジクロロベンゼン濃度測定: 0.01～0.67 ug/lの場合: マサチューセッツで測定 77 ug/l および85 ug/lの場合: ミシガンで測定</p> <p>オハイオ州の化学工場近隣地における地下水から、最大濃度 4370 ug/l ○ジクロロベンゼンが見つかった(1982-1987)。</p> <p>遠隔地の井戸における濃度は372 ug/l。</p> <p>一般・産業廃棄物埋立て地から汚染された米国地下水を調査したところ、○ジクロロベンゼン濃度は5 ug/l ～ 130 ug/lであった。</p> <p>カナダの廃棄物埋立て地近隣における、地下水中の○ジクロロベンゼン平均濃度は0.038 ug/lであった。</p> <p>米国にある有害廃棄物埋立地44箇所の浸出水において、○ジクロロベンゼンの最大濃度は、670 ug/lであった。</p>	<p>In a nation wide study in the USA, 2 out of 479 water works which had been contaminated in the past were found to contain o-dichlorobenzene concentrations of 2.2 ug/l and 2.7 ug/l (1984).</p> <p>In New Jersey, 3 % of both ground water from 685 wells and surface water from 463 sampling stations were found to be contaminated by o-dichlorobenzene with a maximum concentration of 6800 ug/l and 8.2 ug/l respectively (1981).</p> <p>In the USA in ground water contaminated by waste water o-dichlorobenzene concentrations of from 0.01 to 0.67 ug/l were measured in Massachusetts and of 77 ug/l and 85 ug/l in Michigan.</p> <p>Ground water in the immediate vicinity of a chemical factory in Ohio, was found to contain up to 4370 ug/l of o-dichlorobenzene (1982-1987).</p> <p>A remote well still contained 372 ug/l.</p> <p>In USA investigation of ground water contaminated by domestic and industrial landfill revealed o-dichlorobenzene concentrations ranging from 5 ug/l to 130 ug/l.</p> <p>In Canada ground water near an abandoned landfill contained a o-dichlorobenzene mean concentration of 0.038 ug/l.</p> <p>The maximum o-dichlorobenzene concentration in leachate from 44 hazardous landfills in the USA was 670 ug/l.</p>
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	排水	waster water effluent
結果	濃度: 0.006 - 0.022 µg/l	Concentration: 0.006 - 0.022 µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	水	水
	表層水	surface water
結果	濃度: 0.009 - µg/l	Concentration: 0.009 - µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	表層水	surface water
結果	濃度: .056 - µg/l	Concentration: .056 - µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください

	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	水	水
	表層水	surface water
結果	濃度: 12 - µg/l	Concentration: 12 - µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	Finnigan TSQ-46Bを使用 キャピラリーがコンピューター化している。 GC/MS/MS	used a Finnigan TSQ-46B computerised capillary gc/ms/ms.
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	底質	底質
結果	濃度: 7.1ug/g 有機炭素	Concentration: 7.1ug/g of organic carbon
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	Finnigan TSQ-46Bを使用 キャピラリーがコンピューター化している。 GC/MS/MS	used a Finnigan TSQ-46B computerised capillary gc/ms/ms.
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	水	水
	表層水	surface water
結果	濃度: 0.009 - µg/l	Concentration: 0.009 - µg/l
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	汚染地域	汚染地域
媒体	サイト: Bayou d'Inde 工業用水排水口 生体: 下欄のセルに生物名を記載 blue catfish (Ictalurus furcatus)	Site is Bayou d'Inde industrial outfall 生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota blue catfish (Ictalurus furcatus)
結果	濃度: 0.11ug/g脂質	Concentration: 0.11ug/g of lipid.
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	汚染地域 サイトでは、Calcasieu Riverと Bayou d'Indeが交差している。	汚染地域 Site is junction of Calcasieu River and Bayou d'Inde

媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載 blue catfish (<i>Ichthalarus furcatus</i>)	生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota blue catfish (<i>Ichthalarus furcatus</i>)
結果	濃度: 0.06	Concentration: 0.06
結論		
注釈	単位: ug/g 脂質 出典 NICNAS	Units in ug/g of lipid. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with an electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 グランドリバー	その他: 下欄のセルに記載 Grand River
媒体	水 表層水	水 surface water
結果	濃度: < 0.001 - 0.031 ug/l	Concentration: < 0.001 - 0.031 ug/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。 出典 NICNAS	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with an electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 エリー湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Erie
媒体	底質	底質
結果	濃度: 1 - 4 ng/g (ppb)	Concentration: 1 - 4 ng/g (ppb)
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 エリー湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Erie
媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載 ニジマス、年齢: 6歳	生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota rainbow trout age 6+ years
結果	濃度: 1	Concentration: 1
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 ヒューロン湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Huron
媒体	底質	底質
結果	濃度: < 5 - 56	Concentration: < 5 - 56
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください

信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 ヒューロン湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Huron
媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載 淡水マス、6歳	生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota lake trout age 6+ years
結果	濃度: 1	Concentration: 1
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 ヒューロン湖水	その他: 下欄のセルに記載 Lake Huron water
媒体	水 表層水	水 surface water
結果	濃度: < 0.001 – µg/l	Concentration: < 0.001 – µg/l
結論		
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換した。 出典 NICNAS	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 オンタリオ湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Ontario
媒体	底質	底質
結果	濃度: 4 – 27	Concentration: 4 – 27
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 オンタリオ湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Ontario
媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載 淡水マス、6歳	生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota lake trout age 6+years
結果	濃度: 1	Concentration: 1
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください 選択してください	選択してください 選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
媒体	オンタリオ湖	Lake Ontario
生体: 下欄のセルに生物名を記載		生体: 下欄のセルに生物名を記載
淡水マス, 4歳		biota lake trout age 4+years
結果	濃度: 1	Concentration: 1
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
媒体	オンタリオ湖	Lake Ontario
底質		底質
底質コア 0-1 cm		sediment core 0-1 cm
結果	濃度: 14	Concentration: 14
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
媒体	オンタリオ湖	Lake Ontario
底質		底質
底質コア 1-2 cm		sediment core 1-2 cm
結果	濃度: 16	Concentration: 16
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
媒体	オンタリオ湖	Lake Ontario
底質		底質
底質コア 2-3 cm		sediment core 2-3 cm
結果	濃度: 19	Concentration: 19
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
媒体	オンタリオ湖	Lake Ontario
底質		底質
底質コア 3-4 cm		sediment core 3-4 cm
結果	濃度: 16	Concentration: 16

結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	オンタリオ湖	Lake Ontario
媒体	底質	底質
	底質コア 4-5 cm	sediment core 4-5 cm
結果	濃度: 26	Concentration: 26
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	オンタリオ湖	Lake Ontario
媒体	底質	底質
	底質コア 5-6 cm	sediment core 5-6 cm
結果	濃度: 13	Concentration: 13
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	オンタリオ湖	Lake Ontario
媒体	底質	底質
	底質コア 6-7 cm	sediment core 6-7 cm
結果	濃度: 2	Concentration: 2
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	オンタリオ湖	Lake Ontario
媒体	底質	底質
	底質コア 7-8 cm	sediment core 7-8 cm
結果	濃度: < 5	Concentration: < 5
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb)	Units are ng/g (ppb)
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 オンタリオ湖水	その他: 下欄のセルに記載 Lake Ontario water
媒体	水	水
結果	表層水	surface water
結論	濃度: 0.002 – 0.007 µg/l	Concentration: 0.002 – 0.007 µg/l
注釈	論文に報告されている単位: ppt. ug/Lへ変換 出典 NICNAS	in the paper the reported units are ppt. They have been converted to ug/L Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 スベリオル湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Superior
媒体	底質	底質
結果	濃度: < 5 – 1	Concentration: < 5 – 1
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	電子捕獲型検出器付きキャピラリーガスクロマトグラフ	capillary gas chromatography with and electron capture detector
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 スベリオル湖	その他: 下欄のセルに記載 Lake Superior
媒体	生体: 下欄のセルに生物名を記載 淡水マス, 6歳	生体: 下欄のセルに生物名を記載 biota lake trout age 6+years
結果	濃度: 0.3	Concentration: 0.3
結論		
注釈	単位: ng/g (ppb) 出典 NICNAS	Units are ng/g (ppb) Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	15	15
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
測定タイプ(地点)	その他: 下欄のセルに記載 重度に工業地化されている。都市および田舎	その他: 下欄のセルに記載 heavily industrialised, municipal and rural
媒体	大気	大気
結果	濃度: 約1.3 – 61ug/m3 全てのサイトにおける最大値の幅 全体の平均値: 3 ug/m3 (平均幅: 1.2–11.6 ug/m3)	Concentration: ca. 1.3 – 61ug/cubic metre This range is the range of the maximum values taken across all sites. The overall mean was 3 ug/cubic metre (mean range was 1.2–11.6 ug/cubic metre).
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Bozzelli J W and Kebbekus B B (1982). A Study to Some Aromatic and Halocarbon Vapors in the Ambient Atmosphere of New Jersey, as cited in BUA (1990) on Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Bozzelli J W and Kebbekus B B (1982). A Study to Some Aromatic and Halocarbon Vapors in the Ambient Atmosphere of New Jersey, as cited in BUA (1990) on Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

3.3. 移動と分配

3.3.1 環境区分間の移動

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	土壌への吸着	adsorption to soil
	タイプ: 吸着	Type: adsorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他	other
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	実験から以下の測定結果がえられた。 様々な土壌における土壌／水の係数: 0.02-250 土壌収着係数: 286-4654	Experimental determination of soil/water coefficients in various soils and coefficients of soil sorption coefficient (KOC = carbon organic content) showed value ranging from 0.02 to 250 and 286 to 4654 respectively
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	土壌への吸着	adsorption to soil
	タイプ: 吸着	Type: adsorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他	other
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	表層土壌の土壌収着係数KOC(有機炭素含有量): 383 ばく露期間: 24時間 温度: 22.5 +/- 1 °C pH: 6.3(無調整) 土壌収着係数は、基礎条件下で著しく減少した。	The soil sorption coefficient KOC expressed in terms of the content of organic carbon was 383 for a surface soil after 24 h exposure at 22.5 +/- 1 degree C with an unadjusted pH of 6.3. The soil sorption coefficient was significantly reduced under basic conditions.
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	18	18
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	土壌への吸着	adsorption to soil
	タイプ: 吸着	Type: adsorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他	other
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	ライン川下流域の堆積物ろ過中におけるo-ジクロロベンゼンの消失速度は75 - 80 %であった。	The elimination rate for o-dichlorobenzene was found during bank filtration in the lower Rhine to be 75 - 80 %.
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	19	19
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	土壌への吸着	adsorption to soil
	タイプ: 吸着	Type: adsorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他	other
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	土壌からの消失は、o-ジクロロベンゼンの高い脱着力により顕著に低下する。	Elimination through soil is severely impaired by the high desorption power of o-dichlorobenzene
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990 Haberer, K. and Norman, S., Untersuchungen zu einzelnen organischen Spurenstoffen aus Rhein und Main im Hinblick auf die Trinkwassergewinnung, Vortrag 18 des 5. DECHEMA-Fachgespraches Umweltschutz 'Biologischer Abbau persistenter Substanzen?' am 29./30.04.1987 in Frankfurt/Main, Deutsche Gesellschaft für Chemische Apparatewesen, Chemische Technik und Biotechnologie e.V., Frankfurt/Main, 1-6 (1987)	BUA Report No. 53, VCH, September 1990 Haberer, K. and Norman, S., Untersuchungen zu einzelnen organischen Spurenstoffen aus Rhein und Main im Hinblick auf die Trinkwassergewinnung, Vortrag 18 des 5. DECHEMA-Fachgespraches Umweltschutz 'Biologischer Abbau persistenter Substanzen?' am 29./30.04.1987 in Frankfurt/Main, Deutsche Gesellschaft für Chemische Apparatewesen, Chemische Technik und Biotechnologie e.V., Frankfurt/Main, 1-6 (1987)
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載 計算 タイプ: 吸着	その他: 下欄のセルに記載 calculation Type: adsorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載 土壌	その他: 下欄のセルに記載 soil
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	Koc = 977. 計算式 $\log Koc = 1.377 + 0.544$	Koc = 977. calculated using the equation $\log Koc = 1.377 + 0.544$
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載 土壌への吸着 タイプ: 吸着	その他: 下欄のセルに記載 adsorption to soil Type: adsorption
結果		
媒体	水-土壌	水-土壌
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	o-ジクロロベンゼンは、蒸留水で溶出したところ、汚染土壌カラムから脱離した。	o-dichlorobenzene was desorbed from contaminated soil columns by elution with distilled water
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	21	21
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載 その他 タイプ: 吸着	その他: 下欄のセルに記載 other Type: adsorption
結果		
媒体	水-土壌	水-土壌
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	オンタリオ湖の土壌堆積物が定常的に再浮遊することにより、1年をとおして98%以上の脱離が生じた。しかし、排出量2 kg/年(計算値)は、ナイアガラからのo-ジクロロベンゼン2.6トン/年と比較すると極めて低い。	constant resuspensions of soil sediment from lake Ontario could result in more than 98 % desorption over the course a year. The calculated release of 2 kg per year is however very low compared with the 2.6 t/a of o-dichlorobenzene via the Niagara.
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	22	22
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載 土壌への吸着 タイプ: 吸着	その他: 下欄のセルに記載 adsorption to soil Type: adsorption
結果		
媒体	水-土壌	水-土壌

環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	浸透中：排水処理場からの排水に含まれる α -ジクロロベンゼンの土壌ろ過による除去効率率は15 %～53 %	Elimination efficiencies from 15 % to 53 % during infiltration and soil percolation of α -dichlorobenzene containing waste water from a waste water treatment plant
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	23	23
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他：下欄のセルに記載 土壌への吸着 タイプ：吸着	その他：下欄のセルに記載 adsorption to soil Type: adsorption
結果		
媒体	水－土壌	水－土壌
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	土壌を通過した後、帯水層からくみ上げた水試料から α -ジクロロベンゼンは検出されなかった。	No detection of α -dichlorobenzene in the water pumped out of aquifer after the passage through the soil
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	24	24
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他：下欄のセルに記載 土壌への吸着 タイプ：吸着	その他：下欄のセルに記載 adsorption to soil Type: adsorption
結果		
媒体	水－土壌	水－土壌
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	α -ジクロロベンゼンを含む汚泥は、後で洗浄された表層土壌(0-15 cm)に混入してから4か月後に、低層(15-48 cm)で検出された。	Four month after sludge containing α -dichlorobenzene had been incorporated into the upper layer of the soil (0-15 cm) which was subsequently irrigated, it was detected in the lower layer (15-48 cm).
注釈		Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	25	25
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他：下欄のセルに記載 吸着	その他：下欄のセルに記載 adsorption
結果		
媒体	水－土壌	水－土壌
環境分布予測と媒体中濃度 (levelII/III)		
結論	$\log K_{om} = 2.27$ (K_{om} は、土壌-有機物-水の分配係数)	$\log K_{om} = 2.27$ (K_{om} is Soil-organic matter-water distribution coefficient.
注釈	Woodburnシルト質ローム土壌を使用: 1.9% OM, 68% silt, 21% clay 9% sand. 出典 NICNAS	Woodburn silt loam soil used: 1.9% OM, 68% silt, 21% clay 9% sand. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	26	26
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他：下欄のセルに記載 タイプ：揮発	その他：下欄のセルに記載 Type: volatility

結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	表層水、土壌、大気	surface water and soil to air
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	表層水および土壌からの主な除去メカニズムは、揮発である。	Dominant removal mechanism from surface water and soil is expected to be volatilisation
注釈		
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Slimak K., Johnston P. and Hodge V. "Materials Balance for Chlorobenzenes"; US EPA Report EPA-560/13-80-0001 (PB80-173651), 1980 (in Government of Canada, 1993).	Slimak K., Johnston P. and Hodge V. "Materials Balance for Chlorobenzenes"; US EPA Report EPA-560/13-80-0001 (PB80-173651), 1980 (in Government of Canada, 1993).
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	ヘンリー定数	Henry's constant
	タイプ: 揮発	Type: volatility
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	水 - 大気、水 - 土壌	water - air and water - soil
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	計算値: H = 193 Pa m3/mol (25°C) H = 190 - 198 Pa m3/mol (25°C) H = 172 Pa m3/mol (20°C) H = 121.6 Pa m3/mol (20°C) H = 219 Pa m3/mol (20°C)	calculated: H = 193 Pa m3/mol at 25 degree C H = 190 - 198 Pa m3/mol at 25 degree C H = 172 Pa m3/mol at 20 degree C H = 121.6 Pa m3/mol at 20 degree C H = 219 Pa m3/mol at 20 degree C
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	ヘンリー定数	Henry's constant
	タイプ: 揮発	Type: volatility
結果		
媒体	大気 - 水	大気 - 水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	実験値: H = 165 Pa m3/mol (10°C) H = 145 Pa m3/mol (15°C) H = 170 Pa m3/mol (20°C) H = 159 Pa m3/mol (25°C) H = 240 Pa m3/mol (30°C)	experimental values: H = 165 Pa m3/mol at 10 degree C H = 145 Pa m3/mol at 15 degree C H = 170 Pa m3/mol at 20 degree C H = 159 Pa m3/mol at 25 degree C H = 240 Pa m3/mol at 30 degree C
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	27	27
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	ヘンリー定数	Henry's constant
	タイプ: 揮発	Type: volatility
結果		
媒体	大気 - 水	大気 - 水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	290 +/- 30 Pa m3/mol (37°C) これは実験上の水/大気係数 = 9.0 +/- 1にもとづく。	290 +/- 30 Pa m3/mol at 37 degree C based on an experimental water/air coefficient = 9.0 +/- 1
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	28	28
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	試験条件: 二次処理排水は底を通して流れる物質で汚染されている。 滞留時間は8時間。 タイプ: 揮発	Test condition: Secondary treated waste water contaminated with the substance flowed through basis in which the residence time was 8 hours Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	大気への揮発により、排水中のo-ジクロロベンゼンの濃度が40%減少した。	40 % decrease in concentration of o-dichlorobenzene in waste water due to evaporation to the atmosphere
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	23	23
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	試験条件: 排水処理中、排水を安定させる貯水池におけるo-ジクロロベンゼンの分布を調査するモデル実験 タイプ: 揮発	Test condition: Model experiment to investigate the distribution of o-dichlorobenzene in waste stabilisation ponds during waste water treatment. Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	14.6 時間以内に、貯水池から大気へ物質の50 %が揮発	50 % evaporation from ponds into the atmosphere within 14.6 h
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Davis, E.M. et al., Partitioning of selected organic pollutants in aquatic ecosystems, Biodeterior., Pap. Int. Biodeterior. Symp. 5th, Meeting Date 1981, Oxley, T.A., Barry, S. (eds.), John Wiley & Sons Ltd., Chichester, UK, 176-184 (1983a) Davis, E.M. et al., Water Resour. Symp. 10 (Toxic Mater.: Methods Control), 95-107 (1983b)	Davis, E.M. et al., Partitioning of selected organic pollutants in aquatic ecosystems, Biodeterior., Pap. Int. Biodeterior. Symp. 5th, Meeting Date 1981, Oxley, T.A., Barry, S. (eds.), John Wiley & Sons Ltd., Chichester, UK, 176-184 (1983a) Davis, E.M. et al., Water Resour. Symp. 10 (Toxic Mater.: Methods Control), 95-107 (1983b)
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他 タイプ: 揮発	other Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	溶液中におけるo-ジクロロベンゼン蒸発の半減期: 1.17分 (深度0.75cm) 2.5 分 (深度1.6cm)	Half lives for evaporation of o-dichlorobenzene from solution were found to be 1.17 and 2.5 minutes for depth of 0.75 and 1.6 cm respectively
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	29	29
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他 タイプ: 揮発	other Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level/III)		
結論	水溶液からの蒸発の割合 (通気なし、室温状態) 2日目 19 % 4日目 82 % 8日目 85 %	19.82 and 85 % evaporation from aqueous solution after 2, 4 and 8 d at room temperature without aeration
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen

信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	30	30
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他 タイプ: 揮発	other Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level III/III)		
結論	2%メタノールが水相へ加えてある閉鎖系システムにおいて、25分以内にo-クロロベンゼンの25%が蒸発した。3.5時間以内に90%が蒸発した。(通気なし)	In a closed system under addition of 2 % methanol to aqueous phase, 25 % of o-chlorobenzene had evaporated within 25 min. and 90 % within 3.5 h without aeration
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	31	31
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	その他 タイプ: 揮発	other Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level III/III)		
結論	4時間以内に初期濃度の50%、24時間以内に90%がライン川河水でゆっくりと攪拌されo-ジクロロベンゼンの濃度は0.05 ug/l になった。	50 % of the initial concentration within 4 h and a 90 % reduction within 24 h has a solution of Rhine water slowly stirred and containing 0.05 ug/l of o-dichlorobenzene
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	32	32
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	タイプ: 揮発	Type: volatility
結果		
媒体	大気-水	大気-水
環境分布予測と媒体中濃度 (level II/III)		
結論		
注釈	この論文では高揮発性化合物の揮発速度について議論されている。このような化学物質の水から大気への輸送は重要な経路である。	This paper discusses the volatilisation rates of high-volatility compounds, and the transport of such chemicals from water bodies to air as important pathways.
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献	33	33
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	計算 タイプ: 揮発	calculated Type: volatility
結果		
媒体	選択してください	選択してください
環境分布予測と媒体中濃度 (level III/III)		
結論	ヘンリー定数, H = 0.0013 atm m ³ /moles	Henry's constant, H = 0.0013 atm m ³ /moles
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください

信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	不明	不明
	収着係数、および分配係数 (Kd)	sorption and distribution coefficient (Kd)
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	溶質-溶媒系 (帯水層土壌-人工地下水)	solute-sorbent system (aquifer soil-artificial groundwater)
環境分布予測と媒体中濃度 (level III/III)		
結論	等温線データ: Linear Kd (95% CI), with intercept = 0.76 +/- 0.03 Linear Kd (95% CI), with suppressed intercept = 0.81 +/- 0.03 Freundlich分配係数, Kf = 1.16 +/- 0.0.	Isotherm data: Linear Kd (95% CI), with intercept = 0.76 +/- 0.03 Linear Kd (95% CI), with suppressed intercept = 0.81 +/- 0.03 Freundlich distribution coefficient, Kf = 1.16 +/- 0.0.
注釈	Bordenの帯水層の物質、人工地下水、C14でラベルした1,2-DCBを用いた。 時間幅2~144時間で、収着を分析した。 初期水溶液濃度は、約30 ug/Lであった。 初期収着では、2時間で全収着の約50%が生じた。その後、数日間にわたって収着は徐々に減速した。 出典 NICNAS	Real Borden aquifer material, synthetic groundwater and carbon 14 labelled 1,2-DCB were used. Sorption was analysed at times ranging from 2-144 hours. The initial aqueous concentration was approximately 30 ug/L. Initial sorption was rapid, with approximately 50% of the total sorption occurring in the first 2 hours and then a gradually declining sorption rate over a period of days. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	34	34
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	収着/脱離	sorption/desorption
結果		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	土壌 - 大気	soil - air
環境分布予測と媒体中濃度 (level III/III)		
結論	接触時間が7, 14, 49, 99日間の場合、脱着は収着より遅い。接触が2日間の場合、収着速度と脱離速度は統計的に変わらない。	desorption rate slower than sorption rate for contact times of 7, 14, 49, and 99 days. Rates of sorption and desorption for 2 days contact not statistically different.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	35	35
備考		

3.3.2 分配

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
媒体	その他: 下欄のセルに記載	その他: 下欄のセルに記載
	不圧砂質帯水層における輸送	transport in an unconfined sand aquifer
方法	(実測): フィールド	(measurement): field
試験条件		
結果	初期 one-point分配係数の結果から、4つのハロゲン化された有機溶質 (1,2-DCBを含む) の収着分配係数は、コア層間で比例して変化した。 これに基づき、収着分配係数の更なる調査のために溶質 (テトラクロロエチレン) を用いた。 有機炭素含有量や特定の表面を持つ地域によって観察事象を説明できなかった。 未確認の鉱物相により観察事情を説明できる可能性がある。	Initial one-point partition coefficient results indicated that the sorption distribution of coefficients for 4 halogenated organic solutes (including 1,2-DCB) varied proportionally among core strata. On this basis one solute (tetrachloroethylene) was used to further investigate the distribution sorption coefficients. The observation could not be explained by organic carbon content or specific surface area. It is possible that unidentified minerals phases may account for the observations.
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Mackay, D.M., Ball, W.P. and Durant, M.G. (1986); "Variability of Aquifer Sorption Properties in a Field Experiment on Groundwater Transport of Organic Solutes: Methods and Preliminary Results"; J. Contam. Hydrol. 1, pp 119-132.	Mackay, D.M., Ball, W.P. and Durant, M.G. (1986); "Variability of Aquifer Sorption Properties in a Field Experiment on Groundwater Transport of Organic Solutes: Methods and Preliminary Results"; J. Contam. Hydrol. 1, pp 119-132.
引用文献		
備考		

3.4 好気性生分解性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	OECDガイドライン 301 D "Ready Biodegradability: Closed Bottle Test"	OECD Guide-line 301 D "Ready Biodegradability: Closed Bottle Test"
培養期間		
植種源	主にじゅん化した生活排水	predominantly domestic sewage, adapted
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年	1977	1977
試験条件		
試験物質濃度	4 mg/l	4 mg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	58 (%) (20日目)	58 (%) (20日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	OECDガイドライン 301 D "Ready Biodegradability: Closed Bottle Test"	OECD Guide-line 301 D "Ready Biodegradability: Closed Bottle Test"
培養期間		
植種源	一般廃棄物処理場からの排水	wastewater from a municipal wastewater treatment plant
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 28日間	Contact time: 28 day(s)
試験物質濃度	4 mg/l	4 mg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	93%(28日目)	93%(28日目)
分解速度-1	5日目 18%	5 day(s) 18%
分解速度-2	14日目 35%	14 day(s) 35%
分解速度-3	21日目 77%	21 day(s) 77%
分解速度-4	28日目 93%	28 day(s) 93%
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Hoechst (1985). Ergebnis der Abwasserbiologischen von o-Dichlorobenzol. Bericht Nr. OEK W85-169 vom 05.06.1985., Hoechst AG, Frankfurt/Main. (cited in BUA, 1990). as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Hoechst (1985). Ergebnis der Abwasserbiologischen von o-Dichlorobenzol. Bericht Nr. OEK W85-169 vom 05.06.1985., Hoechst AG, Frankfurt/Main. (cited in BUA, 1990). as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1)に規定されている "Biodegradation test of chemical substance by microorganisms etc." このガイドラインは、化学物質試験のためのOECDガイドライン (1981年5月12日) に規定されている"301C, Ready Biodegradability: Modified MITI Test I"に一致。 Type: 好気性	"Biodegradation test of chemical substance by microorganisms etc." stipulated in the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1). This guideline corresponds to "301C, Ready Biodegradability: Modified MITI Test I" stipulated in the OECD Guidelines for Testing of Chemicals (May 12, 1981). Type: aerobic
培養期間		

植種源	活性汚泥	activated sludge
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	100 mg/l	100 mg/l
汚泥濃度	30 mg/l	Sludge conc.: 30 mg/l
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	0 (28日目)	0 (28日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論	試験条件下において、生分解はみられなかった。	under test conditions no biodegradation observed
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 好気性	Type: aerobic
培養期間		
植種源	じゅん化活性汚泥	activated sludge, adapted
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 8時間	Contact time: 8 hour(s)
試験物質濃度	83 mg/l	83 mg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	分解: 99.9 %	Degradation: 99.9 %
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他	60日間、排水処理パイロットプラントを作動させた。 滞留時間は8時間。 除去全体の24%は、通気による除去による。 除去全体の75%は、生分解による。	The wastewater treatment pilot plant was operated for 60 days and had a residence time of 8 hours. 24% of the elimination was due to stripping during aeration and 75% was due to biodegradation.
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Stover, E. L. and Kincannon, D.F. (1982). Biological Treatability of Specific Organic Compounds Found in Chemical Industry Wastewaters. Proc. Ind. Waste Conf. 36th, pp 1-16. in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Stover, E. L. and Kincannon, D.F. (1982). Biological Treatability of Specific Organic Compounds Found in Chemical Industry Wastewaters. Proc. Ind. Waste Conf. 36th, pp 1-16. in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 好気性	Type: aerobic
培養期間		
植種源	Pseudomonas sp. (細菌)	Pseudomonas sp. (Bacteria)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 72時間	Contact time: 72 hour(s)
試験物質濃度	200 mg/l	200 mg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		

結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論	分解: 100 % 環状開裂により分解した。	Degradation: 100 % Degradation was via ring cleavage.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Worne, H. E. (1972): "The Activity of Mutant Microorganisms in the Biological Treatment of Industrial Wastes"; Zeitschrift des BECEWA (Belgisches Zentrum für Wasseruntersuchung, 22, pp 61-71, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Worne, H. E. (1972): "The Activity of Mutant Microorganisms in the Biological Treatment of Industrial Wastes"; Zeitschrift des BECEWA (Belgisches Zentrum für Wasseruntersuchung, 22, pp 61-71, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 好気性	Type: aerobic
培養期間		
植種源	Pseudomonas sp. (細菌) 注釈: 接種は、放射線により生じたPseudomonas spの突然変異体。	Pseudomonas sp. (Bacteria) Remark: inoculum was radiation generated mutants of Pseudomonas sp
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 26時間	Contact time: 26 hour(s)
試験物質濃度	濃度: 200 mg/l	Concentration: 200 mg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他	分解: 100 %	Degradation: 100 %
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Worne, H. E. (1972): "The Activity of Mutant Microorganisms in the Biological Treatment of Industrial Wastes"; Zeitschrift des BECEWA (Belgisches Zentrum für Wasseruntersuchung, 22, pp 61-71, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Worne, H. E. (1972): "The Activity of Mutant Microorganisms in the Biological Treatment of Industrial Wastes"; Zeitschrift des BECEWA (Belgisches Zentrum für Wasseruntersuchung, 22, pp 61-71, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 好気性	Type: aerobic
培養期間		
植種源	バイオフィーム細菌	biofilm bacteria
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 2日間	Contact time: 2 day(s)
試験物質濃度	濃度: 15 µg/l	Concentration: 15 µg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		

上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他	分解: 2日後 0 から15%	Degradation: 0 % 15 after 2 day(s)
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	36	36
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 嫌気性	Type: anaerobic
培養期間		
植種源	co-settled消化物汚泥 (hogsmill Valley WPCW 由来)	co-settled digested sludge from hogsmill Valley WPCW
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 32日間	Contact time: 32 day(s)
試験物質濃度	710 µg/l	710 µg/l related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	66 %(32日目)	66 %(32日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	4日以内に50%が除去された	50% removed in less than 4 days
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論	収着ではなくて化学的転換、あるいは物理的除去プロセスにより除去されるにちがいない。	removal must be attributed to a chemical conversion or physical removal process other than sorption
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	37	37
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	タイプ: 嫌気性	Type: anaerobic
培養期間		
植種源	一般廃棄物処理場からの消化物汚泥	digested sludge from a municipal wastewater treatment plant
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 7日間	Contact time: 7 day(s)
試験物質濃度	濃度: 50 mg/l	Concentration: 50 mg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	水相における20%の除去	20% elimination in the aqueous phase.
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Garrison, A. W. (1969). Analytical Studies of Textile Wastes. Amer. Chem. Soc. Div. Water, Air Waste Chem. Gen. Pap. 9,pp 51-59. in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Garrison, A. W. (1969). Analytical Studies of Textile Wastes. Amer. Chem. Soc. Div. Water, Air Waste Chem. Gen. Pap. 9,pp 51-59. in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		

方法	最終濃度を約0.5 mmol/L とするため、クロロベンゼンの異性体および混合物を河川底質で満たしたセラムボトルへ入れた。 タイプ: 嫌気性	A range of chlorobenzene isomers and mixture were fed to serum bottles filled with river sediment to give aq final concentration of approximately 0.5 mmol/L. Type: anaerobic
培養期間		
植種源	Saale川の底質を用いて強化したメタン細菌の混合培地	methanogenic mixed culture enriched from the Saale river sediments.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	0.5 mmol/l	0.5 mmol/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論	全てのクロロベンゼンは、一週間ほどで還元的脱塩素化によりモノクロロベンゼンから非置換ベンゼンまで変化する。	All chlorobenzenes were transformed by reductive dechlorination via mono-chlorobenzene to unsubstituted benzene after a short lag phase of only 1 week.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	38	38
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
培養期間		
植種源	嫌気性微生物	anaerobic microorganisms
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	83 mg/l	83 mg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他		
結論	分解: 99.9 % 平均除去率 22% 生分解による平均除去率 78%	Degradation: 99.9 % means of removal 22% due to stripping and 78% due to biodegradation.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	39	39
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
培養期間		
植種源	その他の細菌: パイロットプラントをシミュレーションしている排水浄化	other bacteria: wastewater purification simulating pilot plant
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	濃度: 38.6 µg/l 405 µg/l	Concentration: 38.6 µg/l 405 µg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		

結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	分解: 97 - 99 %	Degradation: 97 - 99 %
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他	流入濃度幅: 38.6 ~ 495 µg/L この結果は、排水中のDCBの検出限界にもとづいている。 プラントで用いられた接種タイプと滞留時間は明確ではなかった。	Influent concentration range was 38.6 and 495 µg/L. The result is based on the limit of detection of DCB in the effluent. The type of inoculum used in the plant and the retention time
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Goltz, R. D., Badalamenti, S. and Ogg, R. N. (1983); "Treatability of Hazardous Waste Leachate at Publicly Owned Treatment Works"; Natl. Conf. Manage. Uncontrolled Hazard Waste Sites, Hazard Mater. Control Res. Inst. : Silver Spring, Md. pp 202-208, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Goltz, R. D., Badalamenti, S. and Ogg, R. N. (1983); "Treatability of Hazardous Waste Leachate at Publicly Owned Treatment Works"; Natl. Conf. Manage. Uncontrolled Hazard Waste Sites, Hazard Mater. Control Res. Inst. : Silver Spring, Md. pp 202-208, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	接触時間: 5.5時間	Contact time: 5.5 hour(s)
培養期間		
植種源	その他の細菌: シミュレーションした生物排水処理場	other bacteria: simulated biological wastewater treatment plant
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	濃度: 50 µg/l 150 µg/l	Concentration: 50 µg/l 150 µg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	分解: 35 %	Degradation: 35 %
対象物質の7, 14日目の分解度		
その他	水理学的滞留時間: 5.5時間 活性汚泥滞留時間: 6日間 マスバランスによれば、分配は以下のとおり。 6% 排水中 59% 除去(揮発による) 35% 生分解による除去 0% 生物へ吸着	Hydraulic retention time was 5.5 hours and activated sludge retention time was 6 days. Mass balance indicated the following distribution of DCB - 6% in effluent, 59% removed via stripping (due to volatility), 35% removed via biodegradation and 0% adsorbed to biomass.
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Weber, W. J., Jones, B.E. and Katz, L.E.; "Fate of Toxic Organic Substances in Activated Sludge Systems and Integrated PAC Systems"; Water Sci. Technol., 19, pp 471-482, 1987, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Weber, W. J., Jones, B.E. and Katz, L.E.; "Fate of Toxic Organic Substances in Activated Sludge Systems and Integrated PAC Systems"; Water Sci. Technol., 19, pp 471-482, 1987, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
培養期間		
植種源	その他の細菌: シミュレーションした生物排水処理場	other bacteria:simulated biological wastewater treatment plant
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
試験物質濃度	濃度: 50 µg/l 150 µg/l	Concentration: 50 µg/l 150 µg/l
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		

分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果		
対象物質の7, 14日目の分解度 その他	<p>水理学的滞留時間: 5.5時間 活性汚泥滞留時間: 6日間</p> <p>マスバランスによれば、分配は以下のとおり。 6% 排水中 59% 除去(揮発による) 35% 生分解による除去 0% 生物へ吸着</p>	<p>Hydraulic retention time was 5.5 hours and activated sludge retention time was 6 days. Mass balance indicated the following distribution of DCB – 6% in effluent, 59% removed via stripping, 35% removed via biodegradation and 0% adsorbed to biomass.</p>
結論	<p>活性汚泥へpulverised活性炭層を加えたとき、DCBの除去が減少した。 25 mg/Lの活性炭素を加えた場合、除去率61% 50 mg/Lの活性炭素を加えた場合、除去率71% 100 mg/Lの活性炭素を加えた場合、除去率93% 200 mg/Lの活性炭素を加えた場合、除去率94%</p> <p>除去には生分解によるものと、吸着によるものがある。 活性炭素がないとバイオマスへの吸着は生じない。生分解率は35%。</p>	<p>A decrease in the elimination of DCB occurred when pulverised activated carbon was added to the activated sludge. When 25 mg/L of activated carbon was added there was 61% elimination, with 50 mg/L there was 71%, with 100 mg/L there was 93%, and with 200 mg/L there was 94% elimination. Elimination includes biodegradation and adsorption. Without activated carbon there was no adsorption on biomass and there was 35% biodegradation.</p>
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Weber, W. J., Jones, B.E. and Katz, L.E.; "Fate of Toxic Organic Substances in Activated Sludge Systems and Integrated PAC Systems"; Water Sci. Technol., 19, pp 471-482, 1987, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Weber, W. J., Jones, B.E. and Katz, L.E.; "Fate of Toxic Organic Substances in Activated Sludge Systems and Integrated PAC Systems"; Water Sci. Technol., 19, pp 471-482, 1987, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
培養期間		
植種源	スパイクした標準土壌	Standard spiked soil
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	接触時間: 259 日間	Contact time: 259 day(s)
試験物質濃度	26.8 ug/kg	26.8 ug/kg related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	分解: 約90 %	Degradation: ca. 90 %
対象物質の7, 14日目の分解度 その他	<p>損失過程は、2段階1次限プロセス 主な損失は揮発によるものである</p>	<p>Loss process was a two-step first order process, with volatilisation the main means of loss.</p>
結論	<p>濃度は 259日目で2.82まで減少した。 試験開始から32日目で、急激に減少した。 1段階目の半減期 8.63 2段階目の半減期 191</p>	<p>Concentration dropped to 2.82 after 259 days. Major loss occurred in first 32 days. Half-life in step one was 8.63 and in step two 191.</p>
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	40	40
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	接触時間: 259日間	Contact time: 259 day(s)
培養期間		
植種源	下水汚泥を用いた改良土壌	soil amended with sewage sludge
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		

試験物質濃度	濃度: 126	Concentration: 126 related to Test substance
汚泥濃度		
培養温度 °C		
対照物質および濃度(mg/L)		
分解度測定方法		
分解度算出方法		
結果		
最終分解度(%) 日目	(%)(日目)	(%)(日目)
分解速度-1		
分解速度-2		
分解速度-3		
分解速度-4		
分解生成物		
上記結果以外の分解度測定方法及びその結果	分解: 約85 %	Degradation: ca. 85 %
対象物質の7, 14日目の分解度 その他	濃度は 259日目で19.9まで減少した。 試験開始から32日目で、急激に減少した。 1段階目の半減期 13.2 2段階目の半減期 892	Concentration dropped to 19.9 after 259 days. Major loss occurred in first 32 days. Half-life in step one was 13.2 and in step two 892.
結論 注釈	単位: ug/kg. 損失過程は、2段階1次限プロセス 主な損失は揮発によるものである 出典 NICNAS	Units ug/kg. Loss process was a two-step first order process, with volatilisation the main means of loss. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	40	40
備考		

3.5. BOD-5、CODまたはBOD-5／COD比

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
BOD5の算出方法	B O D 5 方法: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D 方法: complete mix continuous flow activated sludge systems	B O D 5 Method: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D Method: complete mix continuous flow activated sludge systems
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
濃度	162 mg/l	162 mg/l related to
結果 mgO ₂ /L	BOD5: 2.6 mg/l COD: 49 mg/g物質	BOD5: 2.6 mg/l COD: 49 mg/g substance
BOD/COD比		
その他	システムの滞留時間 6日間 流入 BOD5 = 162; 注釈 COD単位: mg/l, 流入COD = 416; 流入水中のTOC = 151 and 排水中 = 17 mg/l.	retention time in system 6 days; influent BOD5 = 162; NOTE COD units are mg/l, influent COD = 416; TOC in influent = 151 and in effluent = 17 mg/l.
結論 注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	39	39
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
BOD5の算出方法	B O D 5 方法: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D 方法: complete mix continuous flow activated sludge systems	B O D 5 Method: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D Method: complete mix continuous flow activated sludge systems
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
濃度	159 mg/l	159 mg/l
結果 mgO ₂ /L	BOD5: 3.2 mg/l COD: 40 mg/g物質	BOD5: 3.2 mg/l COD: 40 mg/g substance
BOD/COD比		
その他	システムの滞留時間 4日間 流入 BOD5 = 159; 注釈 COD単位: mg/l, 流入COD = 428; 流入TOC = 154 排水中 = 20 mg/l.	retention time in system 4 days; influent BOD5 = 159; NOTE COD units are mg/l, influent COD = 428; TOC in influent = 154 in effluent = 20 mg/l.
結論		

注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	39	39
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
BOD5の算出方法	B O D 5 方法: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D 方法: influent COD=416; complete mix continuous flow activated sludge systems	B O D 5 Method: complete mix continuous flow activated sludge systems C O D Method: influent COD=416; complete mix continuous flow activated sludge systems
GLP	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
濃度	162 mg/l	162 mg/l
結果 mgO ₂ /L	BOD5: 3.3 mg/l COD: 35 mg/g substance	BOD5: 3.3 mg/l COD: 35 mg/g substance
BOD/COD比		
その他	システムの滞留時間 2日間 流入 BOD5 = 162; 流入 COD = 416.	retention time in system 2 days; influent BOD5 = 162; influent COD = 416.
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	39	39
備考		

3.6 生物濃縮性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	Cynoscion nebulosus (海水魚)	Cynoscion nebulosus (Fish, marine)
暴露期間 (日)		
曝露濃度	濃度: 0.009 µg/l	Concentration: 0.009 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施	国: 米国 ルイジアナ州	Country: Louisiana, USA
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)	6166	BCF: 6166
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	論文の結果はlog BCFで示されている。 ここで示されている値はBCFである。 出典 NICNAS	Results are given in paper as log BCF. Values presented here are BCF Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	“Bioaccumulation test of chemical substance in fish and shellfish” stipulated in the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, the Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1). このガイドラインは、化学物質試験のためのOECDガイドライン (1981年5月12日)に規定されている“305C, Bioaccumulation: Degree of Bioconcentration in Fish”に相当する。	“Bioaccumulation test of chemical substance in fish and shellfish” stipulated in the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, the Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1). This guideline corresponds to “305C, Bioaccumulation: Degree of Bioconcentration in Fish” stipulated in the OECD Guidelines for Testing of Chemicals (May 12, 1981).
生物種	コイ (淡水魚)	Cyprinus carpio (Fish, fresh water)
暴露期間 (日)	56日間	56 day(s)

曝露濃度	0.01 mg/l	0.01 mg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	90 – 260	BCF: 90 – 260
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	<p>“Bioaccumulation test of chemical substance in fish and shellfish” stipulated in the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, the Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1).</p> <p>このガイドラインは、化学物質試験のためのOECDガイドライン (1981年5月12日)に規定されている“305C, Bioaccumulation: Degree of Bioconcentration in Fish”に相当する。</p>	<p>“Bioaccumulation test of chemical substance in fish and shellfish” stipulated in the Order Prescribing the Items of the Test Relating to the New Chemical Substance (1974, Order of the Prime Minister, the Minister of Health and Welfare, the MITI No. 1).</p> <p>This guideline corresponds to “305C, Bioaccumulation: Degree of Bioconcentration in Fish” stipulated in the OECD Guidelines for Testing of Chemicals (May 12, 1981).</p>
生物種	コイ (淡水魚)	Cyprinus carpio (Fish, fresh water)
暴露期間 (日)	56 日間	56 day(s)
曝露濃度	0.1 mg/l	0.1 mg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	150 – 230	BCF: 150 – 230
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	出典 Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	国: 米国 ルイジアナ州	Country: Louisiana, USA
生物種	Ictalurus furcatus (淡水魚)	Ictalurus furcatus (Fish, fresh water)
暴露期間 (日)		
曝露濃度	0.009 µg/l	0.009 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		

分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	6607	BCF: 6607
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	論文の結果はlog BCFで示されている。 ここで示されている値はBCFである。 出典 NICNAS	Results are given in paper as log BCF. Values presented here are BCF Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	C14でラベルしたDCB	C14 labelled DCB
注釈		
方法	閉鎖系, 間欠流水式	closed system, intermittentflow-through
生物種	ブルーギル (淡水魚)	Lepomis macrochirus (Fish, fresh water)
暴露期間 (日)	14日間 (16℃)	14 day(s) at 16 degree C
曝露濃度	7.89 µg/l	7.89 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	89	BCF: 89
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察	組織からの排泄による半減期: <1日	Half-life for elimination from tissue was less than 1 day
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Barrows M, Petrocelli S, Macek K and Carroll J (1978). Bioconcentration and elimination of Selected Water Pollutants by Bluegill Sunfish (Lepomis macrochirus). Dyn., Exposure Hazard Assess. Toxic Chem., [Pap. Symp.], Meeting Date 1978, Haque, R (ed.) Ann Arbor Sci.: Ann Arbor, Mich., 379-392. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993. Veith, G. D., Macek, K. J., Petrocelli, S. R. and Carroll, J. (1980): An evaluation of Using Partition Coefficients and Water Solubility to Estimate Bioconcentration Factors for Organic Chemicals in Fish; Aquatic Toxicology, Proc. 3rd Annu. Symp. Aquat. Toxicol., ASTM Special Technical Publication 707. Eaton, J. G., Parrish, P. R. and Hendrics, A.C. (eds.), Am. Soc. Test. Mater., 116-129. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Barrows M, Petrocelli S, Macek K and Carroll J (1978). Bioconcentration and elimination of Selected Water Pollutants by Bluegill Sunfish (Lepomis macrochirus). Dyn., Exposure Hazard Assess. Toxic Chem., [Pap. Symp.], Meeting Date 1978, Haque, R (ed.) Ann Arbor Sci.: Ann Arbor, Mich., 379-392. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993. Veith, G. D., Macek, K. J., Petrocelli, S. R. and Carroll, J. (1980): An evaluation of Using Partition Coefficients and Water Solubility to Estimate Bioconcentration Factors for Organic Chemicals in Fish; Aquatic Toxicology, Proc. 3rd Annu. Symp. Aquat. Toxicol., ASTM Special Technical Publication 707. Eaton, J. G., Parrish, P. R. and Hendrics, A.C. (eds.), Am. Soc. Test. Mater., 116-129. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	国: 米国 ルイジアナ州	Country: Louisiana, USA
生物種	Micropogon undulatus (Fish, estuary, marine)	Micropogon undulatus (Fish, estuary, marine)
暴露期間 (日)		
曝露濃度	0.009 µg/l	0.009 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		

被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	8710	BCF: 8710
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	論文の結果はlog BCFで示されている。 ここで示されている値はBCFである。 出典 NICNAS	Results are given in paper as log BCF. Values presented here are BCF Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	ニジマス (魚, 河口域、淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
暴露期間 (日)	105日間 (15 °C)	105 day(s) at 15 degree C
曝露濃度	0.94 µg/l	0.94 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	560	BCF: 560
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論	これは、魚の完全固体の結果である。 BCFとオクタノール-水の分配係数により相関があった。 標準偏差 +/- 130.	This results is for whole fish. Good correlation was found between the BCF and the octanol-water partition coefficient. Standard deviation +/- 130.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	41	41
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	ニジマス (魚, 河口域、淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
暴露期間 (日)	119日間 (15°C)	119 day(s) at 15 degree C
曝露濃度	0.047 µg/l	0.047 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	270	BCF: 270
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		

結論	これは、魚の完全固体の結果である。 BCFとオクタノール-水の分配係数により相関があった。 標準偏差 +/- 21	This result is for whole fish. Good correlation was found between the BCF and the octanol-water partition coefficient. Standard deviation +/- 21.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	41	41
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼若期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	0.22	BCF: 0.22
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論	有機物含有率が高い底質中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 0.04	BCF for midge larvae in high-organic-content sediment. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 0.04
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼虫期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	Exposure period: 48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	0.23	BCF: 0.23
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が高い底質中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質中の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 0.07 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in high-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 0.07 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chrinomus decorus (羽虫), 幼虫期	Chrinomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48 時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	1.08	BCF: 1.08
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が低い底質中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質 10 g中に200 ml(濃度 1 ug/L)＝底質中の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 0.53 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in low-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 0.53 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chrinomus decorus (羽虫), 幼若期	Chrinomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	29	BCF: 29
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が高い底質の間隙水中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質 10 g中に200 ml(濃度 1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 5 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in interstitial water in high-organic-content sediment, under equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 5 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chrinomus decorus (羽虫), 幼若期	Chrinomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明

試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	29	BCF: 29
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が高い底質の間隙水中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質 10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 5 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in interstitial water in high-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 5 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼若期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	31	BCF: 31
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が高い底質上水の羽虫の幼虫のためのBCF 底質 10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質中の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 5 出典 NICNA	BCF for midge larvae in overlying water above high-organic-content sediment, under equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 5 Source: NICNA
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼若期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		

試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	31	BCF: 31
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が低い底質の間隙水中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 18 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in interstitial water in low-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 18 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	流水式ばく露システム	flowthrough exposure system
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼若期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	49	BCF: 49
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が高い底質上水中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 10 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in overlying water above high-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 10 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	Chironomus decorus (羽虫), 幼若期	Chironomus decorus (midge), larval stages
暴露期間 (日)	48時間	48 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	1071	BCF: 1071
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		

注釈	非平衡ばく露条件下における、有機物含有率が低い底質上水中の羽虫の幼虫のためのBCF 底質 10 g中に200 ml(濃度1 ug/L)＝底質の濃度0.02 ug/g 標準偏差 - 881 出典 NICNAS	BCF for midge larvae in overlying water above low-organic-content sediment, under non-equilibrium exposure conditions. 200 ml of 1 ug/L in 10 g of sediment = concentration in sediment, 0.02 ug/g. Standard deviation - 881 Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	42	42
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	Selenastrum capricornutum	Selenastrum capricornutum
暴露期間 (日)	24時間	24 hour(s)
曝露濃度	2 mg/l	2 mg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法	気-液クロマトグラフィーにより、藻類濃縮物中および培地上澄み液中の試験物質を測定	direct measurement of the compound in the algal concentrates and medium supernatants by gas-liquid chromatography
試験条件	同時に物質を投与	Compounds dosed simultaneously.
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)	10080	BCF: 10080
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	43	43
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	気-液クロマトグラフィーにより、藻類濃縮物中および培地上澄み液中の試験物質を測定	direct measurement of the compound in the algal concentrates and medium supernatants by gas-liquid chromatography
生物種	Selenastrum capricornutum	Selenastrum capricornutum
暴露期間 (日)	24時間	24 hour(s)
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)	14900	BCF: 14900
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	この結果は、記録17と19に示された結果の平均値である。 出典 NICNAS	This result is an average of the results presented in record 17 and 19. Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠	選択してください	選択してください
出典		
引用文献	43	43
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	気-液クロマトグラフィーにより、藻類濃縮物中および培地上澄み液中の試験物質を測定	direct measurement of the compound in the algal concentrates and medium supernatants by gas-liquid chromatography
生物種	Selenastrum capricornutum	Selenastrum capricornutum
暴露期間（日）	24時間	24 hour(s)
曝露濃度	10 mg/l	10 mg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量（%）		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)	19700	BCF: 19700
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	単一投与	compounds dosed singly
	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	43	43
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	スパイクした オンタリオ湖の底質	Spiked Lake Ontario sediments
生物種	oligochaete worms（主にTubifex tubifex と Limnodrilus hoffmeisteri）	oligochaete worms (mainly Tubifex tubifex and Limnodrilus hoffmeisteri)
暴露期間（日）	79日間（8°C）	79 day(s) at 8 degree C
曝露濃度	0.23 µg/l	0.23 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量（%）		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数(BCF)		
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論	虫検体の摂取フェーズ 79 d CF=40. (CF= 虫検体化乾重量中の濃度/底質中の濃度) 虫検体の浄化フェーズ 84 d 検出なし 虫検体の半減期 <5日 水濃度 0.0024 µg/l.	Worms' uptake phase, 79 d CF=40. where CF= concentration on worm dry weight/concentration in sediment. Worms' depuration phase, 84 d not detected. Half-life in worms less than 5 days. Water concentration 0.0024 µg/l.
注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	44	44
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	国: 米国 ルイジアナ州	Country: Louisiana, USA
生物種	Callinectes sapidus	Callinectes sapidus
暴露期間（日）		
曝露濃度	0.009 µg/l	0.009 µg/l
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		

試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	28840	BCF: 28840
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	論文中の結果はlog BCFで表示されている。ここではBCFで表示されている。 出典 NICNAS	Results are given in paper as log BCF. Values presented here are BCF Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	6	6
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法	BCF=0.76logP-0.23 を用いて見積もった。 (Ross and Welch 1979. EPA-560/11-80-010)	estimated using the equation BCF=0.76logP-0.23 (Ross and Welch 1979. EPA-560/11-80-010)
生物種	水生生物	aquatic species
暴露期間 (日)		
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	270	BCF: 270
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	BCFを見積もった 出典 NICNAS	BCF is estimated Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	30	30
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種	藻類バイオマスを遠心分離して、上澄みを採取	centrtfged and decanted algal biomass
暴露期間 (日)	12日間 (23°C)	Exposure period: 12 day(s) at 23 degree C
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液	3 mg/l	3 mg/l
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	6212	BCF: 6212
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		

注釈	出典 NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Davis EM, Moore JD, Frieze TR and Scherm M. (1983). Efficiency of waste stabilisation ponds in removing toxic organics. in Armstrong NE and Kudo A. Toxic Materials Methods for Control. Water Resources Symposium, Number Ten. The Centre for Research in Water Resources. The University of Texas, Austin, USA.	Davis EM, Moore JD, Frieze TR and Scherm M. (1983). Efficiency of waste stabilisation ponds in removing toxic organics. in Armstrong NE and Kudo A. Toxic Materials Methods for Control. Water Resources Symposium, Number Ten. The Centre for Research in Water Resources. The University of Texas, Austin, USA.
引用文献		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
生物種		
暴露期間 (日)		
曝露濃度		
排泄期間		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
分析方法		
試験条件		
被験物質溶液		
対照物質		
対照物質名及び分析方法	不明	不明
試験方式／実施		
結果		
死亡率／行動		
脂質含有量 (%)		
試験中の被験物質濃度		
濃縮係数 (BCF)	66	BCF: 66
取込／排泄定数		
排泄時間		
代謝物		
その他の観察		
結論		
注釈	log BCF = 0.85logP-0.70. を用いてBCFを算出した。 論文では4種の生物を扱っている(魚2種、ミジンコ、藻類) 出典 NICNAS	The BCF is calculated using the equation log BCF = 0.85logP-0.70. The paper dealt with four organisms (2 fish, daphnia and algae). Source: NICNAS
信頼性スコア	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

3-7 追加情報

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	下水汚泥を含む耕地の保存された土壌と対照プロットを試験した。(30年間汚泥を混合した後、5年に一度試験) 処理したプロットのレベルはわずかに上昇した。 出典 NICNAS	Archived plough layer soil samples sewage sludge amended & control plot were examined (every 5 yr after sludge application for 30 yr). Levels in treated plot were slightly elevated. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	45	45
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	排水安定化貯水池モデルにおける1,2-BCDの運命: 揮発による損失 21.8%, 分解: 71.1%, 沈殿: 3.8%, 水カラムの残余 0.9% 損失 2.4%. 出典 NICNAS	Fate of 1,2-dcb in model waste stabilisation ponds: volatile loss 21.8%, degradation 71.1%, sedimentation 3.8%, water column residuals 0.9% a,d loss in effluent 2.4%. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Davis EM, Moore JD, Frieze TR and Scherm M. (1983). Efficiency of waste stabilisation ponds in removing toxic organics. in Armstrong NE and Kudo A. Toxic Materials Methods for Control. Water Resources Symposium, Number Ten. The Centre for Research in Water Resources. The University of Texas, Austin, USA.	Davis EM, Moore JD, Frieze TR and Scherm M. (1983). Efficiency of waste stabilisation ponds in removing toxic organics. in Armstrong NE and Kudo A. Toxic Materials Methods for Control. Water Resources Symposium, Number Ten. The Centre for Research in Water Resources. The University of Texas, Austin, USA.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	様々な結果要約から得た地下水除去について: 初期濃度5 ug/l 蒸気による除去の後は検出されなかった 活性炭素吸着の後は検出されなかった 生物処理の後は検出されなかった 金属処理しても変化なし 出典 NICNAS	Removal from groundwater via various Summary results: initial concentration 5 ug/l, after steam stripping not detected, after activated carbon adsorption not detected, after biological treatment not detected, unchanged by metals treatment. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	46	46
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	未処理地下水をもちいた蒸気による除去 未処理水5 ug/l、<検出限界(つまり検出されなかった) 石灰処理水を用いたバックカラム蒸気除去 初期濃度 260, が <1まで下がる。 出典 NICNAS	Steam-tripping using raw groundwater. Raw water 5 ug/l, dropped to < detection limit (ie not detected). Packed column steam stripping using lime treated water: initial concentration 260, dropped to <1 in run 1 and 3 in run 2. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	46	46
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	本出典に環境情報と発生の要約が掲載されている。 出典 NICNAS	Summaried environmental information and occurance is given in this reference. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Government of Canada, Environment Canada, Health Canada. Canada Environment Protection Act. Priority Substances List Assessment Report. 1,2-Dichlorobenzene. Canada Communication Group, 1993.	Government of Canada, Environment Canada, Health Canada. Canada Environment Protection Act. Priority Substances List Assessment Report. 1,2-Dichlorobenzene. Canada Communication Group, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	この本には、環境運命、及び全媒体におけるばく露に関する多くの論文と報告書データの要約が掲載されている(分解、活動性、環境と生物から検出された濃度を含む)。 オリジナルデータは掲載されていない。 出典 NICNAS	This book summaries data from a number of papers and reports on environmental fate and exposure in all media; including degradation, mobility and concentrations detected in the environment and organisms. It doesn't present any original dat Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Howard P, Volume 1. Large Production and Priority Pollutants. Handbook of Environmental Fate and Exposure Data for Organic Chemicals. Lewis Publishers, 1989.	Howard P, Volume 1. Large Production and Priority Pollutants. Handbook of Environmental Fate and Exposure Data for Organic Chemicals. Lewis Publishers, 1989.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	完全混合活性汚泥において除去: 流入濃度=83 mg/l, 排水濃度<0.05 mg/l, 除去 >99.9%, 除去平均値 22% 除去による 78% 生分解による 出典 NICNAS	removal in complete-mix activated sludge: influent conc=83 mg/l, effluent conc=<0.05 mg/l, removal >99.9%, means of removal 22% due to stripping and 78% due to biodegradation. Source: NICNAS
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	39	39
備考		

項目名	和訳結果	原文
4-1 魚への急性毒性		
試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Fish, Acute Toxicity Test, OECDガイドライン 203, 4.04.84	Fish, Acute Toxicity Test, OECD Guideline 203, 4.04.84
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ゼブラフィッシュ(淡水魚)	Brachydanio rerio (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法	GC-FID	GC-FID
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	流水	流水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 5.2 mg/l	LC50: 5.2 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Roederer, G., Testung wassergefahrdender Stoffe als Grundlage fuer Wasserqualitaetsstandards. Fraunhofer-Institut fuer Umweltchemie und Oekotoxikologie, 5948 Schmallingenberg, UFOPLAN-Nr. 116 08 071/01, 79 p. (1990)	Roederer, G., Testung wassergefahrdender Stoffe als Grundlage fuer Wasserqualitaetsstandards. Fraunhofer-Institut fuer Umweltchemie und Oekotoxikologie, 5948 Schmallingenberg, UFOPLAN-Nr. 116 08 071/01, 79 p. (1990)
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	OECDガイドライン 204: Fish, Prolonged Toxicity Test: 14-day Study (4 April 1984)	OECD 204: Fish, Prolonged Toxicity Test: 14-day Study (4 April 1984)
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ゼブラフィッシュ(淡水魚)	Brachydanio rerio (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法	GC-FID	GC-FID
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	14日間	14 days
試験方式	流水	流水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	NOEC: 0.37 mg/l	NOEC: 0.37 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい

キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Roederer, G., Testung wassergefahrdender Stoffe als Grundlage fuer Wasserqualitaetsstandards. Fraunhofer-Institut fuer Umweltchemie und Oekotoxikologie, 5948 Schmallenberg, UFOPLAN-Nr. 116 08 071/01, 79 p. (1990)	Roederer, G., Testung wassergefahrdender Stoffe als Grundlage fuer Wasserqualitaetsstandards. Fraunhofer-Institut fuer Umweltchemie und Oekotoxikologie, 5948 Schmallenberg, UFOPLAN-Nr. 116 08 071/01, 79 p. (1990)
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	流水式希釈器 試験にはスペリオル湖水が用いられた。	flow through diluter Lake Superior water was used in test.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ニジマス (魚, 河口域, 淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	流水	流水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 1.61 mg/l 96 h 50% 影響濃度 (異常な遊泳行動), EC50 = 1.55 mg/L	LC50: 1.61 mg/l 96 h 50% effect concentration (abnormal swimming behaviour), EC50 = 1.55 mg/L
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Ahmad N, Benoit D, Brooke L, Call D, Carlson A, DeFoe D, Hout J, Moriarity A, Richter J, Shubat P, Veith G and Wallbridge C. (1984). Aquatic toxicity tests to characterise the hazard of volatile organic chemicals in water. Toxicity data summary – parts 1 and 2. US EPA report number: EPA-600/3-84-009. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.	Ahmad N, Benoit D, Brooke L, Call D, Carlson A, DeFoe D, Hout J, Moriarity A, Richter J, Shubat P, Veith G and Wallbridge C. (1984). Aquatic toxicity tests to characterise the hazard of volatile organic chemicals in water. Toxicity data summary – parts 1 and 2. US EPA report number: EPA-600/3-84-009. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	proportional diluter system (Mount and Brungs 1967)	proportional diluter system (Mount and Brungs 1967)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ニジマス (魚, 河口域, 淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	22時間	22 hours
試験方式	流水	流水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		

実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果	ばく露期間は144時間まで延長され、LC50が測定された。以下詳細は英文参照	The exposure period was extended to 144 hours and the LC50 was monitored: at 48h the LC50 reached 1.58 remaining constant throughout the 72h and 96h timepoints; LC50 was maximal at the 144 h timepoint
結論		
結果 (96h-LC50)	1.65 mg/l	LC50: 1.65 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ニジマス (魚、河口域、淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	流水	流水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	実測濃度	measured concentration
	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 1.58 mg/l	LC50: 1.58 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	OECDガイドライン203 "Fish, Acute Toxicity Test"	OECD Guide-line 203 "Fish, Acute Toxicity Test"
GLP	不明	不明
試験を行った年	1982	1982
魚種、系統、供給者	メダカ (淡水魚)	Oryzias latipes (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	半止水	半止水

換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	論文では、結果をLog IC50と記載している。 ここでは LC50。 出典: NICNAS	Results are given in paper as log LC50. Values presented here are LC50. Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 67.6 mg/l	LC50: 67.6 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	47	47
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975.	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975.
GLP	不明	不明
試験を行った年	1975	1975
魚種、系統、供給者	シーブスヘッドミノー (魚, 河口域, 海洋)	Cyprinodon variegatus (Fish, estuary, marine)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	9.3 mg/l	LC50: 9.3 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	48	48
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975.	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975.
GLP	不明	不明
試験を行った年	1975	1975
魚種、系統、供給者	シーブスヘッドミノー (魚, 河口域, 海洋)	Cyprinodon variegatus (Fish, estuary, marine)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源	全ての希釈水は、自然海水をろ過したもの。(採取場の塩分)	All dilution water was filtered, natural seawater of ambient salinity.

希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果	LC50 統計的に計算した結果	LC50 results calculated statistically
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	NOEC: 9.7 mg/l LC50: 9.7 mg/l	NOEC: 9.7 mg/l LC50: 9.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	48	48
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	シーブスヘッドミノー (魚、河口域、海洋)	Cyprinodon variegatus (Fish, estuary, marine)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	通気なし 出典: Bayer AG Leverkusen	without aeration Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 9.7 mg/l	LC50: 9.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ブルーギル (淡水魚)	Lepomis macrochirus (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		

じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	22 +/- 1 °C 出典: Bayer AG Leverkusen	22 +/- 1 Grad C Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	5.6 mg/l	LC50: 5.6 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Bestimmung der Wirkung von Wasserinhaltsstoffen auf Fische. DEV. L 15	Bestimmung der Wirkung von Wasserinhaltsstoffen auf Fische. DEV. L 15
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	Leuciscus idus (淡水魚)	Leuciscus idus (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	なし	なし
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	29 mg/l	LC50: 29 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	その他	other
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー (淡水魚)	Pimephales promelas (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		

試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 57 mg/l 計算値	LC50: 57 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	49	49
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	毒性試験方法の委員会が提案した方法	methods proposed by The committee on Methods for Toxicity Tests
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー (淡水魚)	Pimephales promelas (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果	試験濃度では目視で溶解していないことがわかる。化学物質は、結晶で添加したため、沈んで溶解しないまま残る。96時間の間に、死亡がみられた。	visibly insoluble at the ranges tested – chemical administered in crystal form which sank o the bottom and remained undissolved. Deaths were observed throught the 96 h period.
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 57 mg/l	LC50: 57 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	50	50
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー（淡水魚）	Pimephales promelas (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	22 +/- 1°C; 設定濃度	22 +/- 1 Grad C; nominal concentration
	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 57 mg/l	LC50: 57 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ニジマス（魚、河口域、淡水）	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	止水	止水
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果	閉鎖系システム, (15°C)	closed system, 15 degree C
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 2.3 mg/l	LC50: 2.3 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	IRSA 1973	IRSA 1973
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ゼブラフィッシュ（淡水魚）	Brachydanio rerio (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 6.8 mg/l	LC50: 6.8 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975
GLP	不明	不明
試験を行った年	1975	1975
魚種、系統、供給者	ブルーギル（淡水魚）	Lepomis macrochirus (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 6.3 mg/l 計算値	LC50: 6.3 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	51	51
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ブルーギル（淡水魚）	Lepomis macrochirus (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 27 mg/l 計算値	LC50: 27 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	52	52
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	Menidia beryllina（魚、河口域、海洋）	Menidia beryllina (Fish, estuary, marine)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液（及び保存溶液）とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 7.3 mg/l 計算値	LC50: 7.3 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	52	52
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	日本工業規格 (JIS K 0102-1986-71) "Testing methods for industrial waste water"	Japanese Industrial Standard (JIS K 0102-1986-71) "Testing methods for industrial waste water"
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	メダカ (淡水魚)	Oryzias latipes (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48	48
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果	水への溶解度 < 10 mg/l	water solubility < 10 mg/l
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 10 mg/l	LC50: 10 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center	Biodegradation and Bioaccumulation Data of Existing Chemicals Based on the CSCL Japan, Compiled under the Supervision of Chemical Products Safety Division, Basic Industries Bureau MITI, Ed. by CITI, October 1992. Published by Japan Chemical Industry Ecology-Toxicology & Information Center
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ファットヘッドミノー (淡水魚)	Pimephales promelas (Fish, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液 (及び保存溶液) とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果 (96h-LC50)	LC50: 5.8 mg/l	LC50: 5.8 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		

出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	IRSA 1973	IRSA 1973
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	ニジマス (魚、河口域、淡水)	Salmo gairdneri (Fish, estuary, fresh water)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
試験用水量あたりの魚体重		
参照物質での感受性試験結果		
じゅん化条件		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
換水率/換水頻度		
連数、1連当たりの魚数		
影響が観察された少なくとも1濃度区及び対照区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
生物学的影響観察		
累積死亡率の表		
統計的結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における死亡率		
異常反応		
その他の観察結果		
結論		
結果(96h-LC50)	LC50: 2.3 mg/l	LC50: 2.3 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

4-2 水生無脊椎動物への急性毒性(例えばミジンコ)

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Artemia sp. (甲殻類)	Artemia sp. (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50: 102 mmol/l	EC50: 102 mmol/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	53	53
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	US EPAの手法(1993)にもとづいた標準方法 (Warne 1996)	Standard Methods (Warne 1996) based on US EPA methods 1993.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Ceriodaphnia sp. (甲殻類)	Ceriodaphnia sp. (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	止水	止水
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	標準偏差幅: 3.0-6.7	Standard deviation range 3.0-6.7
	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:4.5 µmol/l	EC50: 4.5 µmol/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	54	54
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	AFNOR 1974	AFNOR 1974
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント	遊泳阻害、IC50として報告	Endpoint was immobilization, reported as IC50.
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	IC50 : 0.78 mg/l	IC50 : 0.78 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	魚、大型無脊椎動物、両生類を用いた急性毒性試験の方法 US EPA 1975.	Methods for acute toxicity tests with fish, macroinvertebrates, and amphibians. US EPA 1975.
GLP	不明	不明
試験を行った年	1975	1975
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		

試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	LC50 統計的に計算した結果 出典: NICNAS	LC50 results calculated statistically Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	NOEC: 0.36 mg/l EC50: 2.4 mg/l 計算値	NOEC: 0.36 mg/l EC50: 2.4 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	55	55
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	オオミジンコを用いた毒性試験を拡張した仮手法 1984年1月1日現在 (Federal Environmental Agency)	Provisional Procedure extended toxicology test with Daphnia magna as of 1 January 1984 (Federal Environmental Agency)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	半止水	半止水
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC0: 1 mg/l EC50: 1.7 mg/l	EC0: 1 mg/l EC50: 1.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	56	56
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	US EPAの手法 1993 に基づいた標準手法 (Warne 1996)	Standard Methods (Warne 1996) based on US EPA methods 1993.
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		

希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:26 mg/l	EC50: 26 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	54	54
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Verlaengerter Toxizitaetstest bei Daphnia magna (Bestimmung der NOEC fuer Reproduktionsrate, Mortalitaet und den Zeitpunkt des ersten Auftretens von Nachkommen, 21 d) Stand: 01.01.1984	Verlaengerter Toxizitaetstest bei Daphnia magna (Bestimmung der NOEC fuer Reproduktionsrate, Mortalitaet und den Zeitpunkt des ersten Auftretens von Nachkommen, 21 d) Stand: 01.01.1984
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	21日間	21 days
試験方式	半止水	半止水
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	半止水; 閉鎖系容器; 設定濃度	semi-static; closed vessels; nominal concentration
	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	NOEC: 0.63 mg/l	NOEC: 0.63 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	OECD提案(1979)の短期毒性試験と類似	analogy of OECD proposed (1979) short-term toxicity tests
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		

暴露期間		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50: 0.74 mg/l LC50 = 2.2 mg/l	EC50: 0.74 mg/l LC50 = 2.2 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	30	30
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:2.4 mg/l 計算値	EC50: 2.4 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	55	55
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		

実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:16 mg/l	EC50: 16 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	53	53
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1		
濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	論文では、結果をLog IC50 (ie log IC50=1.41)と記載している。 ここでは IC50。 出典: NICNAS	In the paper the results are given as Log IC50 (ie log IC50=1.41). The values here are IC50 Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:25.7 mg/l	EC50: 25.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	57	57
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	タイプ: QSAR	Type: QSAR
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	オオミジンコ (甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1		
濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	論文では、結果をLog IC50 (ie log IC50=0.51)と記載されている。 ここでは IC50。 出典: NICNAS	The results are presented as log IC 50 in the paper (ie log IC50 = 1.51). They are reported here as IC50. Source: NICNAS

対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:32.3 mg/l 計算値	EC50: 32.3 mg/l calculated
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	57	57
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Mysidopsis bahia (甲殻類)	Mysidopsis bahia (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	LC50 : - 1.97	LC50 : - 1.97
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Palaemonetes pugio (甲殻類)	Palaemonetes pugio (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	22 +/- 1 °C, 設定濃度	22 +/- 1 Grad C, nominal concentration
	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	LC50 : 10 mg/l	LC50 : 10 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		

出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	毒性試験方法の委員が提案した方法	methods proposed by The committee on Methods for Toxicity Tests
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Palaemonetes pugio (甲殻類)	Palaemonetes pugio (Crustacea)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	止水	止水
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	試験に用いた濃度では、目視で溶解しないことがわかる。 化学物質は結晶なので、沈んで溶解しないまま残る。 96時間中に、死亡がみられた。 出典: NICNAS	visibly insoluble at the ranges tested – chemical administered in crystal form which sank o the bottom and remained undissolved. Deaths were observed throughout the 96 h period. Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50: 9.4 mg/l	EC50: 9.4 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	50	50
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	その他の水生軟体動物: Mercenaria mercenaria (アサリ) の卵	other aquatic mollusc: Mercenaria mercenaria (hard clam) eggs
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	論文中的結果表示: TLm in ppm. 実験結果から補間して推算した値。 出典: NICNAS	Results in paper are TLm in ppm. They are estimated by interpolation from experimental results. Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50 > 100 mg/l	EC50 > 100 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	58	58
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	その他の水生軟体動物: Mercenaria mercenaria (アサリ) の幼生	other aquatic mollusc: Mercenaria mercenaria (hard clam) larvae
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	12日間	12 days
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	論文中の結果表示: TLm in ppm. 10日間幼生を物質へばく露した実験結果から補間して見積もった値。 出典: NICNAS	Results in paper are TLm in ppm. They are estimated by interpolation from experimental results of exposure of larvae to concentrations for 10 days. Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50> 100 mg/l	EC50 > 100 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	58	58
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Tanytarsus dissimilis (羽虫)	Tanytarsus dissimilis (Midge)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	24時間	24 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50: 19.9 mg/l	EC50: 19.9 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Tanytarsus dissimilis (羽虫)	Tanytarsus dissimilis (Midge)
エンドポイント		
試験物質の分析の有無	あり	あり
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験生物の起源、前処理、繁殖方法		
試験開始時の時間齢		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数、1連当たりの試験生物数		
対照区と影響が観察された少なくとも1濃度区における水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
遊泳阻害数		
累積遊泳阻害数の表		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区における反応は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(48h-EC50)	EC50:12 mg/l	EC50: 12 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.	Call DJ, Brooke LT, Ahmad N and Richter JE. (1984). Toxicity and metabolism studies with EPA priority pollutants and related chemicals in freshwater organisms. US EPA report number: EPA-600/3-83-095. Office of Research and Development, US Environmental Protection Agency.
引用文献		
備考		

4-3 水生植物への毒性(例えば藻類)

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	analogy of OECD proposed (1979) 短期毒性試験	analogy of OECD proposed (1979) short-term toxicity tests
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Scenedesmus pannonicus (藻類)	Scenedesmus pannonicus (Algae)
エンドポイント	生長阻害	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果(ErC50)	EC50:17 mg/l	EC50: 17 mg/l
結果(NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	30	30
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Scenedesmus-Zellvermehrungs-Hemmtest, DIN 38412 Teil 9, modif. Bestimmung der Hemmwirkung von Wassernhaltsstoffen auf Gruenalgen	Scenedesmus-Zellvermehrungs-Hemmtest, DIN 38412 Teil 9, modif. Bestimmung der Hemmwirkung von Wassernhaltsstoffen auf Gruenalgen
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Scenedesmus subspicatus (藻類)	Scenedesmus subspicatus (Algae)
エンドポイント	その他	その他
毒性値算出に用いたデータの種類	エンドポイント: バイオマス	Endpoint: biomass
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EBC10: 3.0 mg/l EBC50: 14 mg/l 生長速度: EuC10: 7.8 mg/l EuC50: 13.5 mg/l	EBC10: 3.0 mg/l EBC50: 14 mg/l Growth rate: EuC10: 7.8 mg/l EuC50: 13.5 mg/l
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	DIN 38 412, part 9 (ドラフト標準)	DIN 38 412, part 9 (draft standard)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Scenedesmus subspicatus (藻類)	Scenedesmus subspicatus (Algae)
エンドポイント	その他	その他
毒性値算出に用いたデータの種類	エンドポイント: バイオマス	Endpoint: biomass
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC10: 3 mg/l EC50: 14 mg/l	EC10: 3 mg/l EC50: 14 mg/l
結果 (NOEC)		

信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	59	59
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	DIN 38 412, part 9 (ドラフト標準)	DIN 38 412, part 9 (draft standard)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Scenedesmus subspicatus (藻類)	Scenedesmus subspicatus (Algae)
エンドポイント	生長阻害	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	48時間	48 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC10: 7.8 mg/l EC50: 13.5 mg/l	EC10: 7.8 mg/l EC50: 13.5 mg/l
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	59	59
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Galassi and Vighi (1981) は US EPA Algal assay procedure – bottle test 1971を修正した。	Galassi and Vighi (1981) modified version of US EPA Algal assay procedure – bottle test 1971
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Selenastrum capricornutum (藻類)	Selenastrum capricornutum (Algae)
エンドポイント	生長阻害	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC50: 2.2 mg/l	EC50: 2.2 mg/l
結果 (NOEC)		

信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Selenastrum capricornutum (藻類)	Selenastrum capricornutum (Algae)
エンドポイント	生長阻害	生長阻害
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	ErC50 : - 98 EC50 chlorophyll i-p91.6ent : -91.6	ErC50 : - 98 EC50 chlorophyll i-p91.6ent : -91.6
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Selenastrum capricornutum (藻類)	Selenastrum capricornutum (Algae)
エンドポイント	その他	その他
毒性値算出に用いたデータの種類	エンドポイント: 光合成阻害	Endpoint: photosynthesis inhibition
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	3時間	3 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明

結論		
結果 (ErC50)	EC50: 10 mg/l	EC50: 10 mg/l
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Selenastrum capricornutum (藻類)	Selenastrum capricornutum (Algae)
エンドポイント	選択して下さい	選択して下さい
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	基準: クロロフィルa 含有量への影響 出典: Bayer AG Leverkusen	Criterion: effect on Chlorophyll a content Source: Bayer AG Leverkusen
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC50: 91.6 mg/l	EC50: 91.6 mg/l
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Selenastrum capricornutum (藻類)	Selenastrum capricornutum (Algae)
エンドポイント	選択して下さい	選択して下さい
毒性値算出に用いたデータの種類		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明

結論		
結果 (ErC50)	EC50 : - 76.1 EC50 : - 71.1	EC50 : - 76.1 EC50 : - 71.1
結果 (NOEC)	NOEC < - 10	NOEC < - 10
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Skeletonema costatum (藻類)	Skeletonema costatum (Algae)
エンドポイント	選択して下さい	選択して下さい
毒性値算出に用いたデータの種類の		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		
その他観察結果		
注釈	基準: クロロフィルa 含有量への影響 出典: Bayer AG Leverkusen	Criterion: effect on Chlorophyll a content Source: Bayer AG Leverkusen
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC50: 44.2 mg/l	EC50: 44.2 mg/l
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種、系統、供給者	Skeletonema costatum (藻類)	Skeletonema costatum (Algae)
エンドポイント	選択して下さい	選択して下さい
毒性値算出に用いたデータの種類の		
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験施設での藻類継代培養方法		
藻類の前培養の方法及び状況		
参照物質での感受性試験結果		
希釈水源		
培地の化学的性質		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
暴露容器		
暴露期間	96時間	96 hours
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
連数		
各濃度区の少なくとも1連における試験		
開始時と終了時の水質		
試験温度範囲		
照明の状態		
平均測定濃度の計算方法		
結果		
設定濃度		
実測濃度		
細胞密度		
生長阻害率(%)		
各濃度区における生長曲線		

その他観察結果		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
対照区での生長は妥当か	不明	不明
対照区における反応の妥当性の考察	不明	不明
結論		
結果 (ErC50)	EC50 chlorophyll i-p44.2ent : -44.2	EC50 chlorophyll i-p44.2ent : -44.2
結果 (NOEC)		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.	US EPA (1978). In-Depth Studies on Health and Environmental Impacts of Selected Water Pollutants. Contract No. 68-01-4646, US EPA, Duluth, MN.
引用文献		
備考		

4-4 微生物への毒性(例えばバクテリア)

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Microtox試験	Microtox test
試験の種類	水生	水生
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	Photobacterium phosphoreum (細菌)	Photobacterium phosphoreum (Bacteria)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	15分間	15 minutes
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
結果 (EC50等)	EC50: 3.1 mg/l 5 分 EC50 : 2.7 mg/l	EC50: 3.1 mg/l 5 min EC50 : 2.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Ribo J M and Kaiser K L E (1983) Effects of Selected Chemicals to Photoluminescent bacteria and their Correlations with acute and sublethal effects on other organisms. Chemosphere 12:1421-1442. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Ribo J M and Kaiser K L E (1983) Effects of Selected Chemicals to Photoluminescent bacteria and their Correlations with acute and sublethal effects on other organisms. Chemosphere 12:1421-1442. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Microtox試験	Microtox test
試験の種類	水生	水生
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	Photobacterium phosphoreum (細菌)	Photobacterium phosphoreum (Bacteria)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	30分間	30 minutes
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
結果 (EC50等)	EC50: 4 mg/l	EC50: 4 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Kaiser K L E and Ribo J M (1985). QSAR of Toxicity of Chlorinated Aromatic Compounds. Pharmacochem. Libr., 8 (QSAR Toxicol. Xenobiochem..) pp 27-38. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Kaiser K L E and Ribo J M (1985). QSAR of Toxicity of Chlorinated Aromatic Compounds. Pharmacochem. Libr., 8 (QSAR Toxicol. Xenobiochem..) pp 27-38. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990), Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Determination of the biologically harmful effect of toxic waste water to bacteria. DEV, L 8 (ドイツ標準方法) (1968) を修正したもの	Determination of the biologically harmful effect of toxic waste water to bacteria. DEV, L 8 (German Standard Methods) (1968) modified
試験の種類	水生	水生
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年	1973	1973
生物種	Pseudomonas fluorescens (細菌)	Pseudomonas fluorescens (Bacteria)
試験物質の分析の有無	なし	なし
試験物質の分析方法		
暴露期間	24時間	24 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	直接重量	direct weight
	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
結論		
結果 (EC50等)	EC0: 250 mg/l	EC0: 250 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data	Bayer AG data

引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	細胞繁殖阻害試験 Grenzwerte der Schädigung wassergefährdender Stoffe gegen Bakterien (<i>Pseudomonas putida</i>) und Grünalgen (<i>Scenedesmus quadricauda</i>) im Zellvermehrungshemmtest. Bringmann, G., Kuehn, R.: Z. f. Wasser- und Abwasser-Forschung 10 (3/4), 87-98 (1977)	cell multiplication inhibition test Grenzwerte der Schädigung wassergefährdender Stoffe gegen Bakterien (<i>Pseudomonas putida</i>) und Grünalgen (<i>Scenedesmus quadricauda</i>) im Zellvermehrungshemmtest. Bringmann, G., Kuehn, R.: Z. f. Wasser- und Abwasser-Forschung 10 (3/4), 87-98 (1977)
試験の種類	水生	水生
GLP	いいえ	いいえ
試験を行った年		
生物種	<i>Pseudomonas putida</i> (細菌)	<i>Pseudomonas putida</i> (Bacteria)
試験物質の分析の有無	なし	なし
試験物質の分析方法		
暴露期間	16時間	16 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	TT = 毒性閾値 出典: Bayer AG Leverkusen	TT = Toxicity Threshold Source: Bayer AG Leverkusen
結論		
結果(EC50等)	TT : 15 mg/l	TT : 15 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	BUA Report No. 53, VCH, September 1990	BUA Report No. 53, VCH, September 1990
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	本論文の著者	s. Authors of this publication
試験の種類	水生	水生
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他の細菌: 好気性の従属栄養培養	other bacteria: Aerobic heterotrophic culture
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	15時間	15 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	ISO 8192と比較すると、呼吸阻害、より長い培養期間 出典: Bayer AG Leverkusen	Inhibition of respiration, prolonged incubation compared to ISO 8192
結論		
結果(EC50等)	IC50 : 910 mg/l	IC50 : 910 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		60
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	硝化阻害, ISO/DIS 9509と同様 タイプ: N-酸化阻害	Inhibition of nitrification, similar to ISO/DIS 9509 Type: Inhibition of N-oxidation
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他の細菌: 亜硝酸菌	other bacteria: Nitrosomonas
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	24時間	24 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
結論		
結果(EC50等)	IC50 : 47 mg/l	IC50 : 47 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		60
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Microtox タイプ: 阻害	Microtox Type: Inhibition of bioluminescence
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	<i>Photobacterium phosphoreum</i> (細菌)	<i>Photobacterium phosphoreum</i> (Bacteria)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	5分間	5 minutes
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
結論		

結果(EC50等)	IC50 : 2.7 mg/l	IC50 : 2.7 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	60	60
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Owen, W.F., Bioassay for Monitoring Biochemical Methane Potential and Anaerobic Toxicity. Water Res. 13, 485 (1979) タイプ: ガス生産の阻害	Owen, W.F., Bioassay for Monitoring Biochemical Methane Potential and Anaerobic Toxicity. Water Res. 13, 485 (1979) Type: Inhibition of gas production
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他の細菌: メタン生成細菌	other bacteria: Methanogenic bacteria
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	48時間	48 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
結論		
結果(EC50等)	IC50 : 150 mg/l	IC50 : 150 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	60	60
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	Microtox系 タイプ: Microtox系	Microtox system Type: Microtox system
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	その他の細菌: lyophilised preparation (発光海洋細菌)	other bacteria: lyophilised preparation of a luminous marine bacterium
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	5分間	5 minutes
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
結果(EC50等)	EC50: 10.25 mg/l	EC50: 10.25 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	61	61
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	OECD TG, Activated sludge, respiration inhibition test, draft 1.8.83, no 210.	OECD TG, Activated sludge, respiration inhibition test, draft 1.8.83, no 210.
試験の種類	土壌	土壌
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	活性汚泥	activated sludge
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	3時間	3 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
結果(EC50等)	EC50: 100 mg/l	EC50: 100 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	62	62
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	Bacillus sp. (細菌)	Bacillus sp. (Bacteria)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	30分間	30 minutes
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
結果(EC50等)	EC50: 169 mg/l	EC50: 169 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい

キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Lui D and Thomson K (1984). Quantitative toxicity assessment of water insoluble chemicals. In Lui and Dukta (eds), Drug and Chemical Toxicity, vol 1, Toxicity screening procedures using bacterial systems. Marcel Dekker. pp139-145.	Lui D and Thomson K (1984). Quantitative toxicity assessment of water insoluble chemicals. In Lui and Dukta (eds), Drug and Chemical Toxicity, vol 1, Toxicity screening procedures using bacterial systems. Marcel Dekker. pp139-145.
引用文献		
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	著者が開発した新しい方法	new method developed by authors
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	Tetrahymena pyriformis (原生動物)	Tetrahymena pyriformis (Protozoa)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	24時間	24 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	この論文には、新しいスクリーニング試験方法の検証結果の発表がある。 出典: NICNAS	This paper presents the results of the validation of a new screening test method. Source: NICNAS
結論		
結果(EC50等)	EC50: 51 mg/l	EC50: 51 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	63	63
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	著者が開発した新しい方法	new method developed by authors
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
生物種	Tetrahymena pyriformis (原生動物)	Tetrahymena pyriformis (Protozoa)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
暴露期間	24時間	24 hours
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	この論文には、新しいスクリーニング試験方法の検証結果の発表がある。 出典: NICNAS	This paper presents the results of the validation of a new screening test method. Source: NICNAS
結論		
結果(EC50等)	EC50: 350 µmol/l	EC50: 350 µmol/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	63	63
備考		

4-5 水生生物への慢性毒性

A. 魚への慢性毒性

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	QSAR	QSAR
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	死亡率	mortality
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
餌の種類、給餌量、給餌頻度		
孵化後の移動までの時間		
最初の給餌までの時間		
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理		
胚と仔魚の取扱方法		
暴露チャンバーの材質など		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
試験溶液の調製方法		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
暴露期間	16日間	16 days
その他		
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
結果		
用量設定試験の実施の有無	選択して下さい	選択して下さい
用量設定試験結果		
設定濃度		
実測濃度		

影響(対照区含む)		
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡／生存データ		
ふ化の開始時間及び終了時間		
各日のふ化した仔魚数		
生存個体の体長／体重		
奇形の発症した仔魚数		
異常行動を示す魚数		
その他の影響		
注釈	論文では、結果をLog IC50 (ie log IC50=1.01)と記載している。 ここでは IC50。 出典: NICNAS	In the paper the results are given as Log IC50 (ie log IC50=1.01). The values here are IC50 Source: NICNAS
結論		
EC50	EC50: 10.2 mg/l 計算値	EC50: 10.2 mg/l calculated
NOEC、LOEC		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	57	57
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	生殖力	fertility
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
餌の種類、給餌量、給餌頻度		
孵化後の移動までの時間		
最初の給餌までの時間		
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理		
胚と仔魚の取扱方法		
暴露チャンバーの材質など		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
試験溶液の調製方法		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
暴露期間	14日間	14 days
その他		
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
結果		
用量設定試験の実施の有無	選択して下さい	選択して下さい
用量設定試験結果		
設定濃度		
実測濃度		
影響(対照区含む)		
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡／生存データ		
ふ化の開始時間及び終了時間		
各日のふ化した仔魚数		
生存個体の体長／体重		
奇形の発症した仔魚数		
異常行動を示す魚数		
その他の影響		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
EC50	EC50: 0.55 mg/l	EC50: 0.55 mg/l
NOEC、LOEC		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	20	20
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	オオミジンコを用いて毒性試験まで拡張した手順(仮) (1984年1月1日現在) (Federal Environmental Agency)	Provisional Procedure extended toxicology test with Daphnia magna as of 1 January 1984 (Federal Environmental Agency)
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	繁殖と死亡率	reproduction and mortality
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
餌の種類、給餌量、給餌頻度		
孵化後の移動までの時間		
最初の給餌までの時間		
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理		
胚と仔魚の取扱方法		
暴露チャンバーの材質など		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		

溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
試験溶液の調製方法		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
暴露期間	21日間	21 days
その他		
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
結果		
用量設定試験の実施の有無	選択して下さい	選択して下さい
用量設定試験結果		
設定濃度		
実測濃度		
影響(対照区含む)		
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡／生存データ		
ふ化の開始時間及び終了時間		
各日のふ化した仔魚数		
生存個体の体長／体重		
奇形の発症した仔魚数		
異常行動を示す魚数		
その他の影響		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
結論		
EC50	EC50: 3.5 mg/l	EC50: 3.5 mg/l
NOEC、LOEC	NOEC: 0.63 mg/l	NOEC: 0.63 mg/l
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		56
備考		56

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	QSAR	QSAR
GLP	不明	不明
試験を行った年		
魚種、系統、供給者	オオミジンコ(甲殻類)	Daphnia magna (Crustacea)
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	繁殖率	reproduction rate
結果の統計解析手法		
試験条件		
試験魚の月齢、体長、体重		
餌の種類、給餌量、給餌頻度		
孵化後の移動までの時間		
最初の給餌までの時間		
試験開始2週間前までの疾病対策のための処理		
胚と仔魚の取扱方法		
暴露チャンバーの材質など		
試験溶液(及び保存溶液)とその調製法		
試験物質の溶液中での安定性		
溶解助剤/溶剤の種類とその濃度		
試験溶液の調製方法		
希釈水源		
希釈水の化学的性質		
暴露期間	16日間	16 days
その他		
測定項目、測定に伴うサンプル採取時期、サンプリング間隔、手順		
試験方式	選択して下さい	選択して下さい
結果		
用量設定試験の実施の有無	選択して下さい	選択して下さい
用量設定試験結果		
設定濃度		
実測濃度		
影響(対照区含む)		
胚、仔魚、稚魚の各成長段階及び全体における死亡／生存データ		
ふ化の開始時間及び終了時間		
各日のふ化した仔魚数		
各日のふ化した仔魚数		
生存個体の体長／体重		
奇形の発症した仔魚数		
異常行動を示す魚数		
その他の影響		
注釈	論文では、結果をLog IC50 (ie log IC50=0.51)と記載されている。ここでは IC50。 出典: NICNAS	In the paper the results are given as Log IC50 (ie log IC50=0.51). The values here are IC50 Source: NICNAS
結論		
EC50	EC50: 3.2 mg/l 計算値	EC50: 3.2 mg/l calculated
NOEC、LOEC		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献		57
備考		57

B. 水生無脊椎動物への慢性毒性

4-6 陸生生物への毒性

A. 陸生植物への毒性

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	その他の陸生植物: ほうれん草	other terrestrial plant: Spinach
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	Hill反応阻害	inhibition of the Hill reaction
暴露期間		
試験条件		
結果		
毒性値		
注釈	有毒の疎水性が増加し、水への溶解度が下がるにつれて阻害範囲が増加した。	The extent of inhibition increased as hydrophobic nature of toxicant increased and water solubility decreased.
	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Yukimoto M (1983). Effect of Organophosphorus Insecticides on Hill Reaction. J. Pesticide Sci, 8, pp 63-68. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990). Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Yukimoto M (1983). Effect of Organophosphorus Insecticides on Hill Reaction. J. Pesticide Sci, 8, pp 63-68. as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990). Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

B. 土壌生物への毒性

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	土壌マイクロコスム	soil microcosms
	タイプ: 粘土ロームの農業用土壌	Type: clay loamc
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	その他、土壌微生物: 細菌と真菌類	other soil dwelling microorganisms: bacteria and fungi
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	生育能力	viability
暴露期間	56日間	56 days
試験条件	(英文参照)	Method: Microcosms consisted of 70g (dw) of sieved, dried agricultural loam soil in 500 ml flasks. Moisture content was adjusted to 80% of field capacity, soil was mixed and then allowed to acclimatised for 7 days at room temperature. A single dose of 1,2-DCB was added to each microcosm. Concentrations used were 65, 130, 325, 1300 and 3250 ug/L. 3 microcosms for each treatment were used. Fungal hyphal length was determined by vital staining with fluorescein diacetate. This was determined at 7, 14 and 49 days after the addition of 1,2-DCB. Viable and nonviable bacteria counts were determined with a BacLight viability kit at 7, 14 and 49 days. Bacterial culture counts and identification was done on day 56 after 1,2-DCB addition .
結果		
毒性値	濃度65, 130, 325, 1300, 3250 ug/Lの1,2-DCBで検体を処置したところ、全検体の体長が短くなった。 即座に影響し、回復は少なかった。 1,2-DCBの濃度が上昇すると、全細菌数が減少した。3250 ug/Lを除いて顕著ではなかった。 bacterial culturabilityの分析と確認により、1,2-DCB濃度を更に上げてもコロニー数や発生率に影響を及ぼさないことが示された。 濃度65,130, 325 ug/Lの1,2-DCBにおいて、pseudomonads数が著しく多かった。(対照よりも2桁多かった) 細菌のtaxa compositionにより、濃度325 ug/L以上の1,2-DCBへばく露した土壌中のpseudomonads とBacillusの割合が増加したと、ArthrobacterとMicrococcusの数が減少したことが示された。	Fungal hyphal length declined in response to all applied 1,2-DCB concentrations (65, 130, 325, 1300 and 3250 ug/L). Effect was rapid and recovery was insignificant. With increasing 1,2-DCB concentration total bacterial counts declined, not significantly except for 3250 ug/L. Analysis of bacterial culturability and identification indicated that with addition of increasing 1,2-DCB concentration had no impact on the total number or rate of colony development. Significantly greater counts of pseudomonads occurred with 1,2-DCB concentrations 65,130, and 325 ug/L (ie two orders of magnitude greater than control). Analysis of bacterial taxa composition indicated an increase in the percentage of pseudomonads and Bacillus and a decrease numbers of Arthrobacter and Micrococcus in soil exposed to levels of 1,2-DCB of 325 ug/L and greater.
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	64	64
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	タイプ: 振るいにかけた農業用土壌	Type: sieved agricultural soil
試験の種類	選択して下さい	選択して下さい
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	土壌微生物	soil dwelling microorganisms
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント		

暴露期間		
試験条件	(英文参照)	experiment 1: In the presence of roots and 1,2-DCB vital bacterial numbers increased slightly. Without roots but with 1,2-DCB there was a 50% decrease in vital bacterial numbers. The presence of roots appeared to buffer the inhibitory effects of 1,2-DCB
結果		
毒性値	(訳全体を確認してください。) 実験 1: ルートと1,2-DCBが存在する場合、生きた細菌数がわずかに増加した。 ルートなし、2-DCBありの場合、活きている細菌数が50%減った。 ルートは1,2-DCBの阻害効果を緩衝しているようだ。 1,2-DCあり、ルートなしの場合、fungal hyphalの体長は影響を受けない。 しかし、ルートがあると、vital hyphalの体長が著しく増加する。(3倍) ルートなしの場合、1,2,DCBを追加(at 10 ug/g)すると。培養可能な細菌数が一桁増えた。 50 ug/gの1,2-DCBを追加すると、2倍以上増えた。 土壌中(ルートと1,2-DCBあり)の培養可能な細菌数は50%まで減った。 実験 2: decaying root matterがある1,2-DCB.の崩壊をシミュレーションしている。 初め、ルートありでもなしでも鉱物形成速度は変わらなかったが、28日間の間で違いが生じてきた。ルートありの鉱物形成過程は100% greater. 崩壊したルート物質の存在は、細菌とfungal biomassを著しく増加させた。 これにより、土壌コミュニティによる逆炭素源を利用する能力が強化される。 psuedomonads数、全細菌数、培養可能な細菌数は1,2-DCBがある状況で増加した。	Experiment 1: In the presence of roots and 1,2-DCB vital bacterial numbers increased slightly. Without roots but with 1,2-DCB there was a 50% decrease in vital bacterial numbers. The presence of roots appeared to buffer the inhibitory effects of 1,2-DCB. The presence of 1,2-DCB did not effect the fungal hyphal length in the absence of roots. However, the presence of roots greatly increased vital hyphal lengths (by three fold). Without roots the addition of 1,2,DCB at 10 ug/g increased the number of culturable bacteria by an order of magnitude; the addition of 50 ug/g of 1,2-DCB lead to a increase of more than two fold. The number of culturable bacteria in the soil with roots and 1,2-DCB dropped by up to 50%. Experiment 2: The presence of decaying root matter stimulated the decay of 1,2-DCB. The mineralisation rates with and without roots were similar initially but over time the difference grew until on day 28 the mineralisation in the presence of roots was 100% greater. The presence of decaying root matter greatly increased bacterial and fungal biomass, leading to an enhanced ability to utilise diverse carbon sources by the soil community. The psuedomonads count, total and culturable bacterial counts increase in the presence of 1,2-DCB.
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	65	65
備考		

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	タイプ: 1.49% 有機炭素を含むシルトローム	Type: silt loam with 1.49% organic carbon
試験の種類	その他	その他
GLP	不明	不明
試験を行った年		
種	土壌微生物	soil dwelling microorganisms
試験物質の分析の有無	選択して下さい	選択して下さい
試験物質の分析方法		
エンドポイント	土壌微生物呼吸 (二酸化炭素の発生)	soil microbial respiration (formation of carbon dioxide)
暴露期間	6日間	6 days
試験条件		
結果		
毒性値	温度: 20℃ 処理濃度: 1g/kg、の1,2-DCB 初めの2〜3日間でCO2発生が減少した。特に高い有機炭素を含む土壌で減少した。 4-6日目までに、処置土壌と対照との間には著しい差がなくなった。	Temperature was 20 C with the treatment concentration of 1g/kg or 1,2-DCB. There was a reduction of CO2 generation over the first few days, especially for the soil with higher organic carbon content. By day 4-6 the difference between the treated soils and the control was not significant.
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Walton, B.T., Anderson, T. A., Hendricks, M. S. and Tamalge, S. S.; Physiochemical Properties as Predictors of Organic Chemical Effects on Soil Microbial Respiration"; Environ. Toxicol. Chem. 8, pp 53-63, 1989, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990). Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.	Walton, B.T., Anderson, T. A., Hendricks, M. S. and Tamalge, S. S.; Physiochemical Properties as Predictors of Organic Chemical Effects on Soil Microbial Respiration"; Environ. Toxicol. Chem. 8, pp 53-63, 1989, as cited in BUA (1990) o-Dichlorobenzene (1,2-Dichlorobenzene), BUA Report 53 (September 1990). Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft Stuttgart, S. Hirzel, 1993.
引用文献		
備考		

C. 他の非哺乳類陸生種(鳥類を含む)への毒性

4-6-1底生生物への毒性

4-7 生物学的影響モニタリング(食物連鎖による蓄積を含む)

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法		
試験される種又はエコシステム		
観察される影響		
試験を行った年		
試験条件	卵と生後2日目のMercenaria mercenaria(アサリ)の幼生を様々な濃度の試験物質へばく露した。ばく露期間は10日間。 卵の発生、幼生の生存と体長の発達を観察した	Eggs and 2 day old larvae of Mercenaria mercenaria (hard clam) were exposed to various concentrations for 10 days. observations were made on egg development, larvae survival and increase in length of larvae.
結果		
試験物質の分析		

環境条件に関する情報	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	58	58
備考		

4-8 生体内物質変換と動態

4-9 追加情報

試験物質	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
同一性	95-50-1	95-50-1
方法	<p>メモ: 海藻中の1,2-DCB毒性</p> <p>Cyclotella meneghiniana (ケイソウ) (種 CyOH2); 48 h EC50 = 23.33 mg/l 毒性パラメーター: DNA 変形抑制 (reduction static)の測定, 15 +/- 1°C, 明/暗サイクル:16時間/8時間 (100 uE/m2s), Woods-Hole 藻類培地</p> <p>出典: NICNAS</p>	<p>Memo: 1,2-DCB toxicity in algae</p> <p>Cyclotella meneghiniana (diatom) (strain CyOH2); 48 h EC50 = 23.33 mg/l toxicity parameter: measurement of DNA reduction static, 15 +/- 1 degree C, 16:8 h light:dark schedule at 100 uE/m2s, Woods-Hole algal medium</p> <p>Source: NICNAS</p>
結果		
信頼性スコア	選択して下さい	選択して下さい
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献	66	66
備考		

項目名	和訳結果	原文
-----	------	----

5-1 トキシコキネティクス、代謝、分布

5-2 急性毒性

A. 急性経口毒性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	1000 mg/kg bw	1000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	67	67
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	1516 mg/kg bw	1516 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	68	68
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Rat	Rat
	不明	不明

性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	5170 mg/kg bw	5170 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	69	69
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他	分子関連指数は、物理化学的パラメーターよりも毒性とより近い関係にあった。：物理化学的と分子関連指数を適用したが、最良の相互関係であった。	Molecular connectivity indices provided a closer relationship to toxicity than physicochemical parameters; application of both physicochemical and molecular connectivity indices however provided the best correlation
結論		
LD50値又はLC50値	2138mg/kg bw	2138mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	70	70
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		

その他		
結論		
LD50値又はLC50値	2000 mg/kg bw	2000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	71	71
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
LD50		Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他	投与経路は明記されていない。; おそらく、被験物質は経口投与された。	the route of application is not specified; probably the test substance was orally administered
結論		
LD50値又はLC50値	500 mg/kg bw	500 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Thomson, W.T. (ed.): "Agricultural Chemicals", Book III, p.33, Thomson Publications, Fresno, CA, USA, 1978-79	Thomson, W.T. (ed.): "Agricultural Chemicals", Book III, p.33, Thomson Publications, Fresno, CA, USA, 1978-79
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
LD50		Type: LD50
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	1875 mg/kg bw	1875 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	71	71
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		

方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD50	Type: LD50
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Guinea Pig	Guinea Pig
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	3375 mg/kg bw	3375 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	71	71
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD0	Type: LD0
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Guinea Pig	Guinea Pig
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	1000 mg/kg bw	1000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	"The Toxicity of Fluoro-chloro-benzenes"; Report of the Biochemical Research Laboratory, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211365; July 29, 1938	"The Toxicity of Fluoro-chloro-benzenes"; Report of the Biochemical Research Laboratory, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211365; July 29, 1938
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD100	Type: LD100
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Guinea Pig	Guinea Pig
性別	不明	不明
投与量	MF	MF
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	10	10
投与経路	オリブオイル	オリブオイル
観察期間	オリブオイル (50% 溶液として挿管)	olive oil (by intubation as a 50% solution)
その他の試験条件	強制経口投与	強制経口投与

統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数	800 mg/kg bw投与の動物検体は全て生き残った。; 2000 mg/kg bw投与の動物検体は全て死亡した。	All 800 mg/kg bw dosed animals survived; all 2000 mg/kg bw dosed animals died
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	<= 2000 mg/kg bw	<= 2000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NIGNAS	Source: NIGNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LD100	Type: LD100
試験を行った年	いいえ	いいえ
試験系(種／系統)	Guinea Pig	Guinea Pig
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	2000 mg/kg bw	2000 mg/kg bw
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	The Toxicity of Fluoro-chloro-benzenes; Report of the Biochemical Research Laboratory, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211365; July 29, 1938	The Toxicity of Fluoro-chloro-benzenes; Report of the Biochemical Research Laboratory, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211365; July 29, 1938
引用文献(元文献)		
備考		

B. 急性吸入毒性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LC100	Type: LC100
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	選択してください	選択してください
観察期間	吸入	inhalation
その他の試験条件	暴露時間: 4 時間	Exposure time: 4 hour(s)
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	LC50= 9.5 mg/l	LC50= 9.5 mg/l
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		

出典	Vasilenko, N.M.: in Industrial toxicology. Moscow; AMN SSSR, 55-58 (1960): cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Vasilenko, N.M.: in Industrial toxicology. Moscow; AMN SSSR, 55-58 (1960): cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください LC50	選択してください Type: LC50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
観察期間		
その他の試験条件	暴露時間: 6時間	Exposure time: 6 hour(s)
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見	毒性の所見: 低血圧、眠気、流涙; 観察期間の14日目まで体重増加を阻害した。	signs of toxicity: hypotension, somnolence, lacrimation; retarded body weight gain up to day 14 of the observation period
剖検所見	観察期間の14日目において生存動物検体の検死をした結果、肺、肝臓また腎臓においても所見はみられなかった。	autopsy of the surviving animals on day 14 of the observation period without observable findings in lung, liver or kidney
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	LC50=1532 ppm LC50: 約 9.38 mg/l	LC50=1532 ppm LC50: ca. 9.38 mg/l
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICHAS	Source: NICHAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	73	73
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください LC50	選択してください Type: LC50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
観察期間		
その他の試験条件	暴露時間: 4時間	Exposure time: 4 hour(s)
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	LC50 = 8.15 mg/l	LC50 = 8.15 mg/l
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Vasilenko, N.M.: A study of higher nervous activity in acute intoxication by ortho-dichlorobenzene (o-DCB) in experiment. Kharkov; Ukr. NII of occupational health and job-related diseases, 1958: XXVII 212-218: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Vasilenko, N.M.: A study of higher nervous activity in acute intoxication by ortho-dichlorobenzene (o-DCB) in experiment. Kharkov; Ukr. NII of occupational health and job-related diseases, 1958: XXVII 212-218: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99%
注釈		purity: 99 %
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	LC50	Type: LC50
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
性別	不明	不明
投与量	F	F
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	選択してください	選択してください
観察期間	吸入	inhalation
その他の試験条件	暴露時間: 6時間	Exposure time: 6 hour(s)
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	LC50=1236 ppm LC50: 約7.43 mg/l	LC50 = 1236 ppm LC50: ca. 7.43 mg/l
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICHAS	Source: NICHAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	73、74	73、74
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	Collecting on a solid adsorbant タイプ: マウスによる急性感作刺激試験	Collecting on a solid adsorbant Type: Acute airborne sensory irritation study in mice
試験を行った年	不明	不明
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
性別	Swiss	Swiss
投与量	M	M
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	6	6
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	選択してください	選択してください
観察期間	吸入	inhalation
その他の試験条件	暴露時間: 5分	Exposure time: 5 minute(s)
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見	182 ppmの1,2-ジクロロベンゼンは、呼吸速度を50%(RD50)まで低下させた。	1,2-DCB at 182 ppm reduced the respiratory rate by 50% (RD50)
剖検所見		
その他		
結論		
LD50値又はLC50値	LC50=182 ppm	LC50 = 182 ppm
雌雄のLD50値又はLC50値の違い等		
注釈	出典: NICHAS	Source: NICHAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	75	75
備考		

C. 急性経皮毒性

D. 急性毒性(その他の投与経路)

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください

各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	腹腔内	腹腔内
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50= 840 mg/kg bw	LD50= 840 mg/kg bw
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	RTECS (1993): Registry of toxic effects of chemical substances	RTECS (1993): Registry of toxic effects of chemical substances
引用文献(元文献)	69	69
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
	F344 and Sprague-Dawley	F344 and Sprague-Dawley
性別	M	M
投与量		
各用量群(性別)の動物数	4	4
溶媒(担体)	コーンオイル	コーンオイル
投与経路	腹腔内	腹腔内
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50=1.66 - 1.76 ml/kg bw	LD50=1.66 - 1.76 ml/kg bw
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	76	76
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99% purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
	NMRI	NMRI
性別	M	M
投与量		
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
	不明	no data
投与経路	腹腔内	腹腔内
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	LD50=1228 mg/kg bw	LD50 = 1228 mg/kg bw
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	77	77
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: Acute Toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Wistar	Wistar
投与量	M	M
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	4	4
投与経路	選択してください	選択してください
	ピーナツオイル	arachidis oil
	腹腔内	腹腔内
観察期間		
	ばく露期間:24、48及び72時間	Exposure Period: 24, 48, and 72h
その他の試験条件	詳細は英文参照	Exposure Period: 24, 48, and 72h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Renal: Body and organ (kidney and liver) weight, liver histopathology, liver alanine asparagineaminotransferase (ALT), kidney glutathione (GSH), plasmablood urea nitrogen (BUN), and plasma thyroid hormonesthyroxine (T4) and triiodothyronine (T3) levels
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数		
臨床所見	1,2-ジクロロベンゼン(全用量)は、3日後に有意な体重減少が起きた。 肝臓の相対重量は有意に増加し、血漿ALTレベルの上昇は、全用量においてみられた。 72時間後、肝臓において、小葉中心性肥大や肝細胞の変性、また繊維形成により特徴付けられ、処理に比例した明瞭な病理組織学的変化がみられた(全用量)。 腎臓の相対重量も処理に比例した病理組織学所見のいずれにおいても、変化はなかった。 肝臓のチロキシンの変化は、血中甲状腺ホルモンレベルを減少させる影響は予測できないが、同時刻における1及び2mmol/kg bwを投与された動物検体は、血漿全T4及びT3レベルにおいて有意な減少を示した。	1,2-DCB (all doses) resulted in significant body weight loss after 3 days; the relative liver weight was significantly increased and a rise in plasma ALT levels was observable at all doses; after 72 hours, distinct treatment-related histopathological changes in the liver were observable which were characterized by centrilobular hypertrophy and by hepatocellular degeneration and fibrosis(all doses); no change in the relative kidney weight or anytreatment-related histopathological findings; 1and 2mmol/kg bw dosed animals at the same time point revealed asinificant decrease in plasma total T4 and T3 levels, although alterations in hepatic thyroxine cannot be discounted as a mechanism for reduced levels of plasmathyroid hormone
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	78	78
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98 % (工業用グレード)	purity: 98 % (technical substance)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	LD50	Type: LD50
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路		
	皮下	皮下
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
各用量群での死亡数	死亡率: 5000 mg/kg bwで0/3、10000 mg/kg bwで 3/3	mortality: 0/3 at 5000 mg/kg bw and 3/3 at 10000 mg/kg bw
臨床所見		
剖検所見		
その他		
結論		
毒性値	5000 - 10000 mg/kg bw	5000 - 10000 mg/kg bw
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Acute Toxicity Report. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania (1979); EPA/OTS Doc. No. 878212184, 1-3	Acute Toxicity Report. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania (1979); EPA/OTS Doc. No. 878212184, 1-3
引用文献(元文献)		
備考		

5-3 腐食性／刺激性

A. 皮膚刺激／腐食

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%以上	purity: at least 99%
注釈		
pH		
方法		
方法／ガイドライン	30秒間目に接触した後、2分間流水で洗浄した。目は2, 24, 48及び168時間後に調べられた。	after about 30 seconds one eye was flushed for 2 minutes with flowing water; the eyes were examined after 2, 24, 48 or 168 hours
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数	2	2
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路		
観察期間	曝露時間: 0.5分間	Exposure Time: 0.5 minute(s)
その他の試験条件	濃度: 希釈なし 曝露時間: 0.5分間	Concentration: undiluted Exposure Time: 0.5 minute(s)
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等	原液の1,2-ジクロロベンゼンは、洗浄後7日間以内に、軽度から中度の痛み及び軽度の結膜刺激を引き起こした。 洗浄は、痛み及び結膜刺激を減少した。	undiluted 1,2-DCB caused slight to moderate pain and slight conjunctival irritation clearing completely within 7 days; irrigation reduced pain and conjunctival irritation
その他	軽度の刺激性	slightly irritating
結論		
皮膚刺激性	あり	あり
皮膚腐食性	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	o-ジクロロベンゼン, 化学的に純粋(それ以上のデータなし)	o-dichlorobenzene, chemically pure (no further data)
注釈		
pH		
方法		
方法／ガイドライン	ETADの推奨されたガイドラインに従って実施された	the experiment was performed according to the recommended guideline of ETAD
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	無傷の皮膚	intact skin
観察期間	7日間	7 days
その他の試験条件	ばく露時間: 24時間	exposure time: 24 hours,
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等		
その他	軽度の刺激性	slightly irritating
結論		
皮膚刺激性	あり	あり
皮膚腐食性	不明	不明
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
pH		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数	0.5 ml/animal	0.5 ml/animal
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し

投与経路	無傷及び侵食された皮膚	site of application: intact or abraded back skin,
観察期間	24 と 72 時間後に観察	observations were made after 24 and 72 hours
その他の試験条件	ばく露時間: 72時間, 半閉塞	exposure time: 72 hours, semi-occlusive
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等		
その他	中度の刺激性	moderately irritating
結論		
皮膚刺激性	あり	あり
皮膚腐食性	不明	不明
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	"Primary skin irritation study with rabbits". Report sub-mitted to Allied Chemical Corporation, Morristown, New Jer-sey by Food and Drug Research Laboratories, Inc., Waverly,New York, EPA/OTS Doc. No. 878210853, pp. 1-3; January 5,1976	"Primary skin irritation study with rabbits". Report sub-mitted to Allied Chemical Corporation, Morristown, New Jer-sey by Food and Drug Research Laboratories, Inc., Waverly,New York, EPA/OTS Doc. No. 878210853, pp. 1-3; January 5,1976
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
pH		
方法		
方法／ガイドライン	Draize Testに従って採点	scored according to Draize Test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	希釈しない1,2-DCB の 0.5 mL	Concentration of 1,2-DCB was 0.5 mL of undiluted sample
各用量群(性別)の動物数	6 匹 (各性別3 匹)	6 rabbits were tested (3 of each sex)
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	経皮(毛刈りした健常皮膚に被験物質を塗布)	経皮(毛刈りした健常皮膚に被験物質を塗布)
観察期間	ばく露時間: 4時間	Exposure Time: 4 hour(s)
その他の試験条件	濃度: 0.5無希釈 ばく露: 半閉塞 ばく露時間: 4時間	Concentration: 0.5 undiluted Exposure: Semioclusive Exposure Time: 4 hour(s)
統計学的処理		
結果		
一次刺激スコア		
皮膚反応等	1,2-ジクロロベンゼンの暴露後72時間まで、軽度から中度の紅斑及び浮腫が記録された。 影響は、暴露後120時間までに小さくなり、168時間までに概して消えた。	Slight to moderate erythema and oedema were noted up to 72 h post exposure to 1,2-DCB; the effects lessened by 120 h and disappeared altogether by 168 h post exposure.
その他		
結論		
皮膚刺激性	あり	あり
皮膚腐食性	不明	不明
注釈	試験は、個々の動物検体のデータもDraizeスコアも提供されなかった。 出典: NICNAS	The study provided no individual animal data and Draize scores were not provided Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Younger Laboratories Inc., "Skin Irritation in Rabbits After Application of: ORTHO-DICHLOROBENZENE", Saint Louis, MCO Doc. No. 8056453, August 4, 1972	Younger Laboratories Inc., "Skin Irritation in Rabbits After Application of: ORTHO-DICHLOROBENZENE", Saint Louis, MCO Doc. No. 8056453, August 4, 1972
引用文献(元文献)		
備考		

B. 眼刺激／腐食

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	o-ジクロロベンゼン, 化学的に純粋(それ以上のデータなし)	o-dichlorobenzene, chemically pure (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	ETADの推奨されたガイドラインに従って試験	the experiment was performed according to the guideline of ETAD
試験のタイプ	in vivo	in vivo
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	点眼	点眼
観察期間	7 days	7 days
その他の試験条件	目は洗浄しない	eyes not rinsed
統計学的処理		
結果		
腐食	不明	不明
刺激点数: 角膜		
刺激点数: 虹彩		

刺激点数：結膜	2日後まで軽度の結膜に対する影響がみられた。	slight conjunctival effects were observable up to 2 days after application
その他	軽度の刺激性	slightly irritating
結論		
眼刺激性	あり	あり
眼腐食性	不明	不明
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
試験のタイプ	in vivo	in vivo
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	溶媒無し	溶媒無し
投与経路	点眼	点眼
観察期間	7日間	7 days
その他の試験条件	目は洗浄しない	eyes not rinsed
統計学的処理		
結果		
腐食	不明	不明
刺激点数：角膜		
刺激点数：虹彩		
刺激点数：結膜	結膜への影響は、7日間の観察期間を通して続いた。	conjunctival effects persisted throughout the 7-day observation period
その他	軽度の刺激性	slightly irritating
結論		
眼刺激性	あり	あり
眼腐食性	不明	不明
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	“Rabbit eye irritation study”. Report submitted to Allied Chemical Corporation, Morristown, New Jersey by Food and Drug Research Laboratories, Inc., Waverly, New York, EPA/OTS Doc. No. 878211192, pp. 1-5; January 5, 1976	“Rabbit eye irritation study”. Report submitted to Allied Chemical Corporation, Morristown, New Jersey by Food and Drug Research Laboratories, Inc., Waverly, New York, EPA/OTS Doc. No. 878211192, pp. 1-5; January 5, 1976
引用文献(元文献)		
備考		

5-4 皮膚感作

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	ウサギに対して、7ヶ月間(週5日間、毎日4時間)0.05mg/lの濃度での吸入ばく露	rabbits were exposed via inhalation to o-dichlorobenzene at a concentration of 0.05 mg/l for 7 months (5 days a week, 4 hours daily)
試験のタイプ	in vivo	in vivo
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	吸入	inhalation
観察期間		
その他の試験条件		
統計学的処理		
結果		
試験結果	なんらの全身性の中毒作用の兆候のない状況において、感作性は初期の段階で観察された。中毒の所見が現れた際、アレルギー試験は陰性であったが、実験中止時近くで再び陽性になった。o-ジクロロベンゼンは、赤血球溶解物に対する抗体及び腎臓の組織由来の自己抗原に対する抗組織抗体の生産を引き起こす(それ以上のデータなし)。	sensitization became obvious at early stages of poisoning in the absence of any pointers to systemic toxic action; as the signs of intoxication developed, allergic tests became negative but again took on a positive value closer to the cessation of experiment; o-dichlorobenzene triggered the production of antibodies to erythrocyte lysate and of antitissue antibodies to autoantigens from the renal tissue (no further data)
その他		
結論		
感作性	陽性	陽性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください

キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Shmutter, L.M. and Genes, V.S.: in Issues of experimental and clinical pathology. (ed. T.V. Mitin). L vov; L vov Medical Institute, 1980: IV 135-136: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Shmutter, L.M. and Genes, V.S.: in Issues of experimental and clinical pathology. (ed. T.V. Mitin). L vov; L vov Medical Institute, 1980: IV 135-136: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

5-5 反復投与毒性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99.0 %	purity: >99.0 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat Sprague-Dawley	Rat Sprague-Dawley
性別	M	M
投与量	309 ppm (=約 1.86 mg/l)	309 ppm (= ca. 1.86 mg/l)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	清浄な空気	Control Group: other: clean filtered air
投与期間	2日もしくは4日	Exposure period: 2d or 4d
投与頻度	6 時間/日	Frequency of treatment: 6 h/d
回復期間	なし	no
試験条件	詳細は英文参照	liver damage was investigated in the rats using serum enzyme activities measurements
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)	血清中のグルタミン酸脱水素酵素(4日)及びソルビトール脱水素酵素(2日及び4日)の活性は有意に増加した。 血清中のグルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ及びグルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼの活性は、有意に変化しなかった。	significant increase in the serum activities of glutamate dehydrogenase (4d) and sorbitol dehydrogenase (2d and 4d); serum activities of glutamic oxaloacetic transaminase and glutamic pyruvic transaminase not significantly changed
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	79	79
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	MF	MF
投与量	49 ppm (=約 0.3 mg/l) と 93 ppm (= 約 0.57 mg/l)	49 ppm (=ca. 0.3 mg/l) and 93 ppm (= ca. 0.57 mg/l)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	(93 ppmのみ) 空気で対照群とした	Control Group: air exposed control (for 93 ppm only)
投与期間	6から7ヶ月	Exposure period: 6 to 7 months
投与頻度	7 時間/日, 5 日/週	Frequency of treatment: 7 h/d, 5 d/w

回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	49 ppmにおける1,2-ジクロロベンゼンの暴露は、平均体重に対しては有害影響はないことが明らかであった。 平均体重は最高用量(93 ppm)試験では減少した。	Exposure to 1,2-DCB at 49 ppm revealed no adverse effects as determined by average body weight. at the highest dose studied (93 ppm) average body weight decreased decreased
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	49 ppmにおける1,2-ジクロロベンゼンの暴露は、肉眼形態、行動、成長により確定される有害影響はないことを明らかにした。	Exposure to 1,2-DCB at 49 ppm revealed no adverse effects as determined by gross appearance, behaviour, growth.
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	49 ppmにおける1,2-ジクロロベンゼンの暴露は、死亡数への有害影響はないことが明らかであった。	Exposure to 1,2-DCB at 49 ppm revealed no adverse effects as determined by mortality.
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	49 ppmにおける1,2-ジクロロベンゼンの暴露は、臓器重量に対する有害影響はないことが明らかであった。 脾臓重量は最高用量(93 ppm)試験において減少した。	Exposure to 1,2-DCB at 49 ppm revealed no adverse effects as determined by organ weight. at the highest dose studied (93 ppm) spleen weight decreased decreased
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	49 ppmにおける1,2-ジクロロベンゼンの暴露は、組織の肉眼的及び顕微鏡的検査で有害影響はないことが明らかであった。	Exposure to 1,2-DCB at 49 ppm revealed no adverse effects as determined by gross and microscopic examination of tissues.
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	0.2 mg/l	0.2 mg/l
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
コントロールグループに対する処理	不明	Control Group: no data specified
投与期間	4ヶ月	Exposure period: 4 months
投与頻度	4 時間/日, 6日/週	Frequency of treatment: 4 h/d, 6 d/w
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	主要な神経経路間の関係が害され、抑制が高まり、また刺激が弱くなった際、大脳皮質におけるニューロ・ダイナミックの変化がみられた。	changes of neurodynamics in the cerebral cortex were observable, as the relationships among principal neural processes were impaired, inhibition was enhanced and stimulation weakened
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen

信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Vasilenko, N.M.: A study into comparative toxicity of orthodichlorobenzene and trichlorobenzene and issues of standardization. Kiev; Ukr. NII of occupational health and job-related diseases, 1959: XXVIII, 3-14: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Vasilenko, N.M.: A study into comparative toxicity of orthodichlorobenzene and trichlorobenzene and issues of standardization. Kiev; Ukr. NII of occupational health and job-related diseases, 1959: XXVIII, 3-14: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	0.001 mg/l	0.001 mg/l
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	不明	Control Group: no data specified
投与期間	9ヶ月	Exposure period: 9 months
投与頻度	不明	Frequency of treatment: no data
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	処理によって条件反射の誘発の低下、潜伏期間の延長、多発的で広範な反射の欠如、大脳皮質における刺激と抑制の過程の逆転によりラットの活動に影響があった。	the treatment modified conditioned activity of the rats by lowering the induction of conditioned reflexes, lengthening their latent period, making reflex eliminations more frequent and, in broad, upsetting the balance of stimulation and inhibition processes in the brain cortex
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Varshavskaya, S.P.: Gigiena i Sanitaria No. 10, 15-21 (1968): cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Varshavskaya, S.P.: Gigiena i Sanitaria No. 10, 15-21 (1968): cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat Wistar	Rat Wistar
性別	M	M
投与量	500 mg/kg bw/d	500 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください

投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	不明	Control Group: no data specified
投与期間	7日	Exposure period: 7 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	処理済みラットの腎皮質において、好酸性均一物質の蓄積はみられなかった。	an induction of hyaline droplet accumulation in the renal cortex of the treated rats was not detectable
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bomhard, E. and Luckhaus, G.: 3. Int. Symp. on Nephrotoxicity, Surrey, England, August 1987 (abstr.)	Bomhard, E. and Luckhaus, G.: 3. Int. Symp. on Nephrotoxicity, Surrey, England, August 1987 (abstr.)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.00%	purity: 99.0 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat Fischer 344	Rat Fischer 344
性別	M	M
投与量	0.8 もしくは 2.0 mmol/kg bw/d (= 118 もしくは 294 mg/kg bw/d)	0.8 or 2.0 mmol/kg bw/d (= 118 or 294 mg/kg bw/d)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	6日または7日	Exposure period: 6 or 7 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	腎臓の蛋白質の液滴形成における有意な増加はみられなかった。細胞増殖の生物化学的に測定した3H-チミジンの腎臓のDNAへの取り込みは、対照値に比較して有意に増加しなかった。	no significant increase in renal protein droplet formation was observed; incorporation of 3H-thymidine into renal DNA, a biochemical measurement of cell proliferation, was not significantly increased compared to control values
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Charbonneau, M. et al.: 3. Int. Symp. on Nephrotoxicity, Abstract Y8, Surrey, England, August 1987	Charbonneau, M. et al.: 3. Int. Symp. on Nephrotoxicity, Abstract Y8, Surrey, England, August 1987

引用文献(元文献)	80	80
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Wistar	Wistar
投与量	F	F
各用量群(性別)の動物数	500 mg/kg bw/d	500 mg/kg bw/d
溶媒(担体)		
投与経路	選択してください	選択してください
強制経口投与	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	1,3,5日	Exposure period: 1, 3 or 5 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	肝臓の相対重量は、処理期間中に増加したが、ハーダー腺の相対重量は変わらなかった。	the relative liver weight increased during duration of treatment, whereas the relative weight of the Harderian gland remained unaffected
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	ハーダー腺におけるポルフィリン含有量は、投与後1日でかなり増加した。しかし、投与後5日間では対照値に戻った。 ハーダー腺のデルタアミノレブリン酸合成酵素の活性に影響がなかったが、肝臓のデルタアミノレブリン酸合成酵素が標準レベルの2～3倍に増加した。 投与後5日まで観察された肝臓又はハーダー腺のデルタアミノレブリン酸合成酵素活性の変化はなかった。	the porphyrin content in the Harderian gland increased considerably at 1 day after administration, but returned to control values at 5 days post administration; there was no effect on the activity of Harderian gland delta-aminolevulinic acid-synthetase, while hepatic delta-aminolevulinic acid-synthetase activity was increased 2-3 times the normal level; no changes in the delta-aminolevulinic acid-dehydratase activity in the liver or in the Harderian gland were observable up to 5 days after administration;
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	81	81
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Wistar	Wistar
投与量	M	M
各用量群(性別)の動物数	500 mg/kg bw/d	500 mg/kg bw/d
溶媒(担体)		
投与経路	選択してください	選択してください
強制経口投与	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent no treatment
投与期間	7日	Exposure period: 7 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件	英文参照	the urine was collected on day 7 and tested for presence of rat urinary kidney-derived antigens ("RUA") and of LDH
統計学的処理		
結果		

体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)	未処理のラットにおいて、抗原の排泄物は標準範囲内であった。ほとんどの抗原の軽度から中度の尿排泄促進が、o-ジクロロベンゼンの投与後にみられた。o-ジクロロベンゼン投与後のLDHの尿レベルは、標準範囲内であった。	in untreated rats antigen excretion was within the normal range; slightly to moderately enhanced urinary excretion of most of the antigens was seen after application of o-dichlorobenzene; urinary level of LDH was in the normal range after application of o-dichlorobenzene
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Falkenberg, F.W. et al.: in The Proceedings of the Fourth International Symposium on Nephrotoxicity by Marcel Dekker, New York, in 1990	Falkenberg, F.W. et al.: in The Proceedings of the Fourth International Symposium on Nephrotoxicity by Marcel Dekker, New York, in 1990
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	F	F
投与量	18.8, 188 および 376 mg/kg bw/d	18.8, 188 or 376 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	192日	Exposure period: 192 d
投与頻度	毎日、5日/週	Frequency of treatment: daily, 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	全用量群: 全用量レベルにおいて成長への有害影響なし	all dose groups: no adverse effect on growth at all dose levels
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	全用量群: 全用量レベルにおいて死亡数に有害な影響なし	all dose groups: no adverse effect on mortality at all dose levels
剖検所見(発生率、重篤度)	顕微鏡的検査: 肝臓に、軽度から中度の混濁腫脹	microscopical findings: slight to moderate cloudy swelling of the liver
臓器重量	188 mg/kg及び376 mg/kgにおいて肝臓と腎臓の平均重量に有意な増加 376 mg/kgにおいて脾の重量に有意な減少	at 188 mg/kg and 376 mg/kg, significant increase in the average weight of liver and kidneys; at 376 mg/kg a significant decrease in splenic wieght;
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈	動物検体は、全部で192日で138回投与された。	the animals received a total of 138 doses in 192 days
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Albino	Albino
投与量	M	M
各用量群(性別)の動物数	450 mg/kg bw/d	450 mg/kg bw/d
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes
投与期間	15日	Exposure period: 15 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	1,2-ジクロロベンゼンは、コプロポルフィリン、プロトポルフィリン及びウロポルフィリンの肝臓レベルを増加した。カタラーゼの肝臓活性を減少した。 組織学試験は、広範な部分に激しい壊死及び脂肪化を伴う肝臓の重度な損傷を明らかにした。	1,2-DCB increased hepatic levels of coproporphyrin, protoporphyrin and uroporphyrin; decreased hepatic activity of catalase; histologic examination revealing severe liver damage with intense necrosis and fatty change over large areas
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	82	82
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99% purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	はい	はい
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
投与量	MF	MF
各用量群(性別)の動物数	37.5, 75, 150および 300 mg/kg bw/d	37.5, 75, 150 or 300 mg/kg bw/d
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	10日	Exposure period: 10 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	300 mg/kg bw/dayにおいて、雄の総体重増加量が減少	At 300 mg/kg bw/day a decrease in male total body weight gain
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		

血液生化学的所見(発生率、重篤度)	血漿ALTレベルは両性に対して300 mg/kg bwで処理した後、有意に上昇したが、雌に対して、コレステロールレベルが全用量で対照に比べて上昇した。 白血球増加は、150及び300 mg/kg bwの雄において現れたが、これらの用量で雌の肝臓の絶対重量及び相対重量が増加した。	plasma ALT levels were significantly elevated after treatment with 300 mg/kg bw for both sexes while for females, cholesterol levels were elevated at all doses compared with controls; leukocytosis was present in males at 150 and 300 mg/kg bw while the absolute and relative weights of female livers increased at these doses
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	300 mg/kg bw/dayにおいて、雄の臓器(心臓、腎臓、脾臓、精巣及び胸腺)の絶対重量に減少がみられた。 肝臓の絶対・相対重量に有意な増加(p < 0.05)。 300 mg/kg bwにおいてのみ、脾臓重量が減少した。	At 300 mg/kg bw/day a decrease in male absolute organ weight (heart, kidneys, spleen, testes and thymus) were observed; significant increase (p < 0.05) in absolute and relative liver weights spleen weights decreased only at 300 mg/kg bw
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	肝細胞の壊死の発生は明白であった。 病理組織学知見は、わずかな肝細胞の病変の出現を示した(300mg/kg bwで処理された雄の40%)。	the development of hepatocellular necrosis was evident histopathological findings showed presence of slight hepatocellular lesions (40% of males treated with 300mg/kg bw)
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 75 mg/kg bw	NOAEL = 75 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 150 mg/kg bw	LOAEL = 150 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	83	83
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99% purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	はい	はい
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat Sprague-Dawley	Rat Sprague-Dawley
性別	MF	MF
投与量	25, 100 or 400 mg/kg bw/d	25, 100 or 400 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数	80 匹を 4つの投与群に分けた (10/sex/dose)	80 animals divided into 4 treatment groups (10/sex/dose)
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	90日	Exposure period: 90 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件	詳細は英文参照	The oral toxicity of 1,2-DCB for male and female Sprague-Dawley rats were assessed following exposure to 0, 25, 100 or 400 mg/kg bw per day for 90 days by gavage; Test Subjects: · Age at study initiation: 80 d (OECD guideline specifies less than 56 d for a 90 d subchronic study.) · No. of animals: 80 animals divided into 4 treatment groups (10/sex/dose) · Clinical observations performed: Both sexes: body weight and food consumption; ophthalmoscopic examination prior to and during last week. Haematological parameters consisting of hemoglobin (Hgb), hematocrit (Hct), red blood cell (RBC) count, white blood cell (WBC) count, mean cell volume, platelet count, differential leukocyte count and cell morphology. · Serum clinical chemistry performed: Serum clinical chemistry consisting of alanine aminotransferase (ALT), aspartate aminotransferase (AST), lactate dehydrogenase (LDH), serum cholesterol (Chol), phosphorus (P), calcium (Ca), glucose (Glu), blood urea nitrogen (BUN), and creatinine (Creat), sodium (Na), potassium (K), total protein (TP), albumin (ALB), total bilirubin (TB), and alkaline phosphatase (ALKP). · Organs grossly examined at necropsy: Weighed and examined brain, liver spleen, lungs, thymus kidneys, adrenal glands, heart, and testes/ovaries; examined gross lesions, skin mammary glands, clitoral or preputial glands, mandibular and mesenteric lymph nodes, thigh muscle, sciatic nerve, sternbrae, femur, duodenum, ileum, jejunum, salivary gland, colon, cecum, rectum, pancreas, urinary bladder, seminal vesicles, prostate, nasal cavity (with turbinates), pituitary, and Zymbal's gland of each animal.
統計学的処理	詳細は英文参照	Statistical Methods: ANOVA (body weights, organ weights, organ weight ratios, food and water consumption, haematology, and clinical chemistry); treatment related effects measured by the Dunnett's t-test (control v. treatment); non-normally distributed data by the Kruskal-Wallis test (between dose-groups); Fisher's Trend Test and Logrank Test (histopathology)

結果		
体重、体重増加量	400 mg/kg bw/dayの投与群では、雄では有意な体重増加減少 (p <= 0.05)がみられたが、雌ではみられなかった。	At 400 mg/kg bw per day a significant decrease (p <= 0.05) in total body weight gain was observed for males but not females compared to controls.
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)	白血球溶解や他の血液学的変化はみられなかった。	Haematology: No evidence of leukocytosis or other haematological changes for either sex.
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	雄の 100 と 400 mg/kg bw投与群は、血漿ブラスマALTのレベルが有意に上昇した (p <= 0.05) が、メスでは見られなかった。詳細は英文参照	Serum clinical chemistry: Plasma ALT levels were significantly elevated (p <= 0.05) at 100 and 400 mg/kg bw in males compared to controls however levels in females did not reach significance; increased bilirubin (p <= 0.05) occurred at the highest dose in both sexes. BUN was significantly increased (p <= 0.05) in 400 mg/kg dosed males compared to controls.
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	死亡例なし	Mortality and time to death: all animals survived treatment period
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	100 mg/kg bw と 400 mg/kg bw において雌雄共に、肝臓の絶対及び相対重量が増加した。詳細は英文参照	Organ weight changes: Significant increases in absolute and relative liver weights occurred for both sexes at 100 mg/kg bw and 400 mg/kg bw compared to controls and absolute and relative kidney weights were increased at 400 mg/kg bw for both sexes compared to controls. Absolute kidney weights increased for females at 100 mg/kg bw.
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	400 mg/kg d の投与群で、雌雄共に肝細胞性の変化が統計学的に有意に増加した。詳細は英文参照	Histopathology: Treatment-related hepatocellular changes in 400 mg/kg d treated males and females consisted of statistically significant (p <= 0.05) increases in centrilobular degeneration, centrilobular hypertrophy and evidence of single cell necrosis at 400 mg/kg bw for both se
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 25 mg/kg bw	NOAEL = 25 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 100 mg/kg bw	LOAEL = 100 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	SDラットにおいて、亜慢性経口投与における1,2-ジクロロベンゼンの90日投与に続く決定的なエンドポイントは、肝臓及び腎臓の影響及び臨床化学の変化であった。 NOAELは25 mg/kg bw/日、LOAELは100 mg/kg bw/日であった(雌雄における肝臓の絶対・相対重量の増加、雄における血漿ALTレベルの増加に基づく)。	In the SD rat the critical endpoints following 90 day exposure to 1,2-DCB at subchronic oral doses are hepatic and renal effects and related clinical chemistry changes. The NOAEL was 25 mg/kg bw per day and the LOAEL 100 mg/kg bw (based upon increased absolute and relative liver weight in males and females; increased plasma ALT levels in males)
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	83	83
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	F344/N	F344/N
投与量	MF	MF
各用量群(性別)の動物数	60, 125, 250, 500 及び 1000 mg/kg bw/d	60, 125, 250, 500 or 1000 mg/kg bw/d
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	14日	Exposure period: 14 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	6日	Post exposure period: 6 d
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	500 mg/kg bwでは体重増加量は減少した(-12%)。	500 mg/kg bw resulted in reduced body weight gain (-12%)
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		

尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	最高用量(1000 mg/kg bw)試験において、死亡率100%は5日目までにみられた。	At the highest dose studied (1000 mg/kg bw) 100% mortality was observed by day 5
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rat F344/N	Rat F344/N
性別	MF	MF
投与量	30, 60, 125, 250 および 500 mg/kg bw/d	30, 60, 125, 250 or 500 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	91日	Exposure period: 13 w
投与頻度	5 日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)	全用量群: 血清コレステロール、トリグリセリド及び全蛋白質の、わずかと及び一般的な用量に比例した増加は、肝臓への影響を示しているかもしれない。	all dose groups: slight and generally dose-related increases in serum cholesterol, triglycerides and total proteins may be indicative of hepatic effects;
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	全用量群: 血液学及び臨床化学のパラメーターにおいて、最少限の変化。	all dose groups: minimal changes in haematology and clinical chemistry parameters;
尿検査所見(発生率、重篤度)	全用量群: 雄において、24時間の尿量が対照群より57%増加した。雌雄において、ウロポルフィリン及びコプロポルフィリンの尿濃度は対照の3~5倍であった。	all dose groups: 24 h urine volume increased 57% over controls in males; 3-5 times the urinary concentration of uroporphyrin and coproporphyrin in males and females than in controls;
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	全用量群: 125 mg/kg以上において、肝臓重量は、肝臓重量/体重の比の有意な増加が、用量に比例して増加した。	all dose groups: dose-related increase in liver weights with significant increases in liver weight/body weight ratios at 125 mg/kg and above;
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	顕微鏡的検査: 500 mg/kg bwにおいて、中度の小葉中心の肝細胞の壊死、小葉中心の肝臓の変性及び個々の肝細胞の壊死が、生存している雌の7/8及び雄の8/10においてみられた。尿管の変性は雄の6/10において、胸腺のリンパ球枯渇は雄の4/10においてみられた。	microscopy findings: at 500 mg/kg bw moderate centrilobular hepatocellular necrosis, centrilobular hepatic degeneration or necrosis of individual hepatocytes found in 7/8 of surviving females and 8/10 males; renal tubular degeneration in 6/10 males and thymic lymphoid depletion in 4/10 males
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 60 mg/kg bw	NOAEL = 60 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 125 mg/kg bw	LOAEL = 125 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		

出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat F344/N	Rat F344/N
性別	MF	MF
投与量	60 及び 120 mg/kg bw/d	60 or 120 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数	投与群ごと50匹	50 per dose group.
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	721日	Exposure period: 103 w
投与頻度	5 日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件	詳細は英文参照	<p>Test Subjects:</p> <ul style="list-style-type: none"> Age at study initiation: 7 wks. No. of animals per sex per dose: 50 per dose group. <p>Dose:</p> <p>Hepatic necrosis in 250 mg/kg dosed males in a thirteen-week study was considered potentially life-shortening and therefore precluded from inclusion in the two-year study.</p> <p>Study Design:</p> <ul style="list-style-type: none"> Satellite group: 15 sentinel animals/sex Clinical observations performed: body weight; clinical pathology Organs examined at necropsy: <p>macroscopic: all major tissues or organs including eyes, thigh muscle, and spinal chord.</p> <p>microscopic: tissue masses, abnormal lymph nodes, mammary gland, salivary gland, bone marrow, sternbrae, femur or vertebrae, thymus, trachea, lungs and bronchi, heart, thyroid, parathyroid, esophageus, stomach, small intestine, colon, liver, pancreas, spleen, kidneys, adrenals, urinary bladder, prostate/testes or ovaries/uterus, brain, and pituitary, eyes, thigh muscle, and spinal chord (only if grossly abnormal).</p>
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	高用量群の雄では、体重増加が1週間目から直ちに現れた。詳細は英文参照	<p>Body weight:</p> <p>High-dosed male rats showed an immediate slight decrease in body weight gain at week-1 (~3%) which persisted at weeks 22 and 60 (~5%) recovering at week 99 (~1%), while females experienced an increase in weight gain (+3 to +11%) for the same period. These changes were not statistically significant.</p>
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	雄の対照群 8/50、低用量群14/50及び高用量群では 31/50が死亡した。詳細は英文参照	<p>Mortality and time to death:</p> <p>In males 8/50 controls, 14/50 low dose and 31/50 high dosed animals died.</p> <p>At the highest dose, male rats exhibited a significant decrease ($p < 0.001$) in survival, however, 5 of these deaths were accidental and 12 others were attributed to handling/gavage errors.</p> <p>The survival of female rats was similar to control animals (19/50 controls, 17/50 low dose and 18/50 high dose females died.)</p>
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	詳細は英文参照	<p>Histopathology:</p> <p>Histological examination in both sexes revealed no increase in non-neoplastic lesions in the liver, kidney, bone marrow, spleen, thymus or other organs.</p> <p>Although the incidence of pheochromocytoma in males was increased in the low-dose group (16/50) the high-dose incidence (6/49) was lower than the control animals (9/50) with no significant dose-response trend being evident</p>
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		

NOAEL (NOEL)	NOAEL = 120 mg/kg bw	NOAEL = 120 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	腫瘍性の影響なし: NOAEL (雌雄): 120 mg/kg bw/day LOAEL (雌雄) いずれの濃度においても処理に関連する病理学はみられなかった。 調査の条件下では、1,2-ジクロロベンゼンはラットにおいて発がん性があるとみなされなかった。	Non-neoplastic Effects: NOAEL (male & female): 120 mg/kg bw/day LOAEL (male & female) no treatment-related pathologies observed at any dose Under the conditions of the study, 1,2-DCB was not considered to be carcinogenic in rats;
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	M	M
投与量	0.001, 0.01 及び 0.1 mg/kg bw/d	0.001, 0.01 or 0.1 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: other: yes, concurrent vehicle (sunflower oil)
投与期間	9ヶ月	Exposure period: 9 months
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性	0.001 mg/kg bw/d: 毒性影響なし; 0.01 mg/kg bw/d: 同様なが、0.1 mg/kg bw/d-群においてみられるような明確な影響はみられていない(それ以上のデータなし)。 0.1 mg/kg bw/d: 高次神経活動の抑制; 赤血球生成の統計的有意な抑制; 血小板増多症; 骨髄における有糸分裂活動の抑制; 好中球減少症; 尿における17-ケトステロイドの著明な増加; 副腎の重量係数の増加; 副腎におけるビタミンC濃度の減少; 血清におけるアルカリフォスファターゼ活性及びトランスアミナーゼ活性の増加; 全血液におけるSH群の減少; 肝臓及び腎臓におけるアルカリフォスファターゼのレベルの著明な減少及び酸性フォスファターゼのレベルの中度の減少; 肝臓及び腎臓におけるジトリホスホビリジンスクレオチド(DPN及びTPN)、コハク酸脱水素酵素、グルコース-6-フォスファターゼ及びα-グリセロリン酸の肝臓及び尿中の濃度の減少; γグロブリンの増加(提供されたデータなし)	0.001 mg/kg bw/d: no toxic effects; 0.01 mg/kg bw/d: similar but less pronounced effects as seen in the 0.1 mg/kg bw/d-group (no further data) 0.1 mg/kg bw/d: inhibition of higher nervous activity; statistically significant inhibition of erythropoiesis; thrombocytosis; inhibition of mitotic activity in the bone marrow; neutropenia; marked increase of 17-ketosteroids in the urine; increase in the weight coefficient of the adrenals; reduced vitamin C concentration in the adrenals; increase in the blood serum activity of alkaline phosphatase and transaminase; decrease in the SH groups in whole blood; markedly reduced levels of alkaline phosphatase and moderately increased levels of acid phosphatase in the liver and kidneys; decrease in the hepatic and renal concentrations of di-triphosphopyridinenucleotides (DPN and TPN), succinic dehydrogenase, glucose-6-phosphatase and alpha-glycerophosphate in the liver and kidneys; increase in gamma globulin (no data provided)
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS

信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	84	84
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat Wistar	Rat Wistar
性別	F	F
投与量	250 mg/kg bw/d	250 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 特定されない経口	選択してください oral unspecified
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: other: yes, concurrent vehicle (2% tragacanth gum solution)
投与期間	3日	Exposure period: 3 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時 期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤 度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	肝臓の相対重量における有意な増加	Significant increase in the relative liver weight
病理組織学的所見(発生率、重篤 度)	肝臓のグリコーゲン及びトリグリセリド量に有意な影響なし; 肝臓のミクロソーム蛋白質含有量の有意な増加; 肝臓のシトクロムP-450又はシトクロムb5含有量の有意な変化なし; 肝臓の薬物代謝酵素における影響: アミノピリンN-脱メチル酵素活性及びデルタアミノレブリン酸シン セターゼ活性は有意に高まった。 アニリンのヒドロキシラーゼ酵素活性の有意な変化なし	hepatic glycogen and triglyceride contents not significantly affected; significant increase in hepatic microsomal protein content; no significant change of the hepatic cytochrome P-450 or cytochrome b5 content; effects on hepatic drug-metabolizing enzymes: activity of aminopyrine demethylase and of delta-aminolevulinic acid synthetase was significantly enhanced, activity of aniline hydroxylase not significantly changed
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Ariyoshi, T. et al., from the 5th Symp. on Drug Metabolism and Action, November 9 to 10, 1973 in Shizuoka, Japan	Ariyoshi, T. et al., from the 5th Symp. on Drug Metabolism and Action, November 9 to 10, 1973 in Shizuoka, Japan
引用文献(元文献)	85	85
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	不明	no data
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 特定されない経口	選択してください oral unspecified
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	60日もしくは120日	Exposure period: 60 d or 120 d
投与頻度	不明	Frequency of treatment: no data
回復期間	不明	Post exposure period: no data

試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	肝臓重量がわずかに増加した。	slightly increased liver weights
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	トリグリセリドレベルの増加: 肝臓におけるATPレベルの減少; 呼吸段階3の肝ミトコンドリアの呼吸制御の減少、呼吸段階4の肝ミトコンドリアの呼吸制御の増加	increased triglyceride levels; decrease in the level of ATP in the liver; decrease in the respiratory control of liver mitochondria in state 3 respiration, increase in the respiratory control of liver mitochondria in state 4 respiration
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	86	86
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98%	purity: 98 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	はい	はい
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat COBS-CD (SD) Br	Rat COBS-CD (SD) Br
性別	M	M
投与量	40, 200及び 1000 mg/kg bw/d	40, 200 or 1000 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
コントロールグループに対する処理	皮下 あり	s.c. Control Group: yes
投与期間	16日	Exposure period: 16 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	1000 mg/kg bw/d: 体重増加量の減少	1000 mg/kg bw/d: decreased body weight gain
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	1000 mg/kg bw/d: 死亡率の増加	1000 mg/kg bw/d: increased mortality
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	200及び1000 mg/kg bw/d: 肝臓の相対重量の有意な増加	200 and 1000 mg/kg bw/d: significant increases in relative liver weights
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	全用量レベル: 骨髄毒性影響も細胞毒性影響もなし(骨髄細胞への有意な染色体損傷はみられない)	all dose levels: no myelotoxic or cytogenetic effects (no significant chromosomal damage to bone marrow cells observable)
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 40 mg/kg bw	NOAEL = 40 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Reustle, J.A. and Scribner, H.E. (1979): o-Dichlorobenzene; Myelotoxicity and cytogenetic study in rats. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania. EPA/OTS Doc. No. 878212182, 1-71	Reustle, J.A. and Scribner, H.E. (1979): o-Dichlorobenzene; Myelotoxicity and cytogenetic study in rats. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania. EPA/OTS Doc. No. 878212182, 1-71
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99%
注釈		purity: 99%
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
	Swiss	Swiss
性別	M	M
投与量	64 及び 163 ppm (それぞれ385 と 980 mg/m3)	64 and 163 ppm (385 and 980 mg/m3 respectively)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
	吸入	inhalation
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: air-exposed control
投与期間	4, 9, 14日	Exposure period: 4 d, 9 d or 14 d
投与頻度	6 時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 6 h/d, 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	全用量で病変により影響された背側鼻道における嗅上皮; 嗅上皮の完全な消失、部分的に剥ぎ取られた基底膜のみの除去; 病変の重篤度の等級は、暴露4日で極めて重度、暴露9日で重度、暴露14日で中等度; 呼吸上皮は気管及び肺と同様に影響を受けなかった。	Olfactory epithelium in the dorsal meatus affected by lesions at all doses; complete loss of olfactory epithelium, leaving only the partly denuded basement membrane; lesion severity graded as very severe at 4 d exposure, severe at 9 d exposure, moderate at 14 day exposure; respiratory epithelium remained unaffected as did the trachea & lungs
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	87	87
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
	B6C3F1	B6C3F1
性別	MF	MF
投与量	250, 500, 1000, 2000及び 4000 mg/kg bw/d	250, 500, 1000, 2000 or 4000 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数	各群雄 5匹、雌 5匹のマウスを使用	groups of 5 male and 5 female mice were used
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	14日	Exposure period: 14 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	2日	Post exposure period: 2 d
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		

血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	処理された動物検体のほとんどが死亡した。	Most of the treated animals died
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	250 mg/kg bw/d: 試験した雌の1/3において肝臓の壊死; 試験した雄の1/3において肝細胞の変性; 500 mg/kg bw/d: 試験した雄の3/3において肝臓の壊死	250 mg/kg bw/d: hepatic necrosis in 1/3 females examined; hepatocellular degeneration in 1/3 males examined; 500 mg/kg bw/d: hepatic necrosis in 3/3 males examined
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 250 mg/kg bw	LOAEL = 250 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse B6C3F1	Mouse B6C3F1
性別	MF	MF
投与量	30, 60, 125, 250 及び 500 mg/kg bw/d	30, 60, 125, 250 or 500 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数	各群雄 5匹、雌 5匹のマウスを使用	groups of 5 male and 5 female mice were used
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	14日	Exposure period: 14 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	2日	Post exposure period: 2 d
試験条件	高用量の4匹の雌雄の組織が、組織学的に試験された。	tissues of 4 high dose male and females were examined
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	全用量群: 平均体重は群間で同等	all dose groups: mean body weights comparable among groups
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	125 mg/kg bw/d: 雌1匹が死亡 500 mg/kg bw/d: 雄1匹が死亡	125 mg/kg bw/d: death of one female animal 500 mg/kg bw/d: death of one male animal
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	500 mg/kg bw/d: 組織学試験の結果: 雄2/4匹における軽度の肝細胞の壊死、雌1/4匹における中等度の肝病巣の壊死、雌1/4匹における軽度の多巣性肝炎、雌2/4匹における軽度の巨大細胞及び巨大核、雌1/4匹における肝細胞の変性	500 mg/kg bw/d: results of histological examination: mild hepatocellular necrosis in 2/4 males, moderate focal hepatic necrosis in 1/4 females, mild multifocal hepatitis in 1/4 females, mild cytomegaly and karyomegaly in 2/4 females, hepatocellular degeneration in 1/4 females
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 60 mg/kg bw	NOAEL = 60 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 125 mg/kg bw	LOAEL = 125 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse B6C3F1	Mouse B6C3F1
性別	MF	MF
投与量	30, 60, 125, 250 及び 500 mg/kg bw/d	30, 60, 125, 250 or 500 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数	各群雄10匹、雌10匹のマウスが使用された	groups of 10 male and 10 female mice were used
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	91日	Exposure period: 13 w
投与頻度	5 日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	500 mg/kg bw/d: 体重増加量及び最終体重は、対照群に比較し低下した。	500 mg/kg bw/d: weight gains and final body weights depressed relative to controls
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)	全用量群: 血液学的数値において唯一軽度の変化	all dose groups: only minor changes in haematology values
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)	500 mg/kg bw/d: コプロポルフィリンの尿濃度は、雌において対照群よりも3倍高かった。	500 mg/kg bw/d: urinary concentration of coproporphyrin three times higher in female mice than in controls
死亡数(率)、死亡時間	250 mg/kg bw/d: 雄1匹が死亡 500 mg/kg bw/d: 雄4匹及び雌3匹が死亡	250 mg/kg bw/d: death of one male animal 500 mg/kg bw/d: death of four males and three females
剖検所見(発生率、重篤度)	全用量群: 剖検でみられる矛盾のない肉眼的病変はなし	all dose groups: no consistent gross lesions observable at necropsy
臓器重量	全用量群: 雌において脾臓の相対重量の減少 500 mg/kg bw/d: 肝臓の相対重量の有意な増加	all dose groups: decrease in relative spleen weights in female mice 500 mg/kg bw/d: significant increase in relative liver weights
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	125 mg/kg bw/d: 肝臓又は他の臓器における化合物に関連する病変はなし 250 mg/kg bw/d: 雄において化合物に関連する肝臓病変: 雄2/10において個々の肝細胞の壊死がみられた。雄1/10において肝細胞の変性がみられた。雄1/10において色素沈着がみられた。 500 mg/kg bw/d: 雌においてボルフィリンの肝臓の濃度が2倍に増加; 顕微鏡所見: 雄9/10及び雌9/10において、小葉中心性の肝臓の壊死、個々の肝細胞の壊死又は肝細胞の変性; 雄3/10及び雌8/10の心臓において、心筋線維の鉱質沈着の複数の病巣; 骨格筋において、いくつかの壊死、筋肉炎及び鉱質沈着; 雄2/10及び雌2/10の胸腺において、リンパ球枯渇がみられた。; 雄4/10及び雌2/10の脾臓において、リンパ球枯渇がみられた。; 雌1/10の脾臓においてリンパ球の壊死; 雄4/10及び雌2/10の肝臓において、ヘモジデリンの沈着	125 mg/kg bw/d: no compound-related lesions in livers or other organs 250 mg/kg bw/d: compound-related hepatic lesions in males: necrosis of individual hepatocytes observed in 2/10 males, hepatocellular degeneration observed in 1/10 males, pigment deposition observed in 1/10 males 500 mg/kg bw/d: twofold increase in the hepatic concentration of porphyrins in females; microscopy findings: centrolobular hepatic necrosis, necrosis of individual hepatocytes or hepatocellular degeneration observed in 9/10 males and 9/10 females; multiple foci of mineralization of myocardial fibers in the hearts of 3/10 males and 8/10 females; some necrosis, myositis and mineralization in skeletal muscle; lymphoid depletion observable in the thymus of 2/10 males and 2/10 females; lymphoid depletion observable in the spleen of 4/10 males and 2/10 females; necrosis of lymphocytes in the spleen in 1/10 females; deposits of hemosiderin in the livers of 4/10 males and 2/10 females
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL: 雄において125 mg/kg bw(雌においては特定されなかった。)	NOAEL: not identified in females and 125 mg/kg bw in males
LOAEL (LOEL)	LOAEL:雌において30 mg/kg bw及び雄において250 mg/kg bw	LOAEL: 30 mg/kg bw in females and 250 mg/kg bw in males
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse	Mouse
	B6C3F1	B6C3F1
性別	MF	MF
投与量	60及び 120 mg/kg bw/d	60 or 120 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
投与期間	721日	Exposure period: 103 w
投与頻度	5日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件	詳細は英文参照	<p>Test Subjects:</p> <ul style="list-style-type: none"> · Age at study initiation: 7 wks. · No. of animals per sex per dose: 50 per strain per sex per dose group. <p>Dose:</p> <p>Hepatic necrosis in 250 mg/kg dosed males in a thirteen-week study was considered potentially life-shortening and therefore precluded from inclusion in the two-year study.</p> <p>Study Design:</p> <ul style="list-style-type: none"> · Satellite group: 15 sentinel animals/sex · Clinical observations performed: body weight; clinical pathology · Organs examined at necropsy: macroscopic: all major tissues or organs including eyes, thigh muscle, and spinal chord. microscopic: tissue masses, abnormal lymph nodes, mammary gland, salivary gland, bone marrow, sternbrae, femur or vertebrae, thymus, trachea, lungs and bronchi, heart, thyroid, parathyroid, esophageus, stomach, small intestine, colon, liver, gallbladder, pancreas, spleen, kidneys, adrenals, urinary bladder, prostate/testes or ovaries/uterus, brain, and pituitary, eyes, thigh muscle, and spinal chord (only if grossly abnormal).
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	雌雄のマウスの投与群と対照群の平均体重が、試験期間中に比較された。	<p>Body weight</p> <p>Mean body weights of dosed and control male and female mice were comparable throughout the study duration.</p>
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	雌雄のマウスの死亡率は対照群と同じであった。	<p>Mortality and time to death</p> <p>The survival of male and female mice was similar to control animals.</p>
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	<p>雄のマウスの腎臓の尿細管の再生に用量に関連した傾向 (control, 17%; low dose, 24%; high dose, 35%)がみられたが、統計学的な有意差は報告されていない。詳細は英文参照</p>	<p>Histopathology</p> <p>There appeared to be a dose-related trend in tubular regeneration of the kidney in male mice (control, 17%; low dose, 24%; high dose, 35%) however, statistical significance was not reported.</p> <p>The incidence of malignant histiocytic lymphoma in male (control, 0/50; low-dose, 1/50; high-dose 4/50) and female (control, 0/49; low-dose, 0/50; high-dose, 3/49) mice was significantly increased (p < 0.05).</p> <p>However, these findings were dismissed, as the numbers of animals with all types of lymphomas (combined), which is considered to be a better indicator, had not increased.</p>
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)	NOAEL = 60 mg/kg bw	NOAEL = 60 mg/kg bw
LOAEL (LOEL)	LOAEL = 120 mg/kg bw	LOAEL = 120 mg/kg bw
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等	<p>NOAEL: 雄の60 mg/kg bw/day群及び雌の120 mg/kg bw/day群において腫瘍影響なし。</p> <p>LOAEL: 雄の120 mg/kg bw/day群(尿細管の再生の増加); メスにおいていずれの用量においても処理に関連する病理学所見はみられなかった。</p> <p>調査の条件下で、1,2-ジクロロベンゼンはマウスに発がん性があるとはみなされなかった。</p>	<p>NOAEL: Non-neoplastic effects at 60 mg/kg bw/day in males; 120 mg/kg bw/day in females</p> <p>LOAEL: 120 mg/kg bw/day (increased tubular regeneration) in males; no treatment-related pathologies observed at any dose in females</p> <p>Under the conditions of the study, 1,2-DCB was not considered to be carcinogenic in mice.</p>
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください

キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit 不明	Rabbit 不明
性別	MF	MF
投与量	93 ppm (= ca. 0.569 mg/l)	93 ppm (= ca. 0.569 mg/l)
各用量群(性別)の動物数	雌雄2匹のウサギを使用	2 rabbits of each sex were used
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
コントロールグループに対する処理	吸入 あり	inhalation Control Group: other: air-exposed control
投与期間	6-7ヶ月	Exposure period: ranging from 6 to 7 months
投与頻度	7 時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 7 h/d, 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	次の基準により判断された有害影響はなし: 成長	no adverse effects as judged by the criteria which follow: growth
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	次の基準により判断された有害影響はなし: 肉眼形態、行動	no adverse effects as judged by the criteria which follow: gross appearance, behaviour
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 雌の血液尿素窒素の最終値、血液学データ	no adverse effects as judged by the criteria which follow: terminal blood urea nitrogen values for females, haematological data
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 雌における、血液、糖、アルブミン及び沈殿物の定性的尿検査、雌の血液尿素窒素の最終値	no adverse effects as judged by the criteria which follow: qualitative urine tests on females for blood, sugar, albumin and sediment, terminal blood urea nitrogen values for females
死亡数(率)、死亡時間	次の基準により判断された有害影響はなし: 死亡率	no adverse effects as judged by the criteria which follow: mortality
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	次の基準により判断された有害影響はなし: 臓器重量調査	no adverse effects as judged by the criteria which follow: organ-weight studies
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 組織の肉眼的及び顕微鏡的試験	no adverse effects as judged by the criteria which follow: gross and microscopic examination of the tissues
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit 不明	Rabbit 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	0.05 mg/l	0.05 mg/l
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
コントロールグループに対する処理	吸入 不明	inhalation Control Group: no data specified
投与期間	7ヶ月	Exposure period: 7 months
投与頻度	4時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 4 h/d, 5 d/w
回復期間	不明	Post exposure period: no data

試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	o-ジクロロベンゼンの感作性の可能性が発見された。感作性は、いずれの全身性の有害作用の示唆もない中毒の初期段階で明らかになった。中毒の所見が現れた際、アレルギー試験は陰性であったが、実験中止時近くで再び陽性になった。	a sensitizing potential of o-dichlorobenzene was discovered; sensitization became obvious at early stages of poisoning in the absence of any pointers to systemic toxic action; as the signs of intoxication developed, allergic tests became negative but again took on a positive value closer to the cessation of experiment;
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	o-ジクロロベンゼンは、赤血球溶解物に対する抗体及び腎臓の組織由来の自己抗原に対する抗組織抗体の産生を引き起こす(それ以上のデータなし)。	o-dichlorobenzene triggered the production of antibodies to erythrocyte lysate and of antitissue antibodies to autoantigens from the renal tissue (no further data)
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Shmutter, L.M. and Genes, V.S.: in Issues of experimental and clinical pathology. (ed. T.V. Mitin). L vov; L vov Medical Institute, 1980: IV 135-136: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Shmutter, L.M. and Genes, V.S.: in Issues of experimental and clinical pathology. (ed. T.V. Mitin). L vov; L vov Medical Institute, 1980: IV 135-136: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit	Rabbit
性別	不明	不明
投与量	選択してください	選択してください
投与量	0.05 mg/l	0.05 mg/l
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes
投与期間	7-8ヶ月	Exposure period: 7-8 months
投与頻度	4時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 4 h/d, 5 d/w
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	副腎皮質機能への影響: 暴露3ヶ月及び5ヶ月において、11-オキシコルチコステロイドの血漿レベルの少しの増加	effects on adrenal cortex function: short increase in the blood plasma level of 11-oxycorticosteroids at 3 and 5 months of exposure
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください

キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Burlaka-Vovk, Z.I. et al.: in Endocrine system and toxic environmental factors. Leningrad; 1980: 19-23: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)	Burlaka-Vovk, Z.I. et al.: in Endocrine system and toxic environmental factors. Leningrad; 1980: 19-23: cited in Chlorobenzenes (Series "Scientific Reviews of Soviet Literature of Toxicity and Hazards of Chemicals"), edited by Izmerov, N.F., Centre for International Projects, GKNT, Moscow, 1988; data compiled by Vasilenko, N.M. and Semiletkina, N.N. (number of issue: 108)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	希釈されないo-ジクロロベンゼン (それ以上のデータなし)	undiluted o-dichlorobenzene (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit New Zealand (no further data)	Rabbit New Zealand (no further data)
性別	F	F
投与量	0.1 ml/animal/d	0.1 ml/animal/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	経皮	経皮
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: yes
投与期間	5日	Exposure period: 5 d
投与頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
回復期間	12 日	Post exposure period: 12 d
試験条件	1,2-DCBの0.1mlを毎日2匹のウサギの耳の内部に塗布した。	the inner aspect of the ear of 2 rabbits was painted daily with 0.1 ml of 1,2-DCB
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	1,2-ジクロロベンゼンにはクロロアクネ遺伝子特性(chloracnegenic properties)がなかった。； ラビットにおける全身毒性影響は記録されなかった。； 異常(それ以上のデータなし)	1,2-DCB had no chloracnegenic properties; no systemic toxic effects were noted in the rabbits; the abnormalities (no further data)
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	88	88
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rabbit 不明	Rabbit 不明
性別	選択してください	選択してください
投与量	不明	unspecified
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 皮下	選択してください s.c.
コントロールグループに対する処理	不明	Control Group: no data specified
投与期間	不明	Exposure period: unspecified
投与頻度	反復投与 (それ以上のデータなし)	Frequency of treatment: repeated administration (no further data)
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		

統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	赤血球への影響が少ない又はない、無顆粒球症によって特徴付けられた血液疾患	blood dyscrasias characterized by agranulocytosis, with little or no effect on red blood cells
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Ware, S.A. and West, W.L. (1977): Investigation of selected potential environmental contaminants: Halogenated benzenes. Prepared by Ebon Research Systems under Contract No. 68-01-4183. OTS, U.S. EPA, Washington, DC. EPA 560/2-77-004. NTIS PB 273 206, p. 198	Ware, S.A. and West, W.L. (1977): Investigation of selected potential environmental contaminants: Halogenated benzenes. Prepared by Ebon Research Systems under Contract No. 68-01-4183. OTS, U.S. EPA, Washington, DC. EPA 560/2-77-004. NTIS PB 273 206, p. 198
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Dog 不明	Dog 不明
性別	M	M
投与量	2 ml/m3 (= 約 2.64 mg/l)	2 ml per cubic metre (= ca. 2.64 mg/l)
各用量群(性別)の動物数	試験には一匹の動物が使用された	one animal was used in the study
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	なし	Control Group: no
投与期間	14日	Exposure period: 14 d
投与頻度	毎日、2時間/日	Frequency of treatment: daily, 2 h/d
回復期間	不明	Post exposure period: no data
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	毒性の所見なし	no signs of toxicity were observable
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	89	89
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		

方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Guinea Pig 不明	Guinea Pig 不明
性別	MF	MF
投与量	49 ppm (= 約 0.3 mg/l)及び 93 ppm (=約 0.569 mg/l)	49 ppm (= ca. 0.3 mg/l) and 93 ppm (=ca. 0.569 mg/l)
各用量群(性別)の動物数	8 per sex	8 per sex
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: other: air-exposed control
投与期間	6-7ヶ月	Exposure period: ranging from 6 to 7 months
投与頻度	7 時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 7 h/d, 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	93 ppmにおいて、両性に対し、成長に対する有害影響はなかった。	At 93 ppm there was no adverse effects for both sexes as determined by growth
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	93 ppmにおいて、両性に対し、肉眼形態、組織(不明)の肉眼的および顕微鏡的試験、行動に関する有害影響はなかった。	At 93 ppm there was no adverse effects for both sexes as determined by gross appearance, gross and microscopic examination of (unspecified) tissues, behaviour
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)	93 ppmにおいて、雌によって測定され、両性に対する有害影響はなかった。：加えて、雌における、血液、糖、アルブミン、沈殿物の定性的尿検査、及び血液尿素窒素の最終値は正常であった。	At 93 ppm there was no adverse effects for both sexes as determined by females: in addition, qualitative urine tests in females for blood, sugar, albumin, sediment, and terminal blood urea nitrogen values were normal
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	93 ppmにおいて、両性に対し、行動に関する有害影響はなかった。	At 93 ppm there was no adverse effects for both sexes as determined by mortality
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	93 ppmにおいて、形態学における変化なく、雄の脾臓の平均重量が減少した。 93 ppmにおいて、両性に対し、臓器重量に関する有害影響はなかった。	At 93 ppm there was a decrease in the average male splenic weight with no change in morphology At 93 ppm there was no adverse effects for both sexes as determined by organ weight
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性	49 ppmにおいて有害影響はみられなかった。	no adverse effects were seen at 49 ppm
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99 %以上	purity: at least 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Monkey 不明	Monkey 不明
性別	F	F
投与量	93 ppm (= 約 0.569 mg/l)	93 ppm (= ca. 0.569 mg/l)
各用量群(性別)の動物数	2 匹のサルが使用された	2 monkeys were used
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
コントロールグループに対する処理	あり	Control Group: other: air-exposed control
投与期間	6-7ヶ月	Exposure period: ranging from 6 to 7 months
投与頻度	7 時間/日, 5日/週	Frequency of treatment: 7 h/d, 5 d/w
回復期間	なし	Post exposure period: no
試験条件		
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	次の基準により判断された有害影響はなし: 成長	no adverse effects as judged by the criteria which follow: growth
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	次の基準により判断された有害影響はなし: 肉眼形態、行動	no adverse effects as judged by the criteria which follow: gross appearance, behaviour
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		

血液生化学的所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 血液学データ	no adverse effects as judged by the criteria which follow: haematological data,
尿検査所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 血液、糖、アルブミン及び沈殿物の定性的尿検査	no adverse effects as judged by the criteria which follow: qualitative urine tests for blood, sugar, albumin and sediment,
死亡数(率)、死亡時間	次の基準により判断された有害影響はなし: 死亡率	no adverse effects as judged by the criteria which follow: mortality,
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量	次の基準により判断された有害影響はなし: 臓器重量調査	no adverse effects as judged by the criteria which follow: organ-weight studies
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	次の基準により判断された有害影響はなし: 組織の肉眼的及び顕微鏡的試験	no adverse effects as judged by the criteria which follow: gross and microscopic examination of the tissues
実際に摂取された量		
用量反応性		
NOAEL/LOAELの推定根拠		
注釈		
結論		
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
雌雄のNOAEL(LOAEL)の違い等		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

5-6 *in vitro*遺伝毒性

A. 遺伝子突然変異

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: Ames test	選択してください Type: Ames test
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください 8 strains of Salmonella typhimurium	選択してください 8 strains of Salmonella typhimurium
代謝活性化(S9)の有無	無	無
試験条件	詳細は英文参照	Concentration: approximately 1 to 5 ul/plate Cytotoxic Concentration: no data Metabolic activation: without
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	90	90
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: Ames test	選択してください Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください Salmonella typhimurium TA 98, TA 100, UTH 8414, UTH 8413	選択してください Salmonella typhimurium TA 98, TA 100, UTH 8414, UTH 8413
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	詳細は英文参照	Concentration: 50-2000 ug/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	91	91
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈	95%	purity: 95 %
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
	タイプ: Ames test	Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 1-100 ug/plate	Concentration: 1-100 ug/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	92	92
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
	タイプ: Ames test	Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
	Salmonella typhimurium TA 97, TA 102, TA 1538	Salmonella typhimurium TA 97, TA 102, TA 1538
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度 不明	Concentration: no data
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	93	93
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
	タイプ: Ames test	Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
	Salmonella typhimurium TA 1538	Salmonella typhimurium TA 1538
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	5つの用量で試験された	Concentration: the compound was tested at five doses (no further data)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	94	94
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: SOS阻害試験 (DNA 損傷試験)	選択してください Type: umu test (DNA damage assay)
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください Salmonella typhimurium TA1535/pSK1002	選択してください Salmonella typhimurium TA1535/pSK1002
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	最高濃度435 ug/ml	Concentration: highest concentration of o-dichlorobenzene examined in this study:
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	95	95
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: Ames test	選択してください Type: Ames test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください Salmonella typhimurium TA 98, TA 100, TA 2637	選択してください Salmonella typhimurium TA 98, TA 100, TA 2637
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 0.005-0.5 mg/plate	Concentration: 0.005-0.5 mg/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	96	96
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: SOS阻害試験 (DNA 損傷試験)	選択してください Type: umu test (DNA damage assay)
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください Salmonella typhimurium TA1535/pSK1002	選択してください Salmonella typhimurium TA1535/pSK1002
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 100 ug/ml	Concentration: 100 ug/ml
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	97	97
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	o-ジクロロベンゼンは「比較的純粋」(それ以上のデータなし)	o-dichlorobenzene was [relatively pure] (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
細胞株又は検定菌	選択してください	選択してください
代謝活性化(S9)の有無	Aspergillus nidulans	Aspergillus nidulans
試験条件	濃度: 200 ug/ml 代謝活性: なし	Concentration: 200 ug/ml Metabolic activation: without
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	98, 99	98, 99
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98%	purity: 98 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	タイプ: Ames test	Type: Ames test
試験を行った年	不明	不明
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
代謝活性化(S9)の有無	Salmonella typhimurium TA 1538	Salmonella typhimurium TA 1538
試験条件	濃度: 0.02, 0.04, 0.08, 0.16, 0.32, 0.64, 1.28及び 2.56 ul/plate。詳細は英文参照	Concentration: 0.02, 0.04, 0.08, 0.16, 0.32, 0.64, 1.28 or 2.56 ul/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	100	100
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	95%	purity: 95 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	タイプ: Ames test	Type: Ames test
試験を行った年	不明	不明
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100)
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	詳細は英文参照	Concentration: 3.3, 10.0, 33.0, 100 or 333.0 ug/plate (exception: strain TA 100, no activation: 100.0, 1000.0, 10000.0 or 13000.0 ug/plate)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)	101、102	101、102
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	工業用グレードもしくは同等品(それ以上の情報なし)	technical grade product or equivalent (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	タイプ: Ames test	Type: Ames test
試験を行った年	不明	不明
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) Salmonella typhimurium TA 1538	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) Salmonella typhimurium TA 1538
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: in this assay each chemical was usually tested at a minimum of six concentrations, with the highest non-toxic concentration tested being 10 mg/plate (no further data)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	103	103
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	タイプ: Ames test	Type: Ames test
試験を行った年	不明	不明
細胞株又は検定菌	選択してください	選択してください
代謝活性化(S9)の有無	Salmonella typhimurium TA 100	Salmonella typhimurium TA 100
試験条件	濃度: 0.001-5.0 ul/plate	Concentration: 0.001-5.0 ul/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	o-Dichlorobenzene. Microbial Mutagen Test; Report of the Rohm and Haas Company, Pennsylvania (1979); EPA/OTS Doc. No. 878212181	o-Dichlorobenzene. Microbial Mutagen Test; Report of the Rohm and Haas Company, Pennsylvania (1979); EPA/OTS Doc. No. 878212181
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
GLP適合	タイプ: Ames test	Type: Ames test
試験を行った年	不明	不明
細胞株又は検定菌	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) Salmonella typhimurium TA 1538	S. typhimurium 4種(TA 1535 & TA 1537 & TA 98 and TA 100) Salmonella typhimurium TA 1538
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 0.1, 1, 50 及び 100 ul/plate	Concentration: 0.1, 1, 50 or 100 ul/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
変異原性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative

代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
遺伝子突然変異	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Litton Bionetics (1976): Mutagenicity evaluation of o-dichlorobenzene. Report submitted to Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania by Litton Bionetics, Inc., Kensington, Maryland, LBI Project No. 2547, EPA/OTS Doc. No. 878212180, 1-10	Litton Bionetics (1976): Mutagenicity evaluation of o-dichlorobenzene. Report submitted to Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania by Litton Bionetics, Inc., Kensington, Maryland, LBI Project No. 2547, EPA/OTS Doc. No. 878212180, 1-10
引用文献(元文献)		
備考		

B. 染色体異常

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細菌を用いるDNA損傷あるいは修復試験 タイプ: Microscreen prophage-induction assay;	Type: DNA damage and repair type: Microscreen prophage-induction assay;
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Prophage-induction in Escherichia coli	Prophage-induction in Escherichia coli
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 431.78 - 221073.40 uM 細胞毒性濃度: 442146.79 uM	Concentration: 431.78 - 221073.40 uM Cytotoxic Concentration: 442146.79 uM
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	104	104
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.40%	purity: 99.4 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:姉妹染色分体交換試験	Type: Sister chromatid exchange assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	Chinese hamster Ovary (CHO)	Chinese hamster Ovary (CHO)
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: 5.9, 19.7 or 59 ug/ml (without metabolic activation) and 19.7, 59 or 197 ug/ml (with metabolic activation) or 300, 400 or 500 ug/ml (with metabolic activation)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陽性	positive
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈	代謝活性なしの場合に陰性反応がみられ、代謝活性ありの場合に陽性反応がみられた。	a negative response was observed without metabolic activation, a positive response was observed with metabolic activation
結論		
染色体異常	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	101、105	101、105
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.40%	purity: 99.4 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 染色体異常試験 タイプ: 染色体異常試験(chromosomal aberration assay)	Type: Cytogenetic assay type: chromosomal aberration assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	Chinese hamster Ovary (CHO)	Chinese hamster Ovary (CHO)

代謝活性化 (S9) の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: 20.2, 60.5 or 202 ug/ml (without metabolic activation) and 20.2, 60, 152, or 202 ug/ml (with metabolic activation)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	101、105	101、105
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Bacillus subtilisを用いる 有糸分裂組換え試験	Type: Bacillus subtilis recombination assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Bacillus subtilis strain H 17 (arg-, trp-, recE+) and Bacillus subtilis strain M 45 (arg-, trp-, recE-)	Bacillus subtilis strain H 17 (arg-, trp-, recE+) and Bacillus subtilis strain M 45 (arg-, trp-, recE-)
代謝活性化 (S9) の有無	有	有
試験条件	濃度: 0.6 ml	Concentration: 0.6 ml
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陽性	positive
注釈	1,2-ジクロロベンゼンはS9活性なしの場合にDNA損傷能力を示したが、S9活性ありの場合には損傷能力を示さなかった。	1,2-DCB showed DNA damaging potential without S9 activation but showed no damaging potential with S9 activation
結論		
染色体異常	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	106	106
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: バクテリアを用いたバイオルミネッセンス試験	Type: bacterial bioluminescence assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Photobacterium phosphoreumの1系統	one strain of Photobacterium phosphoreum
代謝活性化 (S9) の有無	不明	不明
試験条件	濃度不明	Concentration: no data
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	107	107
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: その他	Type: other
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	HeLa cells	HeLa cells

代謝活性化(S9)の有無	不明	不明
試験条件	濃度: 350 ug/ml	Concentration: 350 ug/ml
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈	暴露されていないHeLa細胞において、1,2-ジクロロベンゼンはアミノ酸とウリジンの結合を著しく抑制した。; HeLa細胞は、投与量350 ug/mlの1,2-ジクロロベンゼンに30分間暴露され、[3H]ウリジン及び14Cラベルされたアミノ酸のRNAと蛋白質の中の結合に対する影響が確認された。	1,2-DCB markedly inhibited the amino acid and uridine incorporation in unexposed HeLa cells; HeLa cells were exposed for 30 minutes to 350 ug/ml dosages of 1,2-DCB and the effects on [3H]uridine and 14C-labeled amino acids incorporation into RNA and protein were determined
結論		
染色体異常	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	108	108
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: マウスリンパ腫を用いる遺伝子突然変異試験	Type: Mouse lymphoma assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	Mouse lymphoma L5178Y cells	Mouse lymphoma L5178Y cells
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: 3.25, 6.5, 13, 26, 39, 52, 65, 78, 104 or 130 ug/ml (without metabolic activation) and 6.5, 13, 26, 39, 52 or 78 ug/ml (with metabolic activation)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合	陽性	mutagenic
代謝活性なしの場合	陰性	nonmutagenic
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈	S9活性なしの場合、1,2-ジクロロベンゼンは変異原性なしとして評価された。; S9活性ありの場合、1,2-ジクロロベンゼンには変異原性がみられた。	without S9 activation, 1,2-DCB was evaluated as nonmutagenic; with metabolic activation, 1,2-DCB was found to be mutagenic
結論		
染色体異常	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	101、109	101、109
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: DNA 合成阻害試験	Type: inhibition of the DNA synthesis
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	human lymphocytes	human lymphocytes
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 1.47, 14.7もしくは 147 ug/ml	Concentration: 1.47, 14.7 or 147 ug/ml
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈	代謝活性なしの場合、1,2-ジクロロベンゼンは試験用量においてチミジンの取り込み量を著しく低下し、生存能力は対照群の15%であった。試験した全用量において、代謝活性ありの場合のチミジン取り込み量は変化のないままであった。1 mMにおいて、細胞生存能力は、代謝活性ありの場合に対照群の50%に低下した。	In the absence of metabolic activation, 1,2-DCB markedly reduced thymidine uptake at a dose studied and viability was 15 % of controls; thymidine uptake in the presence of metabolic activation remained unchanged at all doses studied; at 1 mM, cell viability decreased to 50 % of controls in the presence of metabolic activation
結論		
染色体異常	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		

引用文献(元文献)	110	110
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	工業用グレードもしくは同等品(それ以上のデータなし)	technical grade product or equivalent (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Escherichia coli を用いた復帰突然変異試験	Type: Escherichia coli reverse mutation assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Escherichia coli WP2 uvrA	Escherichia coli WP2 uvrA
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: in this assay, each test chemical was assayed at a minimum of six concentrations, with the highest non-toxic concentration tested being 10 mg/plate (no further data)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	103	103
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	工業用グレードもしくは同等品(それ以上のデータなし)	technical grade product or equivalent (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Differential toxicity assay	Type: Differential toxicity assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Escherichia coli p3478 (polA-) and W3110 (polA+)	Escherichia coli p3478 (polA-) and W3110 (polA+)
代謝活性化(S9)の有無	無	無
試験条件	英文参照	Concentration: at least two concentration levels of the test compound were used (no further data) Metabolic activation: without
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合	陽性	positive
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈		
結論		
染色体異常	陽性	陽性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	103	103
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	工業用グレードもしくは同等品(それ以上のデータなし)	technical grade product or equivalent (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Bacillus subtilisを用いる組換え試験	Type: Bacillus subtilis recombination assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	Bacillus subtilis M45 (recA-) and H17 (recA+)	Bacillus subtilis M45 (recA-) and H17 (recA+)
代謝活性化(S9)の有無	無	無
試験条件	代謝活性なし	Metabolic activation: without
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典		
引用文献(元文献)	103	103
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	工業用グレードもしくは同等品(それ以上のデータなし)	technical grade product or equivalent (no further data)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いる有糸分裂組換え試験	Type: Mitotic recombination in <i>Saccharomyces cerevisiae</i>
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> D3	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> D3
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	英文参照	Concentration: 5 concentrations of the test chemical were tested (no further data)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	103	103
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: DNA 損傷及び修復試験 method: autoradiographic hepatocyte/DNA-repair test	Type: DNA damage and repair assay method: autoradiographic hepatocyte/DNA-repair test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	primary rat hepatocytes	primary rat hepatocytes
代謝活性化(S9)の有無	不明	不明
試験条件	濃度 0.089 mM (= 13 mg/l)まで (最高無毒性濃度)	Concentration: up to 0.089 mM (= 13 mg/l) (highest nontoxic concentration)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Shimada, T. et al. (1983): Study of effects on cultured liver cells of three chlorinated benzenes. Report of the Naylor Dana Institute for Disease Prevention, American Health Foundation, Valhalla, New York. EPA/OTS Doc. No. 40-8420666, 1-41	Shimada, T. et al. (1983): Study of effects on cultured liver cells of three chlorinated benzenes. Report of the Naylor Dana Institute for Disease Prevention, American Health Foundation, Valhalla, New York. EPA/OTS Doc. No. 40-8420666, 1-41
引用文献(元文献)	111	111
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: <i>Saccharomyces cerevisiae</i> を用いる突然変異試験	Type: Gene mutation in <i>Saccharomyces cerevisiae</i>
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> D4	<i>Saccharomyces cerevisiae</i> D4
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 0.1, 1, 50 及び 100 ul/plate	Concentration: 0.1, 1, 50 or 100 ul/plate
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください

キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Litton Bionetics (1976): Mutagenicity evaluation of o-dichlorobenzene. Report submitted to Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania by Litton Bionetics, Inc., Kensington, Maryland, LBI Project No. 2547, EPA/OTS Doc. No. 878212180, 1-10	Litton Bionetics (1976): Mutagenicity evaluation of o-dichlorobenzene. Report submitted to Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania by Litton Bionetics, Inc., Kensington, Maryland, LBI Project No. 2547, EPA/OTS Doc. No. 878212180, 1-10
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.70%	purity: 99.7 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 染色体異常試験 タイプ: 染色体異常試験(chromosomal aberration assay)	Type: Cytogenetic assay type: chromosomal aberration assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	Chinese hamster Ovary (CHO)	Chinese hamster Ovary (CHO)
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 75, 100 及び 143 ug/ml	Concentration: 75, 100 or 143 ug/ml
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes - with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 161-181	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes - with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 161-181
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.70%	purity: 99.7 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: HGPRT 試験	Type: HGPRT assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	Chinese hamster Ovary (CHO)	Chinese hamster Ovary (CHO)
代謝活性化(S9)の有無	有	有
試験条件	濃度: 88-220 ug/ml (代謝活性有り無し)と 16-180 ug/ml (代謝活性有)	Concentration: 88-220 ug/ml (with and without metabolic activation) and 16-180 ug/ml (with metabolic activation)
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合	陰性	negative
代謝活性なしの場合	陰性	negative
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈		
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bioassay Systems Corp. (1984): In vitro gene mutation assay (HGPRT locus) in cultured Chinese hamster ovary cells on ortho-dichlorobenzene. EPA/OTS Doc. No. 40-8420664, 1-23	Bioassay Systems Corp. (1984): In vitro gene mutation assay (HGPRT locus) in cultured Chinese hamster ovary cells on ortho-dichlorobenzene. EPA/OTS Doc. No. 40-8420664, 1-23
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: in vivo-in vitroの複製DNA合成試験	Type: in vivo-in vitro replicative DNA synthesis assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
細胞株	選択してください	選択してください
代謝活性化(S9)の有無	[methyl-3H]-thymidine-incorporation in mouse hepatocytes	[methyl-3H]-thymidine-incorporation in mouse hepatocytes
	不明	不明

試験条件	濃度: 1000 mg/kg bw と 2000 mg/kg bw。詳細は英文参照	Concentration: 1000 mg/kg bw and 2000 mg/kg bw The role of 1,2-DCB as an inducer of DNA synthesis was assessed using an in vivo-in vitro replicative DNA synthesis assay with hepatocytes derived from male B6C3F1 mice; animals were administered 1,2-DCB (1000 or 2000 mg/kg bw) by gavage and hepatocytes prepared 24, 39 or 48 hours later; replicative DNA synthesis was assessed after the addition of [methyl-3H]-thymidine followed by autoradiography
結果		
細胞毒性		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
染色体異常		
代謝活性ありの場合		
代謝活性なしの場合		
注釈	全測定時刻において、結果は両用量レベルに対して陰性であった。	Results were negative for both doses at all time points
結論		
染色体異常	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	112	112
備考		

5-7 in vivo 遺伝毒性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98%	purity: 98 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: 染色体異常試験	選択してください type: chromosomal aberration assay
試験のタイプ	タイプ: 染色体異常試験	Type: Cytogenetic assay
GLP適合	はい	はい
試験を行った年		
	Rat	Rat
試験系(種／系統)	COBS-CD (SD) Br	COBS-CD (SD) Br
性別	M	M
投与量	40, 200および 1000 mg/kg bw/d	40, 200 or 1000 mg/kg bw/d
投与経路	選択してください 皮下	選択してください s.c.
試験期間	16日	Exposure period: 16 d
試験条件		
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果	o-ジクロロベンゼンは、いずれの用量においても、骨髓細胞中の染色体異常数について、対照と比較して統計的に有意な増加を誘発しなかった。	o-dichlorobenzene did not induce a statistically significant increase in the number of chromosomal aberrations in bone marrow cells relative to the control at any dose
注釈		
結論		
in vivo 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Reustle, J.A. and Scribner, H.E. (1979): o-Dichlorobenzene; Myelotoxicity and cytogenetic study in rats. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania. EPA/OTS Doc. No. 878212182, 1-71	Reustle, J.A. and Scribner, H.E. (1979): o-Dichlorobenzene; Myelotoxicity and cytogenetic study in rats. Report of the Toxicology Department, Rohm and Haas Company, Spring House, Pennsylvania. EPA/OTS Doc. No. 878212182, 1-71
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99.70%	purity: 99.7 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください タイプ: 染色体異常試験	選択してください type: chromosomal aberration assay
試験のタイプ	タイプ: 染色体異常試験	Type: Cytogenetic assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	Rat	Rat
試験系(種／系統)	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	MF	MF
投与量	150, 300及び 600 mg/kg bw (6 時間の試験) と 135, 270及び 540 mg/kg bw (12 時間と 24時間の試験)	150, 300 or 600 mg/kg bw (6 h assay) and 135, 270 or 540 mg/kg bw (12 h assay and 24 h assay)
投与経路	選択してください 腹腔内	選択してください i.p.
試験期間	6,12もしくは24時間	Exposure period: the animals received a single i.p. injection and were sacrificed 6, 12 or 24 h later

試験条件	英文参照	the objective of this study was to assess the ability of o-dichlorobenzene to induce chromosomal aberrations in rat bone marrow cells
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果	o-ジクロロベンゼンは、骨髓細胞中の染色体の切断又は異常の頻度を増加させなかった。	o-dichlorobenzene did not cause an increase in the frequency of chromosomal breaks or aberrations in the bone marrow cells
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes – with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 126-148	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes – with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 126-148
引用文献 (元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: ショウジョウバエを用いる伴性劣性致死試験	Type: Drosophila SLRL test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	その他	その他
試験系 (種／系統)	Drosophila melanogaster	Drosophila melanogaster
性別	M	M
投与量	2300, 2800, 4000及び 4300 ppm (= 14.03, 17.08, 24.4及び 26.23 mg/l)	2300, 2800, 4000 or 4300 ppm (= 14.03, 17.08, 24.4 or 26.23 mg/l)
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
試験期間	4時間と6時間の単回ばく露	Exposure period: single exposure for 4 h (concentrations: 2800, 4000 or 4300 ppm) or for 6 h (concentration: 2300 ppm)
試験条件	4時間(2800,4000または4300ppm)と6時間(2300ppm)	Exposure period: single exposure for 4 h (concentrations: 2800, 4000 or 4300 ppm) or for 6 h (concentration: 2300 ppm)
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果	o-ジクロロベンゼンは、伴性劣性致死突然変異を誘発しなかった。	o-dichlorobenzene did not induce sex-linked recessive lethal mutations
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes – with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 1-19	Bioassay Systems Corp. (1983): Nine reports regarding the effects of various chlorinated benzenes – with cover letter dated 051183. EPA/OTS Doc. No. 40-8320545, 1-19
引用文献 (元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: ショウジョウバエを用いる伴性劣性致死試験	Type: Drosophila SLRL test
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	その他	その他
試験系 (種／系統)	Drosophila melanogaster	Drosophila melanogaster
性別	不明	no data
投与量		
投与経路	選択してください	選択してください
試験期間		
試験条件		
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性

NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		99% purity: 99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: 小核試験	Type: Micronucleus assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	Mouse	Mouse
試験系 (種／系統)	NMRI	NMRI
性別	M	M
投与量	93.5, 187.5, 281及び 375 mg/kg bw	93.5, 187.5, 281 or 375 mg/kg bw
投与経路	選択してください	選択してください
	腹腔内	i.p.
試験期間	それぞれ24時間	24 hours apart
試験条件	英文参照	1,2-DCB was administered in two equal doses of 93.5, 187.5, 281 or 375 mg/kg bw, 24 hours apart; the animals were killed 30 hours after the first injection of 1,2-DCB
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果	1,2-ジクロロベンゼンは、大腿骨骨髓における小核を有した多染性赤血球の、用量に比例した増加を誘発した。	1,2-DCB induced a dose-related increase in the formation of micronucleated polychromatic erythrocytes, observed in femoral bone marrow
遺伝毒性効果	陽性	陽性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陽性	陽性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)		77
備考		77

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: 小核試験	Type: Micronucleus assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	Mouse	Mouse
試験系 (種／系統)	B6C3F1	B6C3F1
性別	M	M
投与量	50, 100, 150, 200及び 250 mg/kg bw/d	50, 100, 150, 200 or 250 mg/kg bw/d
投与経路	選択してください	選択してください
	腹腔内	i.p.
試験期間	3日	Exposure period: 3 d
試験条件	英文参照	this assay employed three daily exposures; bone marrow samples were obtained 24 hours following the final exposure
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)		113
備考		113

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: (white/white+) 眼モザイク試験	Type: (white/white+) eye mosaic assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	その他	その他
試験系(種／系統)	Drosophila melanogaster	Drosophila melanogaster
性別	F	F
投与量	500, 1000及び 2000 ppm (約 3, 6 or 12 mg/l)	500, 1000 or 2000 ppm (ca. 3, 6 or 12 mg/l)
投与経路	選択してください	選択してください
	吸入	inhalation
試験期間	17時間	Exposure period: 17 hours
試験条件		
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果		
遺伝毒性効果	陰性	陰性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果	陰性	Result: negative
注釈	2000 ppm = 致死用量 眼モザイク試験(w/w+)は、ショウジョウバエの幼虫の処理後にショウジョウバエの体細胞における遺伝的損傷を測定する、in vivoの短期試験である。	2000 ppm = lethal dose the (w/w+) eye mosaic assay is an in vivo short-term test measuring genetic damage in somatic cells of Drosophila after treatment of larvae
結論		
in vivo 遺伝毒性	陰性	陰性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
ギースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	114	114
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: (white/white+)眼モザイク試験	Type: (white/white+) eye mosaic assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	その他	その他
試験系(種／系統)	Drosophila melanogaster	Drosophila melanogaster
性別	F	F
投与量	5及び 10 mM	5 or 10 mM
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
	経口	oral feed
試験期間	慢性ばく露 (それ以上のデータなし)	Exposure period: chronic exposure (no further data)
試験条件		
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果	細胞毒性を伴わずかな陽性反応	marginally positive response associated with cytotoxicity
遺伝毒性効果	陽性	陽性
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈	10 mM = 致死用量 眼モザイク試験(w/w+)は、ショウジョウバエの幼虫の処理後にショウジョウバエの体細胞における遺伝的損傷を測定する、in vivoの短期試験である。	10 mM = lethal dose the (w/w+) eye mosaic assay is an in vivo short-term test measuring genetic damage in somatic cells of Drosophila after treatment of larvae
結論		
in vivo 遺伝毒性	陽性	陽性
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
ギースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	114	114
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	選択してください	選択してください
試験のタイプ	タイプ: DNA 損傷試験	Type: DNA damage assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
	Rat	Rat

試験系(種／系統)	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	F	F
投与量	100 及び 300 mg/kg bw	100 or 300 mg/kg bw
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
試験期間		
試験条件		
統計学的処理		
結果		
性別及び投与量別の結果	実験デザイン: アルカリ溶出による肝臓のDNA損傷; 雌ラットは、300 mg/kg bwの1,2-ジクロロベンゼンを2回投与された。 1回目の投与は屠殺21時間前に、2回目の投与は屠殺4時間前にそれぞれ行われた。 肝臓のDNA損傷の徴候は明白でなかった。	experimental design: hepatic DNA damage by alkaline elution; female rats received two doses of 300 mg/kg bw of 1,2-DCB; the first and second dose 21 and 4 h before sacrifice, respectively; no indications of hepatic DNA damage were evident
遺伝毒性効果	不確定	不確定
NOAEL (NOEL)		
LOAEL (LOEL)		
統計的結果		
注釈		
結論		
<i>in vivo</i> 遺伝毒性	不明	不明
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	115	115
備考		

5-8 発がん性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	F344/N	F344/N
投与量	MF	MF
各用量群(性別)の動物数	60, 120 mg/kg body weight (ばく露量: 5 ml/kg bw)	60, 120 mg/kg body weight (dose volume: 5 ml/kg bw)
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
処理頻度	5日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
コントロールグループと処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
試験条件	ばく露期間: 103週 回復期間: なし	Exposure period: 103 w Post exposure period: no
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	両性における組織学的試験は、肝臓、腎臓、骨髄、脾臓、胸腺、その他臓器において非腫瘍性病変の増加がないことを明らかにした。 雄の褐色細胞腫の誘発は低用量群において増加したが(16/50)、高用量群(6/49)における誘発は対照動物検体(9/50)よりも低く、有意な用量反応傾向の証拠にはならなかった。 試験の条件下では、1,2-ジクロロベンゼンはラットにおける発がん性があるとはみなされなかった。	Histological examination in both sexes revealed no increase in non-neoplastic lesions in the liver, kidney, bone marrow, spleen, thymus or other organs; although the incidence of pheochromocytoma in males was increased in the low-dose group (16/50) the high-dose incidence (6/49) was lower than the control animals (9/50) with no significant dose-response trend being evident; under the conditions of the study, 1,2-DCB was not considered to be carcinogenic in rats
実際に摂取された量		
腫瘍発生までの時間		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
実験動物における発がん性の有無	なし	なし
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.

引用文献(元文献)		
備考		
試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat 不明	Rat 不明
性別	M	M
投与量	0.001, 0.01及び 0.1 mg/kg bw/d	0.001, 0.01 or 0.1 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
処理頻度	毎日	Frequency of treatment: daily
コントロールグループと処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
試験条件	ばく露期間: 9ヶ月 回復期間: 不明	Exposure period: 9 months Post exposure period: no data
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	肉眼の組織学及び組織化学的データは、試験された濃度による発がん性の証拠を明らかにしなかった(それ以上のデータなし)。	the macroscopic, histological and histochemical data did not reveal evidence of carcinogenic activity with the concentrations investigated (no further data)
実際に摂取された量		
腫瘍発生までの時間		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
実験動物における発がん性の有無	なし	なし
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
ギースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	84	84
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99 %	purity: >99 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Mouse B6C3F1	Mouse B6C3F1
性別	MF	MF
投与量	60, 120 mg/kg body weight (ばく露量: 5 ml/kg bw)	60, 120 mg/kg body weight (dose volume: 5 ml/kg bw)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
処理頻度	5日/週	Frequency of treatment: 5 d/w
コントロールグループと処理	あり	Control Group: yes, concurrent vehicle
試験条件	ばく露期間: 103週 回復期間: なし	Exposure period: 103 w Post exposure period: no
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		

病理組織学的所見(発生率、重篤度)	雄の腎臓の尿細管再生における用量関連傾向がみられた(対照17%; 低用量24%; 高用量35%)が、統計的有意性は報告されなかった。 悪性組織球性リンパ腫の誘発は、雄(対照0/50; 低用量1/50; 高用量4/50)と雌(対照0/49; 低用量0/50; 高用量3/49)において有意に増加した($p < 0.05$)が、より良い指標であるとみなされるリンパ腫の全タイプ(合同)を伴う動物検体数が増加しなかったため、これらの知見は退けられた。 本試験の条件下では、B6C3F1マウスの雌雄に対する1,2-ジクロロベンゼンの発がん性の証拠はなかった。	There appeared to be a dose-related trend in tubular regeneration of the kidney in male mice (control, 17%; low dose, 24%; high dose, 35%) however, statistical significance was not reported; incidence of malignant histiocytic lymphoma in male (control, 0/50; low-dose, 1/50; high-dose 4/50) and female (control, 0/49; low-dose, 0/50; high-dose, 3/49) mice was significantly increased ($p < 0.05$) however, these findings were dismissed, as the numbers of animals with all types of lymphomas (combined), which is considered to be a better indicator, had not increased; under the conditions of this study, there was no evidence of carcinogenicity of 1,2-DCB for male or female B6C3F1 mice
実際に摂取された量		
腫瘍発生までの時間		
用量反応性	雄の腎臓の尿細管再生における用量関連傾向がみられた(対照17%; 低用量24%; 高用量35%)が、統計的有意性は報告されなかった。	There appeared to be a dose-related trend in tubular regeneration of the kidney in male mice (control, 17%; low dose, 24%; high dose, 35%) however, statistical significance was not reported;
統計的結果		
注釈		
結論		
実験動物における発がん性の有無	不明	不明
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.	NTP (1985) Toxicology and carcinogenesis studies of 1,2-dichlorobenzene (CAS No. 95-50-1) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Research Triangle Park, NC: National Toxicology Program. NTP TR-255. NIH Publication No. 86-2511.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	no data
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	注参照	Method: see remarks
試験のタイプ	initiation/promotion	initiation/promotion
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	MF	MF
投与量	1.0 mmol/kg bw (= 147 mg/kg bw)	1.0 mmol/kg bw (= 147 mg/kg bw)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
	腹腔内	i.p.
処理頻度	注参照	Frequency of treatment: see remarks
コントロールグループと処理	あり	Control Group: yes
試験条件	英文参照	Exposure period: see remarks Post exposure period: see remarks Remark: in an initiation-promotion bioassay (rat liver foci bioassay), 1,2-DCB was tested for its ability to enhance the incidence of diethylnitrosamine-initiated GGT foci (focal hepatic areas with increased gamma-glutamyltranspeptidase activity): the animals received a 2/3 partial hepatectomy followed 1 day later by oral (gavage) administration of 0.5 mmol/kg bw (= 51 mg/kg bw) of diethylnitrosamine (initiator); the rats were then administered 1,2-DCB by i.p. injection at 1 and 5 weeks; 2 weeks after the final dose of 1,2-DCB was administered, the rats were sacrificed; the prepared liver sections were analyzed for the incidence of GGT foci and other lesions
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
眼科学的所見(発生率、重篤度)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	1,2-ジクロロベンゼンは、g-グルタミルトランスベプチダーゼの陽性病巣を用いたとき、腫瘍形成の開始も促進もしなかった(対照と比較)。	1,2-DCB did not initiate or promote tumour formation using the g-glutamyltranspeptidase-positive foci (compared with controls)
実際に摂取された量		
腫瘍発生までの時間		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
実験動物における発がん性の有無	なし	なし

注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	116	116
備考		

5-9 生殖・発生毒性(受胎能と発生毒性を含む)

A. 受胎能

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
試験のタイプ	two generation	two generation
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rat	Rat
性別	不明	不明
投与量	50, 150 及び 400 ppm (=約 0.305, 0.915 及び 2.44 mg/l)	50, 150 or 400 ppm (= ca. 0.305, 0.915 or 2.44 mg/l)
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
試験期間	吸入 10週	inhalation Duration of test: 10 weeks
交配前暴露期間	注参照	Premating Exposure Period male: see remarks female: see remarks
試験条件	英文参照	Exposure Period: see remarks Frequency of treatment: daily exposure time unspecified Control Group: yes remarks: study design: groups of male and female rats (designated as the F0 generation) were exposed to vapour of o-dichlorobenzene at concentrations of 50, 150 and 400 ppm for 10 weeks prior to mating, during mating, gestation and lactation; groups of male and female rats were selected from the progeny of the F0 generation and this constituted the F1 generation; the F1 generation was similarly exposed to o-dichlorobenzene for 11 weeks postweaning, mating, gestation and lactation; all F2 pups were observed through weaning only
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量	高用量群のF0及び成体F1の体重は、成長期間において有意に低下し、最後の屠殺まで低下し続けた。	body weights of F0 and F1 adults in the high dose group were significantly depressed during the growth period and continued to be lower until terminal sacrifice;
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
受胎指数(着床痕数/交配数)	本調査において、いずれの世代においても、生殖能力も受胎能も処理に関連する影響はみられなかった。	no treatment related effects were observed on reproductive performance or fertility indices in either generation in this study;
交尾前期間(交配までの日数及び交配までの性周期回数)		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
妊娠指数(生存胎仔数/着床痕数)		
哺乳所見		
性周期変動		
精子所見		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	化合物に関連する死亡率はみられなかった。	no compound-related mortality was observed;
剖検所見(発生率、重篤度)		
着床数		
黄体数		
未熟卵胞数		
臓器重量	肝臓重量は、雌雄の中・高用量群において増加したが、腎臓重量は雄の中・高用量群において増加した。これらの臓器重量の変化は、肝臓及び腎臓における病理組織学的変化に伴って起きた。唯一、肝臓重量におけるわずかな増加が、雄の低用量群でみられた。	liver weights were increased in the mid and high dose group males and females while kidney weights were increased in mid and high level males; these organ weight changes were accompanied by histopathological changes in the liver and kidney; only a slight increase in liver weight was observed in the low dose males
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
同腹仔数及び体重	仔の体重は、高用量群において有意に低下し、中用量群において最小限低下した。	pup weights were significantly lower in the high dose group and minimally lower in the mid dose group;
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)		
離乳までの分娩後生存率		
新生仔所見(肉眼的な異常)		
生後発育及び発育率		

陰開口又は精巣下降(包皮分離)		
生殖器-肛門間距離などその他の観察事項		
臓器重量		
統計の結果		
注釈		
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Nair, R. et al.: Abstracts, International Congress of Toxicology, 16–21 July 1989, Brighton, England, p. 152 (abstract No. 455)	Nair, R. et al.: Abstracts, International Congress of Toxicology, 16–21 July 1989, Brighton, England, p. 152 (abstract No. 455)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
試験のタイプ	two generation	two generation
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
性別	Cri: CD(SD)	Cri: CD(SD)
投与量	MF	MF
	F0 と F1: 0, 50, 150 及び 400 ppm	Target exposure levels: F0 and F1: 0, 50, 150 and 400 ppm
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください	選択してください
試験期間	吸入	inhalation
	281 日間	281 d
交配前暴露期間	注参照	Premating Exposure Period male: see TC freetext field female: see TC freetext field
試験条件	英文参照	<p>Exposure Period: 281 d Frequency of treatment: see TC freetext field Control Group: yes</p> <p>Frequency of Treatment Adults: F0 Males and females: daily 7 d/wk, 6 h/d from 10-week pre-mating period and during mating; males continued to be exposed until sacrifice (3–4 weeks post-mating); females were exposed daily during the Day 0–19 gestation interval; F0 Females were not exposed from Day 20 of gestation to Day 4 of lactation; daily exposure resumed on Day 5 of lactation until scheduled sacrifice after weaning of F1 litters;</p> <p>F1 and F2 Pups: Two randomly selected F1 pups from each sex and litter were exposed from Day 29 postpartum; these represented the F1 adult generation; F1 animals were then exposed 7 d/wk, 6 h/d for an 11-week pre-mating period and then as for F0 animals; resultant F2 pups were exposed and sacrificed on Day 21 of lactation; exposure period F0: 104–106 d (males); 142 d (females) F1: 148 or 149 d (males); 157 or 158 d (females)</p> <p>Study Design: 8 additional females (F0 and F1) were sorted into each treatment group (satellite group); Clinical observations performed (Parental generation Data)</p> <p>Adult Body weight: F0 and F1 adult males recorded weekly throughout study duration; F0 and F1 adult females recorded weekly, during pre-mating treatment periods, on Days 0, 7, 14 and 20 of gestation and on Days 0, 4, 14 and 21 of lactation; Additionally, body weights on Day 28 of lactation were recorded for the F0 generation females; Body weights were not recorded for F0 and F1 satellite females;</p> <p>Pup Body Weight: F1 litter weights were recorded on Days 0, 4 (pre- and post-cull), 14, 21 and 28 of lactation; F2 litter weights were recorded on Days 0, 4 (pre- and post-cull), 7, 14 and 21 of lactation; Post-mortem Data: Terminal Body weight and Organ Weight Data F0 and F1 (Adult); Gross Post-mortem evaluations (Adult Generations); Gross Post-mortem evaluations – F1 and F2 Pups;</p> <p>Histopathological Evaluations – Adult Generations: Litter observations: Litters examined twice daily for general appearance of pups and presence of dead pups; Dead or Stillborn: Weighed and given gross internal and external examination including internal sex determination. Pups found dead were not eviscerated; Organs examined at necropsy (macroscopic): F0 and F1 Adults: liver, kidneys, testes and brain weights were recorded; microscopic: F0 and F1 Adults, control and high dose: liver, kidneys, pituitary gland, testes, epididymides, seminal vesicles, prostate, vagina, uterus, ovaries; Livers of all F0 and F1 adults in low & mid-dose groups; Kidneys of F0 and F1 males from all dosed groups were evaluated for eosinophilic granules and granular casts</p>

統計学的処理	英文参照	<p>All interval data were tested for equal variance by Bartlett's test. Significance amongst treated groups were determined by standard one-way ANOVA and their significance from controls using the Dunnett's test.</p> <p>Unequal variances were determined by the Kruskal-Wallis test and their significance from controls using the summed rank (Dunn) test.</p> <p>Incidence rate data (mortality, mating, pregnancy and fertility) including pup and litter survival data were tested for significance using contingency tables.</p> <p>Differences between groups were determined using a standard chi-square analysis and significance compared to controls were determined using a 2x2 Fisher Exact test.</p>
結果		
体重、体重増加量	<p>(F0): 高用量群の雄は、ばく露期間を通して有意に体重量の低下が見られ、最終体重も対照群と比較し10%の低下であった。(F1): 高用量群の雄は、ばく露期間を通して有意に体重量の低下が見られ、最終体重も対照群と比較し19%の低下であった。詳細は英文参照</p>	<p>Body weight:</p> <p>(F0): High-dosed males had significantly lower body weight throughout the exposure period and a significantly lower terminal body weight (~10%) compared to controls;</p> <p>high-dosed females had significantly lower body weight during premating and at termination (~5%);</p> <p>(F1): High-dosed males had significantly lower body weight throughout the exposure period and significantly lower terminal body weight (~19%) compared to controls;</p> <p>high-dosed females had significantly lower body weight during premating, gestation and lactation periods and at termination (~9%)</p>
摂餌量、飲水量	中・高用量群でF0とF1において有意な摂餌量の増加が見られた。詳細は英文参照	Food consumption data (Pre-mating treatment Interval): F0 and F1: Statistically significant increases in food consumption amongst mid- and high-dosed groups
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	F0:高用量群においては、2-4, 8 及び 12週(雄)、3及4週(雌)に過剰な流涎が見られた。詳細は英文参照	<p>Physical Observation Data- F0:</p> <p>Anogenital (A-G) staining at weeks 8 and 12 in mid-dosed males increased slightly above control groups;</p> <p>high-dosed groups showed excessive salivation at weeks 2-4, 8 and 12 (males) and weeks 3 and 4 (females)</p> <p>F1: High-dosed groups showed excessive salivation with increased incidence early in the pre-mating treatment period at weeks 21, 22, 24 and 28 (males) and weeks 21-24 (females);</p> <p>3 control males at week 37-38 (post-mating period) presented with ocular lesions, chromodacryorrhea, swollen jaw area, squinted eyes and dry eyes;</p> <p>all symptoms suggestive of SDAV infection;</p> <p>SDAV antibodies were detected from serum collected from all 3 animals; females were reported as free of symptoms of SDAV infection</p>
受胎指数(着床痕数/交配数)	英文参照	<p>Mating Indices, Pregnancy Rates and Male Fertility Indices:</p> <p>F0 & F1: Mating indices, pregnancy rates and male fertility indices were comparable between treatment groups & controls;</p> <p>of the males that failed to mate with females, very few failed to mate with females in a satellite group;</p> <p>at necropsy, one F0 female had 3 uterine implantation scars however the status of implantation in the absence of parturition is unclear; consequently, the animal was not included in pregnancy rate calculations</p>
交尾前期間(交配までの日数及び交配までの性周期回数)		
妊娠期間(妊娠0日から起算)	英文参照	<p>Gestation Length and Parturition Data: F1 and F2 litters:</p> <p>Gestation: A small, statistically significant decrease in gestation length was observed in low-dosed animals;</p> <p>mean gestation length for F2 litters was comparable to control for each of the treated groups</p>
妊娠指数(生存胎仔数/着床痕数)		
哺乳所見		
性周期変動		
精子所見		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間	投与による死亡数に対する影響は見られなかった。	<p>Mortality:</p> <p>Some mortality was seen among the control and treated adult animals in each generation however no adverse effect of treatment was indicated</p>
剖検所見(発生率、重篤度)	<p>腎臓(F0とF1成体):</p> <p>高用量(及びやや中程度の用量)の雄は、管内の顆粒上の円柱、大部分は皮質内側への接合を伴う拡大した管状内腔が発達した。詳細は英文参照</p>	<p>Kidney (F0 and F1 Adults):</p> <p>High dosed (and to a lesser extent mid-dosed) males developed dilated tubular lumens with intraluminal granular casts, predominantly at the cortico-medullary junctions;</p> <p>dose-dependent increase in intracytoplasmic granules/droplets in the proximal convoluted tubular epithelium;</p> <p>no effects were reported in females</p>
着床数		
黄体数		
未熟卵胞数		

臓器重量	F0: 高用量: 雄の平均の脳重量が、統計的に有意に減少した。雌では、統計的に有意に増加した。詳細は英文参照	<p>Post-mortem Data- Organ Weight Data (F0 and F1 Adults):</p> <p>F0: High-dose: Mean brain weight (males) were statistically significantly lower; mean relative brain weight was statistically significantly higher in females</p> <p>Mid- and high-dose: relative kidney weights were statistically slightly higher in females absolute and relative kidney weights in males were statistically significantly higher</p> <p>Absolute and relative liver weights (both sexes) were statistically higher in mid and high-dosed groups; absolute liver weights were significantly higher in low-dosed males</p> <p>Relative testes weight in high-dosed animals was statistically significantly higher than controls; absolute testes weights and mean/brain weight ratios were comparable to controls</p> <p>F1: High-dose: Absolute brain weight (both sexes) were statistically significantly lower than controls, relative brain weight was statistically significantly higher for males</p> <p>Mid- and high-dose: Relative kidney weights (males) were statistically significantly higher; Absolute and relative liver weights (both sexes) were statistically higher than control groups</p> <p>Relative testes weight in high-dosed animals was statistically significantly higher than controls; absolute testes weights and testes/brain weight ratios were comparable to controls</p> <p>Gross Post-mortem Evaluations - Adult Generations F0 and F1 Adults: No adverse effects noted; F1 and F2 Pups: A small number of unilateral occurrences of dilated renal pelvis predominantly in females of both generations in treated and control groups</p>
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	肝臓 (F0 と F1 成体): 小脳中心小葉肝細胞の肥大が、ジクロロベンゼン400ppmの最も高用量に曝露された成体(雌雄)で明らかにあった。詳細は英文参照	<p>Histopathological Evaluations</p> <p>Liver (F0 and F1 Adults): Hypertrophy of central lobular hepatocytes was evident in most high-dose adults (both sexes) exposed to 400 ppm dichlorobenzene; Similar effects were noted in mid-dosed males and to a lesser extent in mid-dosed females; no effects were noted in low-dosed animals</p>
実際に摂取された量		
用量反応性		
同腹仔数及び体重	詳細は英文参照	<p>Parturition:</p> <p>Mean number of live and total pups per F1 litter at birth was statistically higher in the low- and mid-dosed animals when compared to controls; the mean number of dead pups in each treated group of the F1 and F2 litters was not significantly different from controls;</p> <p>Litter Size Data:</p> <p>F1 litters: Mean litter size was statistically higher in the low- and mid-dosed animals</p> <p>F2 litters: Mean litter size was comparable between control and treated groups</p> <p>Pup Weight Data - Lactation Interval</p> <p>F1 Pups: A statistically significant decrease in mean pup weight was seen at Day 0 in mid- and Days 0, 14, 21 and 28 in high-dosed groups; at Day 28, mean pup weight in the high-dosed group was 11% lower than controls</p> <p>F2 Pups: A statistically significant decrease in mean pup weight was seen at Days 14 and 21 in high-dosed groups only; at Day 21, mean pup weight was 21% lower than controls</p>
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)	F1 仔の生存指数は、対照群と同じであった。詳細は英文参照	<p>F1 pup viability indices (ratio of live/total at birth) were similar to controls; a statistically significant increase in pup viability for low-dosed F2 litters was noted</p> <p>Litter Survival Indices:</p> <p>F1 litter Interval: The litter survival index was comparable between control and treated groups</p> <p>F2 litter Interval: The litter survival index was comparable between control and treated groups</p> <p>Unselected F1 High-dose Pups: Male and female F1 high dose pups left untreated and maintained on basal diets showed no significant change in food consumption or weight gain from F1 control group data (for the 10-week growth period coincident with the pre-mating treatment period of the F1 adult generation)</p>

離乳までの分娩後生存率	F1 一腹子: 授乳期の4-21日の間に中用量の動物の仔の生存指数の統計的に有意な増加が見られた。詳細は英文参照	Pup Survival Indices: F1 Litters: A statistically significant increase in the pup survival index for mid-dosed animals was noted during Days 4-21 of the lactation F2 Litters: A statistically significant decrease in the pup survival index (94.3%) for high-dosed animals compared to controls (98.1%) was noted during Days 0-4 of the lactation interval largely attributed to the loss of all pups within a single litter; pup survival for the high-dose group over Days 4-21 lactation was comparable to controls
新生仔所見 (肉眼的な異常)	F1の一腹子において、外部および内部の奇形はみられなかった。詳細は英文参照	Dead Pup Observations: F1 Litters: The numbers of dead pups recovered at birth or during the 28-day lactation period were 29 controls, 23-low dosed, 11 mid-dosed and 19 high-dosed animals did not present with external or internal malformations F2 Litters: The numbers of dead pups recovered at birth or during the 21-day lactation period were 25 controls, 13-low dosed, 12 mid-dosed and 19 high-dosed animals did not present with external or internal malformations
生後発育及び発育率		
膣開口又は精巣下降(包皮分離)		
生殖器-肛門間距離などその他の観察事項		
臓器重量		
統計的結果		
注釈		
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)	成体毒性のNOAELは50 ppmであり、LOAELは100 ppmである。	The NOAEL for adult toxicity is 50 ppm and LOAEL is 100 ppm
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	結論: 調査の条件下では、処理に関連する受胎への影響はみられなかった。 中及び高(400ppm)暴露は、雄における腎臓影響及び雌雄における肝臓影響を明らかにした。 仔における唯一の影響としては、400ppmで受胎期間において体重が減少した。 出典: NICNAS	Conclusion: Under the conditions of the study, no treatment related effects on fertility were observed; Mid- and high (400 ppm) exposure revealed kidney effects in males and liver effects in males and females; The only effect on pups was reduced body weight during lactation at 400 ppm; Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ		
信頼性の判断根拠		
出典	Bio/dynamics Inc., (1989): An Inhalation Two-Generation Reproduction Study In Rats with Orthodichlorobenzene. Final Report. Project No. 87-3157	Bio/dynamics Inc., (1989): An Inhalation Two-Generation Reproduction Study In Rats with Orthodichlorobenzene. Final Report. Project No. 87-3157
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: その他	Type: other
試験のタイプ	選択してください	選択してください
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rat Sprague-Dawley	Rat Sprague-Dawley
性別	M	M
投与量	50, 100, 250, 300及び 800 mg/kg bw	50, 100, 250, 300 or 800 mg/kg bw
各用量群(性別)の動物数		
溶媒(担体)	選択してください	選択してください
投与経路	選択してください 腹腔内	選択してください i.p.
試験期間	単回投与	Exposure Period: single administration
交配前暴露期間		
試験条件	英文参照	Exposure Period: single administration Control Group: yes in this assay the induction of sperm abnormalities was investigated in rats treated with 1,2-DCB the animals were sacrificed 10 days post-exposure
統計学的処理		
結果		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
受胎指数(着床痕数/交配数)		
交尾前期間(交配までの日数及び交配までの性周期回数)		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
妊娠指数(生存胎子数/着床痕数)		

哺乳所見		
性周期変動		
精子所見	精子の懸濁液の光学顕微鏡観察は、バナナヘッド、アクロソーム欠陥、尾部のカーリングやねじれのような、精子の形態異常を明らかにした。 精子の頭と尾の異常の両方は、1,2-ジクロロベンゼンの濃度及び異常率の間で用量反応関係を示すと思われる。	light microscopic observation of sperm suspensions revealed morphological abnormalities in sperm such as bananaheads, acrosomal defects, and tail curlings and twisting; both sperm head and tail abnormalities seem to show a dose response relationship between concentration of 1,2-DCB and percent abnormality
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
尿検査所見(発生率、重篤度)		
死亡数(率)、死亡時間		
剖検所見(発生率、重篤度)		
着床数		
黄体数		
未熟卵胞数		
臓器重量		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
実際に摂取された量		
用量反応性		
同腹仔数及び体重		
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分婉仔数)		
離乳までの分娩後生存率		
新生仔所見(肉眼的な異常)		
生後発育及び発育率		
膣開口又は精巣下降(包皮分離)		
生殖器-肛門間距離などその他の観察事項		
臓器重量		
統計的結果		
注釈		
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	出典: NIGNAS	Source: NIGNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	117	117
備考		

B. 発生毒性

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98.81%	purity: 98.81 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	はい	はい
試験を行った年		
試験系(種／系統)	Rat	Rat
	Fischer 344	Fischer 344
性別	F	F
投与量	1.2, 2.4 及び 3 mg/l	1.2, 2.4 or 3 mg/l
各用量群(性別)の動物数		
投与経路	選択してください	選択してください
	吸入	inhalation
試験期間	妊娠6から15日	Exposure period: days 6 through 15 of gestation
交配前暴露期間		
試験条件	妊娠6から15日に6時間/日のばく露。詳細は英文参照	Exposure period: days 6 through 15 of gestation Frequency of treatment: 6 h/d Control Group: yes the objective of this study was to establish maximum tolerated exposure levels of o-dichlorobenzene via inhalation for pregnant rats for use in the definitive teratology study
統計学的処理		
結果		
死亡数(率)、死亡時間		
用量あたり妊娠数		
流産数		
早期/後期吸収数		
着床数		
黄体数		
妊娠期間(妊娠0日から起算)	全暴露レベル: 生殖パラメーターにおいて統計的有意な影響なし	all exposure levels: no statistically significant effects on reproductive parameters
体重、体重増加量	3 mg/l: 体重、体重増加量の有意な減少	3 mg/l: evidenced by significant decreases in body weight, body weight gain
摂餌量、飲水量	2.4 mg/l: 妊娠ラットにおいて摂餌量の減少 3 mg/l: 摂餌量の有意な減少	2.4 mg/l: decreased food consumption in the pregnant rats 3 mg/l: evidenced by significant decreases in food consumption,
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)	3 mg/l: 母親への重篤な毒性	3 mg/l: severe maternal toxicity,
血液学的所見(発生率、重篤度)		

血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量(総子宮量への影響)	2.4 mg/l: 妊娠ラットにおける肝臓及び腎臓の相対重量の増加 3 mg/l: 肝臓及び腎臓の相対重量の有意な増加	2.4 mg/l: increased relative liver and kidney weights in the pregnant rats 3 mg/l: evidenced by significant increases in relative liver and kidney weights
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	3 mg/l: 妊娠ラットにおける剖検観察での全身毒性のサイン; 胎児致死性が最も重篤な母親毒性のサインを示すラットの間でみられた。	3 mg/l: signs of systemic toxicity at gross necropsy observable in pregnant rats; embryoletality observable among the rats exhibiting the most severe signs of maternal toxicity
同腹仔数及び体重		
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)		
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)		
生後発育		
分娩後生存率		
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)		
実際に投与された量		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F1Iに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2Iに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Hanley Jr., T.R. et al. (1981): orthodichlorobenzene: inhalation teratology probe study in rats and rabbits; report of the Toxicology Research Laboratory, Health and Environmental Sciences, U.S.A., Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211374, 1-27	Hanley Jr., T.R. et al. (1981): orthodichlorobenzene: inhalation teratology probe study in rats and rabbits; report of the Toxicology Research Laboratory, Health and Environmental Sciences, U.S.A., Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, EPA/OTS Doc. No. 878211374, 1-27
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98.81%	purity: 98.81 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種／系統)	rat and rabbit Fischer-344 and New Zealand White	rat and rabbit Fischer-344 and New Zealand White
性別	MF	MF
投与量	0.6, 1.2 及び 2.4 mg/l (100, 200 及び 400 ppm)	0.6, 1.2 or 2.4 mg/l (100, 200 or 400 ppm)
各用量群(性別)の動物数		
投与経路	選択してください 吸入	選択してください inhalation
試験期間	ラット:妊娠6から15日に6時間/日、ウサギ:妊娠6から18日 ラットは妊娠21日に、ウサギは妊娠29日に殺された	Exposure period: rats: 6 h/day on days 6 through 15 of gestation; rabbits: days 6 through 18 gestation the rats were sacrificed on day 21 of gestation and rabbits on day 29 gestation
交配前暴露期間		
試験条件	英文参照	Exposure period: rats: 6 h/day on days 6 through 15 of gestation; rabbits: days 6 through 18 gestation Frequency of treatment: 6 h/d Control Group: the control group of rats and rabbits were exposed to filtered room
統計学的処理		
結果		
死亡数(率)、死亡時間		
用量あたり妊娠数	ウサギ: 妊娠数、同腹の子のサイズ、再吸収率、胎児の体測定値又は胎児の奇形において、1,2-ジクロロベンゼンの400ppmまでの用量では、ウサギに対して胎児毒性、子毒性及び奇形も見られなかった。	Rabbits: at doses up to 400 ppm 1,2-DCB did not prove to be embryotoxic, fetotoxic or teratogenic in the rabbit based on observations of the number of pregnancies, litter size, resorption rate, foetal body measurements or foetal malformations.
流産数		
早期/後期吸収数		
着床数		
黄体数		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
体重、体重増加量	ウサギ: 母親の体重増加量は、全用量レベルにおいて、暴露の最初の3日間で減少した。 ラット: 体重増加量は、全用量レベルにおいて、妊娠6日目から20日目まで有意に減少した。	Rabbits: decrease in body weight gain in dams during the first 3 days of exposure at all dose levels; Rats: significant decrease in body weight gain from gestation days 6 through to 20 at all dose levels;
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		

剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量(総子宮量への影響)	ラット: 400 ppmを暴露されたラットでは、母親の肝臓重量が有意に増加した。	Rats: a significant increase in maternal liver weights occurred with rats exposed to 400 ppm;
病理組織学的所見(発生率、重篤度)	ラット: 最高用量群における頸椎中心の遅発性骨化の発生において、唯一、発育の処理に関連した影響が有意に増加した。しかし、これらの影響は母親に対して有毒な用量において生じた。	Rats: the only developmental treatment-related effect was a significant increase in the occurrence of delayed ossification of cervical vertebral centra in the highest dose group, however, these effects occurred at maternally toxic doses
同腹仔数及び体重		
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)		
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)		
生後発育		
分娩後生存率		
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)		
実際に投与された量		
用量反応性		
統計的結果		
注釈		
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	John, J.A. et al.: Orthodichlorobenzene -- Inhalation Teratology Study In Rats And Rabbits, reviewed by Rao, K.S., Toxicology Research Laboratory, Health and Environmental Sciences, USA, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, June 7, 1982	John, J.A. et al.: Orthodichlorobenzene -- Inhalation Teratology Study In Rats And Rabbits, reviewed by Rao, K.S., Toxicology Research Laboratory, Health and Environmental Sciences, USA, Dow Chemical U.S.A., Midland, Michigan, June 7, 1982
引用文献(元文献)	118	118
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験系(種/系統)	Rat	Rat
	Sprague-Dawley	Sprague-Dawley
性別	F	F
投与量	50, 100 及び 200 mg/kg bw/d	50, 100 or 200 mg/kg bw/d
各用量群(性別)の動物数		
投与経路	強制経口投与	強制経口投与
試験期間	妊娠6日から15日	Exposure period: days 6 through 15 of gestation
交配前暴露期間		
試験条件	妊娠6日から15日で毎日投与。 詳細は英文参照	Exposure period: days 6 through 15 of gestation Frequency of treatment: daily Control Group: no data specified maternal weight gain, changes in microscopic examination
統計学的処理		
結果		
死亡数(率)、死亡時間		
用量あたり妊娠数		
流産数		
早期/後期吸収数		
着床数		
黄体数		
妊娠期間(妊娠0日から起算)		
体重、体重増加量		
摂餌量、飲水量		
臨床所見(重篤度、所見の発現時期と持続時間)		
血液学的所見(発生率、重篤度)		
血液生化学的所見(発生率、重篤度)		
剖検所見(発生率、重篤度)		
臓器重量(総子宮量への影響)		
病理組織学的所見(発生率、重篤度)		
同腹仔数及び体重		
生存数(生存胎仔数及び胎仔数)		
性比		
生存率(生後4日目生存仔数/総分娩仔数)		
生後発育		
分娩後生存率		
肉眼的異常(外表観察、内臓標本、骨格標本)		
実際に投与された量		
用量反応性		
統計的結果		

注釈	1,2-ジクロロベンゼンには、なんらの奇形学的影響はみられなかった。(それ以上のデータなし)	1,2-DCB did not have any teratological effect (no further data)
結論		
PIに対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F1に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
F2に対するNOAEL (NOEL)又はLOAEL (LOEL)		
注釈	出典: NIGNAS	Source: NIGNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	119	119
備考		

5-10その他関連情報

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 生化学や細胞の相互作用	Type: Biochemical or cellular interactions
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	<p>雄ラット及びマウスへの14C-α-ジクロロベンゼン(用量: 127 uCi/kg bw)の単回腹腔内注入後22時間、被験物質は肝臓、腎臓、肺及び胃のDNAに共有結合で結びつけられた。</p> <p>全被験臓器の中では、マウスの臓器のDNAの特有の活性は、ラットの臓器において測定された活性よりも高かった。</p> <p>この差は、肺のDNAの場合において、特に著しかった。</p> <p>マウスのDNAのラベリングに関しては、著しい臓器特有の差はみられなかったが、ラットの肝臓のDNAのラベリングに関しては、他ラットの臓器由来のDNAのラベリングよりも高かった。</p> <p>様々な臓器のRNAの結合率は、ラットのRNAラベリングよりも、またはマウスのRNAラベリングの方が高かった。</p> <p>DNAラベリングよりも高い蛋白の結合の程度に関しては、ラットとマウスの臓器の間に差はみられなかった。</p>	<p>22 hours after a single i.p. injection of 14C-α-dichlorobenzene (dose: 127 uCi/kg bw) into male rats and mice, the test substance was covalently bound to DNA of liver, kidney, lung and stomach; in all assayed organs, the specific activity of DNA from mouse organs was higher than that measured in rat organs; this difference was particularly remarkable in the case of lung DNA;</p> <p>no particular organ-specific difference was observed as regards labelling of mouse DNA, whereas labelling of rat liver DNA was higher than that of DNA from other rat organs;</p> <p>the extent of binding to RNA of various organs was higher than that of DNA, with mouse RNA labelling again higher than rat RNA labelling;</p> <p>no difference between rat and mouse organs was observed as regards the extent of protein binding, which was higher than DNA labelling</p>
結論		
結論	<p>雄ラット及びマウスへの14C-α-ジクロロベンゼン(用量: 127 uCi/kg bw)の単回腹腔内注入後22時間、被験物質は肝臓、腎臓、肺及び胃のDNAに共有結合で結びつけられた。</p> <p>全被験臓器の中では、マウスの臓器のDNAの特有の活性は、ラットの臓器において測定された活性よりも高かった。</p> <p>この差は、肺のDNAの場合において、特に著しかった。</p> <p>マウスのDNAのラベリングに関しては、著しい臓器特有の差はみられなかったが、ラットの肝臓のDNAのラベリングに関しては、他ラットの臓器由来のDNAのラベリングよりも高かった。</p> <p>様々な臓器のRNAの結合率は、ラットのRNAラベリングよりも、またはマウスのRNAラベリングの方が高かった。</p> <p>DNAラベリングよりも高い蛋白の結合の程度に関しては、ラットとマウスの臓器の間に差はみられなかった。</p>	<p>22 hours after a single i.p. injection of 14C-α-dichlorobenzene (dose: 127 uCi/kg bw) into male rats and mice, the test substance was covalently bound to DNA of liver, kidney, lung and stomach; in all assayed organs, the specific activity of DNA from mouse organs was higher than that measured in rat organs; this difference was particularly remarkable in the case of lung DNA;</p> <p>no particular organ-specific difference was observed as regards labelling of mouse DNA, whereas labelling of rat liver DNA was higher than that of DNA from other rat organs;</p> <p>the extent of binding to RNA of various organs was higher than that of DNA, with mouse RNA labelling again higher than rat RNA labelling;</p> <p>no difference between rat and mouse organs was observed as regards the extent of protein binding, which was higher than DNA labelling</p>
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	120	120
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 生化学もしくは、細胞の相互作用	Type: Biochemical or cellular interactions
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	in vitro試験。肝ミクロソームによって仲介された子牛胸腺DNAへの14C- α -ジクロロベンゼンの酵素媒介相互作用。詳細は英文参照	in vitro assay: the enzyme-mediated interaction of 14C- α -dichlorobenzene with calf thymus DNA or synthetic polyribonucleotides was carried out by a microsomal mixed-function oxidase system and microsomal glutathione-transferases;
結果		

結果	<p>肝ミクロソームによって仲介された子牛胸腺DNAへの¹⁴C-<i>o</i>-ジクロロベンゼン結合は、90分の培養時間で直線的に増加し、飽和に達した。</p> <p>肝臓及び肺由来のミクロソーム酵素は、<i>o</i>-ジクロロベンゼンを外因のDNAと相互作用する可能性のある中間体に生活性を示した。ラットの肝ミクロソームは、マウスの肝ミクロソームより効率的であったが、肺ミクロソームでは逆であった。サイトゾル酵素の活性は、極めて低い又は無視できる程度であった。</p> <p>培養混合物における齧歯類の動物の肺由来のミクロソーム画分及び可溶性画分の共存は、肝臓の画分が使われた際には生じなかった、相乗効果を与えた。</p> <p>ミクロソームRNA及び蛋白質を伴う¹⁴C-<i>o</i>-ジクロロベンゼンの相互作用のパターンはDNAを伴う相互作用のパターンに類似した。しかし、ミクロソーム蛋白質のラベリングは、ミクロソームRNA又は子牛胸腺DNAのラベリングよりも高かった。</p>	<p>the binding of ¹⁴C-<i>o</i>-dichlorobenzene to calf thymus DNA mediated by liver microsomes increased linearly with incubation time up to 90 minutes, then it reached a plateau;</p> <p>microsomal enzymes from liver and lung bioactivated <i>o</i>-dichlorobenzene to intermediate(s) capable of interacting with exogenous DNA;</p> <p>rat liver microsomes were more efficient than mouse liver microsomes, but the opposite situation was observed for lung microsomes;</p> <p>the activity of cytosolic enzymes was very low or negligible;</p> <p>the copresence of microsomal and cytosolic fractions from rodent lung in the incubation mixture gave rise to a synergistic effect, which did not occur when the liver fractions were used;</p> <p>the pattern of ¹⁴C-<i>o</i>-dichlorobenzene interaction with microsomal RNA and proteins resembled that of the interaction with DNA;</p> <p>however, microsomal protein labelling was higher than microsomal RNA or calf thymus DNA labellings</p>
結論	<p>肝ミクロソームによって仲介された子牛胸腺DNAへの¹⁴C-<i>o</i>-ジクロロベンゼン結合は、90分の培養時間で直線的に増加し、飽和に達した。</p> <p>肝臓及び肺由来のミクロソーム酵素は、<i>o</i>-ジクロロベンゼンを外因のDNAと相互作用する可能性のある中間体に生活性を示した。ラットの肝ミクロソームは、マウスの肝ミクロソームより効率的であったが、肺ミクロソームでは逆であった。サイトゾル酵素の活性は、極めて低い又は無視できる程度であった。</p> <p>培養混合物における齧歯類の動物の肺由来のミクロソーム画分及び可溶性画分の共存は、肝臓の画分が使われた際には生じなかった、相乗効果を与えた。</p> <p>ミクロソームRNA及び蛋白質を伴う¹⁴C-<i>o</i>-ジクロロベンゼンの相互作用のパターンはDNAを伴う相互作用のパターンに類似した。しかし、ミクロソーム蛋白質のラベリングは、ミクロソームRNA又は子牛胸腺DNAのラベリングよりも高かった。</p>	<p>the binding of ¹⁴C-<i>o</i>-dichlorobenzene to calf thymus DNA mediated by liver microsomes increased linearly with incubation time up to 90 minutes, then it reached a plateau;</p> <p>microsomal enzymes from liver and lung bioactivated <i>o</i>-dichlorobenzene to intermediate(s) capable of interacting with exogenous DNA;</p> <p>rat liver microsomes were more efficient than mouse liver microsomes, but the opposite situation was observed for lung microsomes;</p> <p>the activity of cytosolic enzymes was very low or negligible;</p> <p>the copresence of microsomal and cytosolic fractions from rodent lung in the incubation mixture gave rise to a synergistic effect, which did not occur when the liver fractions were used;</p> <p>the pattern of ¹⁴C-<i>o</i>-dichlorobenzene interaction with microsomal RNA and proteins resembled that of the interaction with DNA;</p> <p>however, microsomal protein labelling was higher than microsomal RNA or calf thymus DNA labellings</p>
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	120	120
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:生化学もしくは細胞相互作用	Type: Biochemical or cellular interactions
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	the c-mitotic activity of some benzene derivatives, including <i>o</i> -dichlorobenzene, was studied in <i>Allium cepa</i> (onion);
結果		
結果	<p>全<i>c</i>-分裂が300 μMの濃度でみられた。</p> <p>有糸分裂における部分的な障害が100 μMの濃度でみられ、正常な有糸分裂は30 μMの濃度でみられた。</p>	<p>full c-mitosis was observed at a concentration of 300 μM;</p> <p>partial disturbances in mitosis were observable at a concentration of 100 μM and normal mitosis was seen at a concentration of 30 μM</p>
結論		
結論	<p>全<i>c</i>-分裂が300 μMの濃度でみられた。</p> <p>有糸分裂における部分的な障害が100 μMの濃度でみられ、正常な有糸分裂は30 μMの濃度でみられた。</p>	<p>full c-mitosis was observed at a concentration of 300 μM;</p> <p>partial disturbances in mitosis were observable at a concentration of 100 μM and normal mitosis was seen at a concentration of 30 μM</p>
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	121	121
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	Purity not stated
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 生化学もしくは細胞相互作用	Type: Biochemical or cellular interactions
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	<p>Species: rat</p> <p>Strain: Sprague-Dawley</p> <p>No. of animals: 6</p> <p>Sex: Male</p> <p>Route of Administration: intraperitoneal injection</p> <p>Dose: 0.5 mM/kg 1,2-DCB-[¹⁴C]</p> <p>Frequency of Treatment: once</p>
結果		

結果	ラットの肺における1,2-ジクロロベンゼン結合は、6時間後に増加し、24時間暴露後は減少した。； 1,2-ジクロロベンゼン結合は、24時間までに気管支上皮の壊死の前にみられた。； フェノバルビタールの前処理はわずかに結合を減少した。	1,2-DCB binding in the rat lung increased after 6 h and was less marked after 24 h exposure; 1,2-DCB binding preceded necrosis of bronchiolar epithelium by 24 h; phenobarbital pretreatment slightly decreased binding
結論		
結論	ラットの肺における1,2-ジクロロベンゼン結合は、6時間後に増加し、24時間暴露後は減少した。； 1,2-ジクロロベンゼン結合は、24時間までに気管支上皮の壊死の前にみられた。； フェノバルビタールの前処理はわずかに結合を減少した。	1,2-DCB binding in the rat lung increased after 6 h and was less marked after 24 h exposure; 1,2-DCB binding preceded necrosis of bronchiolar epithelium by 24 h; phenobarbital pretreatment slightly decreased binding
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	122	122
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Chemobiokinetics general studies	Type: Chemobiokinetics general studies
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	英文参照	The study investigate the affinity of 1,2-DCB for the Thyroxin (T4) binding site of transthyretin (TTR) in human serum using an in vitro standard T4 competition assay; Species: human serum Route of Administration: ex vivo Dose: 100 uM Frequency of Treatment: T4 competition assay
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは、人TTRの結合部T4に対する競合物質としては効果がなかった。	1,2-DCB was an inefficient competitor for the T4 binding site of human TTR
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンは、人TTRの結合部T4に対する競合物質としては効果がなかった。	1,2-DCB was an inefficient competitor for the T4 binding site of human TTR
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	123	123
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Chemobiokinetics general studies	Type: Chemobiokinetics general studies
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Long-Evans Sample size: 15-19 per treatment group Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal Dose: 53, 105, 210 or 420 mg/kg Testing Period: 0.5, 1, 2, 4 and 24 h Frequency of testing: once
結果		
結果	投与後0.5, 1, 2及び4時間において、1,2-ジクロロベンゼンはピークの潜伏期間を増加させ、N160のピーク強度を有意に減少させた(ED50 151.6 mg/kg)。 結腸の温度は同時に低下した。 他のピーク強度は有意に変化しなかった。	1,2-DCB increased peak latencies and significantly decreased peak N160 amplitude (ED50 151.6 mg/kg) at 0.5, 1, 2 and 4 hours after dosing; colonic temperature decreased in parallel; other peak amplitudes were not significantly altered
結論		
結論	投与後0.5, 1, 2及び4時間において、1,2-ジクロロベンゼンはピークの潜伏期間を増加させ、N160のピーク強度を有意に減少させた(ED50 151.6 mg/kg)。 結腸の温度は同時に低下した。 他のピーク強度は有意に変化しなかった。	1,2-DCB increased peak latencies and significantly decreased peak N160 amplitude (ED50 151.6 mg/kg) at 0.5, 1, 2 and 4 hours after dosing; colonic temperature decreased in parallel; other peak amplitudes were not significantly altered
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	124	124
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞毒性	Type: Cytotoxicity

GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague Dawley No. of animals: liver slices Sex: M Route of Administration: ex vivo Dose (mM): 1.0 mM Exposure (h): 3h and 6h continuous incubation Frequency of Treatment: once
結果		
結果	1mM (= 約147 mg/l)の1,2-ジクロロベンゼンで5時間までdynamic organ culture法で飼育されたSprague-Dawleyラットの肝臓スライスにおいて、未処理の対照と比較して毒性の証拠(細胞内のK ⁺ 含有量、乳酸脱水素酵素の漏洩及び蛋白質合成系)はなかった。1.0 mMの1,2-ジクロロベンゼンで3時間又は6時間培養された後に、フェノバルビタールで処理されたラットは、全パラメーターにおける毒性を示した。	No evidence of toxicity (as evaluated by intracellular K ⁺ content, lactate dehydrogenase leakage and protein synthesis) in Sprague-Dawley rat liver slices maintained in dynamic organ culture for up to 5 hours with 1mM (= ca. 147 mg/l) 1,2-DCB compared to untreated controls; phenobarbital treated rats revealed toxicity in all parameters whether following 3 h or 6 h incubated with 1.0 mM 1,2-DCB
結論		
結論	1mM (= 約147 mg/l)の1,2-ジクロロベンゼンで5時間までdynamic organ culture法で飼育されたSprague-Dawleyラットの肝臓スライスにおいて、未処理の対照と比較して毒性の証拠(細胞内のK ⁺ 含有量、乳酸脱水素酵素の漏洩及び蛋白質合成系)はなかった。1.0 mMの1,2-ジクロロベンゼンで3時間又は6時間培養された後に、フェノバルビタールで処理されたラットは、全パラメーターにおける毒性を示した。	No evidence of toxicity (as evaluated by intracellular K ⁺ content, lactate dehydrogenase leakage and protein synthesis) in Sprague-Dawley rat liver slices maintained in dynamic organ culture for up to 5 hours with 1mM (= ca. 147 mg/l) 1,2-DCB compared to untreated controls; phenobarbital treated rats revealed toxicity in all parameters whether following 3 h or 6 h incubated with 1.0 mM 1,2-DCB
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	125	125
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	市販品と純品が試験されたが、数値は不明	Both commercial and pure 1,2-DCB were tested, however no values were stated
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat; mouse; guinea pig Strain: not stated No. of animals: 2-10 per group Sex: M Route of Administration: inhalation Dose (%): 0.005-0.080 rats; 0.005 mouse; 0.080 guinea pig Exposure: 0.5 h - 50 h Frequency of Treatment: once
結果		
結果	処理された動物検体の大多数は、全用量/暴露時間試験で肝臓壊死、および腎障害を示した。頻繁な眼及び鼻の刺激。	A majority of treated animals presented with liver necrosis at all dose/exposure times studied and renal damage; frequent eye and nose irritation
結論		
結論	処理された動物検体の大多数は、全用量/暴露時間試験で肝臓壊死、および腎障害を示した。頻繁な眼及び鼻の刺激。	A majority of treated animals presented with liver necrosis at all dose/exposure times studied and renal damage; frequent eye and nose irritation
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	126	126
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	DMSOの1%溶液	1,2-DCB dissolved in 1% DMSO
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague Dawley and Fisher 344 No. of animals: 4 animals per dose Sex: M Route of Administration: ex vivo Dose: 1, 2 and 5 mM Exposure (h): liver slices were incubated for up to 6 h Frequency of Treatment: once
結果		

結果	1,2-ジクロロベンゼンは、細胞内K ⁺ の増加及び蛋白質合成系の減少などの肝細胞毒性を引き起こした。毒性の増強が、フェノバルビタールで誘発されたラットの肝臓のスライスでみられた。Fischer-344ラットから作成された肝臓のスライス、Sprague-Dawleyよりも1,2-ジクロロベンゼンによる影響が有意に大きい。	1,2-DCB caused hepatic cytotoxicity as measured by increased intracellular K ⁺ and decreased protein synthesis; potentiation of toxicity was observed with liver slices prepared from phenobarbital-induced rats; liver slices prepared from Fischer-344 rats were substantially more affected by 1,2-DCB than from Sprague-Dawley
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンは、細胞内K ⁺ の増加及び蛋白質合成系の減少などの肝細胞毒性を引き起こした。	1,2-DCB caused hepatic cytotoxicity as measured by increased intracellular K ⁺ and decreased protein synthesis;
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	127	127
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	primary cultures of rat hepatocytes were treated with o-dichlorobenzene at a concentration of 0.5 mM (= 73.5 mg/l) for 20 hours;
結果		
結果	急性細胞毒性は、次の細胞マーカーで評価された。: 細胞内乳酸脱水素酵素の漏洩、肝細胞特有の機能のグリコーゲン分解活性及び細胞変性効果の観察。: 本試験では、o-ジクロロベンゼンは有意な細胞毒性影響を示さなかった。	the acute cytotoxicity was assessed by the following cellular markers: leakage of intracellular lactate dehydrogenase, glycogenolytic activity as a specific function of hepatocytes and observations of cytopathic effects: in this assay o-dichlorobenzene did not reveal significant cytotoxic effects
結論		
結論	本試験では、o-ジクロロベンゼンは有意な細胞毒性影響を示さなかった。	in this assay o-dichlorobenzene did not reveal significant cytotoxic effects
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	128	128
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	in vitro assay: the effects of o-, m-, and p-dichlorobenzene on isolated rat liver and kidney cells were examined;
結果		
結果	ジクロロベンゼンの異性体 (o-, m-, p-) は、グルタチオンの含有量及び半細胞の生存能力について、0.5 mM (= 約73 mg/l) では影響はなかったが、1 mM (= 約147 mg/l) では減少した。 影響力: o-異性体>= m-異性体>= p-異性体; フェノバルビタールで前処理されたラットから得られた肝細胞のそれらは、ジクロロベンゼン0.5 mMでは減少した。 影響力: o-異性体>= m-異性体> p-異性体; 細胞外のo-ジクロロベンゼン及びm-ジクロロベンゼンと結合するグルタチオンの量は増加した。; 酸化グルタチオンの量は、対照群の結果と差がなかった。; 腎細胞の場合、ジクロロベンゼン(1 mM)によるグルタチオン含有量及び生存能力の減少は、フェノバルビタールの前処理なしで起きた。 影響力: o-異性体> m-異性体>= p-異性体	isomers of dichlorobenzene (o-, m-, p-) did not have any effects at 0.5 mM (= ca. 73 mg/l) on the glutathione contents and the viabilities of hepatocytes but decreased them at 1 mM (= ca. 147 mg/l); the potencies were: o-isomer>= m-isomer>= p-isomer; those of hepatocytes obtained from phenobarbital pretreated rats were decreased by dichlorobenzenes at 0.5 mM; the potencies were: o-isomer>= m-isomer> p-isomer; amounts of glutathione conjugates of o- and m-dichlorobenzene outside of the cells were increased; the amounts of oxidized glutathione were not different from control experiments; in the case of renal cells, decreases in glutathione contents and viabilities by dichlorobenzenes (1 mM) appeared without phenobarbital pretreatment; the potencies were: o-isomer> m-isomer>= p-isomer
結論		

結論	ジクロロベンゼンの異性体 (o-, m-, p-) は、グルタチオンの含有量及び半細胞の生存能力について、0.5 mM (= 約73 mg/l) では影響はなかったが、1 mM (= 約147 mg/l)では減少した。 影響力: o-異性体>= m-異性体>= p-異性体; フェノバルビタールで前処理されたラットから得られた肝細胞のそれらは、ジクロロベンゼン0.5 mMでは減少した。 影響力: o-異性体>= m-異性体> p-異性体; 細胞外のo-ジクロロベンゼン及びm-ジクロロベンゼンと結合するグルタチオンの量は増加した。; 酸化グルタチオンの量は、対照群の結果と差がなかった。; 腎細胞の場合、ジクロロベンゼン(1 mM)によるグルタチオン含有量及び生存能力の減少は、フェノバルビタールの前処理なしで起きた。 影響力: o-異性体> m-異性体>= p-異性体	isomers of dichlorobenzene (o-, m-, p-) did not have any effects at 0.5 mM (= ca. 73 mg/l) on the glutathione contents and the viabilities of hepatocytes but decreased them at 1 mM (= ca. 147 mg/l); the potencies were: o-isomer>= m-isomer>= p-isomer; those of hepatocytes obtained from phenobarbital pretreated rats were decreased by dichlorobenzenes at 0.5 mM; the potencies were: o-isomer>= m-isomer> p-isomer; amounts of glutathione conjugates of o- and m-dichlorobenzene outside of the cells were increased; the amounts of oxidized glutathione were not different from control experiments; in the case of renal cells, decreases in glutathione contents and viabilities by dichlorobenzenes (1 mM) appeared without phenobarbital pretreatment; the potencies were: o-isomer> m-isomer>= p-isomer
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	129	129
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	in vitro試験。ラットの肝細胞への影響試験。詳細は英文参照	in vitro assay: the effects of o-dichlorobenzene on rat hepatocyte functions were studied;
結果		
結果	肝細胞の生存能力は、グルタチオンの濃度と同様、減少した。 o-ジクロロベンゼンは、シトクロムP450の含有量を減らし、脂質過酸化及びキサンチンオキシダーゼ活性を低下させた。	the viability of hepatocytes as well as glutathione concentrations were decreased; o-dichlorobenzene diminished the content of cytochrome P 450 and decreased lipid peroxidase and xanthine oxidase activities
結論		
結論	肝細胞の生存能力は、グルタチオンの濃度と同様、減少した。 o-ジクロロベンゼンは、シトクロムP450の含有量を減らし、脂質過酸化及びキサンチンオキシダーゼ活性を低下させた。	the viability of hepatocytes as well as glutathione concentrations were decreased; o-dichlorobenzene diminished the content of cytochrome P 450 and decreased lipid peroxidase and xanthine oxidase activities
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	130	130
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	200 mMのDMSO 0.05%に溶解	1,2-DCB was dissolved in 0.05% DMSO to a final concn of 200 mM
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	cancer promotion activity test with HL-60 cells established from human leukaemia HL-60 cells incubated in vitro with 1,2-DCB for 20 hours; the morphological change of the cells was examined using phorbol-myristate-acetate (PMA) as differentiating agent; Cell Type: HL60 Dose: 200 mM Exposure 20 h continuous incubation (log phase) Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Cytotoxicity measured by trypan blue exclusion
結果		
結果	200 mMの1,2-ジクロロベンゼンを20時間暴露した後の、HL60細胞中の細胞生存能力は、完全になくなった。; HL-60細胞の大食細胞への形態変化は、1,2-ジクロロベンゼンの暴露後にはみられず、1,2-ジクロロベンゼンががんのプロモーターでないことが示唆されている。	cell viability in HL60 cells following 20 h exposure to 200 mM 1,2-DCB was entirely eliminated; morphological change of HL-60 cells to macrophages was not observed following exposure to 1,2-DCB, suggesting that 1,2-DCB is not a cancer promotor
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンががんのプロモーターでないことが示唆されている。	1,2-DCB is not a cancer promotor
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典		
引用文献(元文献)	131	131
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	purity: 99%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞毒性	Type: Cytotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: mice Strain: Swiss OF1 No. of animals: 8 mice per group. One control group and 5 treated groups exposed for various time periods per dose tested Sex: M Route of Administration: gavage Dose: 300; 500 and 600 mg/kg bw (controls recieved corn oil) Exposure Period: treated groups of 6 h 16, 24, 48 and 72 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Humoral immune response of antibody forming cell (AFC) and natural killer cell (NK) cytotoxicity activity. Immunosuppressive effect on serologic tumour necrosis factor- α (TNF- α) and interleukin-6 (IL-6).
結果		
結果	いずれの用量でも血清IL-6における変化なし; 他の用量/時刻において影響のみられない、500及び600 mg/kgの6時間暴露後では、TNF- α レベルの統計的有意な増加はなかった。 血清によって運ばれ誘発される(serum-borne-induced)AFC及びNK細胞活性の免疫抑制が統計的に有意に減少した。	No alteration in serum IL-6 at any dose; non-statistically significant increases in TNF- α levels post 6 h exposure to 500 and 600 mg/kg with effects being undetectable at other dose/time points; statistically significant decrease in serum-borne-induced immunosuppression of AFC and NK cell activity
結論		
結論	血清によって運ばれ誘発される(serum-borne-induced)AFC及びNK細胞活性の免疫抑制が統計的に有意に減少した。	statistically significant decrease in serum-borne-induced immunosuppression of AFC and NK cell activity
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	132	132
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:分布	Type: Distribution
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	1 week after termination of the administration the animals were killed and the contents of 1,2-DCB in the fatty tissue of the kidneys and of the inner genitals were determined; Species: rat Strain: albino Number of animals: Sex: Male Route of Administration: gavage Dose: 2, 4 mg/kg/bw Testing Period: 4, 8 or 12 wks Frequency of testing: once Post Exposure Obs: contents of 1,2-DCB in the fatty tissue of the kidneys and of the inner genitals were determined
結果		
結果	2又は4 mg/kg bw/dの1,2-ジクロロベンゼンを4週間投与した後、脂肪組織中の物質含有量は、それぞれ30又は60 mg/kg-脂肪組織であった。 4 mg/kg bw/dを3ヶ月間投与した後の、脂肪組織中の1,2-ジクロロベンゼン含有量は、総計100 mg/kg-脂肪組織になった。 4 mg/kg bw/dを4週間投与された動物検体において、脂肪組織中の1,2-ジクロロベンゼンは投与終了後1週間ほとんど変化しなかったが、1,2-ジクロロベンゼンは投与終了3週間後に検出されなくなった。	after administration of 2 or 4 mg/kg bw/d of 1,2-DCB for 4 weeks, the content of the substance in the fatty tissue was determined to be 30 or 60 mg/kg of fat tissue, respectively; after administration for 3 months at 4 mg/kg bw/d, the content of 1,2-DCB in fat tissue amounted to 100 mg/kg of fat tissue; in the animals dosed with 4 mg/kg bw/d for 4 w, the 1,2-DCB concentrations in fat tissue were nearly unchanged 1 week after termination of the application, however, 1,2-DCB was not detected 3 weeks after the end of the administration
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	133	133
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	1,2-DCB 99% pure
注釈		

方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 分布	Type: Distribution
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley Number of animals: 12 (2 per treatment group; excluding controls) Sex: Male Route of Administration: hood perfusion Dose: 0.65 uM Testing Period: Frequency of testing: once Post Exposure Obs: elution of 1,2-DCB in situ at the "void volume" was monitored as an indicator of hepatic uptake efficiency
結果		
結果	再循環自家移植血肝灌流法による、試験されたラットの肝臓における14C-標識-1,2-ジクロロベンゼンのtranslobular取り込みパターンは、1,2-ジクロロベンゼンが肝臓を通過する最初の過程で完全に吸収されたことを示した。 早い可逆的な肝への取り込み及び排出を示唆する続いて起こる灌流が観察された。平均的な肝臓移動時間は1.3分であった。	the translobular uptake pattern of 14C-labeled-1,2-DCB in the rat liver examined by the recirculating autologous blood liver perfusion procedure showed 1,2-DCB was completely absorbed during the first passage through the liver; subsequent perfusion indicated rapid reversible hepatic uptake and release were observable, with an average hepatic transit time of 1.3 min
結論		
結論	平均的な肝臓移動時間は1.3分であった。	an average hepatic transit time of 1.3 min
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	134	134
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 排泄	Type: Excretion
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rabbit Strain: Chinchilla No. of animals: 3 Sex: Female Route of Administration: gavage Dose: 0.5 g/kg and 1500 mg Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Urinalysis over 5 day period post treatment for excretion of catechols
結果		
結果	カテコール が、0.5 g/kgの投与の後、3～4日間の間排泄された。排泄のピークは2日目に起きた。 平均カテコール排泄量は、1,2-ジクロロベンゼンの投与用量の7.8 %に達した。 2回目の実験では、3匹のウサギに1,2-ジクロロベンゼンの1500 mg がそれぞれ投与され、それらの尿が24時間採取された。 加水分解された尿中に、4,5-ジクロロカテコールが同定できた。	Catechols were excreted during a period of 3-4 days following administration of 0.5 g/kg; the peak excretion occurred on the second day; the average catechol excretion amounted to 7.8 % of the administered dose of 1,2-DCB. In a second experiment, 3 rabbits were each fed with 1500 mg of 1,2-DCB and their urines collected for 24 h: in the hydrolysed urine 4,5-dichlorocatechol was identifiable
結論		
結論	加水分解された尿中に、4,5-ジクロロカテコールが同定できた。	in the hydrolysed urine 4,5-dichlorocatechol was identifiable
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	135	135
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 排泄	Type: Excretion
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	o-ジクロロベンゼンの哺乳動物(おそらくイヌ)への経口投与後、少量のメルカプト酸が尿中に検出された。(それ以上のデータなし)	after oral administration of o-dichlorobenzene to mammals (probably to dogs) small amounts of mercapturic acid were detectable in the urine (no further data)
結論		
結論	少量のメルカプト酸が尿中に検出された。	small amounts of mercapturic acid were detectable in the urine
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	136	136
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 排泄	Type: Excretion
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: human Strain: Sample size: 8 Sex: M Route of Administration: not applicable Dose: 0 Testing Period: 60 minutes Frequency of testing: once Post Exposure Obs: Incidental trace amounts of 1,2-DCB was identified in subjects during cryogenic sampling in respired air.
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは、0.001及び26.0 ug/hrの間の濃度で、被験者8人中7人の呼気において検出された。 トイレの防臭剤として用いられるo-ジクロロベンゼン(ケーキ状)の事前曝露は、低温サンプリングの間に微量成分として対象者から検出されたものと考えられた。	1,2-DCB was identified in expired air in 7 out of 8 subjects at concentrations between 0.001 and 26.0 ug/hr. Previous exposure to o-DCB (cake form) used as a deodorant in the wash room, was thought to contribute to the trace composition in subjects during the cryogenic sampling
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンは、0.001及び26.0 ug/hrの間の濃度で、被験者8人中7人の呼気において検出された。	1,2-DCB was identified in expired air in 7 out of 8 subjects at concentrations between 0.001 and 26.0 ug/hr.
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	137	137
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 免疫毒性	Type: Immunotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley No. of animals: 10 (per group) Sex: Male Route of Administration: Inhalation Dose: 5-29 ppm Exposure Period: 4 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Haematological effects
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼン蒸気の4時間曝露は、未処理の対照群と比較した赤血球(RBC)と白血球の差分(LD)の数にはなんらの変化もなかったが、副腎依存性の白血球減少を誘発した。 白血球減少は、10ppm以上では用量依存性で有意であった。	4 h exposure to vapourised 1,2-DCB induced adrenal dependent leucopenic effect without any change in red blood cell (RBC) and leucocyte differential (LD) counts compared to untreated controls; leukopenia was dose-dependent and significant at 10 ppm and above
結論		
結論	白血球減少は、10ppm以上では用量依存性で有意であった。	leukopenia was dose-dependent and significant at 10 ppm and above
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	138	138
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	200 mMのDMSO 0.05%に溶解	1,2-DCB was dissolved in 0.05% DMSO to a final concentration of 200 mM
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 免疫毒性	Type: Immunotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: mice Strain: ddy No. of animals: 3 Sex: Female Route of Administration: ex vivo Dose: 200 mM Exposure (h): 15-20 Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Phagocytic activity of peritoneal macrophages
結果		

結果	1,2-ジクロロベンゼンは、マウスにおける腹腔マクロファージの食細胞活性を対照群の78%まで低下させた。 データは1,2-ジクロロベンゼンによる細胞毒性と類似している。	1,2-DCB reduced peritoneal macrophage phagocytic activity in mice by 78% of control; the data parallel the cytotoxicity by 1,2-DCB
結論		
結論	マウスにおける腹腔マクロファージの食細胞活性を対照群の78%まで低下させた。	reduced peritoneal macrophage phagocytic activity in mice by 78% of control;
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	131	131
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rabbits Strain: Chinchilla Number of animals: 3 Sex: not stated Route of Administration: gavage Dose: 500 mg/kg bw Exposure Period: 48 hr Frequency of Treatment: once Control Group: Post Exposure Obs.: 6-day period; daily urinalysis of glucuronic acid, ethereal sulphate, total catechols and mercapturic acid
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの一次酸化代謝物は3,4-ジクロロフェノール(グルクロン酸及び硫酸塩の結合体として排泄された)であるが、3,4-ジクロロフェニルメルカプト酸はマイナーな代謝物である(用量の5%)。 2,3-ジクロロフェノール、4,5-ジクロロカテコール及び3,4-カテコールもマイナーな代謝物として排泄される。 1,2-ジクロロベンゼンの代謝物の排泄はゆっくりで、投与後5-6日以内に終了する。	The primary oxidation metabolite of 1,2-DCB is 3,4-dichlorophenol (which is excreted as the glucuronic and sulphate conjugates) whilst 3,4-dichlorophenylmercapturic acid is a minor metabolite (5% of the dose); conjugates of 2,3-dichlorophenol, 4,5-dichlorocatechol & 3,4-catechol are also excreted as minor metabolites; excretion of 1,2-DCB metabolites is slow, being completed within 5-6 days after dosing
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンの代謝物の排泄はゆっくりで、投与後5-6日以内に終了する。	excretion of 1,2-DCB metabolites is slow, being completed within 5-6 days after dosing
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	139	139
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Fischer-344 Number of animals: 3 Sex: Male Route of Administration: dynamic organ culture Dose: 0.5 mM Exposure Period: 2h, 4h and 6h Frequency of Treatment: once Control Group: Post Exposure Obs.: determine 1,2-DCB metabolites excreted by the rat liver slice system following exposure to 1,2-DCB
結果		
結果	培養培地の中に排泄された1,2-ジクロロベンゼンの水溶性代謝物への代謝時間が増加 肝臓スライスでは残存する代謝物は低いままであった。	A time-dependent increase in the metabolism of 1,2-DCB to aqueous soluble metabolites excreted into the incubation medium; metabolites retained by the liver slices remained low
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	140	140
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	<p>A time-dependent increase in the concentration of aqueous soluble metabolites into the incubation medium and not the liver slices;</p> <p>Species: human Number of samples: 3 Sex: Male Route of Administration: dynamic organ culture Dose: 0.5 mM Exposure Period: 2h, 4h and 6h Frequency of Treatment: once Control Group: Post Exposure Obs.: determine 1,2-DCB metabolites excreted by human liver slice system following exposure to 1,2-DCB</p>
結果		
結果	個々のヒトの肝臓における代謝物の変わりやすさが顕著であった。	the variability between metabolism amongst individual human livers was marked
結論		
結論	個々のヒトの肝臓における代謝物の変わりやすさが顕著であった。	the variability between metabolism amongst individual human livers was marked
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	141	141
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	> 99%	1,2-DCB > 99% purity
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	<p>whole-body exposure to 1,2-DCB vapours for 4 hours;</p> <p>Species: mice Strain: Swiss OF1 Number of animals: 6 per exposure level Sex: Male Route of Administration: inhalation Dose: 116, 153, 196 and 273 ppm (15 min); 392-976 ppm (4 h) Exposure Period: 15 minutes and 4-h Frequency of Treatment: once Control Group: Post Exposure Obs.: upper respiratory tract irritation (15 min exposure); hepatic glucose-6-phosphatase staining intensity (4-h exposure)</p>
結果		
結果	肝のグルコース-6-フォスファターゼの染色強度の50%減少に必要なとされたMAL(暴露の中央値活性レベル)は、598 ppm(=約3.66 mg/l)であった。 1,2-ジクロロベンゼンの15分暴露の後に、マウス(RD50)の呼吸速度が50%減少するMALは、181 ppm(=約1.11 mg/l)であった。	the MAL (median active level of exposure) required for eliciting a 50 % decrease in hepatic glucose-6-phosphatase staining intensity was 598 ppm (= ca.3.66 mg/l); the MAL responsible for a 50 % decrease in the respiratory rate of mice (RD50) was 181 ppm (= ca. 1.11 mg/l), following a 15 minute exposure to 1,2-DCB
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	142	142
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>98%	>98% purity
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	Species: rats Strain: Wistar No. of animals: 4 animals per dose Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal Dose: 1, 2, and 4 mmol/kg (= 147, 294 or 588 mg/kg bw) in arachidis oil (controls received arachidis oil) Exposure Period: 24, 48, and 72h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Renal: Body and organ (kidney and liver) weight, liver histopathology, liver alanine asparagine aminotransferase (ALT), kidney glutathione (GSH), plasma blood urea nitrogen (BUN), and plasma thyroid hormones thyroxine (T4) and triiodothyronine (T3) levels
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼン(全用量)は、3日後に有意な体重減少が起きた。 肝臓の相対重量は有意に増加し、血漿ALTレベルの上昇は、全用量においてみられた。 72時間後、肝臓において、小葉中心性肥大や肝細胞の変性、また繊維形成により特徴付けられ、処理に比例した明瞭な病理組織学的変化がみられた(全用量)。 腎臓の相対重量も処理に比例した病理組織学所見のいずれにおいても、変化はなかった。 肝臓のチロキシンの変化は、血中甲状腺ホルモンレベルを減少させる影響は予測できないが、同時刻における1及び2mmol/kg bwを投与された動物検体は、血漿全T4及びT3レベルにおいて有意な減少を示した	1,2-DCB (all doses) resulted in significant body weight loss after 3 days; the relative liver weight was significantly increased and a rise in plasma ALT levels was observable at all doses; after 72 hours, distinct treatment-related histopathological changes in the liver were observable which were characterized by centrilobular hypertrophy and by hepatocellular degeneration and fibrosis (all doses); no change in the relative kidney weight or any treatment-related histopathological findings; 1 and 2 mmol/kg bw dosed animals at the same time point revealed a significant decrease in plasma total T4 and T3 levels, although alterations in hepatic thyroxine cannot be discounted as a mechanism for reduced levels of plasma thyroid hormone
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	78	78
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat and human adult and fetal liver slices Strain: Sprague Dawley Number of animals: 3 rats Sex: Route of Administration: organ culture Dose: 0.1 mM Testing Period: Frequency of testing: once Post Exposure Obs: covalent binding; metabolite formation: glucuronide, glutathione-cysteine, and sulfate
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの代謝物は、ヒトの胎児サンプルよりも成人において大きかった。 1,2-ジクロロベンゼンの代謝物のレベル(グルクロニド、硫酸塩及びグルタチオンとシステインの抱合体)及び共有結合は、1,3-ジクロロベンゼン及び1,4-ジクロロベンゼンのレベルと比較された。	1,2-DCB metabolism was greatest in human adult than fetal samples; levels of 1,2-DCB metabolites (glucuronides, sulfates and glutathione and cysteine conjugates) and covalent binding were compared to levels for 1,3-DCB and 1,4-DCB
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンの代謝物は、ヒトの胎児サンプルよりも成人において大きかった。	1,2-DCB metabolism was greatest in human adult than fetal samples;
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	143	143
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Wistar Number of animals: 4-8 Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal (i.p.) Dose: 1.36 mmol/kg Testing Period: Frequency of testing: once Post Exposure Obs: effect of 1,2-DCB on microsomal drug-metabolising enzymes: reduced nicotinamide adenine dinucleotide phosphate (NADPH)-cytochrome c reductase; NADH-cytochrome b5 reductase; cytochrome-P450 content; and uridine diphosphate (UDP)-glucuronyltransferase (UDPGT)
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは、クロラムフェニコール及びp-ニトロフェノールに対して、肝のUDP-グルクロン酸転移酵素活性を有意に増加した。 肝ミクロソームのNADPH-シトクロームc還元酵素の酵素活性において有意な増加は認められなかった。 肝のシトクロームP-450含有量における中等度の減少及びNADH-シトクロームb5還元酵素の減少がみられた。	1,2-DCB significantly increased hepatic UDP-glucuronyltransferase activity toward chloramphenicol and p-nitrophenol; no significant increase in the enzyme activity of hepatic microsomal NADPH-cytochrome c reductase was noted; a moderate decrease in hepatic cytochrome P-450 content and a reduction in the hepatic activity of NADH-cytochrome b5 reductase was observed
結論		
結論	1,2-ジクロロベンゼンは、クロラムフェニコール及びp-ニトロフェノールに対して、肝のUDP-グルクロン酸転移酵素活性を有意に増加した。	1,2-DCB significantly increased hepatic UDP-glucuronyltransferase activity toward chloramphenicol and p-nitrophenol
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	144	144
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley Number of animals: 5 Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal (i.p.) Dose: 500 mg/kg Testing Period: Frequency of testing: once Post Exposure Obs: effect of 1,2-DCB on liver and intestinal benzo(a)pyrene hydroxylase activity (AHH)
結果		
結果	投与24時間後、対照と比較した場合、腸と肝臓のどちらにおいても、ベンゾ(a)ピレン水酸化酵素の活性は有意に増加しなかった。	24 hours after administration there was no significant increase in the activity of benzo(a) pyrene hydroxylase in either the intestine or liver when compared to controls
結論		
結論	ベンゾ(a)ピレン水酸化酵素の活性は有意に増加しなかった。	there was no significant increase in the activity of benzo(a) pyrene hydroxylase in either the intestine or liver when compared to controls
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	145	145
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	rabbits received single oral doses of 500 mg/kg bw of o-dichlorobenzene:
結果		
結果	次の代謝物は、5日以内に尿とともに排泄された。(値は、排出された用量のメルカプト酸(5%),モノフェノール(40%),カテコール(4%),全O-抱合 = グルクロン酸抱合 + エーテル硫酸塩(69%))	the following metabolites were excreted with the urine within 5 days (values given as % of dose excreted): mercapturic acid (5 %), monophenols (40 %), catechols (4 %), total O-conjugates = conjugated glucuronic acid + ethereal sulphate (69 %)
結論		
結論	代謝物は、5日以内に尿とともに排泄された。	metabolites were excreted with the urine within 5 days
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		

出典	Williams, R.T.: 237-239: in Detoxication Mechanisms, 2nd Ed., John Wiley & Sons Inc., New York (1959)	Williams, R.T.: 237-239: in Detoxication Mechanisms, 2nd Ed., John Wiley & Sons Inc., New York (1959)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	不明	not stated
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	The paper examines the relative contribution of various human cytochrome P450 enzymes in the formation of phenolic metabolites from 1,2-DCB with microsomes derived from various cell lines. Species: Human liver microsomes and various cell lines Route of Administration: ex vitro Substrate concentration: 100 uM (final) Incubation Period: 10-30 minutes (HPLC determination) Frequency of Incubation: once
結果		
結果	ヒト特有のP450酵素を含むミクロソーム及びヒトの肝臓のミクロソームと1,2-ジクロロベンゼンとの培養は、同様の影響があることがわかった。 本質的に、CYP2E1は、1,2-ジクロロベンゼンからフェノール性代謝物23TCP及び34TCP(それぞれ349及び1210 pmol.min ⁻¹ .nmol P450 ⁻¹)の形成を誘発した。 これらの活性は、両システムにおいて、アセトンの存在下で抑制された。 たった1物質濃度が試験された(100 uM)だけなので、データの解釈は注意されるべきである。それゆえ、Kmの差は、特にin vivoの推定に関しては、考慮されない。 そのうえ、フェノール性代謝物の程度は、酵素活性及び含有候補CYP酵素の濃度に依存している。	Incubation of 1,2-DCB with microsomes containing specific human P450 enzymes and human liver microsomes revealed similar effects. Essentially, CYP2E1 induced the formation of phenolic metabolites 23TCP and 34TCP (349 and 1210 pmol.min ⁻¹ .nmol P450 ⁻¹ , respectively) from 1,2-DCB. These activities were inhibited in the presence of acetone in both systems. Caution should be taken in interpreting the data since only one substrate concentration was investigated (100 uM), differences in Km, therefore, are not taken into account, in particular in respect to in vivo extrapolation. Moreover, the degree of phenolic metabolites is also dependant upon the enzymatic activity and concentration of candidate CYP enzyme involved.
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	146	146
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	純度99%の1,2-DCBを1% DMSOに溶解	1,2-DCB 99% pure dissolved in 1% DMSO
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat and humans Strain: Sprague-Dawley and Fischer-344 rats No. of animals: 4 per strain and 7 humans Sex: M Route of Administration: in vitro Dose: 1 mM Frequency of Treatment: 2 and 6 h incubations in culture medium Post Exposure Obs: comparative metabolism and covalent binding of reactive metabolites of 1,2-[14C]-DCB in liver slices
結果		
結果	ヒトの肝臓スライスは、1,2-ジクロロベンゼンをラットの肝臓スライスよりも多く代謝した。 全代謝及び共有結合は細胞毒性と関係がなかった。 グルタチオン-S-システインの抱合体は、ラット及びヒトの肝臓スライスでの1,2-ジクロロベンゼンの主な代謝物であった。	Human liver slices metabolised 1,2-DCB to a greater extent than those from rats; total metabolism and covalent binding did not correlate with cytotoxicity; glutathione-cysteine conjugate was the major metabolite for 1,2-DCB in rat and human liver slices
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	147	147
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	Species: rat and mouse hepatic microsomes Strain: SPF (Wistar strain) and B6C3F1 No. of animals: not stated Sex: both sexes Route of Administration: in vitro Dose: 0.1 mM Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: 1,2-DCB metabolites with or without induction of CYP3A or CYP2E1
結果		
結果	ミクロソーム調製剤に1,2-[14C]-ジクロロベンゼンを投与した後の水溶性代謝物は、重要な種及び性差を示した。 (詳細は英文参照)	Water-soluble metabolites after the addition of 1,2-[14C]-DCB to microsomal preparations showed substantial species and sex differences. Microsomes from female rats metabolised o-DCB faster than their male equivalents; microsomes from male mice were more efficient with respect to 1,2-DCB metabolism than microsomes from female mice; Microsomal metabolism of 1,2-DCB was 7-fold faster by mice compared to rats; covalent binding of metabolites was higher in mice of both sexes compared to rats; induction of CYP2E1 by benzene inhalation resulted in increased metabolism of 1,2-DCB in rats but induction of CYP3A by pregnenolone 16- α -carbonitrile did not increase metabolism except in female rats where a 6-fold increase was recorded.
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	148	148
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: トキコキネティクス	Type: Toxicokinetics
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Holtzman No. of animals: 4 or more Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal injection (1 ml/kg) Dose: 5 mmol/kg Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Rat bile duct-pancreatic fluid (BDPF) flow, protein concentration and serum glutamic pyruvic transaminase (SGPT) activity were monitored 24 h after 1,2-DCB exposure
結果		
結果	対照と比べて、BDPFフローは有意に増加し、BDPF蛋白質濃度は有意に減少した。 SGPT活性は影響されたままであった。	BDPF flow was significantly increased and BDPF protein concentration significantly reduced compared to controls; SGPT activity remained affected
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	149	149
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: その他	Type: other
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat (hepatocytes) Strain: Donryu No. of animals: 2 Sex: Male Route of Administration: ex vivo Dose: 0.24 mM Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Inhibitory effects of 1,2-DCB on mitochondrial respiration based upon oxygen consumption and the degree of inhibition in State 3 and 4 respiration
結果		
結果	state 4の呼吸は増加し、state 3の呼吸は減少した。	increased state 4 respiration and a decreased state 3 respiration
結論		
結論		

注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	150	150
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: その他	Type: other
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	rats received twice daily dermal applications of o-dichlorobenzene (skin painting on the shaved ventral side; size of site of application: ca. 10 square centimetres); the treatment was tolerated very badly by the animals;
結果		
結果	5回投与後に1匹のラットが重篤で一般的な障害の症状を示して死亡した。 9回投与後にもう1匹のラットが死亡し、肉眼的試験は肝臓に軽い斑点及び腎臓に変化を示した。 皮膚の変化は、投与部分にみられなかった。	one rat died after 5 applications showing signs of severe general damage; another rat died after 9 administrations and gross examination showed a light-spotted liver and renal changes; no dermal changes were observable at the site of application
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	89	89
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 1,2-DCB effects on Staes 3 and 4 oxidative respiration	Type: 1,2-DCB effects on Staes 3 and 4 oxidative respiration
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat (hepatocytes) Strain: Donryu No. of animals: 2 Sex: Male Route of Administration: ex vivo Dose: 0.24 mM Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Inhibitory effects of 1,2-DCB on mitochondrial respiration based upon oxygen consumption and the degree of inhibition in State 3 and 4
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは、有意なK ⁺ effluxと同時に、State 3の呼吸の抑制及び／又はState 4の呼吸の加速による呼吸の管理指数の減少を誘発した。	1,2-DCB induced a decrease in respiratory control index via inhibition of State 3 respiration and /or acceleration of State 4 respiration in parallel with significant K ⁺ efflux
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献 (元文献)	151	151
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 1,2-DCBのラットのすい臓と肝臓への影響	Type: 1,2-DCB effects on rat pancreas and liver
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Holtzman Number of animals: 4 (minimum) Sex: M Route of Administration: intraperitoneal (ip) Dose: 5 mmol/kg (50% solution in sesame oil) Testing Period: 24 h Frequency of testing: once Post Exposure Obs: Pancreatic-hepatobiliary function: bile duct-pancreatic fluid (BDPF; mg/min/kg bw) flow; PDPF protein and electrolyte concentration; SGPT activity
結果		

結果	1,2-ジクロロベンゼンは、BDPFパラメーターにおける統計的有意な変化を誘発した。: (詳細は英文参照)	1,2-DCB induced a statistically significant change in BDPF parameters: BDPF flow increased by greater than 900% whilst BDPF protein concentration decreased by at least 75% compared to vehicle controls; chloride, bile flow and SGPT activity were all unchanged compared to vehicle control treated animals
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	152	152
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 乳脂肪中の1,2-DCB	Type: 1,2-DCB in milk fat
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	The authors identify volatiles (including 1,2-DCB) in irradiated milk fat; processes used: ethyl ether extraction and gas-liquid chromatographic separation; rapid scan-mass spectrometry
結果		
結果	牛の乳脂肪のガスクロマトグラフ及び質量分析のにおいて1,2-ジクロロベンゼンが確認された。 その原因はおそらく殺虫剤である。	Gas chromatographic and mass spectral identification of 1,2-DCB was confirmed in cow milk fat; its origin may be from pesticides
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	153	153
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 1,2-DCB の分配係数	Type: 1,2-DCB partition coefficient(s)
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	the partition coefficient of blood/air for 1,2-DCB was determined by means of a vial-equilibration method
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの血液/気相分配率は、423(摂氏37度)	Blood/air partition coefficient for 1,2-DCB was 423 (at 37 degrees centigrade)
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	154	154
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: ヒトの脂肪と母乳中の残存1,2-DCB	Type: 1,2-DCB residues in Human Fat & Milk
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: Human Number of samples: 15 (adipose tissue) and 12 (breast milk) Sex: Male and Female (adipose tissue); Female (breast milk) Route of Administration: ex vivo samples derived from adipose tissue and breast milk Post Exposure Obs: Capillary GL chromatographic analysis of 1,2-DCB in adipose tissue and breast milk
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの濃度レベルの算術平均: 13 ug/kg(脂肪組織) 及び9 ug/kg(母乳)	Arithmetic means for 1,2-DCB levels detected were: 13 ug/kg (adipose tissue) and 9 ug/kg (breast milk)
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください

信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	155	155
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 市販のミルクと脂肪中の残存1,2-DCB	Type: 1,2-DCB residues in Market Milk & Fat
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: Cow Number of samples: 9 (raw milk) and 3 (fresh beef) Route of Administration: biological monitoring in ex vivo samples derived from cows milk and beef samples Post Exposure Obs: Gas chromatographic analysis of 1,2-DCB in cows milk and beef samples
結果		
結果	確定された1,2-ジクロロベンゼンのレベルの算術平均: 2.6 ng/g(牛乳)及び1 ng/g(新鮮な肉)	Arithmetic means for 1,2-DCB levels detected were: 2.6 ng/g (cows milk) and 1 ng/g (fresh meat)
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	156	156
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 1,2,4-TCBの排泄と代謝	Type: Excretion and Metabolism of 1,2,4-TCB
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Wistar Sex: Male Number of animals: 3-5 per group Route of Administration: perorally Dose: 50 mg/kg [14C]-1,2,4-TCB Exposure Period: 12, 24,48 and 168 h Frequency of Treatment: once Control Group: Post Exposure Obs.: Excretion and metabolism of 1,2,4-TCB
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの少量が呼気から排出された。 in vivoのTCBの1,2-ジクロロベンゼンへの還元脱塩素 168時間以内に、約66%が尿に、約17%が糞にそれぞれ排泄された。 しかし、1,2-ジクロロベンゼンの代謝物は検出されなかった。	Small amounts of 1,2-DCB were excreted in the expired air; reductive dechlorination of TCB to 1,2-DCB in vivo; approximately 66% and 17% excreted in urine and feces respectively as within 168 h however 1,2-DCB metabolites were not detected
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	157	157
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝	Type: Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	experimental design: the rats received two doses of 100 or 300 mg/kg bw of 1,2-DCB; the first dose was given 21 hours before sacrifice of the rats; the second dose was given 4 hours before sacrifice Species: rat Strain: Sprague-Dawley Number of animals: Sex: Female Route of Administration: gavage Dose: 100 or 300 mg/kg bw Testing Period: Frequency of testing: once Post Exposure Obs: the effects of 1,2-DCB on four biochemical assays: hepatic DNA damage by alkaline elution; hepatic ornithine decarboxylase activity; serum alanine aminotransferase activity and hepatic cytochrome P-450 content were determined

結果		
結果	300 mg/kgにおいて、肝のオルニチン脱炭酸酵素活性が増加した。他の生化学的試験では有意な変化を示さなかった。死亡例はなかった(死亡率: 0/8)。唯一、オルニチン脱炭酸酵素活性が増加したが、肝のシトクロムでは見られなかった。P-450の含有は細胞増殖には、影響しないと結が得られる。	the hepatic ornithine decarboxylase activity was increased at 300 mg/kg; the other biochemical assays showed no significant changes; no deaths occurred (mortality: 0/8); an increase in only he-patic ornithine decarboxylase activity but not in hepaticcytochrome P-450 content is considered a negative result forc ell proliferation
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	115	115
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	コーンオイルに溶解した1,2-DCB: 純度不明	1,2-DCB in corn oil: purity not stated
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: Oxidative Stress related Hepatotoxicity	Type: Oxidative Stress related Hepatotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Liver and serum levels of lipid peroxidation products increased in a time-dependent manner and were detected at 3 hours in the liver and at 12 hours in serum; Species: rat Strain: Fischer 344 Number of animals: 3 Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal (ip) Dose: 3.6 mmol/kg Testing Period: 48 h Frequency of testing: 3, 12, 16, 24 and 48 h Post Exposure Obs: liver and serum lipid peroxidation products (through the formation of 4-HNE protein adducts); serum ALT activity and changes in liver histopathology
結果		
結果	血漿ALT活性は、時間依存的に増加した。24時間で小葉中心部における脂質過酸化-蛋白質付加物の広範な着色。1,2-ジクロロベンゼンが、壊死のない状態で、血漿ALT活性の顕著な減少を誘発。処理された動物検体の基礎的過酸化物の産生が、24時間のラットのKupffer細胞では3倍に増加した。1,2-ジクロロベンゼンを処理した動物検体のKupffer細胞におけるPMA(ホルボールミリステートアセテート)の刺激は、未処理の対照群と比較して、72%以上の過酸化物を生じた。	serum ALT activity increased in a time-dependent manner; extensive staining of lipid peroxidation-protein adducts in centrilobular regions at 24 hours; 1,2-DCB-induced a marked decrease in serum ALT activity in the absence of necrosis; Kupffer cells from rats at 24 hours showed a 3-fold increase in basal superoxide production from treated animals; PMA (Phorbol Myristate Acetate) stimulation in Kupffer cells of 1,2-DCB-treated animals resulted in 72% more superoxide compared to untreated controls
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	158	158
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98%以上	1,2-DCB purity at least 98%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: トキコキネティクスと代謝	Type: Toxicokinetics and Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Wistar (CrI:(WI)WUBR) Number of animals: 3 per/dose time-point Sex: Male Route of Administration: gavage Dose: 5, 50, or 250 mg/kg bw Testing Period: 1-96 h Frequency of testing: once Post Exposure Obs: tissue distribution, elimination, and urinary metabolites of 1,2-DCB were investigated
結果		

結果	1,2-[14C]-ジクロロベンゼンの最高濃度は、腎臓、膀胱、腎脂肪被膜、肝臓、小腸及び皮膚（皮下脂肪を含む）では、6時間でみられた。 尿代謝物は2,3-ジクロロフェノール、3,4-ジクロロフェノール及びそれらの硫酸塩及びメルカプト酸の誘導体を含んでいた。 1,2-ジクロロベンゼンの異なる用量に対する代謝プロファイルでは有意な差はみられなかった。また、ハイドロキノンもしくはキノン代謝物も検出されなかった。 尿(75-85%)及び糞(低用量19%、高用量7%)の放射能の回復は、低用量では24時間以内で、高用量では48時間まで、排泄が本質的に完了したことを示した。	Highest concentrations of 1,2-[14C]-DCB were found at 6 hours in the kidney, urinary bladder, perirenal fat, liver, small intestine, and skin (including subcutaneous fat); urinary metabolites included 2,3-dichlorophenol, 3,4-dichlorophenol and their sulfate and mercapturic acid derivatives; no significant differences were observed in metabolic profiles for different doses of 1,2-DCB and no hydroquinone or quinone metabolites were detected; recovery of urinary (75-85%) and faecal (19% low dose and 7% high dose) radioactivity indicated excretion was essentially complete within 24 hours at the lower doses and by 48 hours for the high dose
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	159	159
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	1,2-D[14C]B : > 98%	1,2-D[14C]B radiochemical purity > 98%
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ:トキコネティクスと代謝	Type: Toxicokinetics and Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Wistar (CrI:(WI)WUBR); Fischer-344 (F344); Sprague-Dawley Number of animals: 3 Sex: Male Route of Administration: gavage Dose: 80 uM Testing Period: 15 minutes (ex vivo) Frequency of testing: once Post Exposure Obs: Metabolism and covalent binding of 1,2-[14C]DCB by rat hepatic microsomes; epoxide hydrolase activity; glutathione-epoxide conjugates; phenobarbital induction to determine species of microsomes
結果		
結果	ラットの肝ミクロソームによる1,2-[14C]ジクロロベンゼンの主な代謝物: 2,3-ジクロロフェノール、3,4-ジクロロフェノール及びジヒドロジオールとグルタチオン-エポキシサイドの抱合体 sprague-Dawley ミクロソームは最も活性が少ないが、最も高い共有結合 (31%); F344ラットはエポキシサイド加水分解活性の最低レベルを有した。ミクロソームは主に1つのグルタチオンエポキシサイド抱合体を産生し、総量はフェノバルビタール誘導によって増加した。CYP2B1/2酵素は主に1,2-ジクロロベンゼンの代謝物に含まれていることを示している。	Major metabolites of 1,2-[14C]DCB by rat hepatic microsomes: 2,3-dichlorophenol, 3,4-dichlorophenol and dihydrodiol and glutathione-epoxide conjugates; sprague-Dawley microsomes the least active however highest covalent binding (31%); F344 rats possessed lowest level of epoxide hydrolase activity; microsomes produced mainly one glutathione epoxide conjugate and amount increased by phenobarbital induction, indicating CYP2B1/2 enzymes are primarily involved in the metabolism of 1,2-DCB
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	160	160
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン	タイプ:トキコネティクスと代謝	Type: Toxicokinetics and Metabolism
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: Strain: Number of animals: Sex: Route of Administration: Dose: Testing Period: Frequency of testing: Post Exposure Obs: Using a 'fitted' Michaelis-Menten constant for Vmax and Km, GSH-depletion and covalent binding was monitored as a mechanism of 1,2-DCB oxidation in rat liver microsomes; physiologic and biochemical parameters, partition coefficients and adsorption rate constants are also determined
結果		
結果	肝ミクロソームを用いて、in vitroのVmax及びKmが決定された。0.14 nmol/mg 蛋白質/min 及び 4.8 uM (ラット) 及び 0.27 nmol/mg/min 及び 7.5 uM (ヒト); データは生理学に基づくpharmacokineticモデルを使用した。	Using hepatic microsomes determined in vitro Vmax and Km: 0.14 nmol/mg protein/min and 4.8 uM (rat) and 0.27 nmol/mg/min and 7.5 uM (humans); data used in physiologically based pharmacokinetic model

結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	161	161
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: トキコネティックスと代謝 (role of P450 enzymes in the biotransformation of 1,2-DCB to epoxide metabolites in man)	Type: Toxicokinetics and Metabolism (role of P450 enzymes in the biotransformation of 1,2-DCB to epoxide metabolites in man)
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: human Strain: Number of samples: liver microsomes (pooled from 5 individuals) Sex: Route of Administration: ex vivo Dose: 0.85 kBq [1,2-14C]DCB Testing Period: 15 minutes Frequency of testing: once Post Exposure Obs: Metabolism and covalent binding of [1,2-14C]DCB by human hepatic microsomes; epoxide hydrolase activity; glutathione-epoxide conjugation; phenobarbital induction to determine species of microsomes
結果		
結果	代謝物は2,3-ジクロロフェノール、3,4-ジクロロフェノール及びジヒドロジオールとグルタチオン-エポキシイドの抱合体を含んだものを産生した。 グルタチオン抱合体は、グルタチオン-S-トランスフェラーゼにより変化を促進された。 1,2-ジクロロベンゼンの変換速度は、0.14 nmol/min/mg-蛋白質であった。 共有結合は、全代謝物の4.6%になった。 ミクロソーム調製に加えられたグルタチオンは、グルタチオン-エポキシイド抱合体の形成を増加させ、ジヒドロジオールの形成を減少させた。 エポキシイド加水分解の抑制は、ジヒドロジオールを減少し、共有結合を増加させた。 アスコルビン酸の存在は、ヒトのミクロソームに共有結合しなかった。 CYP2E1は1,2-ジクロロベンゼンの代謝物を含む主なヒトのシクロムである。	Metabolites produced included 2,3-dichlorophenol, 3,4-dichlorophenol and dihydrodiol and glutathione-epoxide conjugates; glutathione conjugation was catalysed by glutathione-S-transferases; the rate of conversion of 1,2-DCB was 0.14 nmol/min/mg protein; covalent binding amounted to 4.6% of total metabolites; addition of glutathione to the microsomal preparations resulted in increased formation of glutathione-epoxide conjugates and a decrease in dihydrodiol formation; inhibition of epoxide hydrolase resulted in a decrease in dihydrodiols and increased covalent binding; the presence of ascorbic acid did not affect covalent binding to human microsomes; CYP2E1 is the major human cytochrome involved the metabolism of 1,2-DCB
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	160	160
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	イヌは、2ml/m3(=約2.64 mg/l)の濃度で1時間、o-ジクロロベンゼンを吸入暴露された。 中毒の兆候はみられなかった。 さらなる実験において、イヌはo-ジクロロベンゼンの4ml/m3(=約5.29 mg/l)に暴露された。 短期間の眠気が生じた。	a dog was exposed via inhalation to o-dichlorobenzene at a concentration of 2 ml per cubic metre (= ca. 2.64 mg/l) for 1 hour; no signs of toxicity were observable; in a further experiment the dog was exposed to 4 ml per cubic metre (= ca. 5.29 mg/l) of o-dichlorobenzene: transient drowsiness occurred
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	89	89
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		

方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	mice, rats and guinea pigs were exposed via inhalation for 1 hour to an atmosphere saturated with o-dichlorobenzene;
結果		
結果	マウスは約20分間継続する短期間の中枢神経刺激を示した。その後、中枢神経系の低下、筋肉痙攣、不正呼吸及びチアノーゼが発生し、動物検体は24時間以内に死亡した。ラット及びモルモットも中枢神経の刺激を示したが、数時間以内に回復し、死亡は生じなかった。	the mice showed transient central stimulation lasting ca. 20 minutes; afterwards depression of the central nervous system, muscle twitching, irregular respiration and cyanosis occurred and the animals died within 24 hours; the rats and guinea pigs also showed central stimulation, but they recovered within a few hours and no deaths occurred
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	89	89
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	rats were exposed to atmospheres saturated with o-dichlorobenzene at various temperatures (20, 30 or 95 degrees Centigrade) by dynamic vaporisation (whole-body exposure; exposure time: 0.5, 1, 3 or 7 hours; observation period: 14 days);
結果		
結果	20℃で7時間暴露された雌雄のラット、30℃で7時間暴露された雄ラット、95℃で1又は3時間暴露された雌雄、95℃で7時間暴露された雌において死亡が生じた。 中毒の兆候: 行動異常、呼吸困難、鎮静状態、眼及び鼻の可視粘膜の刺激、興奮状態	deaths occurred in male and female rats exposed for 7 hours at 20 degrees Centigrade, in male rats exposed for 7 hours at 30 degrees Centigrade, in male and female rats exposed for 1 or 3 hours at 95 degrees Centigrade and in female rats exposed for 7 hours at 95 degrees Centigrade; signs of toxicity: behaviour disorder, difficulty of breathing, sedation, irritation of the visible mucous membranes of eyes and noses, state of agitation
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979	Bayer AG data, Report No. 8556, August 7, 1979
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	male rats were injected (i.p.) with 2 or 3 mmol/kg bw (= 294 or 441 mg/kg bw) of o-dichlorobenzene; hepatic and renal toxicity was quantitated 24 hours after injection of o-dichlorobenzene;
結果		
結果	血漿トランスアミナーゼ活性はo-ジクロロベンゼンによって、投与された用量に対応して増加した。肝の変性(小葉中心性の壊死)が、o-ジクロロベンゼン注入後、24時間以内に処理された動物検体において検証された。o-ジクロロベンゼンの2 mmol/kg bwで処理された動物検体の腎臓は、比較的正常で完全な状態であった。血液尿素窒素レベルは、処理後24時間以内に変更された。p-アミノ馬尿酸又はテトラエチルアンモニウムの腎皮質スライスにおける蓄積は、それぞれ3又は2 mmol/kg bwで減少した。	plasma transaminase activity was increased by o-dichlorobenzene as a function of dose administered; hepatic degeneration (centrilobular necrosis) was evident in the treated animals within 24 hours after injection of o-dichlorobenzene; the kidneys of animals treated with 2 mmol/kg bw of o-dichlorobenzene were of relatively normal integrity; blood urea nitrogen levels were not altered within 24 hours after treatment; renal cortical slice accumulation of p-aminohippurate or tetraethylammonium was decreased at 3 or 2 mmol/kg bw, respectively
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	162	162
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	male rats received a single i.p. injection of 4 mmol/kg bw (= 588 mg/kg bw):
結果		
結果	<p>尿排泄量の増加及び摂餌量の減少がみられた。</p> <p>肝毒性は、肝臓重量の増加及び血漿トランスアミナーゼ活性の顕著な上昇が特徴であった。</p> <p>腎変化は、48時間における腎臓重量の増加、蛋白尿の増加及び有機イオン濃縮の変化によって特徴付けられた。</p> <p>p-アミノ馬尿酸及びテトラエチルアンモニウムの腎皮質スライスへの取り込みは、処理後24時間で減少したが、唯一、基本的なp-アミノ馬尿酸の取り込みは48時間で減少した。</p>	<p>increased urine output and decreased food consumption were observable;</p> <p>hepatic toxicity was characterized by increased liver weight and a marked elevation in plasma transaminase activity;</p> <p>renal alterations were characterized by increased kidney weight at 48 hours, increased proteinuria and alterations in organic ion accumulation;</p> <p>renal cortical slice uptake of p-aminohippurate and tetraethylammonium were decreased within 24 hours after treatment while only basal p-aminohippurate uptake was decreased at 48 hours</p>
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	162	162
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 急性毒性	Type: acute toxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	<p>Species: rat</p> <p>Strain: Fischer 344</p> <p>No. of animals: 4 animals per group</p> <p>Sex: Male</p> <p>Route of Administration: intraperitoneal (ip)</p> <p>Dose: 2 or 3 mmol/kg bw; 294 or 441 mg/kg bw, respectively</p> <p>Exposure Period:</p> <p>Frequency of Treatment: once</p> <p>Post Exposure Obs: Plasma alanine aminotransferase (ALT) and blood urea nitrogen (BUN) levels and urinary output as determinants of acute hepatic and renal toxicity of 1,2-DCB were assessed following ip pretreatment with phenobarbital (to induce CYP2A1, CYP2A2 and CYP 2B), betanaphthoflavone (to induce CYP1A1), pyridine (to induce CYP2E1) or piperonyl butoxide (to inhibit mixed function oxidase)</p>
結果		
結果	<p>1,2-ジクロロベンゼン(2又は3 mmol/kg)は、CYP2E1及びCYP2B活性の増加を伴って、血漿ALT及びBUNのレベルを有意に増加させた。</p> <p>フェノバルビタールまたはb-ナプソフラボンの前処理に関する影響が顕著でない両用量レベルで、ピリジンで処理された動物検体において血漿ALT活性が、顕著に増加した。</p> <p>両用量レベルについて全3つの処理群において肝臓重量が増加した。</p> <p>肝臓は、病理組織学的に、2 mmol/kgにおいて小葉中心性の障害が、3 mmol/kgにおいてその障害が最も顕著であることが明らかになった。</p> <p>尿排泄は、3 mmol/kgで処理された動物検体で、約3倍増加した。</p> <p>フェノバルビタール及びピリジンの前処理は尿毒性を起こした(BUNの増加として)。</p> <p>腎臓重量もまた、3つの誘発剤それぞれについて、1,2-ジクロロベンゼンの暴露後に増加した。</p>	<p>1,2-DCB (2 or 3 mmol/kg) induced a significant increase in plasma ALT and BUN levels associated with increases in CYP2E1 and CYP2B activity;</p> <p>plasma ALT activity markedly increased in pyridine treated animals for both dose levels the effect being less marked following phenobarbital or b-naphthoflavone pretreatment;</p> <p>liver weights increased in all three treatment groups for both dose levels;</p> <p>liver histopathology revealed centrilobular damage at 2 mmol/kg being most marked at 3 mmol/kg;</p> <p>urinary output increased approximately 3-fold in 3 mmol/kg treated animals;</p> <p>phenobarbital and pyridine pretreatment resulted in renal toxicity (as increased BUN);</p> <p>kidney weights were also increased following 1,2-DCB exposure for each of the three inducing agents</p>
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	163	163
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98.80%	purity = 98.8 %
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 細胞変異試験	Type: cell transformation assay
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	cell transformation assay: adult rat liver cell lines (established from the liver of F344 rats) were incubated with 1,2-DCB at a concentration of 131 mg/l; Species: Rat (hepatocyte cell lines) Strain: F344 No. of animals: Sex: Route of Administration: in vitro Dose: 131 mg/l Exposure (h): Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: cell transformation
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは成体のラットの肝臓上皮細胞においてわずかな細胞変形を誘発した。	1,2-DCB induced weak cell transformation in adult rat liver epithelial cells
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Shimada, T. et al. (1983): Study of effects on cultured liver cells of three chlorinated benzenes. Report of the Naylor Dana Institute for Disease Prevention, American Health Foundation, Valhalla, New York. EPA/OTS Doc. No.40-8420666, 1-41	Shimada, T. et al. (1983): Study of effects on cultured liver cells of three chlorinated benzenes. Report of the Naylor Dana Institute for Disease Prevention, American Health Foundation, Valhalla, New York. EPA/OTS Doc. No.40-8420666, 1-41
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 1,2-DCB のイヌの硫黄代謝への影響	Type: effect of 1,2-DCB on sulphur metabolism in dogs
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: dog Number of animals: 5 Sex: not stated Route of Administration: gavage Dose: 50 mg/kg/bw or 250 mg/kg/bw Testing Period: Frequency of testing: 4 Post Exposure Obs: effect of 1,2-DCB on sulphur metabolism as measured in the urine
結果		
結果	対照群と比べて、1,2-ジクロロベンゼンを投与された動物検体において、硫黄の尿排泄は増加した。	urinary output of sulphur was increased in 1,2-DCB dosed animals compared to controls
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	164、165	164、165
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley (NIH) Number of animals: 4 Sex: M Route of Administration: intraperitoneal (i.p.) Doses: not stated (in 0.03 ml sesame oil) Exposure Period: 24 hr Frequency of Treatment: once Control Group: sesame oil Post Exposure Obs: hepatocellular morphology in 1,2-DCB and phenobarbital (80 mg/kg bw, i.p.) pretreated animals
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンを投与された動物検体は、肝グリコーゲンの消失及び小葉中心性の柔組織細胞の極微の壊死を示した。1,2-ジクロロベンゼンに続いてフェノバルビタールによって前処理された動物検体は、グリコーゲンの損失及び塊状の肝壊死を経て小葉中心性の肝細胞毒性が著しく増加することを示した。	1,2-DCB dosed animals revealed hepatic glycogen loss and minimal necrosis of centrolobular parenchymal cells; phenobarbital pretreated animals followed by exposure to 1,2-DCB revealed a marked increase in centrolobular hepatotoxicity via glycogen loss and massive hepatic necrosis
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		

引用文献(元文献)	166	166
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	>99.0%	1,2-DCB purity >99.0%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley No. of animals: 8 per treatment/control group Sex: Male Route of Administration: inhalation Dose: 204-774 ppm Exposure Period: single treatment of 4 h or 6 h daily for 2-4 days Frequency of Treatment: Post Exposure Obs: Hepatotoxic responses: Serum glutamate dehydrogenase (GLDH); glutamic oxaloacetic transaminase (GOT); glutamic pyruvic transaminase (GPT) and sorbitol dehydrogenase (SDH) activities
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンの単回の4時間暴露に続いて、305ppm以上の濃度でGPT、GLDH及びSDH活性が増加し、609ppm以上でGOT活性が増加した。 反復暴露に続いて、軽度な酵素活性の変化が認められた。	Following single 4 h exposure 1,2-DCB increased GPT, GLDH and SDH activity at concentrations of 305 ppm or more, GOT activity was increased at concentrations greater than or equal to 609 ppm; only minor enzyme activity changes following repeated exposure
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	167	167
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	99% pure
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: hepatotoxic effects	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley No. of animals: 10 per treatment/control group Sex: Male Route of Administration: inhalation Dose: 246-739 ppm Exposure Period: Controls and one treated group at 4 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Serum glutamate dehydrogenase (GLDH) and sorbitol dehydrogenase (SDH) activities; centrilobular liver-cell injury determined by glucose-6-phosphatase (G-6-Pase) staining intensity
結果		
結果	369 ppm以上で、GLDH及びSDHが用量に依存して有意に増加した。 小葉中心性のG6-Pase染色性は直線的に用量に依存して減少した。	Significant dose-dependent increase in GLDH and SDH above 369 ppm; linear concentration-dependent decrease in centrilobular G6-Pase staining intensity
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	168	168
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley No. of animals: 5 per treatment/control group Sex: Male Route of Administration: inhalation Dose: 374-392 ppm Exposure Period: 4 h 1,2-DCB with and without pretreatment with ketones Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Liver function tests were conducted by monitoring serum glutamate dehydrogenase (GLDH) activity; hepatic cytochrome P-450 content; hepatic glutathione-S-transferase (GST) activity; 1,2-DCB effects were also examined in Ketone pretreated animals
結果		
結果	ケトン(アセトンを除く)の予備暴露は、1,2-ジクロロベンゼンによる血清のGLDH活性の増加の誘発を促進したが、シクロムP-450含有量のは増加およびGST活性はケトンの暴露のみでみられたレベルに近かった。	Pre-exposure to ketones (except acetone) enhanced 1,2-DCB-induced increase in serum GLDH activity, while increases in cytochrome P-450 content and GST activity were similar to levels seen in ketone only exposures
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	169	169
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	purity 99%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: hepatotoxic effects	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: human No. of animals: 10 human donor/biopsy liver tissue Route of Administration: ex vivo incubation Dose: 0.1 mM; 1 mM and 2 mM Exposure Period: 2 h, 4 h and 6 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: three viability parameters were used to assess toxicity were; membrane integrity; potassium (K+) content; Lactate Dehydrogenase (LDH); and protein synthesis
結果		
結果	時間に依存した統計的に有意な、細胞内のK+の減少、LDH漏洩の増加及び蛋白質合成の抑制は、2mMを投与された動物検体において、6時間までみられた。 蛋白質合成については6時間で、LDH放出については4時間で発生する影響は、統計的に有意な結果であるとともに時間に依存的であった。	a time-dependent statistically significant decrease in intracellular K+, increase in LDH leakage, and inhibition of protein synthesis was observed up to 6 h in 2 mM dosed animals; the effect was time-dependent with statistically significant results occurring at 6 h for protein synthesis and 4 h for LDH release
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	170	170
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	o-dichlorobenzene was administered i.p. at a dose of 5.4 mmol/kg bw (= 794 mg/kg bw) to two different strains of rats, i.e. Fischer-344 and Sprague Dawley rats;
結果		
結果	o-ジクロロベンゼンを投与されたFischer-344ラットは、血漿アラニンアミノ基転移酵素活性が、Sprague Dawleyラットよりも75倍強かった。 Fischer-344及びSprague Dawleyラットから得られた肝臓の形態試験は、o-ジクロロベンゼンによって誘発された肝細胞毒性に大きな違いがみられた。 フェノバルビタールによる動物検体の前処理(腹腔内投与)は、o-ジクロロベンゼンの肝細胞毒性のみられない用量の0.9 mmol/ kg bw (= 132 mg/kg bw)を投与されたラットの両種において、o-ジクロロベンゼンの肝細胞毒性を増強した。	Fischer-344 rats administered o-dichlorobenzene had 75 fold greater plasma alanine aminotransferase activities than the Sprague Dawley rats; morphological examination of liver obtained from Fischer-344 and Sprague Dawley rats confirmed the great difference in hepatotoxicity induced by o-dichlorobenzene; pretreatment (i.p.) of animals with phenobarbital potentiated the hepatotoxicity of o-dichlorobenzene in both strains of rats administered a non hepatotoxic dose of 0.9 mmol/ kg bw (= 132 mg/kg bw) of o-dichlorobenzene
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください

キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Gunawardhana, L. and Sipes, I.G.: 731-734: in Biological Reactive Intermediates IV, edited by Witmer, C.M. et al., Plenum Press, New York (1990)	Gunawardhana, L. and Sipes, I.G.: 731-734: in Biological Reactive Intermediates IV, edited by Witmer, C.M. et al., Plenum Press, New York (1990)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	the hepatotoxicity of o-dichlorobenzene, as determined by plasma alanine aminotransferase activity and histopathology in male Fischer-344 and Sprague Dawley rats, was compared at doses of 0.9, 1.8, 4.5 or 5.4 mmol/kg bw (= 132, 265, 662 or 794 mg/kg bw);
結果		
結果	この用量範囲内で、Fischer- 344ラットはアラニンアミノ転移酵素活性の用量に依存した増加を示したが、Sprague Dawleyラットはアラニンアミノ転移酵素活性の上昇を誘発したo-ジクロロベンゼンに耐性があった。 o-ジクロロベンゼン(5.4 mmol/kg bw)を投与された動物検体の病理組織学試験は、Fischer-344ラットの小葉中心性壊死を示したが、Sprague Dawleyラットでは示さなかった(投与経路は明記されていない。おそらく腹腔内投与)。	within this dose range Fischer- 344 rats demonstrated a dose dependent increase in alanine aminotransferase activity, whereas, Sprague Dawley rats were resistant to o-dichlorobenzene induced elevation in alanine aminotransferase activity; histopathology studies of animals dosed with o-dichlorobenzene (5.4 mmol/kg bw) exhibited centrilobular necrosis in Fischer-344 rats but not in Sprague Dawley rats (route of administration unspecified, probably i.p.)
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	171	171
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: Rat Strain: Fischer-344 No. of animals: not stated Sex: Male Route of Administration: intraperitoneal (i.p.) Dose: 3.6 mmol/kg bw (= 529 mg/kg bw) Exposure Period: Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Serum ALT levels and liver histopathology with and without pre-treatment with methyl palmitate (an inhibitor of Kupffer cell activity); with and without pretreated with the superoxide scavenger, superoxide dismutase (SOD; as the polyethylene glycol conjugate)
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼン単独で与えられた動物検体では、血漿ALTレベルは対照値を超えて有意に上昇したが、パルミチン酸メチルを用いた前処理では、血漿ALT活性は80%減少した。 1,2-ジクロロベンゼンの投与に先立って、SODを用いて前処理された動物検体では、血清ALT活性の70%の有意な減少も記録された。 パルミチン酸メチル及び活性酸素分解酵素の防護効果は病理組織学によって確認された。 フェノバルビタール処理された動物検体において、パルミチン酸メチルも活性酸素分解酵素も防護を受けた。	Plasma ALT levels were significantly elevated over control values in animals receiving 1,2-DCB alone while pretreatment with methyl palmitate resulted in an 80% decrease in plasma ALT activity; a significant decrease of 70% in serum ALT activity was also noted in animals pretreated with SOD, prior to 1,2-DCB administration; the protective effect of methyl palmitate and superoxide dismutase was confirmed by histopathology; neither methyl palmitate nor superoxide dismutase conferred protection in phenobarbital treated animals
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	172	172
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明

試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley No. of animals: 3 to 6 Sex: M Route of Administration: Intraperitoneal (i.p.) Dose: 0.1 – 1.33 mmol/kg bw Exposure Period: 6 and 24 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: hepatic morphology; effect of phenobarbital pretreatment on hepatic 1,2-DCB concentration and protein binding
結果		
結果	壊死した小葉中心性の肝細胞内の共有結合は、14C-1,2-ジクロロベンゼン (1.33 mmole/kg bw) の腹腔内投与後、6時間及び24時間に検出された。 フェノバルビタール誘導は、壊死した小葉中心性の肝細胞、肝グリコーゲンの消失及び塊状の壊死の発生を増強した。	Covalent binding within necrotic centrilobular hepatocytes was detectable 6 and 24 hours following i.p. administration of 14C-labeled 1,2-DCB (1.33 mmole/kg bw); phenobarbital induction potentiated the appearance of necrotic centrilobular hepatocytes, hepatic glycogen loss and massive necrosis
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	173、174	173、174
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	in vitro assay: rat liver slices were incubated with o-dichlorobenzene;
結果		
結果	1.0 mM (= 147 mg/l)において、o-ジクロロベンゼンは蛋白質合成の阻害、細胞内K ⁺ 含有量の消失及び乳酸脱水素酵素の放出を起こした。	at 1.0 mM (= 147 mg/l), o-dichlorobenzene resulted in an inhibition of protein synthesis, in a loss of intracellular K ⁺ content and in release of lactate dehydrogenase
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	175	175
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: F-344 No. of animals: 3 to 6 per strain Sex: Male Route of Administration: Intraperitoneal (i.p.) Dose: 2.7 mmol/kg bw (= 397 mg/kg bw) + concomitant i.p. injection of carbon tetrachloride (CCl ₄) at a single dose of 1.0 mmol/kg bw (= 154 mg/kg bw) Exposure Period: Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: plasma glutamate-pyruvate transaminase (GPT) activity and excretion of 1,2-DCB metabolites with and without CCl ₄ treatment
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンで処理された動物検体において、処理後24時間、血漿GPT活性の有意な上昇が示された。 CCl ₄ 処理に伴う結果: GPT活性の僅かな上昇。 尿及び糞での1,2-ジクロロベンゼンの代謝物の排泄は50%減少。 水溶性の1,2-ジクロロベンゼン代謝物は、肝臓において有意に減少し、1,2-ジクロロベンゼン未代謝物がなくなった時には3倍に増加した。	1,2-DCB treated animals exhibited an significant increase in plasma GPT activity 24 hours post treatment; concomitant CCl ₄ treatment resulted in: a marginal elevation in GPT activity; 50% reduction in urinary and faecal elimination of 1,2-DCB metabolites, significantly reduced aqueous soluble 1,2-DCB metabolites in the liver and 3-fold increase in expired umetabolised 1,2-DCB
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	176、177	176、177
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	<p>ジクロロベンゼンの3つの異性体は、F344ラットの雄における腹腔内投与に続いて肝細胞毒において、顕著な差が示された。暴露後24時間測定された血漿グルタミン酸ビルビン酸トランスアミナーゼ活性は、1.8 mmol/kg bw (= 265 mg/ kg bw)のo-ジクロロベンゼンの投与後に著しく上昇した。m-ジクロロベンゼンは、4.5 mmol/kg bw (= 662 mg/kg bw)投与後に、ほんの中度の上昇を示したが、p-ジクロロベンゼンは、この用量においてグルタミン酸ビルビン酸トランスアミナーゼ活性の上昇をもたらさなかった。グルタミン酸ビルビン酸トランスアミナーゼ活性の上昇を誘発したo-ジクロロベンゼン及びm-ジクロロベンゼンは、原形質の不可視微小構造的に、肝細胞の壊死の小葉中心性パターンと関連付けられた。フェノバルビタールで前処理された動物検体の、別の方法ではo-又はm-ジクロロベンゼンの両方に無毒性な0.9 mmol/kg bw (= 132 mg/kg bw))の投与によるグルタミン酸ビルビン酸トランスアミナーゼ活性の上昇によって、ジクロロベンゼンが誘発する肝細胞毒性の、生体活性に影響するシトクロムP-450の役割が、示された。ジクロロベンゼンのp-異性体は、フェノバルビタール処理による毒性の誘発がないことを示した。肝グルタチオン濃度は、o-ジクロロベンゼンについてもm-ジクロロベンゼンについても、1.8 mmol/kg bwの投与後、0.5時間 3時間 及び 5時間で減少した。</p>	<p>the 3 isomers of dichlorobenzene exhibited marked differences in hepatotoxicity following i.p. administration in male F344 rats; plasma glutamate-pyruvate transaminase activity, measured 24 hours post exposure, was markedly elevated following a 1.8 mmol/kg bw (= 265 mg/ kg bw) dose of o-dichlorobenzene; m-dichlorobenzene produced only a moderate elevation following a 4.5 mmol/kg bw (= 662 mg/kg bw) dose, while p-dichlorobenzene produced no elevation in glutamate-pyruvate transaminase activity at this dose; ultra-structurally, o- and m-dichlorobenzene induced elevations in glutamate-pyruvate transaminase activity were associated with a centrolobular pattern of hepatic necrosis; the role of cytochrome P-450 mediated bioactivation in dichlorobenzene-induced hepatotoxicity was demonstrated by elevated glutamate-pyruvate transaminase activities following an otherwise nontoxic 0.9 mmol/kg bw (= 132 mg/kg bw) dose of either o- or mdichlorobenzene in phenobarbital-pretreated animals; the p-isomer of dichlorobenzene showed no induction of toxicity with phenobarbital-pretreatment; hepatic glutathione concentrations were reduced 0.5, 3 and 5 hours after a 1.8 mmol/kg bw dose of either o- or m-dichlorobenzene</p>
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	178	178
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	> 99%	1,2-DCB purity > 99%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	<p>Species: rat Strain: Fischer-344 and Sprague-Dawley No. of animals: 3-8 per dose Sex: M Route of Administration: Intraperitoneal (i.p.) Dose: 0.9-5.4 mmol/kg bw (132 -794 mg/kg bw) Exposure Period: Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Plasma alanine aminotransferase (ALT) activity and in vivo covalent binding of 1,2-[14C]-DCB (0.9 mmol/kg bw; 132 mg/kg bw) equivalents to hepatic proteins with and without hepatic glutathione depletion; liver histology</p>
結果	<p>1,2-ジクロロベンゼンの可溶性代謝物は、12～24時間以上の肝蛋白質との放射性ラベルの共有結合と相関があった。1,2-DCB処理は、1.5時間において肝グルタチオン含有量の大幅な損失という結果に終わった。ALTレベルの高い有意な上昇は、265 mg/kg bw以上の1,2-ジクロロベンゼンについてみられた。組織学試験は、重篤な小葉中心性の肝障害を明らかにした。フェノバルビタール前処理は、肝シトクロムP450と肝細胞毒性を関係付けた。ホロン前処理による肝グルタチオンの激減は、1,2-ジクロロベンゼンの肝細胞毒性に影響するグルタチオンの役割を示唆する1,2-ジクロロベンゼンを投与した後、24時間後の血漿ALTレベルの有意な増加をもたらした。F344種は、24時間で血漿ALTレベルの大幅な増加によって肝細胞毒性が確定され、増加しなかったS-Dラットに比べ、1,2-ジクロロベンゼンにより敏感である。</p>	<p>Soluble metabolites of 1,2-DCB correlated with the covalent binding of radiolabel to hepatic proteins over a 12 to 24 hour period; 1,2-DCB treatment resulted in a substantial loss in hepatic glutathione content at 1.5 hours; highly significant increase in ALT levels was observed for 1,2-DCB doses of 265 mg/kg bw or greater; histological examination revealed severe centrilobular hepatic damage; prior phenobarbital treatment associated hepatotoxicity with hepatic cytochrome P450; depletion of hepatic glutathione by phorone pre-treatment resulted in a significant increase in plasma ALT levels 24 hours after administration with 1,2-DCB demonstrating a role for glutathione in mediating the hepatotoxicity of 1,2-DCB; F344 strain are more sensitive to 1,2-DCB hepatotoxicity determined by large increase in plasma ALT levels at 24 hours compared with no increase in S-D rats.</p>
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	179	179
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性影響	Type: hepatotoxic effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: mouse Strain: OF1 No. of animals: 8 per treatment/control group Sex: Male Route of Administration: inhalation Dose: 250-288 ppm 1,2-DCB with or without pretreatment with ketones Exposure Period: 4 h Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: centrilobular liver-cell injury was evaluated by glucose-6-phosphatase (G-6-Pase) staining intensity
結果		
結果	ケトン及び1,2-ジクロロベンゼンの連続暴露は、対照群に比べて1,2-ジクロロベンゼンの小葉中心性部(29-42%)における、G-6-Pase染色性の有意な減少を誘発した。	successive exposure to Ketones and 1,2-DCB provoked a significant decrease in G-6-Pase staining intensity in the centrilobular area (29-42%) relative to 1,2-DCB controls
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	169	169
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	98.8% 詳細英文参照	1,2-DCB 98.8% purity (1.04% impurity as an apolar fraction did not coincide with metabolite foramtion)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 肝細胞毒性	Type: hepatotoxicity
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rats Strain: Wistar Sex: Male Route of Administration: in vitro rat hepatic microsomes Dose: 0.8 mM (final concentration) Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs.: identification of rat hepatic microsomal induced metabolism of 1,2-DCB
結果		
結果	ラットの肝ミクロソームによる1,2-ジクロロベンゼンの代謝物は、主な代謝物として2,3-ジクロロフェノール及び3,4-ジクロロフェノールを産生した。ジクロロフェノールはさらにそれぞれテトラクロロヒドロキノ誘導体に代謝された。1,2-ジクロロベンゼンのマイナーな変換産物は、3,4-ジクロロカテコール及び4,5-ジクロロカテコールであった。	Metabolism of 1,2-DCB by rat hepatic microsomes produced 2,3-dichlorophenol and 3,4-dichlorophenol as the major metabolites; dichlorophenols were further metabolised to their respective dichlorohydroquinone derivatives; minor conversion products of 1,2-DCB were 3,4-dichlorocatechol and 4,5-dichlorocatechol
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	180	180
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 代謝(ヒト ミクロソーム)	Type: metabolism (human microsomes)
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: human hepatic microsomes Sex: male Route of Administration: in vitro Dose: 0.1 mM Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: 1,2-DCB metabolites with or without induction of CYP substrates including 2E1, 1A2, 2A6, 2B6, 2C9, and 3A4.
結果		
結果	1,2-[14C]-ジクロロベンゼンの代謝は、CYP2E1とよく相関していたが、他の試験したシトクロム(1A2, 2A6, 2B6, 2C9 or 3A4)とは相関していなかった。1,2-ジクロロベンゼンの代謝は、DYP2E1の抑制剤、ジエチルジチオカルバミン酸の存在下で約90%まで抑制された。	Metabolism of 1,2-[14C]-DCB correlated well with CYP2E1 levels but not with other cytochromes tested (1A2, 2A6, 2B6, 2C9 or 3A4); 1,2-DCB metabolism was inhibited by approximately 90% in the presence of the CYP2E1 inhibitor, diethyldithiocarbamate

結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	148	148
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ:ラットにおける代謝	Type: metabolites of 1,2-DCB in rats
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Wistar Number of animals: 3-6 per treatment group Sex: Male Route of Administration: oral or intraperitoneal (i.p.) Dose: 500 mg/kg bw (oral); 1.36 mmol/kg (200 mg/kg bw; i.p.) Testing Period: 1, 2, 4, 6, 12, 24, 48 and 72 h Frequency of testing: oral, once every other day for 10 days; i.p. once Post Exposure Obs: Estimate 1,2-DCB metabolites in blood, and urine following oral administration; estimate half-life of 1,2-DCB in blood, liver and kidney following i.p. administration
結果		
結果	尿及び血液の分析は、2,3-及び3,4-ジクロロフェニルメチルスルホキシド及び2,3-及び3,4-ジクロロフェニルメチルスルホンを示した。腹腔内投与処理された動物検体は、投与後1時間で、血液、肝臓及び腎臓において1,2-ジクロロベンゼンの最高量を示し、続く12時間で指数関数的速度で急速に低下した。1,2-ジクロロベンゼンの半減期の評価は、血液、肝臓及び腎臓のそれぞれ、0.08, 0.04、及び0.02時間であった。	Analysis of urine and blood showed the presence of 2,3- and 3,4-dichlorophenyl methyl sulfoxides and 2,3- and 3,4-dichlorophenyl methyl sulfones; i.p. treated animals showed maximal amounts of 1,2-DCB in blood, liver and kidneys at 1 hour after administration declining rapidly over the next 12 hours at near exponential rates; estimated half-life of 1,2-DCB was 0.08, 0.04 and 0.02 hours for blood, liver and kidney respectively
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	181	181
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: protooncogene expression as a mechanism of delayed response to 1,2-DCB hepatotoxicity	Type: protooncogene expression as a mechanism of delayed response to 1,2-DCB hepatotoxicity
GLP適合	いいえ	いいえ
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Sprague-Dawley and F344 No. of animals: not stated Sex: M Route of Administration: intraperitoneal (i.p.) Dose: 0.6 and 1.2 ml/kg bw Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: hepatic c-myc and Ha-ras expression following 1,2-DCB exposure
結果		
結果	c-myc及びHa-ras発現の早期及び持続的増加は、F344で記録されたが、SDラットでは記録されなかった。両種における1,2-ジクロロベンゼンの閾値下の濃度(=0.6 ml/kg bw)での補正肝臓再生の結果は、一時的に肝臓のc-myc及びHa-ras発現と一致する。	Early and sustained increase in c-myc and Ha-ras expression was noted in F344 but not SD rats; compensatory liver regeneration consequent upon sub-threshold concentrations of 1,2-DCB (=0.6 ml/kg bw) in both strains is temporally concordant with hepatic c-myc and Ha-ras expression
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	182	182
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	(99.0%)英文参照	1,2-DCB HPLC grade (99.0%)
注釈		
方法		
方法／ガイドライン	タイプ: 腎臓影響	Type: renal effects
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Fischer-344 No. of animals: 3-6 per treatment group Sex: Male Route of Administration: gavage Dose: Single dose of 3.4 mmol/kg or seven day doses of 0.8 or 2.0 mmol/kg bw Exposure Period: Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Changes in renal alpha2u-globulin concentrations characterised by changes in protein droplet formation; cell proliferation evaluation determined by tritiated thymidine incorporation during DNA synthesis to measure spontaneous or 1,2-DCB induced mutagenesis
結果		
結果	全般的に、1,2-ジクロロベンゼン (3.4 mmol/kg bw)の組織内分布は、主に脂肪、肝臓及び腎臓であった。 1,2-ジクロロベンゼンは、可逆的に腎細胞質の α 2u-グロブリンに結びついた。 1,2-ジクロロベンゼンは、共有結合で腎臓の α 2u-グロブリン及び肝臓と血漿の高分子量蛋白質に結びついた。 両性において、蛋白小滴の形成に影響はなかった。	Overall, 1,2-DCB (3.4 mmol/kg bw) tissue distribution was mainly to fat, liver and kidney; 1,2-DCB was reversibly bound to alpha-2u-globulin in kidney cytosol; 1,2-DCB was covalently bound to renal alpha-2u-globulin and to liver and plasma high molecular-weight proteins; no effect in either sex on protein droplet formation
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	183	183
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果	雄ラットへの0.14 ml/kg bw (= 約182 mg/kg bw)の用量レベルにおけるo-ジクロロベンゼンの単回経口投与は、小葉中心性の肝壊死の結果をもたらし、血清のアラニンアミノ転移酵素及びアスパラギン酸アミノ転移酵素活性を増加した。 肝のシトクロムP-450レベルは、0.04 ml/kg bw (> 52 mg/kg bw)以上の用量レベルでだんだんと減少した。	a single oral administration of o-dichlorobenzene at a dose level of 0.14 ml/kg bw (= ca. 182 mg/kg bw) to male rats resulted in centrilobular hepatic necrosis and increased serum alanine aminotransferase and aspartate aminotransferase activities; hepatic cytochrome P-450 levels decreased steadily at dose levels above 0.04 ml/kg bw (> 52 mg/kg bw)
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	4	4
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	99%	purity: 99%
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: rat Strain: Fischer-344 Number of animals: 1 per dose Sex: M Route of Administration: gavage Doses: 6 - 1784 mg/kg bw (up to 25 dosages) Exposure Period: 24 hr Frequency of Treatment: once per animal per treatment group Control Group: corn oil vehicle Post Exposure Obs: Serum concentrations of aspartate aminotransferase (AST), alanine aminotransferase (ALT), and alkaline phosphatase activities; hepatic P450 levels
結果		
結果	小葉中心性の肝壊死は172 mg/kg bw以上で生じた。 血清AST及びALTは、用量に依存して増加した。 小葉中心性の空胞変性は98 mg/kgで処理された動物検体において記録された。 肝のシトクロムP450レベルは用量に依存して減少した(20-50% 未処理の対照と比較)。 肝臓の相対重量は全用量で増加した。	Centrilobular hepatic necrosis occurred at 172 mg/kg bw, and above; dose-dependent increases in serum AST and ALT; centrilobular vacuolar degeneration was noted in 98 mg/kg treated animals; dose-dependent decrease (20-50% c.f. untreated controls) in hepatic cytochrome P450 levels; relative liver weights increased for all doses
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS

信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	184	184
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	o-ジクロロベンゼンは、雌雄のウサギの肝門脈の循環に直接注入されたとき、広い面積で肝臓の壊死をもたらした。	o-dichlorobenzene when introduced directly into the hepatic portal circulation of male and female rabbits produced massive localised areas of liver necrosis
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	185	185
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	in vitro assay: rat liver slices were incubated in dynamic organ culture using different types of incubation media;
結果		
結果	o-ジクロロベンゼンの1 mM (= 147 mg/l)は、10%の牛胎児血清を含むWaymouths培地及びグルコースで培養した際、肝細胞毒性を発生しなかったが、グルコースを補われたKrebs-Henseleit緩衝液中で培養した際は、大いに有毒であった。 牛胎児血清を含むKrebs-Henseleit緩衝液の追加により、o-ジクロロベンゼンによる肝細胞毒性反応は完全に抑制された。	1 mM (= 147 mg/l) of o-dichlorobenzene produced no hepatotoxicity when incubated with Waymouths medium with 10 % fetal calf serum and glucose but was substantially toxic when incubated in Krebs-Henseleit buffer supplemented with glucose; by supplementation of the Krebs-Henseleit buffer with fetal calf serum the hepatotoxic response by o-dichlorobenzene was completely inhibited
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	186	186
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	蒸気吸入試験: o-ジクロロベンゼンの設定蒸気濃度1000 ppm (= 約6.12 mg/l)が、20時間の単回暴露後にモルモットを致死させた。また、肝臓及び腎臓への傷害と同様、昏睡が本動物検体種で記録された。 ラビットにおける影響は少なかった(それ以上のデータなし)。	vapour inhalation experiments: a nominal vapour concentration of 1000 ppm (= ca. 6.12 mg/l) of o-dichlorobenzene was found to be lethal for guinea pigs after a single exposure for 20 hours, and narcosis, as well as injury to the liver and kidneys, was noted in this animal species; the effects on rabbits were less (no further data)
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	187	187
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明

試験を行った年		
試験条件		
結果		
結果	マウスへの腹腔内投与後のo-ジクロロベンゼンの尿代謝物は、ハイドロキシル-、メルカプト-、メチルスルフィド-及びジヒドロキシ-代謝物を含んだ(それ以上のデータなし)。	urinary metabolites of o-dichlorobenzene after i.p. administration into mice included hydroxy-, mercapto-, methyl sulphide- and dihydroxy-metabolites (no further data)
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	188	188
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	male Fischer rats were treated i.p. with various doses (0.9-4.5 mmol/kg bw = 132-662 mg/kg bw) of o-dichlorobenzene (single administration);
結果		
結果	投与後24時間において、グルタミン酸ピルビン酸トランスフェラーゼの血漿活性(肝臓傷害の指標)は上昇した。 予備試験において、雄のSprague-Dawleyラットはo-ジクロロベンゼンを投与された(腹腔内投与; 用量: 1.8 又は 5.4 mmol/kg bw = 265 又は 794 mg/kg bw)。 Sprague-Dawleyラットは、o-ジクロロベンゼンの肝細胞毒性に対し、より耐性があった。 血漿グルタミン酸ピルビン酸活性の上昇は、Fischerラットにおいてみられた上昇よりも著しく低かった。	at 24 hours after dosing, the plasma activity of glutamic-pyruvate transaminase (an indicator of liver injury) was elevated; in preliminary experiments male Sprague-Dawley rats were administered o-dichlorobenzene (i.p.; doses: 1.8 or 5.4 mmol/kg bw = 265 or 794 mg/kg bw); Sprague-Dawley rats were more resistant to the hepatotoxicity of o-dichlorobenzene; the elevation of plasma glutamic-pyruvate activity was markedly lower than the elevation seen in Fischer rats
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	175	175
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	200 mMのDMSOに0.05%の濃度で溶解	1,2-DCB was dissolved in 0.05% DMSO to a final concentration of 200 mM
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: Rat (hepatocytes) Strain: Wistar No. of animals: 3 Sex: Male Route of Administration: ex vivo Dose: 200 mM Exposure (h): 20 Frequency of Treatment: once Post Exposure Obs: Hepatocyte viability and glycogenolytic activity: release of lactose dehydrogenase (LDH); inhibition of glycogenolytic activity
結果		
結果	1,2-ジクロロベンゼンは、未処理の対照群と比較し、ラットの肝細胞におけるLDHのグリコーゲン分解活性からの放出または抑制に影響しなかった。	1,2-DCB did not alter either LDH release from or inhibition of glycogenolytic activity in rat hepatocytes compared to untreated controls
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	189	189
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
方法		
方法/ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		

試験条件	詳細は英文参照	in vitro assay: the metabolism of o-dichlorobenzene (concentration: 0.5 mM = 73.5 mg/l) was investigated in dynamic organ culture of rat or human liver slices;
結果		
結果	代謝は、6時間まで、時間に依存して進行していた。 ラットの肝臓スライスをを用いたところ、性差はみられなかった。 o-ジクロロベンゼンは、ヒトの肝臓スライスの方が、ラットの肝臓スライスよりも広い範囲で分布したが、ラット及びヒトの両肝臓スライスは、被験物質を同程度代謝した(代謝物の明記なし)。	metabolism was shown to proceed in a time-dependent manner for up to six hours; using rat liver slices, no sex differences could be observed; both rat and human liver slices metabolised the test substance to similar extents, although o-dichlorobenzene distributed into human liver slices to a greater extent than into rat liver slices (metabolites not specified)
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	190	190
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等	> 98%	1,2-DCB purity > 98%
注釈		
方法		
方法／ガイドライン		
GLP適合	不明	不明
試験を行った年		
試験条件	詳細は英文参照	Species: mouse Strain: B6C3F1 Number of animals: 5 per dose group Sex: Male Route of Administration: single intragastric (ig) administration Dose: 120, 200 or 300 mg/kg/bw (dose-response); 300 mg/kg bw (time-course study) Observation Period: 2 days (dose-response); 1,2,3,4, or 7 days (time-course) Frequency of testing: once Post Exposure Obs: Acute hepatotoxicity assessed by serum alanine aminotransferase (ALT) activity; hepatic histology
結果		
結果	用量反応試験: 血清ALTレベル及び肝のラベリング指数(5-ブromo-2'-デオキシウリジン(BrdU)の結合で評価した細胞増殖の測定)は、1,2-ジクロロベンゼンの300及び800 mg/kg bwで有意に増加し、病理組織学所見では1,2-ジクロロベンゼンの300 mg/kg bwを投与された動物検体において、小葉中心性の肝細胞の膨張及び壊死を示した。 経時変化調査: 血清ALTレベルは、1日目において最高で、その後は4日目に基底値レベルまで下がったが、ラベリング指数は1日目で無し、3日目最高、7日目で基底値レベルに低下した。 病理組織学は、2日目で最高に達するが、1日目で肝障害を示した。その後7日目で検出できないレベルに低下した。	Dose-response studies: serum ALT levels and the hepatic labelling index (a measure of cell proliferation assessed by incorporation of 5-bromo-2'-deoxyuridine (BrdU) were significantly increased at 300 and 800 mg/kg bw 1,2-DCB and histopathological findings showed areas of centrilobular hepatocyte swelling and necrosis in 300 mg/kg bw 1,2-DCB dosed animals; Time-course studies: serum ALT levels were maximal at day 1 and decreased thereafter to basal levels at day 4 while the labelling index which was absent at day 1 was maximal at day 3 and declined to basal levels at day 7; histopathology revealed hepatic injury at day 1 that was maximal at day 2 and which subsequently declined to undetectable levels at day 7
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	191	191
備考		

5-11 ヒト暴露の経験

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	o-ジクロロベンゼンが、正常な“非暴露”集団からのヒトの血液中に検出された(濃度は10億分の一の範囲)。	o-dichlorobenzene was detected (concentrations in the parts-per-billion range) in human blood from a normal “unexposed” population
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		

注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	192	192
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	ジクロロベンゼンの異性体が、暴露集団の呼吸(想定レベルの範囲: 60-5000 ng/m ³)、血液(想定レベル: 0.15-68 ng/ml)及び尿(想定レベル: 40-39000 ng/l)で検出された(ジクロロベンゼンの異性体は明記されなかった)。	dichlorobenzene isomer(s) was (were) found in the breath (range of estimated levels: 60-5000 ng per cubic metre), blood (estimated levels: 0.15-68 ng per ml) and urine (estimated levels: 40-39000 ng per l) of an exposed population (the dichlorobenzene isomer(s) was (were) not specified)
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	193	193
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法	詳細は英文参照	1,2-DCB residues in human blood samples from U.S. residents screening and confirmational analyses were performed on human blood samples collected from potentially exposed residents of the Love Canal area of Niagara Falls, New York, USA (field samples) and from volunteers in the Research Triangle Park area of North Carolina (volunteer samples) for various organochlorine contaminants, including 1,2-DCB;
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果	1,2-ジクロロベンゼンの残留物は、調査した血液試料の25 %で1-4 ppb (平均値 = 3 ppb)であり、ボランティアのr血液試料の17 %で3-4 ppb (平均値 = 4 ppb)になった。	1,2-DCB residues fell in the range of 1-4 ppb (mean value = 3 ppb) in 25 % of the field blood samples and in the range of 3-4 ppb (mean value = 4 ppb) in 17 % of the volunteer blood samples
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	194	194
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		

統計的結果	一般及び先住民の両方のカナダ人集団の母乳中の1,2-ジクロロベンゼン残留物のガスクロマトグラフ分析では、両集団の母乳中の1,2-ジクロロベンゼンの濃度が同じであることがわかった。	1,2-DCB residue in breast milk of the General and Indigenous Canadian population gas chromatograph analysis for residues of 1,2-DCB in breast milk of both indigenous and general canadian population revealed similar concentrations of 1,2-DCB in the breast milk of both populations
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	195	195
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	o-ジクロロベンゼンを利用するドライクリーニング工場の廃水からの蒸気を、運河の掘削人が吸入していた。	canal-diggers had inhaled vapours from the waste water of a dry cleaning plant utilizing o-dichlorobenzene;
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	毒性の所見がみられた。吐き気だけでなく眼及び呼吸器の刺激	signs of toxicity were observable: irritation of the eyes and of the respiratory tract as well as nausea
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	196	196
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	ドライクリーニング液からのばく露	1,2-DCB exposure from dry cleaning fluid
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等	著者は、18歳女性の事例調査について述べている。1,2-ジクロロベンゼン95%及び1,4-ジクロロベンゼン5%で構成されるジクロロベンゼン混合溶剤の蒸気を慢性的に連日吸入暴露された結果、疲労、吐き気、頭痛、骨髓過形成、重篤な急性溶血性貧血、白血球増加症及び多核球増加症が現れた。	The authors describe a case study of an 18 years old female, who, following chronic daily inhalational exposure to vapours of a dichlorobenzene solvent mixture consisting of 95 % 1,2-DCB and 5 % 1,4-DCB, presented with: fatigue, nausea, headache, bone marrow hyperplasia, severe acute haemolytic anaemia, leucocytosis and polynucleosis.
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	197	197
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		

暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等	o-ジクロロベンゼンは、作業暴露されないヒトの脂肪組織及び/又は乳の中に、低濃度であるが検出可能な環境中の化学物質のリストとして記載されている(それ以上のデータなし)。	o-dichlorobenzene is mentioned in a list of environmental chemicals detectable in low concentrations in adipose tissue and/or milk of non-occupationally exposed humans (no further data)
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	198	198
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	詳細は英文参照	several cases of chronic human exposure to solvent mixtures (containing o-dichlorobenzene; composition of the mixtures partly unknown) are reported;
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	暴露されたヒトにおいて白血病が、また1つの事例として貧血が診断された。	in the exposed persons leukaemia and in a single case anaemia were diagnosed;
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈	知見は、o-ジクロロベンゼンの暴露と明確には関連していない。	the findings are not clearly attributable to the exposure to o-dichlorobenzene
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	199	199
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	詳細は英文参照	Effect of 1,2-DCB atmospheric contamination in the working environment
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果	1,2-ジクロロベンゼン300ppm(= 約1.836 mg/l)の職業吸入暴露の“重篤な毒性”影響として、100ppm(= 約0.612 mg/l)において60分間で病気が報告された。	“Severe toxic” effects of occupational inhalation exposure to 1,2-DCB 300 ppm (= ca. 1.836 mg/l) for 60 min at 100 ppm (= ca. 0.612 mg/l) illness reported;
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈	職場における25 ppm(= 約0.153 mg/l)以上の濃度は、不十分な条件であることを示した(それ以上のデータなし)。	concentrations greater than 25 ppm (= ca. 0.153 mg/l) in workplace indicated unsatisfactory conditions (no further data)
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	200	200
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	1,2-DCB exposure from manufacture	1,2-DCB exposure from manufacture
仮説検証		
データ収集方法		

被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	15ppmの1,2-ジクロロベンゼン(1~44ppmの範囲)の継続的暴露を受けた男性労働者(人数の明記なし)における反復診察では、1,2-ジクロロベンゼンによる臓器傷害又は血液学的有害影響の証拠がないことを明らかにした。	Repeat medical examinations in male workers (number notspecified) exposed to prolonged exposures of 15 ppm 1,2-DCB(range 1 to 44 ppm) revealed no evidence of 1,2-DCB-dependent organic injury or of adversehaematological effects
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	72	72
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	カナダでの1,2-ジクロロベンゼンの経口摂取	Dietary intake of 1,2-DCB in Canada
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	食物中の1,2-ジクロロベンゼン濃度に基づいて、1,2-ジクロロベンゼンの摂取量は108 ug/人/年と推定された。	Based on measured concentrations of 1,2-DCB in foods, dietary intake of 1,2-DCB was estimated at 108 ug per person and year
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	201	201
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	詳細は英文参照	the mean levels of o-dichlorobenzene in human adipose tissue and in human milk were determined;
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	次の値が検出された。母乳中 9 ug/kg, 乳脂肪中 230 ug/kg及び脂肪組織の脂肪中 13 ug/kg	the following values were found: 9 ug/kg milk, 230 ug/kg milk fat and 13 ug/kg fat in adipose tissue
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	202	202
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法	詳細は英文参照	expired air samples have been collected from a carefully selected population of normal healthy human subjects undercontrolled experimental conditions;

被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	詳細は英文参照	the samples were concentrated and analyzed by quantitative techniques which resulted in well-defined composite compositional and occurrence profiles of the organic constituents present in normal expired air;
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	o-ジクロロベンゼンは、ヒトの呼気中に102の有機化合物の一つとして検出された。	among 102 organic compounds, o-dichlorobenzene was identifiable in human expired air
研究提供者等		
注釈		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	203	203
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	カナダの女性の母乳中の残留物	1,2-DCB residues in breast milk of Canadian women
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	詳細は英文参照	a total of 210 (3-4 weeks after parturition) human breast milk samples from 5 different regions across Canada were analyzed;
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	1,2-ジクロロベンゼンの残留は、サンプルの69%で検出された。1,2-ジクロロベンゼンの平均レベルは、母乳中に3 ng/g及び乳脂肪中に84 ng/gであった。	residues of 1,2-DCB were found in 69 % of the samples; the mean levels of 1,2-DCB were 3 ng/g milk and 84 ng/g milkfat
研究提供者等		
注釈		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	204	204
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	詳細は英文参照	paired whole blood and biopsy fat samples from a selected Canadian population (25 patients) were analyzed for 1,2-DCB
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	血液における1,2-ジクロロベンゼン残留物の中央値は、検出限界以下であった(< 3.12 ng/g wet tissue)。生検脂肪組織における1,2-ジクロロベンゼンの中央値は、28.1 ng/g wet tissueであった。血液脂質における1,2-ジクロロベンゼンの中央値は、< 3 ng/g lipidであった。脂肪組織における1,2-ジクロロベンゼンの中央値は、38 ng/g lipidであった。	the median value of 1,2-DCB residues in blood was below the limit of detection (< 3.12 ng/g wet tissue); the median value of 1,2-DCB in biopsy fatty tissue was found to be 28.1 ng/g wet tissue; the median value of 1,2-DCB in blood lipids was found to be < 3 ng/g lipid; the median value of 1,2-DCB in adipose tissues was found to be 38 ng/g lipid.
研究提供者等		
注釈		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	205	205
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	詳細は英文参照	the presence of 1,2-DCB residues in adipose tissue of Canadians was investigated by analysis of 108 human autopsy fat samples;
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	脂肪組織における1,2-ジクロロベンゼン残留物の平均値は、136 ng/g wet tissue であると見出された。 地域、性別又は年齢による脂肪組織中の残留レベルにおける有意な差はみられなかった。	the mean value of 1,2-DCB residues in adipose tissue was found to be 136 ng/g wet tissue; no significant differences in the residue levels of in adipose tissue were found with respect to region, gender or age
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	206	206
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	環境中	1,2-DCB in the environment
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	東京(日本)の首都圏で集められた、ヒトの脂肪組織試料における1,2-ジクロロベンゼンのレベルは、0.01 ug/g fatのレベル以上の目立つ値ではなかった。 1,2-ジクロロベンゼンは、東京(日本)エリアのヒトの血液中には検出されなかった。	Levels of 1,2-DCB in human adipose tissue samples collected in the Tokyo (Japan) metropolitan area were not noticeably above the level of 0.01 ug/g fat; 1,2-DCB was not detectable in human blood in the Tokyo (Japan) area
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	207、208	207、208
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	o-ジクロロベンゼンのヒトの嗅覚の閾値0.003 mg/l	human olfactory threshold for o-dichlorobenzene: 0.003 mg/l
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	209	209
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	詳細は英文参照	o-dichlorobenzene was applied on the flexor side of the forearm of probands (exposure time: 1 hour);
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	投与約15分後、被験物質は投与部分において強い火傷を誘発した。それは、o-ジクロロベンゼンの除去後に消えた。 最初に、投与部分において、びまん性発赤がみられた。 投与後24時間で、この部分は深赤色になり、小水疱で覆われた。追って茶色い着色がみられ、それは3ヵ月後にまだみられた。	ca. 15 minutes after the administration, the test substance induced strong burning at the site of application, which disappeared after removal of o-dichlorobenzene; at first a diffuse reddening was visible at the site of application; 24 hours after application this site was deep red coloured and covered with vesicles; later on a brownish pigmentation was observable, which was still visible after 3 months
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	89	89
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	o-ジクロロベンゼンに対するヒトの嗅覚の検出閾値 0.3 ppm (= 約 0.00183 mg/l)	human olfactory detection threshold for o-dichlorobenzene: 0.3 ppm (= ca. 0.00183 mg/l)
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	210	210
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	事例報告: 患者は、o-ジクロロベンゼンに家庭で暴露された。 2日後、この患者は吐き気を催し、息切れ及び眠気に苦しんだ。また、1週間後には、2週間の血尿が現れた。	case report: a patient was overcome in a home treated with o-dichlorobenzene; after 2 days this patient became nauseated, suffered from shortness of breath and sleepiness, and 1 week later developed a haematuria of 2 weeks duration;
相関		
分布		
研究提供者等	o-ジクロロベンゼンの、これらの症状に対する反応の有無や程度は、疑わしい。	it appears questionable, whether and to what extent o-dichlorobenzene was responsible for these symptoms
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください

信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	211	211
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	ヒトに刺激を与える1,2-ジクロロベンゼンの大気中の濃度レベル(刺激の閾値)は、0.15 mg/lであった。臭いの閾値は、0.012 mg/l と 0.3 mg/l の間であった。(それ以上のデータ無し)	the air concentration level of 1,2-DCB where irritation to humans begins (threshold of irritation), was found to be 0.15 mg/l; odour threshold values were found to range between 0.012 mg/l and 0.3 mg/l (no further data)
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	212	212
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	o-ジクロロベンゼンの蒸気は、1時間程度ヒュームを暴露された人において頭痛を引き起こしやすい(それ以上のデータなし)。	vapours of o-dichlorobenzene are liable to cause such symptoms as headache in persons exposed to the fumes for an hour or so at a time (no further data)
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Shepard: in Chemistry + Action of Insecticides, pp. 271-272 (1951)	Shepard: in Chemistry + Action of Insecticides, pp. 271-272 (1951)
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	正常な作業中に、神経系に重篤及び/又は慢性的傷害をもたらす目立ったリスクのある化学物質(それ以上のデータなし)	chemical with a conspicuous risk of inducing severe and/or chronic damage to the nervous system during normal work with the substance (no further data)
相関		
分布		
研究提供者等	デンマーク作業環境における神経毒性化学物質のアドホックリストが策定された。これらの化学物質は、神経毒性影響があるものとして記載されたデンマークの閾値(1985)のリストから構成されている。1,2-ジクロロベンゼンはこのリストに含まれ、リスクインデックス4に指定されている。	an ad hoc list of neurotoxic chemicals in the Danish work environment has been developed and consists of those chemicals from the Danish list of threshold limit values (1985) which have been noted as having neurotoxic effects; 1,2-DCB is included in this list and has been assigned the risk index 4:
注釈		
結論		
結論		

注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	213	213
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	詳細は英文参照	case report: a 40-year old man had worked for 22 years in the preparation of dyestuffs in dye-works; the list of products handled included various products (dyestuffs-phenols) and o-dichlorobenzene as main solvent;
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	患者は、紫斑症及び激しい貧血症に苦しんだ。 著明な肝腫大及び目立たない脾臓拡張が唯一の所見であった。 血球数及び骨髓造影像は全骨髓機能不全を示した。 末梢血における若い骨髓細胞の出現、赤芽球症、また生検により陽性の骨髓線維症を示す骨髓の徴候がみられ、骨髓性白血病が骨髓増殖性症候群とで診断を迷った。 この骨髓症は、増殖性であり、4ヶ月以内に致命的となった。	the patient suffered from purpura and intense anaemia; a marked hepatomegalia and a discreet splenic enlargement were the only examination signs; the blood count and the myelogram showed total medullar insufficiency; the diagnosis hesitated between myeloid leukosis and a myeloproliferative syndrome which was chosen because of the presence of young myeloid cells in the peripheral blood, of erythroblastosis, and especially from indications given by a medullar biopsy which showed positive myelofibrosis; this myelosis was very proliferative and its evolution was fatal within 4 months;
研究提供者等	この血液疾患の原因としてのo-ジクロロベンゼンの役割は、議論されている。	the role of o-dichlorobenzene in the etiology of this haemopathy is debated
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	214	214
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	詳細は英文参照	case report: a 30-year old woman was exposed to vapours of a disinfectant containing 54 % o-dichlorobenzene;
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	彼女は、肝炎及び黄疸を生じた(肝炎が中毒かウイルス感染によるかについて議論されている)。	she developed hepatitis and icterus (it is discussed if the hepatitis is due to an intoxication or to a viral infection)
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	215	215
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		

暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等	査読試験において、o-ジクロロベンゼンは、職業上（産業労働者の仕事場での事故による）暴露された人に溶血性貧血を誘発しうる物質として、多くの他の化学物質と一緒に加えられている（それ以上のデータなし）。	in a review study, o-dichlorobenzene is listed among many other chemical substances which all are capable of inducing haemolytic anaemia in persons exposed occupationally (by an accident at industrial workplace) to the substance (no further data)
注釈		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	216	216
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	o-ジクロロベンゼンは、アメリカ居住者の呼気から時折検出された。 物質の濃度は、室内空気試料及び外気試料において測定可能であった。	o-dichlorobenzene was occasionally detectable in exhaled human breath samples from U.S. residents; compound concentrations were also measurable in personal air and in outdoor air samples
研究提供者等		
注釈		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Wallace, L.A. et al., Proceedings for Presentation at the 77th Annual Meeting of the Air Pollution Control Association, San Francisco, California, June 24-29 (1984)	Wallace, L.A. et al., Proceedings for Presentation at the 77th Annual Meeting of the Air Pollution Control Association, San Francisco, California, June 24-29 (1984)
引用文献(元文献)	217、218、219	217、218、219
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	詳細は英文参照	chromosome studies were done in 8 males and 18 females (laboratory workers) who were accidentally exposed for 4 work days (8 hours/day) to vapours of 1,2-DCB;
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果	臨床症状は、眼、鼻及び喉の刺激を含んだ(たいてい個別)。10人は重篤な頭痛、疲労、吐き気、めまいがあった。1人は顔に部分的な浮腫が生じた。 有毒な蒸気の濃度は確定されなかったが、たいていの暴露者の症候は、通常100 ppm (約0.60 mg/l)以上の濃度で共通してみられた。 1345の末梢血球の試験では、120(8.92 %)例は染色体異常誘発、84 (6.25%)例は一本鎖切断、86 (6.39%)例は二本鎖切断であった。16人の健康的な人の対照群は、試験された942の細胞(2.02 %)中19細胞に染色体異常が現れ、9 (0.92%)例は一本鎖切断、10 (1.06%)例は二本鎖切断であった。 染色体試験が、暴露群の15人に対して6ヵ月後に実施され、染色体異常(300のうち12細胞(4%))及び一本鎖切断数(300のうち8細胞(2.67%))の両方に有意な減少が見られた。	the clinical symptoms included eye, nose and throat irritation (most individuals); 10 persons had severe headache, fatigue, nausea, dizziness; 1 individual developed partial facial edema; although there was no determination of the concentration of toxic vapours, the symptoms of most exposed individuals were consistent with those usually observed at concentrations above 100 ppm (ca. 0.60 mg/l); of the 1345 peripheral blood cells studied, 120 disclosed clastogenic chromosomal aberrations (8.92 %), 84 (6.25%) had single breaks and 86 (6.39%) had double breaks; a control group of 16 healthy individuals revealed 19 cells with clastogenic aberrations in 942 cells examined (2.02 %) while 9 (0.92%) had single breaks and 10 (1.06%) had double breaks; chromosome studies conducted 6 months later in 15 persons of the exposed group disclosed a significant reduction in both chromosomal aberrations (12 cells from 300 (4%)) and the number of single breaks (8 cells from 300 (2.67%))
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		

結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	220	220
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	詳細は英文参照	case report: a worker aged 47 had developed an eczematoid contact dermatitis of the hands, arms and face and was therefore physically examined;
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	o-ジクロロベンゼンの皮膚への塗布試験を実施した患者。片腕に滴下された後2分で、投与された部分とその周囲1/2インチに激しい紅斑及び浮腫が現れた。後に、この部分の中央に大きな水疱性病変が形成された。	the patient was tested by dropping on the skin o-dichlorobenzene: two minutes after this was dropped on one arm intense erythema and edema developed at the site of application and for one-half inch surrounding it; later a large bullous lesion formed in the center of this area
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: Bayer AG Leverkusen	Source: Bayer AG Leverkusen
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	221	221
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	詳細は英文参照	Retrospective study Retrospective study examining possible causality in 7 individuals suffering serious blood borne disorders following workplace exposure to chlorinated benzene derivatives (mono, di and tri);
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	222	222
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法	詳細は英文参照	urine samples collected from 8 volunteers for 36 h after exposure to 1,2-DCB in the range of 0.03-0.3 mg/l and, in one case up to 0.54 mg/l for two 4 h periods with a 45 min interval were analysed for the presence of isomeric dichlorophenylmercapturic acids;
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		

統計的結果	2,3-ジクロロフェニルメルカプト酸及び3,4-ジクロロフェニルメルカプト酸のエチルエステルが、尿中に検出され、尿中のジクロロフェニルメルカプト酸濃度と1,2-ジクロロベンゼン暴露のレベルの間に直線関係がみられた。 排泄機構の第一段階は2つのジクロロフェニルメルカプト酸に対して決定された。 3,4-ジクロロフェニルメルカプト酸及び2,3-ジクロロフェニルメルカプト酸の半減期は、それぞれ5.9 ± 1.7時間及び5.3 ± 3.0時間であると決定された。	ethyl esters of 2,3-dichlorophenylmercapturic acid and 3,4-dichlorophenylmercapturic acid were detected in the urine, with a linear correlation found between urinary dichlorophenylmercapturic acid concentration and the level of 1,2-DCB exposure; a first-order excretion kinetic was determined for the two dichlorophenylmercapturic acids; the half lives of 3,4-dichlorophenylmercapturic acid and 2,3-dichlorophenylmercapturic acid were determined to be 5.9 ± 1.7 h and 5.3 ± 3.0 h respectively.
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	223	223
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン		
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度	1,2-, 1,3-及び1,4-ジクロロベンゼンを製造する工場で働いていた間、クロロベンゼンに慢性的に暴露された9人の男性の臨床的特長、及び彼ら全員が化学物質に皮膚及び呼吸器を通して直接接触していたこともわかった。 (詳細は英文参照)	Clinical features of 9 men chronically exposed to chlorobenzenes while working in a factory producing 1,2-, 1,3- and 1,4- DCB, and all of whom had direct contact with the chemicals through the skin and respiratory tract were found to include: polymorphic dermatosis in all patients, mainly comedones and cysts; some patients also had diffuse melanocytic discoloration, hyperpigmentation of the face, pigmentation of the lips, gums and oral mucosae, longitudinal lines on the fingernails, plantar hyperhidrosis or follicular hyperkeratosis; skin biopsies showed features typical of chloracne in all patients (comedones, cysts and follicular infundibular enlargement), persisting for at least 2 years after leaving the company; all had conjunctivitis and reported chronic burning sensations of the eye; 7 had enlargement of and cysts in the Meibomian glands; all had gastrointestinal complaints, mostly nausea and occasionally vomiting, during working hours; all reported paresthesias, mostly in the lower extremities; diarrhea, irritability, insomnia and frequent headaches were also reported; liver function tests were abnormal in 8 patients while 5 had enlargement of the liver; findings of percutaneous liver biopsy included chronic inflammatory infiltrate in the sinusoids, portal and centrilobular areas, fatty degeneration of small and large fat droplets, granulomas, cholestasis, fibrosis and cirrhosis; 7 patients had significantly raised triglyceride and cholesterol levels; an electromyogram revealed a mixed polyneuropathy in all patients.
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈	不十分なデータのために、記載された症状と1,2-ジクロロベンゼンのばく露の表面的な関係が証明できない。	Due to an insufficiency of data, a causal relationship between the symptoms described and 1,2-DCB exposure cannot be demonstrated
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	224	224
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	刺激に対する影響	1,2-DCB irritant effects
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明	ウール充填工程の100ppmまでの濃度へのヒトのばく露による目と呼吸器系への刺激が報告された。	Irritation to the eyes and respiratory passages was reported in humans exposed to concentrations up to 100 ppm in wool-filling processes
暴露期間		

測定又は評価曝露データ		
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典	Elkins, H. B. (1959) The chemistry of industrial toxicology. 2nd ed. New York, John Wiley and Sons Inc.	Elkins, H. B. (1959) The chemistry of industrial toxicology. 2nd ed. New York, John Wiley and Sons Inc.
引用文献(元文献)		
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	尿による代謝	1,2-DCB urinary metabolites
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	詳細は英文参照	Gas chromatograph-mass spectroscopy was used to determine 1,2-DCB metabolites present in urine samples of 3 male workers exposed to 1,2-DCB (1-4 ppm)
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布	検出された1,2-ジクロロベンゼンの代謝物は、2,3-及び3,4-ジクロロフェノール、3,4-及び4,5-ジクロロカテコールであった。	Metabolites of 1,2-DCB detected were: 2,3- and 3,4-dichlorophenols and 3,4- and 4,5-dichlorocatechols
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	225	225
備考		

試験物質名	1,2-ジクロロベンゼン	1,2-dichlorobenzene
CAS番号	95-50-1	95-50-1
純度等		
注釈		
製造／加工／使用情報		
研究デザイン	1,2-DCBが血漿サンプル中に検出されたが、濃度は不明。 飲料水と血漿中の1,2-DCB	1,2-DCB was detected in blood plasma samples studied however no concentrations were stated 1,2-DCB in drinking water and blood plasma
仮説検証		
データ収集方法		
被験者の説明		
暴露期間		
測定又は評価曝露データ	8人の保管された血漿中の1,2-DCBの検出にGC/MSが使用された。	Gas chromatograph-mass spectroscopy was used to determine 1,2-DCB present in pooled blood plasma from eight human subjects
結果		
統計的結果		
発病頻度		
相関		
分布		
研究提供者等		
注釈		
結論		
結論		
注釈	出典: NICNAS	Source: NICNAS
信頼性	選択してください	選択してください
キースタディ	選択してください	選択してください
信頼性の判断根拠		
出典		
引用文献(元文献)	226	226
備考		

6 参考文献(以下に欄を追加の上、一文献について一行にて一覧を記載)

文献番号(半角数字: 自動的に半角になります)	詳細(OECD方式での記入をお願いします。下の記入例参照。)	日本語の場合、以下の欄をお願いします。
1	Carswell, TS. (1928) Physical properties of o-dichlorobenzene. Ind Eng Chem, 20: 728.	
2	Curry, HL. and Gilkerson, WR. (1957) The temperature dependence of ion pair dissociation constants. I. o-Dichlorobenzene. J Am Chem Soc, 70:4021-4023.	
3	Mackay, D. and Shiu, WY. (1981) A critical review of Henry's law constants for chemicals of environmental interest. J Phys Chem Ref Data, 10:1175-1199 (cited in BUA,1990).	
4	Allis, J.W. et al.: The Toxicologist 9, 171 (1989) (abstr.)	
5	Miller, MM, Wasik, SP, Huang, GL, Shiu, WY, Mackay, D. (1985) Relationship between octanol/water partition coefficient and aqueous solubility. Environ Sci Technol, 19:522-529.	
6	Pereira WE, Rostad CE, Chlou CT, Brinton TI, Barber LB, Demcheck DK and Demas CR (1988). Contamination of estuarine water, biota and sediment by halogenated organic compounds: A field study. Environ. Sci Technol. 22:772-778.	
7	Banerjee, S., Yalkowsky, SH., and Valvani, SC. (1980) Water solubility and octanol/water partition coefficients of organics. Limitations of the solubility-partition coefficient correlation. Environ Sci Technol, 14:1227-1229.	
8	Amore, JE and Hautala, E. (1983) Odor as an aid to chemical safety: odor thresholds compared with threshold limit values and volatilities for 214 industrial chemicals in air and water dilution. J Appl Toxicol 3:272-290.	
9	Singh, H.B. et al., Atmos. Environ. 15, 601-612 (1981)	
10	Wahner, A. and Zetzsch, C (1983). Rate constants for the addition of OH to aromatics (benzene, p-chloroaniline, and o-, m-, and p-dichlorobenzene) and the unimolecular decay of the adduct. Kinetics into a quasiequilibrium. Part 1. Phys. Chem. 87, 4945-4951.	
11	Wahner, A. and Zetzsch, C. (1982). Reactions of disubstituted benzenes with OH in the gas phase: benzene, p-chloroaniline, and o-, m-, and p-dichlorobenzene. Phys.-Chem. Behav. Atmos. Pollut., 138-148	
12	Mansour, M. et al., Chemosphere 14, 1469-1474 (1985)	
13	Mansour, M. et al., VDI Berichte No. 745, 925-936 (1989)	
14	Kuhn, E.P. et al., Environ. Sci. Technol. 19, 961-968 (1985)	
15	Oliver BG and Nicol KD. (1982). Chlorobenzenes in sediments, water and selected fish from Lakes Superior, Huron, Erie and Ontario. Environ. Sci. Technol., vol 16:535-536.	
16	Oliver BG (1984). Uptake of chlorinated organics from anthropogenically contaminated sediments by oligochaete worms. Can. J. Fish. Aquat Sci., vol 41:878-883.	
17	Ligocki, M. P., Leuenberger, C. and Pankow, J. F. (1985). Trace Organic Compounds in Rain II. Gas Scavenging of Neutral Organic Compounds. Atmos. Environ. 19:1609-1617.	
18	Stauffer, T.B. and MacIntyre, W.G., Environ. Toxicol. Chem. 5, 949-955 (1986)	
19	Brauch, H.-J. and Kuehn, W., Gas-Wasserfach: Wasser/Abwasser 129, 189-196 (1988)	
20	Calamari D, Galassi S, Setti F and Vighi M (1983). Toxicity of selected chlorobenzenes to aquatic organisms. Chemosphere 12(2):253-262.	
21	Bouwer, E.J. et al., Water Res. 15, 151-159 (1981)	
22	Oliver, B.G., Chemosphere 14, 1087-1106 (1985)	
23	Bouwer, E.J. et al., Water Res. 18, 463-472 (1984)	
24	Tomsom, M.B. et al., Water Res. 15, 1109-1116 (1981)	
25	Demirjian, JW. et al., J.-Water Pollut. Control. Fed. 59, 32-38 (1987)	
26	Chiou, C.T., Porter, P.E. and Schmedding, D. W. (1983). Partition Equilibria of Nonionic Compounds Between Soil Organic Matter and Water. Environ. Sci and Technol. 17:227-231.	
27	Ashworth, R.A. et al., J. Hazard. Mater. 18, 25-36 (1988)	
28	Sato, A. and T. Nakajima (1979). "A structure-activityrelationship of some chlorinated hydrocarbons." Arch Environ Health 34(2): 69-75.	
29	Galassi, S. and Vighi, M., Chemosphere 10, 1123-1126 (1981)	
30	Canton JH, Slooff W, Kool HJ, Struys J, Pouw Th JM, Wegman RCC and Piet GJ (1985). Toxicity, Biodegradability and Accumulation of a number of Cl/N-containing compounds for classification and establishing water quality criteria. Regulatory Toxicology and Pharmacology, vol 5:123-131.	
31	Hellmann, A., Fresenius Z. Anal. Chem. 328, 475-479 (1987)	
32	Petersen, R., Dtsch. Gewaesserkd. Mitt. 31, 43-48 (1987)	
33	Smith, J. H., Bomberger, D. C. and Haynes, D. L. (1980). Prediction of the volatilisation Rates of High Volatility Chemicals From Natural Water Bodies. Environ. Sci Technol. 14, 13332-1337.	
34	Curtis, G.P., Roberts, P.V. and Reinhard, M. (1986). A Natural Gradient Experiment on Solute Transport in a Sand Aquifer. 4. Sorption of Organic Solutes and its Influence on Mobility. Water Resour. Res. 22, 907-916.	
35	Deitsch, J. J. and Smith, J. A. (1999). Sorption and Desorption Rate Comparisons for 1,2-Dichlorobenzene to a Peat Soil. Env. Toxicol. And Chem., 18(8):1701-1707.	
36	Bouwer EJ. (1985). Secondary utilisation of trace halogenated organic compounds in biofilms.. Environmental Progress, vol 4(1):43-46.	
37	Kirk PWW, Rogers HR and Lester JN. (1989). The fate of chlorobenzenes and permethrins during anaerobic sewage sludge digestion. Chemosphere, vol 18(9/10):1771-1784.	
38	Nowak, J., Kirsch, N. H., Hegemann, W. and Stan, H. -J. (1996). Total reductive dechlorination of chlorobenzenes to benzene by a methanogenic mixed culture enriched from Saale river sediment, Appl. Microbiol. Biotechnol. 45:700 - 709.	
39	Kincannon DF, Stover EL, Nichols V and Medley D. (1983). Removal mechanisms for toxic priority pollutants. Journal Water Pollution Control Federation, vol 55:157-163.	
40	Wang, M. and Jones, K. (1994). Behaviour and Fate of Chlorobenzenes in Spiked and Sewage Sludge-Amended Soil. Environmental Science and Technology., vol 28 (11):1843-1852.	
41	Oliver BG and Niimi AJ (1983). Bioconcentration of chlorobenzenes from water by rainbow trout. Correlations with partition coefficients and environmental residues. Environ. Sci. Technol. 17:287-291.	
42	Knezovich JP and Harrison FL. (1988). The bioavailability of sediment-sorbed chlorobenzenes to larvae of the midge, Chironomus decorus. Ecotoxicology and Environmental Safety, vol 15:226-241.	
43	Casslerly DM, Davis EM, Downs TD and Guthrie RK. (1983). Sorption of organics by Selenastrum capricornutum. Water Res., vol 17(11):1591-1594.	
44	Oliver BG. (1987). Biouptake of chlorinated hydrocarbons from laboratory-spiked and field sediments by oligochaete worms. Environ. Sci. Technol. Vol 21(8):785-790.	
45	Wang, M., McGrath, S. and Jones, K. (1995). Chlorobenzenes in Field Soil with a History of Multiple Sewage Sludge Applications. Environmental Science and Technology, 29(2): 356-362.	
46	Stover EL and Kincannon DF. (1983). Contaminated groundwater treatability- a case study. J. of the American Water Works Association, vol 75:292-298.	
47	Yoshioka Y, Mizuno T, Ose Y and Sato T (1986). The estimation for toxicity of chemicals on fish by physico-chemical properties. Chemosphere 15(2):195-203.	
48	Heitmuller PT, Hollister TA and Parrish PR. (1981). Acute toxicity of 54 industrial chemicals to sheepshead minnows (Cyprinodon variegatus). Bull. Environm. Contam. Toxicol. 27:596-604.	
49	Curtis MW and Ward CH (1981). Aquatic toxicity of forty industrial chemicals: Testing in support of hazardous substance spill prevention regulation. Journal of Hydrology 51:359-367.	
50	Curtis MW, Copeland TL and Ward CH (1979). Acute toxicity of 12 industrial chemicals to freshwater and saltwater organisms. Water Research 13:137-141.	
51	Buccafusco RJ, Ellis SJ and LeBlanc GA (1981). Acute toxicity of priority pollutants to Bluegill (Lepomis macrochirus). Bull. Environm. Contam. Toxicol. 26:446-452.	
52	Dawson GW, Jennings AL, Drozdowski D and Rider E (1977). The acute toxicity of 47 industrial chemicals to fresh and saltwater fishes. Journal of Hazardous Materials, 1(1975/77): 303-318.	
53	Abernethy S, Bobra AM, Shiu WY, Wells PG and Mackay D (1986). Acute lethal toxicity of hydrocarbons and chlorinated hydrocarbons to two planktonic crustaceans: The key role of organism-water partitioning. Aquatic Toxicology 8:163-174.	
54	Rose RM, Warne M St J and Lim RP. (1998). Quantitative structure-activity relationships and volume fraction analysis for nonpolar narcotic chemicals to the Australian cladoceran Ceriodaphnia cf. dubia. Arch. Environ. Contam. Toxicol., vol 34:248-252.	

55	LeBlanc GA (1980). Acute toxicity of priority pollutants to water flea (<i>Daphnia magna</i>). <i>Bull. Environm. Contam. Toxicol.</i> 24:684-691.	
56	Kuhn R, Pattard M, Pernak K and Winter A (1989). Results of the harmful effects of water pollutants to <i>Daphnia Magna</i> in the 21 day reproduction test. <i>Wat. Res.</i> 23(4):501-510.	
57	Hermens J, Canton H, Janssen P and De Jong R (1984). Quantitative Structure-activity relationships and toxicity studies of mixtures of chemicals with anaesthetic potency: Acute lethal and sublethal toxicity to <i>Daphnia magna</i> . <i>Aquatic Toxicity</i> 5:143-154	
58	Davis HC and Hidu H. (1969). Effects of pesticides on embryonic development of clams and oysters and on survival and growth of the larvae. <i>Fishery Bulletin</i> , vol 67(2):393-403.	
59	Kuhn R and Pattard m (1990). Results of the harmful effects of water pollutants to green algae (<i>Scenedesmus subspicatus</i>) in the cell multiplication inhibition test. <i>Wat. Res.</i> 24(1):31-38.	
60	Blum, D.J.W. und Speece, R.E., <i>Research Journal WPCF</i> 63 (3), 198-207 (1991)	
61	McFeters GA, Bond PJ, Olson SB, and Tchan YT. (1983). A comparison of microbial bioassays for the detection of aquatic toxicants. <i>Water Res.</i> , vol 17(12):1757-1762.	
62	Yoshioka Y, Nagase H, Ose Y and Sato T. (1986). Evaluation of the test method "activated sludge, respiration inhibition test" proposed by the OECD. <i>Ecotoxicology and Environmental Safety</i> , vol 12:206-212.	
63	Yoshioka Y, Ose Y and Sato T (1985). Testing for the toxicity of chemicals with <i>Tetrahymena pyriformis</i> . <i>The science of the total environment</i> 43:149-157.	
64	Thompson, I. P., Bailey, Boyd, E. M., Maguire, N., Meharg, A. A. and Ellis , R.J. (1999); " Concentration Effects of 1,2-Dichlorobenzene on Soil Microbiology"; <i>Env. Toxicol. And Chem.</i> 19(9), pp 1891-1898.	
65	Meharg, A. A., Wyatt, C. L., Thompson, I P., Bailey, M. J., Ellis , R.J. and Maguire, M. (1998); "Response of Soil Microbial Biomass to 1,2-Dichlorobenzene Addition in the Presence of Plant Residues"; <i>Env. Toxicol. And Chem.</i> 17(8), pp 1462-1468	
66	del C. Figueroa, I. und Simmons, M.S., <i>Environ. Toxicol. Chem.</i> 10 (3), 323-329 (1991)	
67	Miktaavage M, Que Hee SS, Ayer HE (1984) Permeation of chlorinated aromatic compounds through Viton and nitrile glove materials. <i>Am Ind Hyg Assoc J</i> 45:617-621	
68	Murakami M, Fukami J (1986) Relationship between specific molecular connectivity indices and teratogenicity, carcinogenicity, and mutagenicity of chlorinated benzenes and a biphenyl. <i>Bull Environ Contam Toxicol</i> 37:633-637	
69	Zwierchowski, Z. et al.: <i>Medycyna Pracy</i> 20, 519-530 (1969)	
70	Dura, G., Krasovski, GN., Zholdakova, ZI. and Mayer, G. (1985) Prediction of toxicity using quantitative structure-activity relationship. <i>Arch Toxicol Suppl</i> 8:481-487.	
71	Varshavskaya, S.P.: <i>Nauch. Tr. Aspir. Ordinorov. I-i, Mosk. Med. Inst.</i> , 175-177 (1967)	
72	Hollingsworth, R.L. et al.: <i>Arch. Ind. Health</i> 17, 180-187 (1958)	
73	Bonnet, P. et al.: <i>Arch. Mal. Prof.</i> 43, 261-265 (1982)	
74	Bonnet, P. et al.: <i>Archives des maladies professionnelles, de medecine du travail et de Securite Sociale (Paris)</i> 40, 805-810 (1979)	
75	de Ceaauriz JC, Micillino JC, Bonnet P, Guenier JP (1981) Sensory irritation caused by various industrial airborne chemicals. <i>Toxicol Lett</i> 9:137-143	
76	Kulkarni, SG., Doung, H., Gomila, R. and Mehendale, HM.(1996) Strain differences in tissue repair to 1,2-dichlorobenzene. <i>Arch Toxicol.</i> 70:714-723.	
77	Mohntashampur E, Triebel R, Straeter H, Norpoth K (1987) The bone marrow clastogenicity of eight halogenated benzenes in male NMRI mice. <i>Mutagenesis</i> 2:111-113	
78	Den Besten, C. et al.: <i>Toxicology and Applied Pharmacology</i> 111, 69-81 (1991)	
79	Brondeau MT, Bonnet P, Guenier JP, De Ceaauriz J (1983) Short-term inhalation test for evaluating industrial hepatotoxicants in rats. <i>Toxicol Lett</i> 19:139-146	
80	Charbonneau M, Strasser J, Lock EA, Turner MJ, Swenberg JA (1989) Involvement of reversible binding to alpha 2u-globulin in 1,4-dichlorobenzene-induced nephrotoxicity. <i>Toxicol Appl Pharmacol</i> 99:122-132	
81	Eida K, Hasumi F, Nishimura N, Kikutani M (1977) Harderian gland. VI. Effect of chlorinated benzenes on porphyrin biosynthesis in the harderian gland of rat. <i>Chem Pharm Bull (Tokyo)</i> 25:1209-1214	
82	Rimington, C. and Ziegler, G.: <i>Biochemical Pharmacology</i> 12, 1387-1397 (1963)	
83	Robinson M, Berce JP, Ringhand HP, Condie LW, Parnell MJ (1991) Ten- and ninety-day toxicity studies of 1,2-dichlorobenzene administered by oral gavage to Sprague-Dawley rats. <i>Drug Chem Toxicol</i> 14:83-112	
84	Varshavskaya, S.P.: <i>Hyg. Sanit.</i> 33(10), 17-23 (1968)	
85	Ariyoshi T, Ideguchi K, Iwasaki K, Arakaki M (1975) Relationship between chemical structure and activity. II. Influences of isomers in dichlorobenzene, trichlorobenzene, and tetrachlorobenzene on the activities of drug-metabolizing enzymes. <i>Chem Pharm Bull (Tokyo)</i> 23:824-830	
86	Mori, T.: <i>Okayama Igakkai Zasshi</i> 94, 967-972 (1983)	
87	Zissu D (1995) Histopathological changes in the respiratory tract of mice exposed to ten families of airborne chemicals. <i>J Appl Toxicol</i> 15:207-213	
88	Morse, D.L. et al.: <i>Clin. Toxicol.</i> 15, 13-21 (1979)	
89	Riedel, H.: <i>Archiv fuer Gewerbepathologie und Gewerbehygiene</i> 10, 546-549 (1941)	
90	Andersen, K.J. et al.: <i>J. Agr. Food Chem.</i> 20, 649-656 (1972)	
91	Connor TH, Theiss JC, Hanna HA, Monteith DK, Matney TS (1985) Genotoxicity of organic chemicals frequently found in the air of mobile homes. <i>Toxicol Lett</i> 25:33-40	
92	Haworth, S. et al.: <i>Environmental Mutagenesis Supplement</i> 1, 3-142 (1983)	
93	Koch, R. et al.: <i>Z. gesamte Hyg.</i> 31, 524-526 (1985)	
94	Lawlor, T. et al.: <i>Environ. Mutagen.</i> 1, 143 (1979) (abstr.)	
95	Nakamura SI, Oda Y, Shimada T, Oki I, Sugimoto K (1987) SOS-inducing activity of chemical carcinogens and mutagens in <i>Salmonella typhimurium</i> TA1535/pSK1002: examination with 151 chemicals. <i>Mutat Res</i> 192:239-246	
96	Nohmi, T. et al.: <i>Bull. Natl. Inst. Hyg. Sci.</i> 103, 60-64 (1985)	
97	Ono, Y. et al.: <i>Wat. Sci. Tech.</i> 26, 61-69 (1992)	
98	Prasad I (1970) Mutagenic effects of the herbicide 3',4'-dichloropropionanilide and its degradation products. <i>Can J Microbiol</i> 16:369-372	
99	Prasad, I. and Pramer, D.: <i>Genetics</i> 60, 212-213 (1968) (abstr.)	
100	Shimizu M, Yasui Y, Matsumoto N (1983) Structural specificity of aromatic compounds with special reference to mutagenic activity in <i>Salmonella typhimurium</i> —a series of chloro- or fluoro-nitrobenzene derivatives. <i>Mutat Res</i> 116:217-238.	
101	Tennant RW, Margolin BH, Shelby MD, Zeiger E, Haseman JK, Spalding J, Caspary W, Resnick M, Stasiewicz S, Anderson B, et al. (1987) Prediction of chemical carcinogenicity in rodents from in vitro genetic toxicity assays. <i>Science</i> 236:933-941	
102	Tennant RW, Stasiewicz S, Spalding JW (1986) Comparison of multiple parameters of rodent carcinogenicity and in vitro genetic toxicity. <i>Environ Mutagen</i> 8:205-227	
103	Waters MD, Sandhu SS, Simmon VF, Mortelmans KE, Mitchell AD, Jorgenson TA, Jones DC, Valencia R, Garrett NE (1982) Study of pesticide genotoxicity. <i>Basic Life Sci</i> 21:275-326	
104	DeMarini DM, Brooks HG (1992) Induction of prophage lambda by chlorinated organics: detection of some single-species/single-site carcinogens. <i>Environ Mol Mutagen</i> 19:98-111	
105	Loveday KS, Anderson BE, Resnick MA, Zeiger E (1990) Chromosome aberration and sister chromatid exchange tests in Chinese hamster ovary cells in vitro. V: Results with 46 chemicals. <i>Environ Mol Mutagen</i> 16:272-303	
106	Matsui, S. et al.: <i>Wat. Sci. Tech.</i> 21, 875-887 (1989)	
107	Elmore E, Fitzgerald MP (1990) Evaluation of the bioluminescence assays as screens for genotoxic chemicals. <i>Prog Clin Biol Res</i> 340D:379-387	
108	Myhr, B.C.: <i>J. Agr. Food Chem.</i> 21, 362-367 (1973)	
109	Myhr BC, Caspary WJ (1991) Chemical mutagenesis at the thymidine kinase locus in L5178Y mouse lymphoma cells: results for 31 coded compounds in the National Toxicology Program. <i>Environ Mol Mutagen</i> 18:51-83	
110	Perocco P, Bolognesi S, Alberghini W (1983) Toxic activity of seventeen industrial solvents and halogenated compounds on human lymphocytes cultured in vitro. <i>Toxicol Lett</i> 16:69-75	
111	Williams GM, Mori H, McQueen CA (1989) Structure-activity relationships in the rat hepatocyte DNA-repair test for 300 chemicals. <i>Mutat Res</i> 221:263-286	

112	Miyagawa, M., Takasawa, H., Sugiyama, A., Inoue, Y., Murata, T., Uno, Y. and Yoshikawa, K. (1995) The in vivo-in vitro replicative DNA synthesis (RDS) test with hepatocytes prepared from male B6C3F1 mice as an early prediction assay for putative nongenotoxic (Ames-negative) mouse hepatocarcinogens. <i>Mut Res.</i> 343:157-183	
113	Shelby MD, Erexson GL, Hook GJ, Tice RR (1993) Evaluation of a three-exposure mouse bone marrow micronucleus protocol: results with 49 chemicals. <i>Environ Mol Mutagen</i> 21:160-179	
114	Vogel EW, Nivard MJ (1993) Performance of 181 chemicals in a Drosophila assay predominantly monitoring interchromosomal mitotic recombination. <i>Mutagenesis</i> 8:57-81	
115	Kitchin, K.T. et al.: <i>Mutation Research</i> 266, 253-272(1992)	
116	Herren-Freund SL, Pereira MA (1986) Carcinogenicity of by-products of disinfection in mouse and rat liver. <i>Environ Health Perspect</i> 69:59-65	
117	Murthy, R.C. and Holovack, M.J.: <i>J. Am. Coll. Toxicol.</i> 4, 224 (1985) (abstr.)	
118	Hayes WC, Hanley TR, Gushow TS, Johnson KA, John JA (1985) Teratogenic potential of inhaled dichlorobenzenes in rats and rabbits. <i>Fundam Appl Toxicol</i> 5:190-202	
119	Ruddick, J.A. et al.: <i>Teratology</i> 27, 73A-74A (1983) (abstr.)	
120	Colacci, A. et al.: <i>Tumori</i> 76, 339-344 (1990)	
121	Ostergren, G. and Levan, A.: <i>Hereditas</i> 29, 496-498 (1943)	
122	Reid, W.D. et al.: <i>American Review of Respiratory Disease</i> 107, 539-551 (1973)	
123	Van den Berg, K.J. Interaction of Chlorinated Phenols with Thyroxine Binding Sites of Human Transthyretin, Albumin and Thyroid Binding Globulin. <i>Chem. Biol. Interactions</i> 76 (1990) 63-75	
124	Herr, D.W. and Boyles, W.K.: <i>Fundamental and Applied Toxicology</i> 35, 31-48 (1997)	
125	Brendel, K. et al.: <i>Journal of the American College of Toxicology</i> 9, 621-627 (1990)	
126	Cameron, G.R. and J. C. Thomas (1937). "The toxicity of certain chlorine derivatives of benzene, with special reference to 0-dichlorobenzene." <i>J. Path. Bact.</i> 44, 281-296	
127	Fisher, R. et al.: <i>In Vitro Toxicology</i> 3, 181-194 (1990)	
128	Murayama, J. et al.: <i>Eisei Kagaku</i> 36, 267-276 (1990)	
129	Ohno, Y. et al.: <i>The Toxicologist</i> 9, 173 (1989) (abstr.)	
130	Popovic, M. et al.: <i>Arh. hig. rada toksikol.</i> 39, 215-222 (1988)	
131	Utsumi H, Hakoda M, Kiyoshige K, Manabe H, Mitade C, Murayama J, Han SK and Hamada A (1992) Cytotoxicity and Mutagenicity of Micropollutants in Drinking Water. <i>Wat. Sci. Tech.</i> Vol.25, No.11, pp.325-332.	
132	Ban, M. et al.: <i>Toxicol Lett.</i> 94:93-101 (1998)	
133	Jacobs, A. et al.: <i>Vom Wasser</i> 43, 259-274 (1974)	
134	Tsuda, S. et al.: <i>Bull. Environ. Contam. Toxicol.</i> 40, 410-417 (1988)	
135	Azouz, W.M. et al.: <i>Biochem. J.</i> 55, 146-151 (1955)	
136	Baumann, E.: <i>Zeitschrift fuer Physiol. Chemie</i> 8, 190-197 (1883)	
137	Conkle, J.P. et al.: <i>Arch. Environ. Health.</i> 30, 290-295 (1975)	
138	Brondeau, M.T. et al.: <i>J. Appl. Toxicol.</i> 10(2), 83-86 (1990)	
139	Azouz, W.M. et al.: <i>Biochem. J.</i> 59, 410-415 (1955)	
140	Barr, J. et al.: <i>Xenobiotica</i> 21, 331-339 (1991)	
141	Barr, J. et al.: <i>Xenobiotica</i> 21, 341-350 (1991)	
142	De Ceaurriz, J. et al.: <i>J. Appl. Toxicology</i> 8, 417-422 (1988)	
143	Fisher R, McCarthy S, Sipes IG, Hanzlik RP, Brendel K (1991) Metabolism of dichlorobenzenes in organ cultured liver slices. <i>Adv Exp Med Biol</i> 283: 717-723.	
144	Kato, Y. et al.: <i>J. Pharmacobio-Dyn.</i> 11, 758-762 (1988)	
145	Manis, J. and Kim, G.: <i>Life Sciences</i> 26, 1431-1439 (1980)	
146	Jan, B., et al.: <i>Toxicology and Applied Pharmacology</i> 132:44-52 (1995)	
147	Fisher, R.L., Hasal, S.J., Sipes, I.G., Gandolfi, A.J. And Brendel, K. (1995) Comparative metabolism and toxicity of dichlorobenzenes in Sprague-Dawley, Fischer-344 and human liver slices. <i>Human Expt Toxicol.</i> 14:414-421.	
148	Nedelcheva, V., Gut, I., Soucek, P. And Frantik, E. (1998) Cytochrome P450 catalyzed oxidation of monochlorobenzene, 1,2- and 1,4-dichlorobenzene in rat, mouse, and human liver microsomes. <i>Chem Biol Interact.</i> 115:53-70.	
149	Yang, K.H., Peterson, R.E. & Fujimoto, J.M. (1979). Increased bile duct-pancreatic fluid flow in benzene and halogenated benzene-treated rats. <i>Toxicol Appl Pharmacol.</i> 47, 505-14.	
150	Ogata, M. et al. Classification of Potentially Toxic Chemicals Based On Their Effects On Mitochondrial Respiration: <i>Physiol. Chem. Phys.</i> 15, 229-232 (1983)	
151	Ogata, M. et al. Effects of Chlorinated Mono Aromatic Hydrocarbons On Mitochondrial Oxidative Phosphorylation in Rats Liver. <i>Ind. Health</i> 19, 31-36 (1981)	
152	Yang, K.H., Peterson, R.E. & Fujimoto, J.M. (1979). Increased bile duct-pancreatic fluid flow in benzene and halogenated benzene-treated rats. <i>Toxicol Appl Pharmacol.</i> 47, 505-14.	
153	Khatri, L.L., Libbey, L.M. and Day, E.A. (1966) Gas Chromatographic and Mass Spectral Identification of Some Volatile Components of Gamma-Irradiated Milk Fat. <i>J. Agric. Food Chem.</i> 14:465-469.	
154	Sato, A. and T. Nakajima (1979). "A structure-activity relationship of some chlorinated hydrocarbons." <i>Arch Environ Health</i> 34(2): 69-75.	
155	Jan, J. (1983). "Chlorobenzene residues in human fat and milk." <i>Bull Environ Contam Toxicol</i> 30(5): 595-9.	
156	Jan, J. (1983). "Chlorobenzene residues in Market Milk and Meat." <i>Mitt. Gebiete Lebensm. Hyg.</i> 74, 420-425	
157	Tanaka, A., M. Sato, et al. (1986). "Excretion, distribution and metabolism of 1,2,4-trichlorobenzene in rats." <i>Arch Toxicol</i> 59(2): 82-8.	
158	Hoglen, N.C., et al.: <i>Toxicol Sci.</i> 46:376-385 (1998)	
159	Hissink, A.M., et al.: <i>Xenobiotica</i> , 26:89-105 (1996).	
160	Hissink, A.M., et al.: <i>Chem Res Toxicol</i> 9:1249-1256 (1996).	
161	Hissink, A.M., et al.: <i>Toxicology and Applied Pharmacology</i> 145:301-310 (1997)	
162	Valentovic, M.A. et al.: <i>Journal of Applied Toxicology</i> 13, 1-7 (1993)	
163	Valentovic, M.A., Ball, J.G., Anestis, D. and Madan, E. (1993) Modification of P450 activity and its effect on 1,2-dichlorobenzene toxicity in Fischer 344 rats. <i>Toxicol.</i> 79:169-180.	
164	Callow, E.H. and Hele, T.S.: <i>Biochem. J.</i> 20, 598-605 (1926)	
165	Hele, T.S. and Callow, E.H.: <i>J. Physiol.</i> 57, XLIII (1923)	
166	Brodie, B.B. et al.: <i>Proc. Natl. Acad. Sci.</i> 68, 160-164 (1971)	
167	Brondeau MT, Bonnet P, Guenier JP, De Ceaurriz J (1983) Short-term inhalation test for evaluating industrial hepatotoxicants in rats. <i>Toxicol Lett</i> 19:139-146	
168	Brondeau, M.T. et al.: <i>Toxicology Letters</i> 31, 159-166 (1986)	
169	Brondeau, M.T. et al.: <i>Toxicology Letters</i> 49, 69-78 (1989)	
170	Fisher, R. et al.: <i>Human & Experimental Toxicology</i> 10, 357-363 (1991)	
171	Gunawardhana, L. et al.: <i>The Toxicologist</i> 10, 298 (1990) (abstr.)	
172	Gunawardhana, L., Mobley, S.A. and Sipes, I.G. (1993) Modulation of 1,2-dichlorobenzene hepatotoxicity in the Fisher-344 rat by a scavenger of superoxide anions and inhibition of Kupffer cells. <i>Toxicol Appl Pharmacol.</i> 119:205-213.	
173	Reid, W. D. and G. Krishna (1973). "Centrolobular hepatic necrosis related to covalent binding of metabolites of halogenated aromatic hydrocarbons." <i>Exp Mol Pathol</i> 18(1): 80-99.	
174	Reid, W. D., G. Krishna, et al. (1973). "Biochemical mechanism of hepatic necrosis induced by aromatic hydrocarbons." <i>Pharmacology</i> 10(4): 193-214.	
175	Sipes, I.G. et al.: <i>Arch. Toxicol. (Suppl.)</i> 11, 20-33 (1987)	
176	Stine, E.R. et al.: <i>Pharmacologist</i> 28, 181 (1986) (abstr.)	
177	Stine, E.R.: <i>Dissertation Abstracts International</i> 49, 2145-B (1988) (abstr.)	
178	Stine, E.R. and Sipes, I.G.: <i>The Toxicologist</i> 7, 22 (1987) (abstr.)	
179	Stine, E.R., Gunawardhana, L. and Sipes, I.G. (1991) The acute hepatotoxicity of the isomers of dichlorobenzene in Fischer-344 and Sprague-Dawley rats: Isomer-specific and strain-specific differential toxicity. <i>Toxicol Appl Pharmacol.</i> 109:472-481.	
180	Den Besten, C. et al.: <i>Chem.-Biol. Interactions</i> 84, 259-275 (1992)	
181	Kato, Y., and Kimura, R.: <i>Toxicol. Appl. Pharmacol.</i> 145, 277-284 (1997)	
182	Kulkarni, S.G., Harris, A., Casciano, D. and Mehendale, H.M. (1999) Differential protooncogene expression in Sprague Dawley and Fischer rats during 1,2 dichlorobenzene-induced hepatocellular regeneration. <i>Toxicology</i> , 139:119-127.	
183	Charbonneau, M. et al.: <i>Toxicol. Appl. Pharmacol.</i> 99, 122-132 (1989)	
184	Allis, J.W. et al.: <i>J. Biochem. Toxicology</i> 7, 257-264 (1992)	

185	Cameron, G.R. et al.: J. Pathol. Bacteriol. 44, 297-303 (1937)	
186	Fisher, R.L. et al.: The Toxicologist 7, 60 (1987)	
187	Browning, E.: Toxicity of Industrial Organic Solvents: Summaries of Published Work, Medical Research Council, Industrial Health Research Board Report No. 80, London, His Majestys Stationery Office, 213-215 (1937); cited in Hollingsworth, R.L. et al.: Arch. Ind. Health 17, 180-187 (1958)	
188	Kitamura, S. et al.: Iyo Masu Kenkyukai Koenshu (Kurume) 2, 79-88 (1977)	
189	Utsumi H, Hakoda M, Kiyoshige K, Manabe H, Mitade C, Murayama J, Han SK and Hamada A (1992) Cytotoxicity and Mutagenicity of Micropollutants in Drinking Water. Wat. Sci.Tech. Vol.25, No.11, pp.325-332.	
190	Weir, A.J. et al.: The Toxicologist 8, 202 (1988) (abstr.)	
191	Umemura, T., Saito, M., Takagi A., and Kurokawa Y. (1996). Isomer-Specific Acute Toxicity and Cell Proliferation in Livers of B6C3F1 Mice Exposed to Dichlorobenzene. Toxicol. Appl. Pharmacol. 137, 268-274.	
192	Ashley, D.L. et al.: Anal. Chem. 64, 1021-1029 (1992)	
193	Barkley, J. et al.: Biomedical Mass Spectrometry 7, 139-147 (1980)	
194	Bristol DW, Crist HL, Lewis RG, MacLeod KE, Sovocool GW (1982) Chemical analysis of human blood for assessment of environmental exposure to semivolatile organochlorine chemical contaminants. J Anal Toxicol 6:269-275	
195	Davies, D. and Mes, J.: Bull. Environ. Contam. Toxicol. 39, 743-749 (1987)	
196	Dupont, R.: Arch. Mal. Prof. 1, 312-314 (1938)	
197	Gadrat, J., Monnier, J., Ribert, A. and Bourse, R. (1962) Anémie hémolytique aiguë chez une ouvrière d'une teinturerie exposée aux inhalations de chlorobenzènes. Arch Mal Prof. 23:710-714.	
198	Geyer, H. et al.: Regulatory Toxicology and Pharmacology 6, 313-347 (1986)	
199	Girard, R. et al.: J. Med. Lyon 50, 771-773 (1969)	
200	Goldblatt, M.W.: Br. J. Ind. Med. 12, 1-20 (1955)	
201	Davies, K.: Chemosphere 17, 263-276 (1988)	
202	Jan, J.: Bull. Environ. Contam. Toxicol. 30, 595-599 (1983)	
203	Krotoszyński, B. et al.: Journal of Chromatographic Science 15, 239-244 (1977)	
204	Mes J, Davies DJ, Turton D, Sun WF (1986) Levels and trends of chlorinated hydrocarbon contaminants in the breast milk of Canadian women. Food Addit Contam 3:313-322	
205	Mes J (1992) Organochlorine residues in human blood and biopsy fat and their relationship. Bull Environ Contam Toxicol 48:815-820	
206	Mes J, Marchand L, Davies DJ (1990) Organochlorine residues in adipose tissue of Canadians. Bull Environ Contam Toxicol 45:681-688	
207	Morita M (1977) Chlorinated benzenes in the environment. Ecotoxicol Environ Saf 1:1-6	
208	Morita, M. et al.: Environ. Pollut. 9, 175-179 (1975)	
209	Punter, P.H.: Chemical Senses 7, 215-235 (1983)	
210	Rousselin, X. and Falczy, M.: Cahiers de notes documentaires 124, 331-339 (1986)	
211	Nil, J.P.: J. Am. Med. Assoc. 107, 607 (1936); cited in Von Oettingen, W.F.: The halogenated aliphatic, olefinic, cyclic, aromatic, and aliphatic-aromatic hydrocarbons including the halogenated insecticides, their toxicity and potential dangers, U.S. Department of Health, Education, and Welfare, Public Health Service, Publ. No. 414, 290- 297 (1955)	
212	Ruth JH (1986) Odor thresholds and irritation levels of several chemical substances: a review. Am Ind Hyg Assoc J 47:A142-151	
213	Simonsen L, Lund SP (1992) A strategy for delineating risks due to exposure to neurotoxic chemicals. Am J Ind Med 21:773-792	
214	Tolot, F. et al.: Le Journal de Medecine de Lyon 50, 761-768 (1969)	
215	Prost, G. et al.: Archives des Maladies Professionnelles de Medecine du Travail et de Securite Sociale 37, 556-557 (1976)	
216	Truhaut, R. and Bohuon, Cl.: Ann. Biol. Clin. 21, 437-450 (1963)	
217	Wallace, L. et al.: Journal of Exposure Analysis and Environmental Epidemiology 1, 157-192 (1991)	
218	Wallace, L.A. et al.: Atmospheric Environment 22, 2141-2163	
219	Wallace, L.A. et al.: Environment International 12, 369-387	
220	Zapata-Gayon C, Zapata-Gayon N, Gonzalez-Angulo A (1982) Clastogenic chromosomal aberrations in 26 individuals accidentally exposed to ortho dichlorobenzene vapors in the National Medical Center in Mexico City. Arch Environ Health 37:231-235	
221	Downing, J.G.: J. Am. Med. Assoc. 112, 1457 (1939)	
222	Par, M.M. et al.: Le Journal de Medecine de Lyon, 5 Mai, 771-773 (1969)	
223	Zenser LP, Lang A, Knecht U (1997) N-acetyl-S-(dichlorophenyl)cysteines as suitable biomarkers for the monitoring of occupational exposure to 1,2-dichlorobenzene. Int Arch Occup Environ Health 69:252-254	
224	Vazquez, E. et al.: International Journal of Dermatology 35, 643-645 (1996)	
225	Kumagai, S. and Matsunaga, I. (1995) identification of urinary metabolites of human subjects exposed too-dichlorobenzene. Int. Arch. Occup. Environ. Health (1995)67:207-209.	
226	Dowdy B, Carlisle D, Laseter JL, Storer J (1975) Halogenated hydrocarbons in New Orleans drinking water and blood plasma. Science 187: 75-77.	
227		